

千原台ニュータウン XXIV

— 市原市鶴牧遺跡（下層） —

平成22年3月

独立行政法人 都市再生機構
財団法人 千葉県教育振興財団

千原台ニュータウンXXIV

いちほら つるまき
— 市原市鶴牧遺跡（下層） —



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第644集として、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の千原台地区区画整理事業に伴って実施した市原市鶴牧遺跡（下層）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代各時期の石器集中地点が12か所検出され、この地域における旧石器時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成22年3月

財団法人 千葉県教育振興財団
理事長 篠塚 俊夫

凡 例

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社による千原台地区におけるニュータウン建設計画（土地区画整理事業）に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録したのは、鶴牧遺跡（遺跡コード219-024）の旧石器時代（下層）資料である。千葉県市原市草刈字鶴牧1691-18（現ちはら台南2丁目32番地）ほかに所在する。
- 3 発掘調査から報告書刊行に至る業務は、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の経緯と組織・担当者は、第1章第1節に記載した。
- 5 本書の原稿執筆及び編集は首席研究員 田島 新が担当した。
- 6 焼土遺構の残留磁気分析にあたっては、千葉県立小見川高等学校教諭会田信行氏に依頼し、その成果を第4章に掲載した。
- 7 発掘調査から報告書刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社、市原市教育委員会、会田信行氏の御指導、御協力を得た。
- 8 周辺航空写真は、昭和45年に撮影された財団法人日本地図センター発行によるものを使用した。
- 9 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「蘇我」(NI-54-19-15-2)
- 10 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。座標値は、日本測地系である。
- 11 石材の色の記載については、小山正忠・竹原秀雄 1999『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社の色名を使用し、色の測定にあたっては、第一合成株式会社の土色計「SCR-1」を用いた。
- 12 挿図に使用した記号の用例は、次のとおりである。黒曜石及び頁岩については肉眼観察ではあるが、原産地を意識して細分した。
石器：ナイフ形石器 (KN)、角錐状石器 (KP)、撮器 (ES)、削器 (SS)、楔形石器 (PQ)、加工痕ある剥片 (RF)、使用痕ある剥片 (UF)、石刃 (BL)、打製石斧 (DA)、局部磨製石斧 (HX)、敲石 (HS)、台石 (AS)、剥片 (FL)、砕片 (CH)、石核 (CO)、礫 (PE)
石材：黒曜石A (OBA：栃木県・高高山産)、黒曜石B (OBB：信州・和田峠周辺産)、黒曜石G (OBG：不明)、安山岩 (AN)、軟質の安山岩＝トトロ石 (TO)、流紋岩 (RH)、頁岩A (SHA：硬質緻密で光沢のある東北産頁岩)、頁岩B (SHB：北関東産の頁岩とくに西荒川産を意識しているが、緑色のものは凝灰岩とした)、頁岩C (SHC：県南嶺産の頁岩)、頁岩D (SHD：珪化度の高い頁岩で産地不明のもの)、頁岩E (SHE：上記以外の頁岩)、チャート (CH)、凝灰岩 (TU)、粘板岩 (SL)、砂岩 (SA)、ホルンフェルス (HO)、瑪瑙・玉髄 (CC)
礫石材：安山岩 (AN)、軟質の安山岩 (TO)、流紋岩 (RH)、頁岩 (SH)、チャート (CH)、凝灰岩 (TU)、粘板岩 (SL)、砂岩 (SA)、ホルンフェルス (HO)

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 発掘調査の経緯	1
2 調査の方法	1
第2節 遺跡の位置と環境	1
1 遺跡の位置と地形	1
2 鶴牧遺跡と周辺の遺跡	1
第3節 基本土層	7
第4節 旧石器時代石器分布と上層遺構配置	11
第2章 旧石器時代	14
第1節 調査の概要	14
第2節 第1文化層	14
第3節 第2文化層	104
第4節 時期不明	147
第3章 まとめ	153
第4章 補遺	157
第1節 草刈遺跡・草刈六之台遺跡・ナキノ台遺跡	157
第2節 押沼第1遺跡	170
第3節 草刈C区Ⅰ層から出土した焼土遺構の残留磁気（会田信行）	171
第4節 ナキノ台遺跡炉穴焼土およびⅠ層中で検出された焼土遺構の残留磁気（会田信行）	173
報告書抄録	巻末

挿図目次

調査の概要	第6図 鶴牧遺跡旧石器時代石器分布と上層遺構配置(3)	12	
第1図 鶴牧遺跡周辺の旧石器時代遺跡	5		
第2図 鶴牧遺跡調査概要及び基本土層(1)	8	第7図 鶴牧遺跡旧石器時代石器分布と上層遺構配置(4)	13
第3図 鶴牧遺跡の基本土層(2)	9	第8図 鶴牧遺跡ブロック別分布状況	15
第4図 鶴牧遺跡旧石器時代石器分布と上層遺構配置(1)	10	第1文化層	
第5図 鶴牧遺跡旧石器時代石器分布と上層遺構配置(2)	11	第9図 E3-Aブロック出土遺物分布(1)	18

第10図	E 3-Aブロック出土遺物分布(2) …… 19	第47図	E 4-Aブロック出土遺物(2) …… 89
第11図	E 3-Aブロック出土遺物分布(3) …… 20	第48図	E 4-Aブロック出土遺物(3) …… 90
第12図	E 3-Aブロック出土遺物(1) …… 24	第49図	E 4-Aブロック出土遺物(4) …… 91
第13図	E 3-Aブロック出土遺物(2) …… 25	第50図	E 4-Aブロック出土遺物(5) …… 92
第14図	E 3-Aブロック出土遺物(3) …… 26	第51図	E 4-Bブロック出土遺物 …… 96
第15図	E 3-Aブロック出土遺物(4) …… 27	第52図	G 5-Aブロック出土遺物分布(1) …… 98
第16図	C 4-Cブロック出土遺物分布(1) …… 29	第53図	G 5-Aブロック出土遺物分布(2) …… 99
第17図	C 4-Cブロック出土遺物分布(2) …… 30	第54図	G 5-Aブロック出土遺物 …… 100
第18図	C 4-Cブロック出土遺物分布(3) …… 31	第55図	第1文化層ブロック外出土遺物 …… 101
第19図	C 4-Cブロック出土遺物分布(4) …… 32	第56図	第1文化層ブロック外出土遺物分布 …… 102
第20図	C 4-Cブロック出土遺物分布(5) …… 33		
第21図	C 4-Cブロック出土遺物分布(6) …… 34	第2文化層	
第22図	C 4-Cブロック出土遺物分布(7) …… 35	第57図	D 2-Aブロック出土遺物分布(1) …… 105
第23図	C 4-Cブロック出土遺物分布(8) …… 36	第58図	D 2-Aブロック出土遺物分布(2) …… 106
第24図	C 4-Cブロック出土遺物分布(9) …… 37	第59図	D 2-Aブロック出土遺物分布(3) …… 107
第25図	C 4-Cブロック出土遺物分布(10) …… 38	第60図	D 2-Aブロック出土遺物 …… 108
第26図	C 4-Cブロック出土遺物分布(11) …… 39	第61図	D 2-Bブロック出土遺物分布(1) …… 109
第27図	C 4-Cブロック出土遺物分布(12) …… 40	第62図	D 2-Bブロック出土遺物分布(2) …… 110
第28図	C 4-Cブロック出土遺物(1) …… 56	第63図	D 2-Bブロック出土遺物 …… 110
第29図	C 4-Cブロック出土遺物(2) …… 57	第64図	D 3-Aブロック出土遺物分布(1) …… 112
第30図	C 4-Cブロック出土遺物(3) …… 59	第65図	D 3-Aブロック出土遺物分布(2) …… 113
第31図	C 4-Cブロック出土遺物(4) …… 60	第66図	D 3-Aブロック出土遺物 …… 114
第32図	C 4-Cブロック出土遺物(5) …… 61	第67図	D 3-Bブロック出土遺物分布(1) …… 116
第33図	C 4-Cブロック出土遺物(6) …… 62	第68図	D 3-Bブロック出土遺物分布(2) …… 117
第34図	C 4-Cブロック出土遺物(7) …… 63	第69図	D 3-Bブロック出土遺物分布(3) …… 118
第35図	C 4-Cブロック出土遺物(8) …… 64	第70図	D 3-Bブロック出土遺物 …… 120
第36図	C 4-Cブロック出土遺物(9) …… 66	第71図	D 3-Cブロック出土遺物分布 …… 122
第37図	C 4-Cブロック出土遺物(10) …… 67	第72図	D 3-Cブロック出土遺物 …… 122
第38図	C 4-Cブロック出土遺物(11) …… 68	第73図	C 4-Aブロック出土遺物分布(1) …… 124
第39図	C 4-Cブロック出土遺物(12) …… 69	第74図	C 4-Aブロック出土遺物分布(2) …… 125
第40図	C 4-Cブロック出土遺物(13) …… 71	第75図	C 4-Aブロック出土遺物分布(3) …… 126
第41図	C 4-Cブロック出土遺物(14) …… 72	第76図	C 4-Aブロック出土遺物分布(4) …… 127
第42図	C 4-Cブロック出土遺物(15) …… 73	第77図	C 4-Aブロック出土遺物分布(5) …… 128
第43図	E 4-Aブロック出土遺物分布(1) …… 79	第78図	C 4-Aブロック出土遺物分布(6) …… 129
第44図	E 4-Aブロック出土遺物分布(2) …… 80	第79図	C 4-Aブロック出土遺物分布(7) …… 129
第45図	E 4-Aブロック出土遺物分布(3) …… 81	第80図	C 4-Aブロック出土遺物(1) …… 133
第46図	E 4-Aブロック出土遺物(1) …… 88	第81図	C 4-Aブロック出土遺物(2) …… 134

第82図	C4-Aブロック出土遺物(3)……………135	第99図	草刈遺跡D区の土層断面……………161
第83図	C4-Aブロック出土遺物(4)……………136	第100図	草刈遺跡F区 E2-Aブロック 出土遺物分布……………163
第84図	C4-Bブロック出土遺物分布(1)……………143	第101図	草刈遺跡F区の焼土遺構・ 炭化物集中地点……………163
第85図	C4-Bブロック出土遺物分布(2)……………144	第102図	草刈遺跡 F区ブロック外出土遺物……………164
第86図	C4-Bブロック出土遺物……………144	第103図	草刈遺跡K区 N9-84グリッド……………165
第87図	第2文化層ブロック外出土遺物分布……………145	第104図	草刈遺跡K区の焼土遺構……………165
第88図	第2文化層ブロック外出土遺物……………145	第105図	草刈遺跡の炭化物集中地点……………166
時期不明		第106図	草刈六之台遺跡の彫器……………168
第89図	時期不明出土遺物……………148	第107図	ナキノ台遺跡の焼土遺構……………169
第90図	土坑……………149	第108図	ナキノ台遺跡の打製石斧……………169
第91図	時期不明炭化物集中地点……………150	第109図	押沼第1遺跡の炭化物集中地点……………170
第92図	上層遺構等出土の礫分布……………151	第110図	草刈C区の基本土層……………171
まとめ		第111図	焼土遺構の試料採取位置……………171
第93図	ブロック別石器垂直分布グラフ(1)……………155	第112図	ザイダーベルト図……………172
第94図	ブロック別石器垂直分布グラフ(2)……………156	第113図	炉穴焼土およびⅨ層中の 焼土遺構位置図……………174
補遺		第114図	炉穴焼土のザイダーベルト図……………175
第95図	草刈遺跡・ナキノ台遺跡・ 押沼第1遺跡の関連遺構……………158	第115図	シュミットネットに投影された 自然残留磁化方位結果……………175
第96図	草刈遺跡C区の焼土遺構・ 炭化物集中地点(1)……………159	第116図	Ⅸ層中の焼土遺構の試料採取位置……………176
第97図	草刈遺跡C区の焼土遺構・ 炭化物集中地点(2)……………160	第117図	焼土遺構の採取層準……………176
第98図	草刈遺跡C区の焼土遺構・ 炭化物集中地点(3)……………160	第118図	焼土遺構試料のザイダーベルト図……………177
		第119図	シュミットネットに投影された 自然残留磁化方位結果……………177

表 目 次

第1文化層		第7表	E4-Aブロック母岩別石器組成……………93
第1表	E3-Aブロック母岩別石器組成……………22	第8表	E4-Aブロック石材別石器組成……………94
第2表	E3-Aブロック石材別石器組成……………23	第9表	E4-Aブロック礫組成……………94
第3表	E3-Aブロック礫組成……………23	第10表	E4-Bブロック母岩別石器組成……………96
第4表	C4-Cブロック礫組成……………70	第11表	E4-Bブロック石材別石器組成……………97
第5表	C4-Cブロック母岩別石器組成……………74	第12表	G5-Aブロック母岩別石器組成……………98
第6表	C4-Cブロック石材別石器組成……………78	第13表	G5-Aブロック石材別石器組成……………98

第14表	G5-Aブロック礫組成	99	第31表	D3-Cブロック石材別石器組成	122
第15表	ブロック別礫分類	103	第32表	D3-Cブロック礫組成	122
第16表	ブロック別礫遺存率	103	第33表	C4-Aブロック石材別石器組成	137
第17表	ブロック別母岩復元率	103	第34表	C4-Aブロック母岩別石器組成	138
第2文化層					
第18表	D2-Aブロック母岩別石器組成	104	第35表	C4-Aブロック礫組成	139
第19表	D2-Aブロック石材別石器組成	104	第36表	C4-Bブロック母岩別石器組成	143
第20表	D2-Aブロック礫組成	108	第37表	C4-Bブロック石材別石器組成	143
第21表	D2-Bブロック母岩別石器組成	110	第38表	C4-Bブロック礫組成	144
第22表	D2-Bブロック石材別石器組成	110	第39表	ブロック別礫分類	146
第23表	D2-Bブロック礫組成	111	第40表	ブロック別礫遺存率	146
第24表	D3-Aブロック母岩別石器組成	111	第41表	ブロック別母岩復元率	146
第25表	D3-Aブロック石材別石器組成	111	時期不明		
第26表	D3-Aブロック礫組成	114	第42表	主要な石材による上層・ 文化層別礫組成	152
第27表	D3-Bブロック母岩別石器組成	119	補遺		
第28表	D3-Bブロック石材別石器組成	119	第43表	測定結果	172
第29表	D3-Bブロック礫組成	121	第44表	炉穴土の残留磁気測定結果	175
第30表	D3-Cブロック母岩別石器組成	122			

図版目次

図版1	鶴牧遺跡周辺航空写真 (約1:10,000 昭和45年撮影)	図版5	第1・2文化層遺物出土状況。 第2文化層遺物出土状況1
図版2	土層断面、第1文化層遺物出土状況1	図版6	第2文化層遺物出土状況2
図版3	第1文化層遺物出土状況2	図版7	草刈遺跡・押沼第1遺跡の関連遺構
図版4	第1文化層遺物出土状況3		

カラー図版目次

1. 第1文化層出土遺物1	8. 接合資料1
2. 第1文化層出土遺物2	9. 接合資料2、草刈遺跡F区出土遺物、 ナキノ台遺跡出土遺物
3. 第1文化層出土遺物3	10. 草刈遺跡C区のC13-Bブロック・焼土遺構
4. 第1文化層出土遺物4	11. 草刈遺跡D区の土層断面・C77-Dブロック、 ナキノ台遺跡遺物出土状況
5. 第1文化層出土遺物5	
6. 第1文化層出土遺物6、第2文化層出土遺物1	
7. 第2文化層出土遺物2、時期不明出土遺物	

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 発掘調査の経緯

市原市と千葉市にまたがる台地上に、住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）による千原台地区土地区画整理事業が計画された。このため、千葉県教育委員会は、事業地内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した結果、現状保存が困難な部分については、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、記録保存については、財団法人千葉県教育振興財団が委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

今回報告する鶴牧遺跡の調査は、昭和60年度に行われた。

本書は鶴牧遺跡から出土した旧石器時代（下層調査）を対象としたもので、発掘調査及び整理事業に関わる各年度の実施内容・担当者は以下のとおりである。

昭和60年度

組織 調査部長 鈴木道之助、班長 阪田正一
担当者 調査研究員 田形孝一・福田 誠
内容 下層調査対象面積 20,000㎡

平成21年度

組織 調査研究部長 及川淳一、所長 折原 繁
担当者 上席研究員 田高 新
内容 水洗・注記から報告書刊行まで

2 調査の方法

発掘区の設定は、国家座標を基準として40m×40mの大グリッドを設け、この中を4m×4mの小グリッドに分割して行った。また、下層確認調査は、小グリッドをさらに4分割して2m×2mのグリッドを設定し、調査対象面積の4%を基本として武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。

出土遺物は、4m×4mの小グリッドごとに1点ずつ取り上げた。

第2節 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と地形

鶴牧遺跡は、ちはら台ニュータウン造成地域の中心からやや東側、市原市ちはら台南2丁目32番地（旧草刈字鶴牧1691-18）ほかに所在し、千葉市街地からは東南へ12km、下総台地南部を西に向かって流れる村田川の河口からは7kmほど上流の右岸台地上に位置する。標高は、40m～50mの下総台地上位面である。

2 鶴牧遺跡と周辺の遺跡（第1図、図版1）

鶴牧遺跡からは、旧石器時代から奈良・平安時代にかけての各種遺構が検出された。主な遺構としては、

旧石器時代各時期の石器ブロック、古墳時代の集落などである。

旧石器時代については、立川ローム層下部から上部に至る各層から約2,100点の石器・礫が出土しており、12か所のブロックを確認している。

鶴牧遺跡は、ちはら台地区のほぼ中央部にあたり、村田川に沿って分布する旧石器時代の遺跡としては、草刈遺跡などとともに最も下流に位置する（第1図1）。ちはら台ニュータウン事業地内において旧石器時代石器群が出土した遺跡を、村田川を廻りながらあげてみると草刈遺跡（2）、草刈六之台遺跡（3）、中永谷遺跡（4）、川焼台遺跡（5）、ナキノ台遺跡（6）、鶴牧古墳群（7）、ばあ山遺跡（8）、野馬堀遺跡（9）が並ぶ。ちはら台地区北東部端には押沼遺跡群（10～12）がある。

草刈遺跡では、武蔵野ローム層Ⅺ層から立川ローム層Ⅲ層にかけて7枚の文化層が確認された。最も古い第1文化層は、武蔵野ローム層Ⅺ層から立川ローム層Ⅹ層最下部にかけて出土した県内最古の石器群である。第2文化層は、Ⅹ層から出土した石器群で、嶺岡産珪質頁岩の台形石器や楔形石器などに石斧が伴っている。第3文化層は、Ⅸ層下部から出土した石器群で、嶺岡産珪質頁岩の台形石器に石斧が伴う。第4文化層は、Ⅷ層からⅨ層上部にかけて出土した石器群で、最も多くのブロックが検出されている。房総半島南部産の石材による不定型な剥片石器群を主体とし、これに遠隔地石材による石刃石器群が搬入品として存在する。この文化層は出土層位の差などから2～3時期に細分される可能性が指摘されている。第5文化層は、Ⅷ層上部からⅦ層にかけて出土した石器群で、3種類のブロックが存在する。①東北産頁岩による石刃石器群、②東北産と推定される頁岩と信州産黒曜石による小型の石刃石器群及び不定型な剥片石器群、③房総半島南部産と推定される石材による不定型な剥片石器群である。これらは、概ね同時期に帰属すると考えられている。第6文化層はハードローム層最上部からソフトローム層下部にかけて出土した石器群で、武蔵野台地におけるⅣ層下部の石器群に対応するものと考えられている。信州産黒曜石、房総半島南部産の石材、上総丘陵砂礫層の石材などによるナイフ形石器や角錐状石器などの石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。第7文化層はソフトローム層から出土した槍先形石器を指標とする石器群などが出土しており、特異な剥片剥離技術を伴っている。また、3時期の時間差が想定されている。

草刈六之台遺跡では、立川ローム層Ⅹ層からⅢ層にかけて7枚の文化層が確認されたが、Ⅵ層以下の資料が充実している。とくにⅩ層、Ⅸ層下部、Ⅸ層上部で確認した3枚の文化層からは、それぞれ刃部磨製石斧を含む石器群が出土している。さらにⅨ層下部では神津島産黒曜石による大型の台形石器、Ⅸ層上部では信州産黒曜石を主体とする石刃石器群に刃部磨製石斧とともに石斧用の砥石が伴っており、草刈遺跡との関係が想定される。

中永谷遺跡では立川ローム層Ⅷ層とⅣ層下部の資料が中心である。野馬堀遺跡ではⅩ層、Ⅳ層、Ⅲ層から剥片類が、ばあ山遺跡ではⅥ層から剥片、上層遺構等から石刃、信州産と推定される黒曜石による槍先形石器が出土している。

押沼大六天遺跡では、立川ローム層Ⅸ層からⅢ層にかけて、帰属時期不明の文化層を含め、5枚の文化層が確認され、Ⅸ層下部からⅨ層上部とⅣ層下部で多くのブロックが検出されている。最も古い第1文化層は、Ⅸ層上部から下部にかけて出土した石器群で、最も多くのブロックが検出されている。①定型的な石器が見られない石器群、②小型の台形石器を伴う石器群、③凝灰岩、北関東産頁岩、瑪瑙・玉髄、安山岩などによる刃部磨製石斧を伴う石刃石器群、④嶺岡産頁岩、安山岩、流紋岩、ホルンフェルスなどによ

る台形石器や刃部磨製石斧などを伴う石器群である。この文化層は出土層位の差などから2～3時期に細分される可能性がある。第2文化層はハードルーム層最上部を中心として出土した石器群で、武蔵野台地におけるV層ないしIV層下部の石器群に対応するものと考えられる。栃木県高麗山産黒曜石、北関東産頁岩、瑪瑙・玉髄などによるナイフ形石器などの石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。第3文化層はソフトルーム層から出土した石器群で、武蔵野台地におけるIV層上部の砂川期の石器群に対応するものと考えられる。嶺岡産頁岩、チャート、凝灰岩、ホルンフェルスなどによる石刃の生産からナイフ形石器を中心とした石器の生産に関係する石器群である。第4文化層はソフトルーム層から出土した槍先形石器を伴う旧石器時代終末期の石器群である。2時期に細分される可能性がある。

押沼第1遺跡では、立川ルーム層第2黒色帯下部から立川ルーム層最上部及びⅡ層にかけて、帰属時期不明の文化層を含め、6枚の文化層が確認され、立川ルーム層第2黒色帯上半部とその周辺(Ⅶ層～Ⅵ層)で、最も多くのブロックが検出されている。第1文化層は、立川ルーム層第2黒色帯下半部(Ⅷ層上部～下部)の石器群であるが、安山岩、流紋岩、黒色頁岩などの石材による石刃石器群や石斧を伴う石器群などがある。この文化層は出土層位に幅があり、石器群の内容も多様であることから、本来は2～3時期に細分される可能性がある。第2文化層は、立川ルーム層第2黒色帯上半部とその周辺(Ⅶ層～Ⅵ層)を中心として出土した石器群で、武蔵野台地のⅥ層の石器群に相当すると考えられる。最も多くのブロック及び石器が発見された文化層である。信州産の良質な黒曜石を主体として、東北産頁岩、東関東～房総半島産各種石材が複合する中・小型石刃石器群が検出されている。なお、本文化層は武蔵野台地のⅥ層石器群に相当するものとされようが、V層下部～Ⅵ層上部出土の信州産の良質な黒曜石あるいは高麗山産黒曜石による石器群やⅥ層上部出土の珪化度の高い頁岩類による石器群などと併せて、いわゆるA-T降灰前後の石器群の詳細な再検討が必要とされている。第3文化層は、立川ルーム層のハードルーム層最上部(Ⅳ層)からソフトルーム層下部(Ⅲ層)にかけて出土した石器群で、武蔵野台地における立川ルーム層Ⅳ層下部から出土する石器群に対応すると考えられる。第4文化層は、立川ルーム層のソフトルーム層(Ⅲ層)を中心として出土した石器群で、武蔵野台地における立川ルーム層Ⅳ層上部から出土する砂川期の石器群に概ね対応すると考えられる。第5文化層は、Ⅱ層から立川ルーム層のソフトルーム層最上部(Ⅲ層)にかけて出土した細石刃石器群で、野岳-休場型の細石刃核などが出土している。

押沼第2遺跡では、立川ルーム層第2黒色帯下部から立川ルーム層最上部にかけて、帰属時期不明の文化層を含め、7枚の文化層が確認され、立川ルーム層のソフトルーム層下部(Ⅳ層)からハードルーム層最上部(V層)で、最も多くのブロックが検出されている。第1文化層は、立川ルーム層第2黒色帯下半部(Ⅷ層下部)を中心に包含される石器群で、ナイフ形石器、石刃、局部磨製石斧などが出土している。第2文化層は、立川ルーム層第2黒色帯下半部(Ⅶ層～Ⅷ層)に包含される石器群で、ナイフ形石器、石刃、局部磨製石斧などが出土しているが、本文化層は出土層位に幅があることなどから、細分される可能性がある。第3文化層は、立川ルーム層のハードルーム層から第2黒色帯上半部(Ⅵ層～Ⅶ層)にかけて包含される石器群で、前述した押沼第1遺跡の第2文化層に相当する。この時期の押沼遺跡群の資料は、県内で最もまとまったものである。第4文化層は、立川ルーム層のソフトルーム層下部(Ⅳ層)からハードルーム層最上部(V層)にかけて包含される石器群で、ナイフ形石器、角錐状石器などが出土している。武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。最も多くのブロック及び石器が発見された

文化層である。第5文化層は、立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含される石器群で、ナイフ形石器を主体とする第5a文化層と槍先形石器を主体とする第5b文化層の2枚に細分されている。武蔵野台地のⅣ層上部の砂川期の石器群に概ね相当すると考えられる。第6文化層は、立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）上部を中心に出土した細石刃石器群で、野岳・休場型の細石刃核などが出土している。ちはら台地区では最も多くの細石刃石器群が発見された。

草刈遺跡の北側では、東南部ニュータウン事業地内を中心に旧石器時代の石器群が確認されている。大規模な遺跡は少ないが、一地域全体の様子を窺うことのできる貴重な資料である。以下、出土層位ごとに概観する。

X層の資料ははっきりしないが、高沢遺跡（42）ではⅨ層下部からⅩ層上部で楔形石器、刃部磨製石斧に関係すると考えられる剥片を利用した加工痕ある剥片、小型の剥片類による小規模なブロックが検出されている。石材は半数が良質の黒曜石（信州産）で、このほか玉髄、凝灰岩、頁岩がある。Ⅸ層の資料は多くの遺跡で出土している。白鳥台遺跡（19）では安山岩製の楔形石器、剥片類に軟質砂岩による石斧用の砥石が伴っている。城ノ台遺跡（33）でも安山岩製の楔形石器を中心とする石器群が出土している。環状ブロック群の一部かも知れない。鎌取遺跡（39）では安山岩による台形石器を主体とする環状ブロック群と考えられる石器群と頁岩製による中規模な石刃石器群が地点を違えて出土している。小金沢貝塚（22）、馬ノ口遺跡（34）でも台形石器を含む石器群がある。有吉城跡（37）では石斧が数点出土しているが、頻繁な刃部再生の後、楔形石器や石核に転用されている。六通金山遺跡（17）でも刃部磨製石斧が出土している。神明社裏遺跡（25）では6枚の文化層から37か所のブロックが検出されているが、出土層位に重複が見られることなどから、文化層の再編も示唆されている。第2黑色帯下半部の上層を中心に出土した石器群が主体で、刃部磨製石斧の調整剥片や6号墳からは刃部磨製石斧や石斧が出土している。なお、石斧については移管整理作業中に見つかったものである。報告書には未掲載であるが、平成20年度出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり-おゆみ野編-」において公開されている。

Ⅵ層からⅧ層では、太田法師遺跡（15）で信州産と考えられる黒曜石や硬質頁岩を中心とするナイフ形石器、石刃を中心とする石器群などが出土しており、東南部ニュータウン事業地内では最もまとまった遺跡である。

Ⅳ層からⅤ層では、バクチ穴遺跡（13）で高原山産と考えられる黒曜石や珪質頁岩を中心とする切出形のナイフ形石器、角錐状石器、搔器の一群があり、類例は鎌取遺跡、小金沢古墳群（21）、有吉遺跡（43）などでも出土している。小金沢古墳群、鎌取場台遺跡（40）では礫群も見られる。また、太田法師遺跡では、黒曜石、各種頁岩、チャートなど各種石材を中心とするナイフ形石器、角錐状石器、搔器などのブロックが検出されているが、第8ブロックについては第1文化層の石器が混在している可能性がある。

Ⅲ層には複数時期の石器群があるが、有吉遺跡（第4次調査）からは、旧石器時代終末期に帰属する細身の木葉形をした槍先形石器のブロックがある。同時期の資料は小金沢古墳群にもあり、槍先形石器を製作したブロックとして注目される。ムコアラク遺跡（16）では、櫛状剥離をもつ槍先形石器がある。

細石刃石器群の出土は乏しいが、春日作遺跡（26）からは嶺岡産珪質頁岩と信州産黒曜石による細石刃石器群がある。細石刃核は得られていない。また、椎名崎古墳群B支群（28）でも古墳の墳丘下から黒曜石による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

六通神社南遺跡（18）では土器出現期に帰属すると考えられる大型の槍先形石器がまともっており、石



- 1 鶴牧遺跡 2 草刈遺跡 3 草刈六之台遺跡 4 中水谷遺跡 5 川焼台遺跡 6 ナキノ台遺跡 7 鶴牧古墳群
 8 ばあ山遺跡 9 野馬廻遺跡 10 押沼大六天遺跡 11 押沼第1遺跡 12 押沼第2遺跡 13 バクチ穴遺跡
 14 大船野南貝塚 15 太田法師遺跡 16 ムコアラク遺跡 17 六通金山遺跡 18 六通神社南遺跡 19 白鳥台遺跡
 20 御塚台遺跡 21 小金沢古墳群 22 小金沢貝塚 23 六通貝塚 24 六通遺跡 25 神明社裏遺跡 26 春日作遺跡
 27 椎名崎古墳群C支群 28 椎名崎古墳群B支群 29 今台遺跡 30 椎名神社遺跡 31 椎名崎遺跡 32 木戸作遺跡
 33 城ノ台遺跡 34 馬ノ口遺跡 35 有吉南貝塚 36 有吉北貝塚 37 有吉城跡 38 有吉南遺跡 39 鎌取遺跡
 40 鎌取場台遺跡 41 南二重堀遺跡 42 高沢遺跡 43 有吉遺跡 44 上赤塚遺跡 45 辺田山谷遺跡 46 コロニー内
 遺跡 47 大坂遺跡

第1図 鶴牧遺跡周辺の旧石器時代遺跡 (1:25,000)

第2節 遺跡の位置と地形

器石材の原産地推定分析によると奈良県二上山のサヌカイトや岐阜県の下呂石が含まれている。また、東南部ニュータウン北東に隣接する辺田山谷遺跡（45）では、富里市南大溜袋遺跡に代表される狭長な槍先形石器が散見される。

千原台ニュータウン関連文献

- | | | |
|----------------|------|--|
| (財) 千葉県文化財センター | 1980 | 『千原台ニュータウンⅠ (野馬堀遺跡・ばあ山遺跡・他)』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1983 | 『千原台ニュータウンⅡ 草刈遺跡A区 (第1次調査) 鶴牧古墳群・人形塚』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1986 | 『千原台ニュータウンⅢ 草刈遺跡 (B区)』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1991 | 『千原台ニュータウンⅣ 中水谷遺跡』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1994 | 『千原台ニュータウンⅥ -草刈六之台遺跡-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 2003 | 『千原台ニュータウンⅧ -市原市草刈遺跡 (東部地区縄文時代) -』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 2003 | 『千原台ニュータウンⅨ -市原市押沼第1・第2遺跡 (上層) -』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 2004 | 『千原台ニュータウンⅩ -市原市草刈遺跡 (東部地区旧石器時代) -』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 2005 | 『千原台ニュータウンⅪ -市原市草刈遺跡 (西部地区旧石器時代) -』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 2006 | 『千原台ニュータウンⅫ -市原市押沼大六天遺跡 (下層) -』 |
| (財) 千葉県教育振興財団 | 2007 | 『千原台ニュータウンⅬ -市原市ナキノ台遺跡 (下層) -』 |
| (財) 千葉県教育振興財団 | 2008 | 『千原台ニュータウンⅭ -市原市押沼第1遺跡 (下層) -』 |
| (財) 千葉県教育振興財団 | 2010 | 『千原台ニュータウンⅭⅡ -市原市押沼第2遺跡 (下層)・川焼台遺跡 (下層) -』 |

千葉東南部ニュータウン関連文献

- | | | |
|----------------|------|---|
| (財) 千葉県文化財センター | 1979 | 『千葉東南部ニュータウン6 -椎名崎遺跡-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1979 | 『千葉東南部ニュータウン7 -木戸作遺跡 (第2次) -』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1979 | 『千葉東南部ニュータウン8 -ムコアラク遺跡・小金沢古墳群-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1980 | 『千葉東南部ニュータウン9 -六通遺跡・御塚台遺跡-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1982 | 『千葉東南部ニュータウン10 -小金沢貝塚-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1981 | 『千葉東南部ニュータウン11 -六通金山遺跡-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1983 | 『千葉東南部ニュータウン12 -南二重堀遺跡-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1983 | 『千葉東南部ニュータウン14 -バクチ穴遺跡・有吉遺跡 (第3次)・有吉南遺跡-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1984 | 『千葉東南部ニュータウン15 -馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1990 | 『千葉東南部ニュータウン17 -高沢遺跡-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1993 | 『千葉東南部ニュータウン18 -鎌取遺跡-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1998 | 『千葉東南部ニュータウン19 -千葉市有吉北貝塚1-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1999 | 『千葉東南部ニュータウン21 -有吉遺跡 (第4次)・高沢古墳群-』 |
| (財) 千葉県文化財センター | 1999 | 『千葉東南部ニュータウン22 -鎌取場台-』 |

- (財)千葉県文化財センター 2003 『千葉東南部ニュータウン26 -千葉市椎名神社遺跡・古城小弓遺跡・六通神社南遺跡・御塚台遺跡-』
- (財)千葉県文化財センター 2003 『千葉東南部ニュータウン27 -千葉市春日作遺跡-』
- (財)千葉県文化財センター 2004 『千葉東南部ニュータウン29 -千葉市バクチ穴遺跡・大膳野南貝塚・有古城跡2(旧石器時代)-』
- (財)千葉県文化財センター 2005 『千葉東南部ニュータウン32 -千葉市小金沢古墳群2-』
- (財)千葉県教育振興財団 2006 『千葉東南部ニュータウン34 -千葉市城ノ台遺跡-』
- (財)千葉県教育振興財団 2006 『千葉東南部ニュータウン35 -千葉市椎名崎古墳群B支群-』
- (財)千葉県教育振興財団 2006 『千葉東南部ニュータウン36 -千葉市神明社裏遺跡1(旧石器時代)-』
- (財)千葉県教育振興財団 2007 『千葉東南部ニュータウン37 -千葉市六通貝塚-』
- (財)千葉県教育振興財団 2008 『千葉東南部ニュータウン39 -千葉市太田法師遺跡1(旧石器時代)-』

第3節 基本土層(第2・3図, 図版2)

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は、下総台地で広く観察される基本層序と共通する。千葉市から市原市にかけての東京湾岸地域では不明瞭なことが多い第2黒色帯下部の間層(Kb層)が確認されており、当地域の中では比較的良好な堆積状況を示している。立川ローム層の厚さは、薄いところで1.1m、南側の厚いところで1.6mあり、概ね1.2mである。

I層：表土。

2層：上層遺構等の覆土と思われる。

IIc層

III層：軟質ロームで、厚さは30cm～60cmである。

IV層：硬質ロームである。武蔵野台地のIV層上部に相当する層は軟質化してIII層に取り込まれており、本層は武蔵野台地IV層下部に対応すると考えられる。厚さは5cm～20cmである。

V層：硬質ロームで、第1黒色帯に相当する。厚さは5cm～20cmほどである。

VI層：明褐色～黄褐色の硬質ロームで、黒色粒と火山ガラスによって構成されるAT(給良丹沢火山層)のブロックがままとまっている。厚さは5cm～25cmである。

VII層：硬質ロームで、第2黒色帯上半部に相当する。ATが細かく拡散しており、あまり暗い色調ではない。厚さは10cm～35cmである。

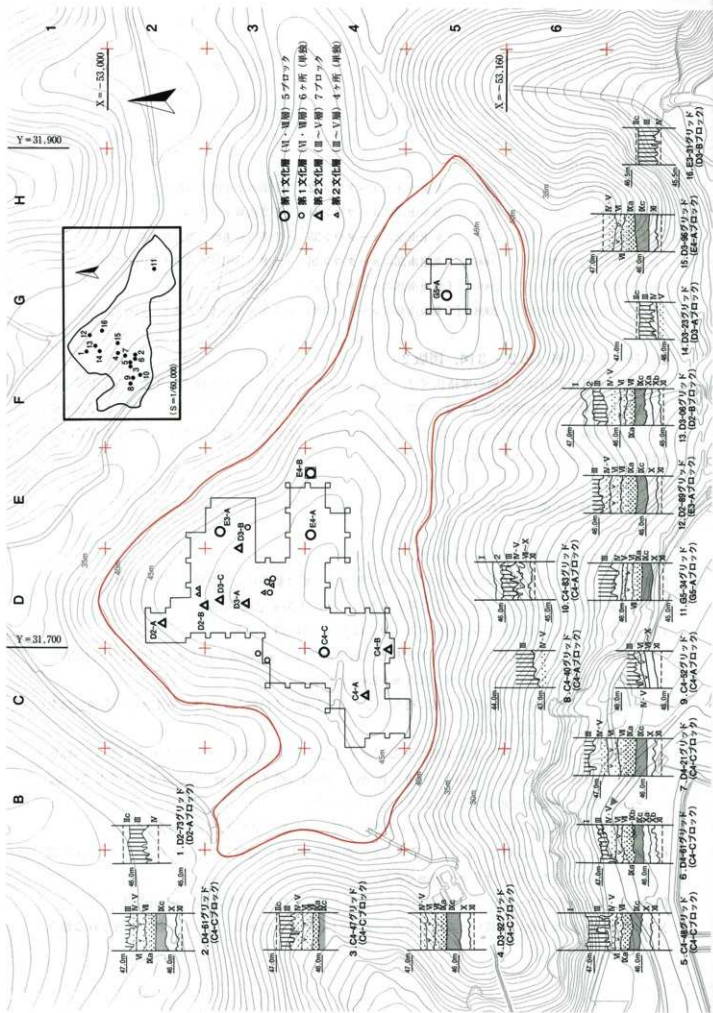
IX層：硬質ロームで、第2黒色帯下半部である。調査当時は単一の土層として認識されていたり、VIIa層(現在のVII層下部とIXa層)、VIIb層(現在のIXb層)、VIIc層(現在のIXc層)に区分されたりしている。整理作業の中で細分可能な場合は、以下のとおりとした。

IXa層：褐色の硬質ローム層で、第2黒色帯下半部の上層にあたる。厚さは15cm～30cmである。

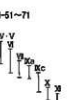
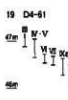
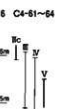
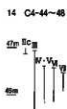
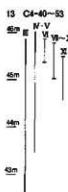
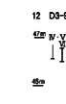
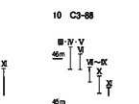
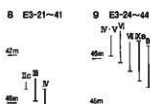
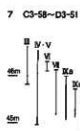
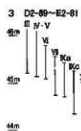
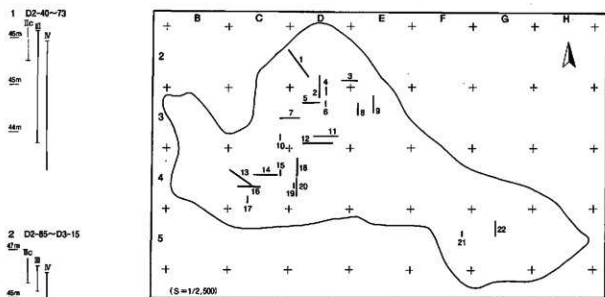
IXb層：褐色の硬質ローム層で、第2黒色帯下半部中の間層である。安定した土層ではないが、一部の調査区で確認できた。厚さは5cm～10cmである。

IXc層：暗褐色の硬質ローム層で、第2黒色帯下半部の下層にあたる。厚さは20cm～30cmである。

X層：明褐色～暗黄褐色の硬質ローム層である。厚さは15cm～50cmである。さらに2枚に分層される地点もある。



第2図 鶴牧遺跡調査概要 (1/1,500) 及び基本土層 (1)

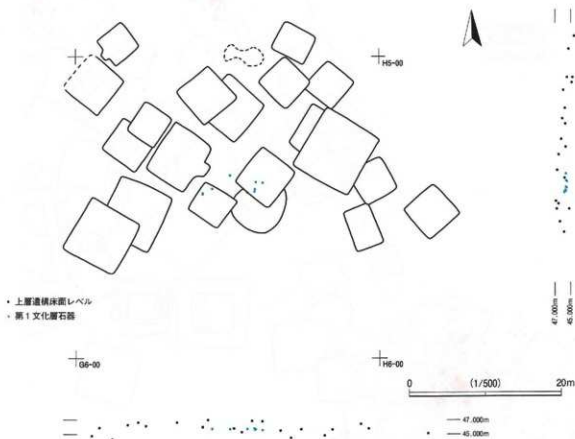


第3図 積砂遺跡の基本土層 (2)

XI層：青褐色～暗灰褐色の硬質ローム層で、X層との境界は波状をなし、不整合になっており、やや軟質である。武蔵野ローム層最上部と考えられる。厚さは15cm～20cmである。

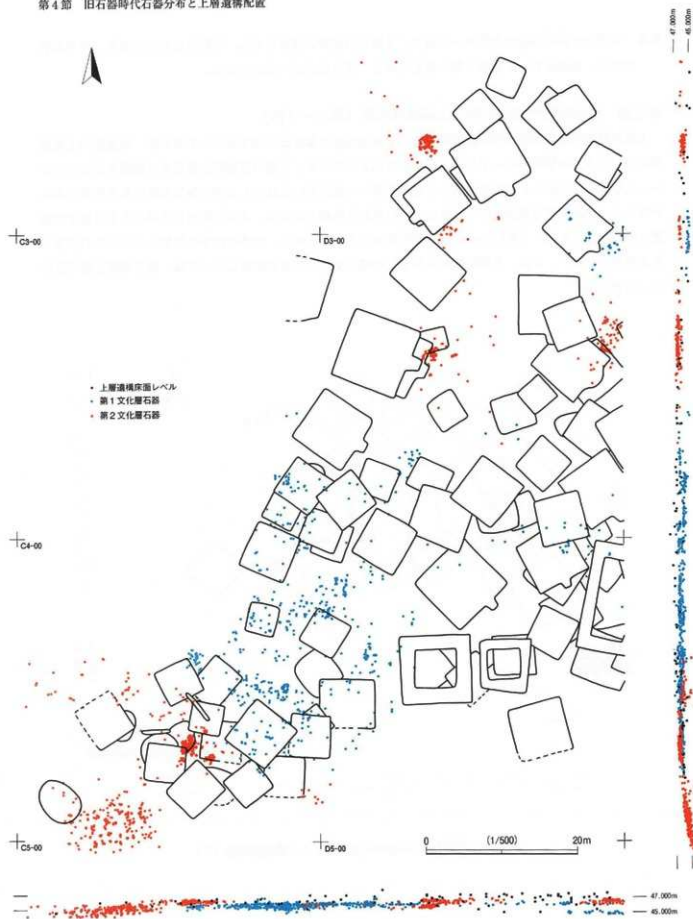
第4節 旧石器時代石器分布と上層遺構配置（第4～7図）

上層遺構が比較的希薄な押沼遺跡群を除く千原台地区の遺跡に共通することであるが、本遺跡の上層遺構についても、床面等がハードロームまで掘り込まれており、下層の石器群と重複する箇所もあることから、上層遺構から出土した礫を主体とする石器群の一部あるいはほとんどが下層に帰属する可能性がある。そのため、分布論的な検討を行うに当たっての注意を喚起するため、文化層別の石器分布と上層遺構の配置を掲載した。なお、上層については、整理途中であることから、今後の作業の進展により若干の変更もあるかもしれない。また、上層遺構から出土した礫を主体とする石器群については、第2章第4節で改めて、記載した。

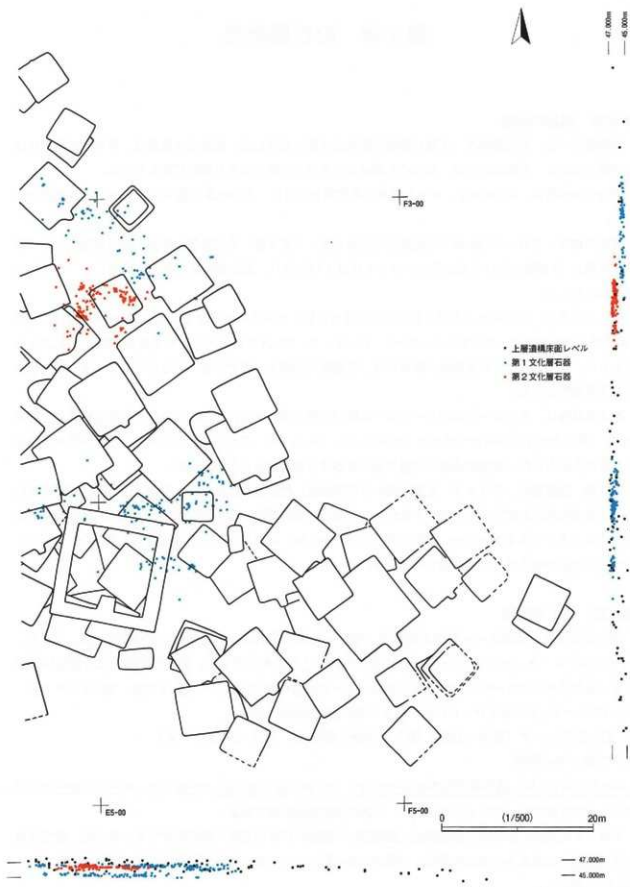


第5図 鶴牧遺跡旧石器時代石器分布と上層遺構配置（2）

第4節 旧石器時代石器分布と上層遺構配置



第6図 鶴牧遺跡旧石器時代石器分布と上層遺構配置(3)



第7図 鶴牧遺跡旧石器時代石器分布と上層遺構配置(4)

第2章 旧石器時代

第1節 調査の概要

鶴牧遺跡では、旧石器時代（下層）調査を昭和60年度に実施した。調査区の位置は、草刈遺跡群のほぼ中央部にあたり、南側は村田川、北側は千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面している。

調査対象面積は、20,000㎡で、4%を基本に確認調査を行い、その結果に基づいて5,308㎡の本調査を行った。

調査の結果、ブロック12か所と単独出土地点10か所、土坑2基、炭化物集中地点1か所を検出した（第2・8図）。本遺跡における12か所のブロックは以下のとおり、調査時の所見なども勘案して、2枚の文化層に区分した。

第1文化層は、立川ローム層第2黒色帯（Ⅶ層～Ⅸ層）を中心に包含される石器群で、石器717点、礫138点が5か所のブロック（E3-A、C4-C、E4-A・B、G5-Aブロック）と6か所の単独出土地点から出土した。本文化層は、出土層位に幅があり、石器群の内容も一様ではないことから、2～3時期に細分される可能性もある。

第2文化層は、立川ローム層のハードローム層（Ⅳ層下部～Ⅴ層）を中心に包含される石器群で、石器100点、礫1,137点が7か所のブロック（D2-A・B、D3-A～C、C4-A・Bブロック）と4か所の単独出土地点から出土した。武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に相当すると考えられる。

この他、西区表採、グリッド、上層遺構から石器45点、礫1点が出土しているが、出土層位が不明なため、帰属文化層を決定することができなかった。また、検出層位・出土層位が不明なため、帰属文化層を決定することができなかったが、D2-72グリッドとD4-30・31グリッドで土坑が2基、他にC4-43グリッドで炭化物集中地点が1か所検出されている。

第2節 第1文化層

第1文化層は、立川ローム層第2黒色帯（Ⅶ層～Ⅸ層）を中心に包含される石器群である。E3-A、C4-C、E4-A・B、G5-Aブロックと6か所の単独出土地点が該当する。本文化層は、出土層位に幅があり、石器群の内容も一様ではないことから、2～3時期に細分される可能性もある。E3-Aブロック、E4-Aブロック、E4-Bブロックにはブロック間に接合関係がある。

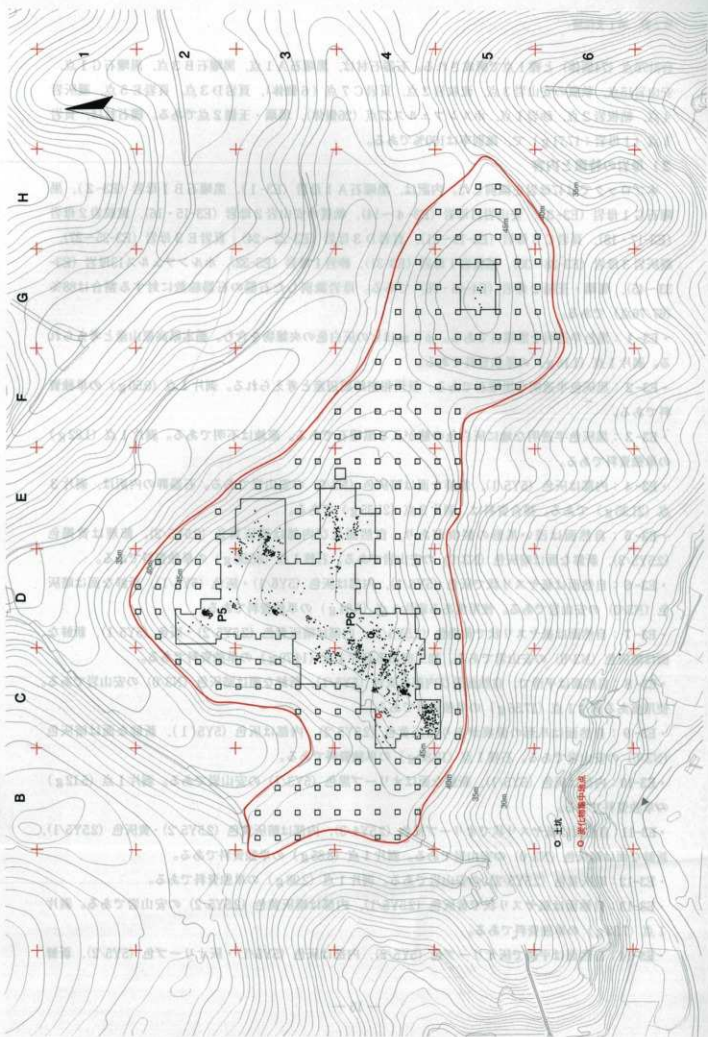
1 E3-Aブロック（第9～15図、第1～3表、図版2、カラー図版1・8）

1) ブロックの概要

E3-Aブロックは、調査範囲西側のD2-98・99、D3-08・09・18・19、E3-00・01・10～13・20～22・33グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地の北東側縁部である。

ブロックの規模と形状は、長軸26m、短軸10mの範囲に77点の石器・礫が分布する。その内、垂直分布のない遺物が3点ある。出土層位は、Ⅶ層からⅨc層かけて、60cmほどの高低差を持って包含されている（第9～11図）。

ブロックは、加工痕ある剥片1点、使用痕ある剥片2点、剥片50点（48個体）、碎片10点、石核13点の



第8図 鶴牧遺跡ブロック別分布状況 (1/1,500)

合計76点(74個体)と礫1点で構成される。石器石材は、黒曜石A1点、黒曜石B3点、黒曜石G1点、安山岩15点、軟質の安山岩3点、流紋岩2点、頁岩C7点(6個体)、頁岩D3点、頁岩E5点、凝灰岩4点、粘板岩2点、砂岩1点、ホルンフェルス27点(26個体)、瑪瑙・玉髓2点である。礫石材は、頁岩1点(1母岩:17.71g)で、識別率は100%である。

2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは47母岩を識別した。内訳は、黒曜石A1母岩(E3-1)、黒曜石B1母岩(E3-2)、黒曜石G1母岩(E3-3)、安山岩11母岩(E3-4~14)、軟質の安山岩2母岩(E3-15・16)、流紋岩2母岩(E3-17・18)、頁岩C3母岩(E3-19~21)、頁岩D3母岩(E3-22~24)、頁岩E3母岩(E3-25~27)、凝灰岩3母岩(E3-28~30)、粘板岩1母岩(E3-31)、砂岩1母岩(E3-32)、ホルンフェルス13母岩(E3-33~45)、瑪瑙・玉髓2母岩(E4-46・76)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は88%(67/76点)である。

- ・E3-1: 黒色半透明な黒曜石である。φ1mmほどの灰白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片1点(1.16g)の単独資料である。
- ・E3-2: 黒灰色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点(0.50g)の単独資料である。
- ・E3-3: 黒灰色半透明な地に灰白色の筋が入る黒曜石である。産地は不明である。剥片1点(1.82g)の単独資料である。
- ・E3-4: 内部は灰色(5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石器群の内訳は、剥片3点(21.35g)である。接合資料は、剥片3点(21.35g)である。
- ・E3-5: 自然面は浅い爪形の裂痕があり、自然面及び内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)、節理は黄褐色(2.5Y5/3)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石核1点(86.90g)の単独資料である。
- ・E3-6: 自然面は紙ヤスリ状で灰色(5Y6/1)、内部は灰色(5Y6/1)・灰色(5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。使用痕ある剥片1点(8.84g)の単独資料である。
- ・E3-7: 自然面は紙ヤスリ状で黄褐色(2.5Y5/3)、内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)・灰色(5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。加工痕ある剥片1点(14.79g)の単独資料である。
- ・E3-8: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。使用痕ある剥片1点(17.56g)の単独資料である。
- ・E3-9: 自然面は爪形の裂痕があり暗灰黄色(2.5Y5/2)、内部は灰色(5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石核1点(12.86g)の単独資料である。
- ・E3-10: 内部は灰色(5Y5/1)、新鮮な面はオリーブ黒色(5Y3/1)の安山岩である。剥片1点(5.12g)の単独資料である。
- ・E3-11: 自然面は紙ヤスリ状でオリーブ褐色(2.5Y4/3)、内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)・黄灰色(2.5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。剥片1点(8.85g)の単独資料である。
- ・E3-12: 暗灰黄色(2.5Y5/2)の安山岩である。剥片1点(2.98g)の単独資料である。
- ・E3-13: 自然面は紙ヤスリ状で黄灰色(2.5Y5/1)、内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)の安山岩である。剥片1点(7.38g)の単独資料である。
- ・E3-14: 自然面は平滑で灰オリーブ色(5Y5/2)、内部は灰色(5Y5/1)・灰オリーブ色(5Y5/2)、新鮮

な面は灰色 (N4/0) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 2 点 (14.60 g) である。

・E3-15: 自然面は平滑で灰黄色 (2.5Y7/2)、内部は灰白色 (5Y7/1) の地に灰白色 (5Y8/1) が部分的に混じり、節理はにぶい黄褐色 (10YR5/4)、新鮮な面は灰白色 (5Y7/1) の軟質の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 1 点、石核 1 点の合計 2 点 (15.64 g) である。

・E3-16: 自然面は平滑でにぶい黄色 (2.5Y6/4)、内部は灰オリーブ色 (5Y6/2)、新鮮な面は灰色 (5Y4/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (32.08 g) の単独資料である。

・E3-17: 自然面は平滑で黄褐色 (2.5Y5/4)・オリーブ褐色 (2.5Y4/4)、内部はにぶい黄色 (2.5Y6/4) の流紋岩である。石核 1 点 (92.80 g) の単独資料である。

・E3-18: 自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰オリーブ色 (7.5Y5/2)、新鮮な面はオリーブ黒色 (7.5Y3/1) の流紋岩である。剥片 1 点 (18.66 g) の単独資料である。

・E3-19: 自然面は比較的平滑で褐色 (10YR4/6)、内部は灰オリーブ色 (5Y4/2) の地ににぶい黄褐色 (10YR4/4) が混じり、節理は暗褐色 (10YR3/3)・褐色 (10YR4/4)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は、剥片 1 点、石核 1 点の合計 2 点 (32.80 g) である。接合資料は、剥片 1 点、石核 1 点の合計 2 点 (32.80 g) である。

・E3-20: 自然面は比較的平滑でオリーブ褐色 (2.5YR4/6)、内部は灰オリーブ色 (5Y4/2)・灰オリーブ色 (5Y5/2)、節理は暗褐色 (7.5YR3/3) の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は、剥片 3 点 (2 個体: 46.13 g) である。接合資料は、剥片 3 点 (2 個体: 46.13 g) である。

・E3-21: 自然面は比較的平滑で褐色 (10YR4/4)、内部は灰オリーブ色 (5Y4/2) の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は、剥片 1 点、石核 1 点の合計 2 点 (18.91 g) である。

・E3-22: 内部及び新鮮な面はにぶい黄褐色 (10YR5/4)・にぶい黄色 (2.5Y6/4) の地に灰褐色 (7.5Y5/2) が部分的に混じり、新鮮な面はにぶい黄褐色 (10YR5/4) の硬質緻密な頁岩である。剥片 1 点 (28.72 g) の単独資料である。

・E3-23: 自然面は平滑で褐色 (10YR4/6)、内部は鈍い黄色 (2.5Y6/4) の硬質緻密な頁岩である。剥片 1 点 (4.45 g) の単独資料である。

・E3-24: 自然面は平滑でオリーブ黒色 (5Y3/1)、内部は灰色 (10Y5/1)、節理は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) の硬質緻密な頁岩である。剥片 1 点 (4.16 g) の単独資料である。

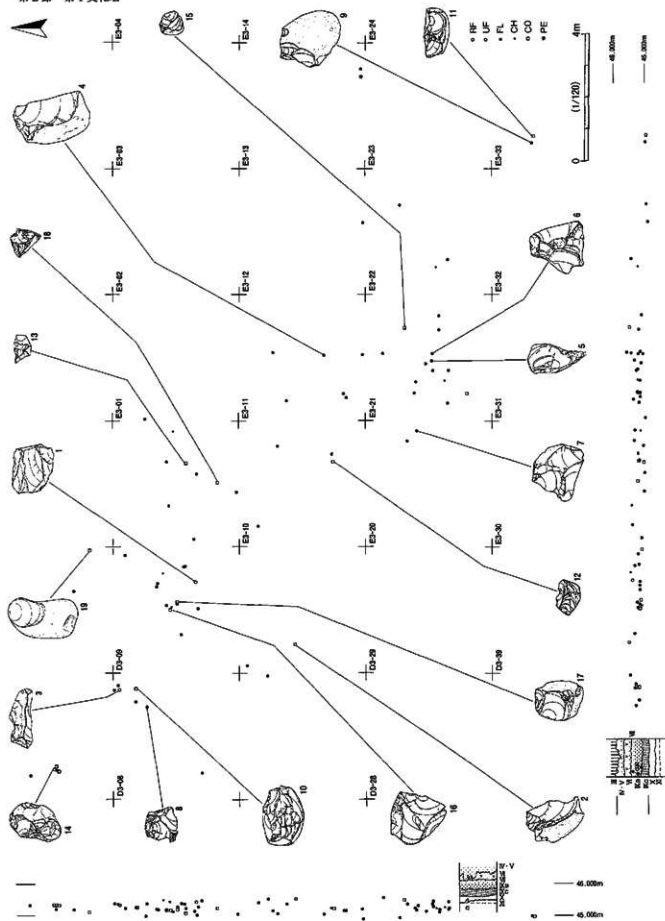
・E3-25: 自然面は平滑で黄褐色 (2.5Y5/4)・浅黄色 (5Y7/3)、内部は灰色 (7.5Y6/1)・灰白色 (5Y7/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の頁岩である。石器群の内訳は、剥片 2 点 (7.23 g) である。接合資料は、剥片 2 点 (7.23 g) である。

・E3-26: 自然面は平滑で淡黄色 (5Y8/3)・にぶい黄色 (2.5Y6/4)、内部は灰色 (5Y6/1)・灰白色 (5Y8/2)、新鮮な面は灰色 (N4/0) の頁岩である。石核 1 点 (22.48 g) の単独資料である。

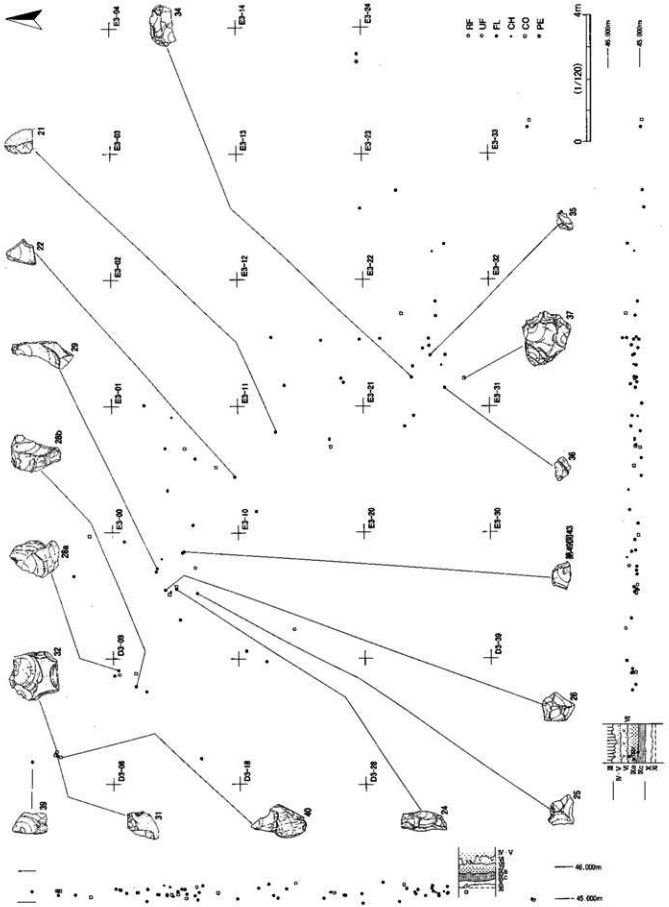
・E3-27: 自然面は比較的平滑で、自然面及び内部はオリーブ黄色 (5Y6/3) の地に灰色 (10Y6/1) が部分的に混じり、新鮮な面は灰オリーブ色 (5Y5/3) の頁岩である。剥片 1 点 (51.34 g) の単独資料である。

・E3-28: 内部は灰オリーブ色 (7.5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の凝灰岩である。剥片 1 点 (13.03 g) の単独資料である。

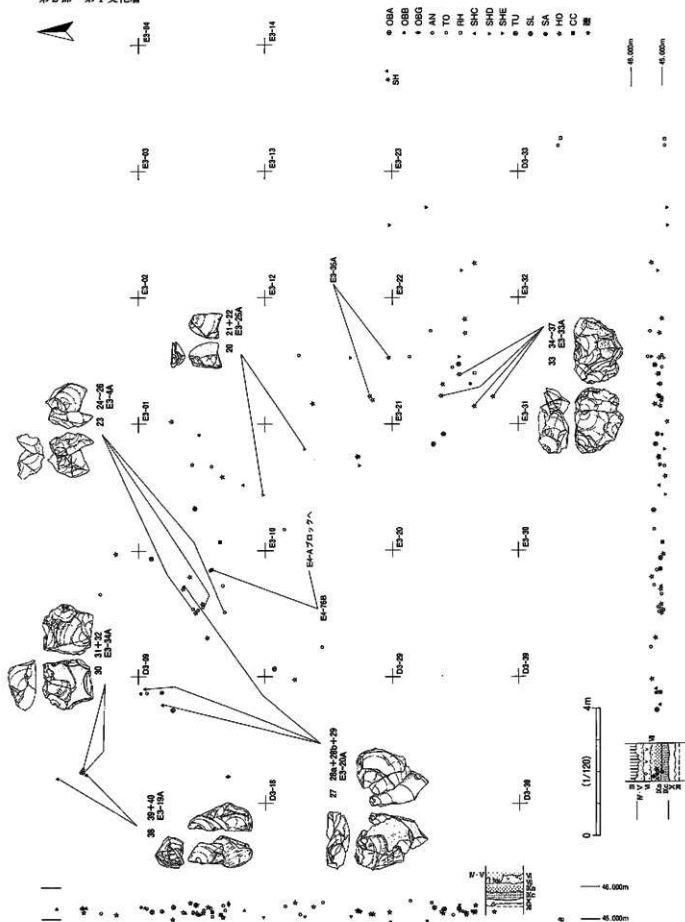
・E3-29: 自然面は平滑でオリーブ灰色 (10Y6/2)・浅黄色 (5Y7/4)、内部はオリーブ灰色 (10Y5/2)・浅黄色 (5Y7/4)、新鮮な面はオリーブ灰色 (5GY5/1) の凝灰岩である。石器群の内訳は、剥片 2 点



第9図 E3-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別分布(1) -



第10図 E3-Aブロック出土遺物分布(2) - 器種別分布(2) -



第11図 E3-Aブロック出土遺物分布(3) -石材別分布-

(38.74 g)である。

・E3-30：自然面は比較的平滑でオリープ灰色 (10Y5/2)、内部はオリープ灰色 (2.5GY5/1)・オリープ灰色 (10Y6/2)、節理は黄褐色 (2.5Y5/6) の凝灰岩である。珪化度が高い。剥片1点 (12.35 g) の単独資料である。

・E3-31：自然面は平滑で暗褐色 (7.5R3/3)・極暗赤褐色 (7.5R2/3)、内部はオリープ黒色 (10Y3/1)、新鮮な面は赤黒色 (7.5R1.7/1) の粘板岩である。剥片1点 (5.75 g) の単独資料である。

・E3-32：自然面は平滑で灰オリープ色 (7.5Y5/2)、内部は灰色 (7.5Y5/1)、節理はオリープ褐色 (2.5Y4/3) の砂岩である。石核1点 (179.85 g) の単独資料である。

・E3-33：自然面は比較的平滑でオリープ黒色 (10Y3/1)、内部は灰色 (10Y4/1) のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片4点、石核1点の合計5点 (80.97 g) である。接合資料は、剥片3点、石核1点の合計4点 (75.25 g) である。

・E3-34：自然面は平滑で灰オリープ色 (5Y4/2)、内部は灰色 (5Y5/1) のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片1点、石核1点の合計2点 (54.11 g) である。接合資料は、剥片1点、石核1点の合計2点 (54.11 g) である。

・E3-35：自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色 (10Y4/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) で、黄粉状の点紋の入るホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片5点 (4個体；15.85 g) である。接合資料は、剥片2点 (1個体；5.58 g) である。

・E3-36：自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色 (10Y5/1)・灰色 (10Y4/1)・青黒色 (10BG2/1)、新鮮な面は灰色 (N4/0) のホルンフェルスである。石核1点 (108.46 g) の単独資料である。

・E3-37：自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色 (5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) で、黄粉状の点紋が入るホルンフェルスである。石核1点 (90.03 g) の単独資料である。

・E3-38：自然面は平滑で、自然面及び内部は暗オリープ灰色 (5GY4/1)、新鮮な面は暗オリープ灰色 (5GY4/1) で、黄粉状の点紋が入るホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片1点、石核1点の合計2点 (99.04 g) である。

・E3-39：内部は灰色 (10Y4/1) の地に灰オリープ色 (5Y5/2) が部分的に混じり、黄粉状の点紋が入るホルンフェルスである。剥片1点 (2.79 g) の単独資料である。

・E3-40：内部は灰色 (10Y4/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) で、黄粉状の点紋が入るホルンフェルスである。剥片1点 (7.11 g) の単独資料である。

・E3-41：自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色 (10Y4/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) で、黄粉状の点紋が入るホルンフェルスである。剥片1点 (2.43 g) の単独資料である。

・E3-42：自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色 (10Y4/1) の地に黄粉をまぶしたようなホルンフェルスである。剥片1点 (33.46 g) の単独資料である。

・E3-43：自然面及び内部は灰色 (10Y4/1) のホルンフェルスである。碎片1点 (0.58 g) の単独資料である。

・E3-44：灰色 (10Y5/1) の地に灰白色 (2.5Y8/2)・明黄褐色 (2.5Y7/6) の黄粉をまぶしたようなホルンフェルスである。剥片1点 (12.00 g) の単独資料である。

・E3-45：灰色 (10Y4/1) のホルンフェルスである。剥片1点 (0.91 g) の単独資料である。

第2節 第1文化層

第1表 E3-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E3-1(QBA)																	1							1
E3-2(OBB)																	1							1
E3-3(OBG)																	1							1
E3-4(AN)																	3							3
E3-5(AN)																			1					1
E3-6(AN)											1													1
E3-7(AN)										1														1
E3-8(AN)											1													1
E3-9(AN)																				1				1
E3-10(AN)																	1							1
E3-11(AN)																	1							1
E3-12(AN)																	1							1
E3-13(AN)																	1							1
E3-14(AN)																	2							2
E3-15(TO)																	1		1					2
E3-18(TO)																	1							1
E3-17(RH)																			1					1
E3-18(RH)																	1							1
E3-19(SHG)																	1		1					2
E3-20(SHG)																	3(2)							3(2)
E3-21(SHG)																	1		1					2
E3-22(SHD)																	1							1
E3-23(SHD)																	1							1
E3-24(SHD)																	1							1
E3-25(SHE)																	2							2
E3-26(SHE)																			1					1
E3-27(SHE)																	1							1
E3-28(TU)																	1							1
E3-29(TU)																	2							2
E3-30(TU)																	1							1
E3-31(SL)																	1							1
E3-32(SA)																			1					1
E3-33(HO)																	4		1					5
E3-34(HO)																	1		1					2
E3-35(HO)																	5(4)							5(4)
E3-36(HO)																			1					1
E3-37(HO)																	1							1
E3-38(HO)																	1		1					2
E3-39(HO)																	1							1
E3-40(HO)																	1							1
E3-41(HO)																	1							1
E3-42(HO)																	1							1
E3-43(HO)																			1					1
E3-44(HO)																	1							1
E3-45(HO)																	1							1
E3-46(CC)																	1							1
E4-78(CC)																	1							1
その他(OBB)																			2					2
その他(AN)																			1					1
その他(SHE)																			1					1
その他(SL)																			1					1
その他(HO)																			4					4
合計										1	2						50(48)	10	13					79(74)

- ・E3-46：にぶい黄色(25Y6/4)の瑪瑙・玉髄である。剥片1点(0.67g)の単独資料である。
- ・E4-76：自然面は平滑で褐色(10YR4/6)・にぶい黄褐色(10YR5/4)、内部は灰黄色(25Y7/2)・オリーブ灰色(5GY5/1)、節理はにぶい黄褐色(10YR5/4)、新鮮な面はにぶい黄褐色(10YR6/4)の瑪瑙・玉髄である。本ブロックでは剥片1点(1.94g)の単独資料であるが、E4-Aブロックの剥片1点と接合している。その他に同一母岩がE4-Aブロックに4点(3個体)ある。

なお、母岩分類できなかった資料に、黒曜石B2点(0.82g)、安山岩1点(0.29g)、頁岩E1点(0.35g)、粘板岩1点(0.13g)、ホルンフェルス4点(0.75g)がある。

3) 出土遺物(第12・13図)

- 1は安山岩による加工痕ある剥片である。不定型な剥片の裏面末端に調整加工を行っている。
- 2・3は安山岩による使用痕ある剥片である。2は縦長剥片の右側縁上部、3は不定型な剥片の末端に刃こぼれが見られる。
- 4は頁岩、5・7は凝灰岩、6は硬質緻密な頁岩、8は粘板岩、9は軟質な安山岩による剥片である。
- 4・5は縦長剥片、6～9は不定型な剥片である。

10は砂岩、11は流紋岩、12は頁岩、13は軟質な安山岩、14・15は安山岩、16・17・19はホルンフェルス、18は嶺南産頁岩による石核である。10～12は打面と作業面を入れ替えながら、13は打面を転移しながら、不定型な剥片を剥離している。14～18は打面と作業面を入れ替えたり、打面を転移しながら、求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。19は小型で扁平な礫の上下両端に剥離痕が見られる。

4) 接合資料とその関連資料(第14・15図)

- ・E3-25(第14図20～22) 灰色(7.5Y6/1)などの頁岩である。20は剥片2点(21・22)の接合資料である。
- ・E3-4(第14図23～26) 灰色(5Y5/1)などの安山岩である。23は剥片3点(24～26)の接合資料である。

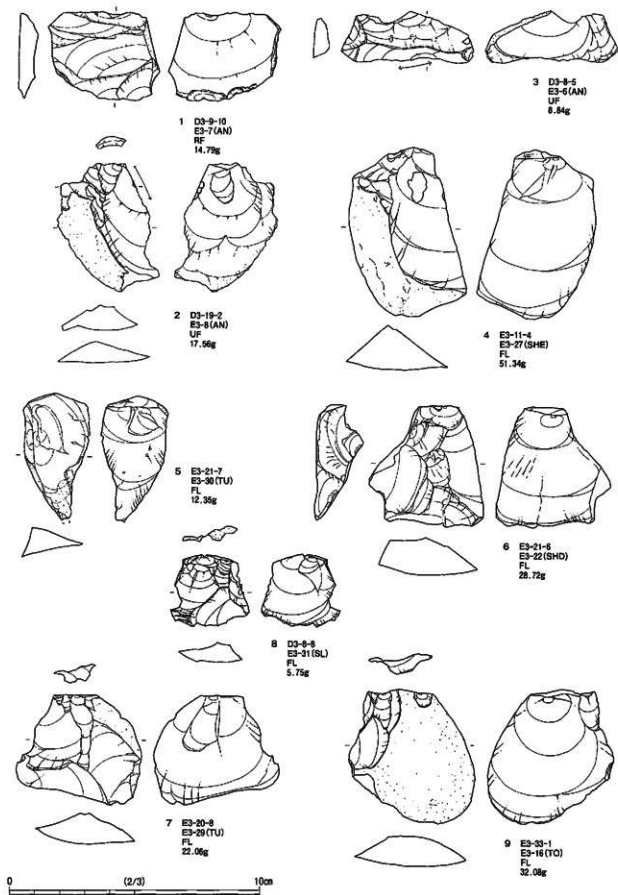
第2表 E3-Aブロック石材別石器組成

石 材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計	
黒曜石A(OBA)																		1						1	
黒曜石B(OBB)																		1	2						3
黒曜石C(OBC)																		1							1
安山岩(AN)										1	2							9	1	2					15
安山岩(TO)																		2		1					3
流紋岩(RH)																		1		1					2
頁岩C(SHC)																		5	4	2					7(6)
頁岩D(SHD)																		2							2
頁岩E(SHE)																		3	1	1					5
凝灰岩(TU)																		4							4
粘板岩(SL)																		1		1					2
砂岩(SA)																				1					1
ホルンフェルス(HO)																		17	1(8)	5	5				27(26)
瑪瑙・玉髄(CC)																		2							2
合 計										1	2						50	4(8)	10	13					76(74)

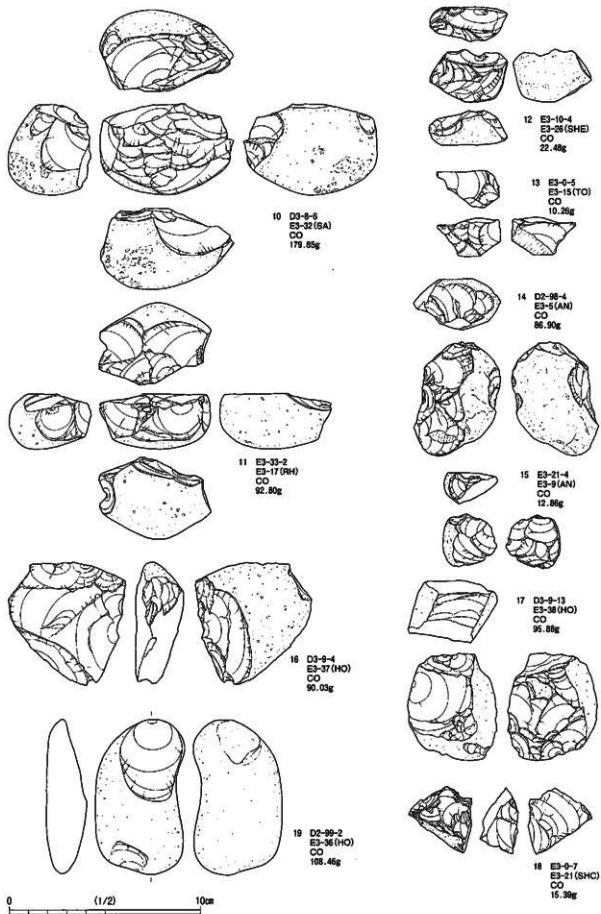
第3表 E3-Aブロック礫組成

母 岩	石 材	個 数	重 量
E3R-1	SH	1	17.71

石 材	個 数	重 量
頁岩(BH)	1	17.71
合 計	1	17.71

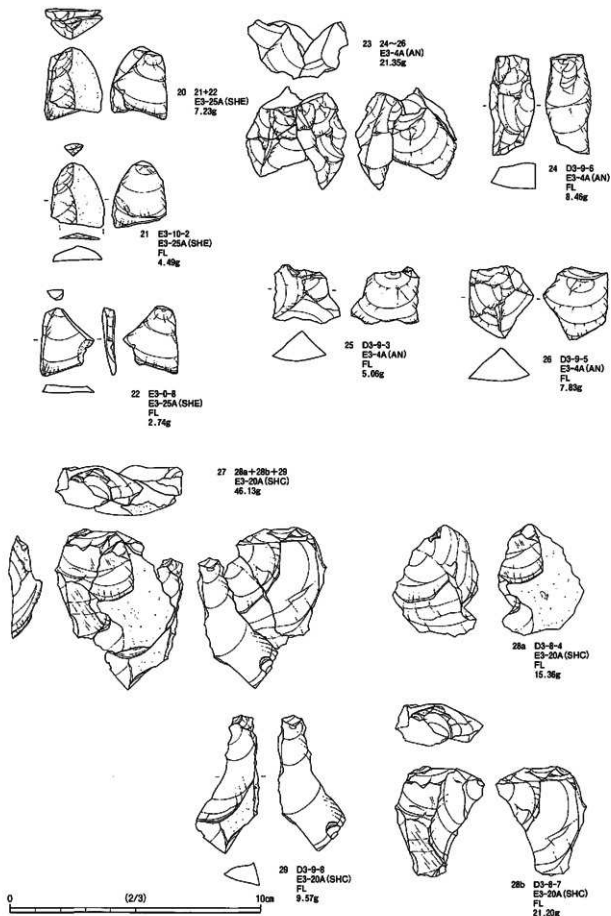


第12図 E3-Aブロック出土遺物(1)

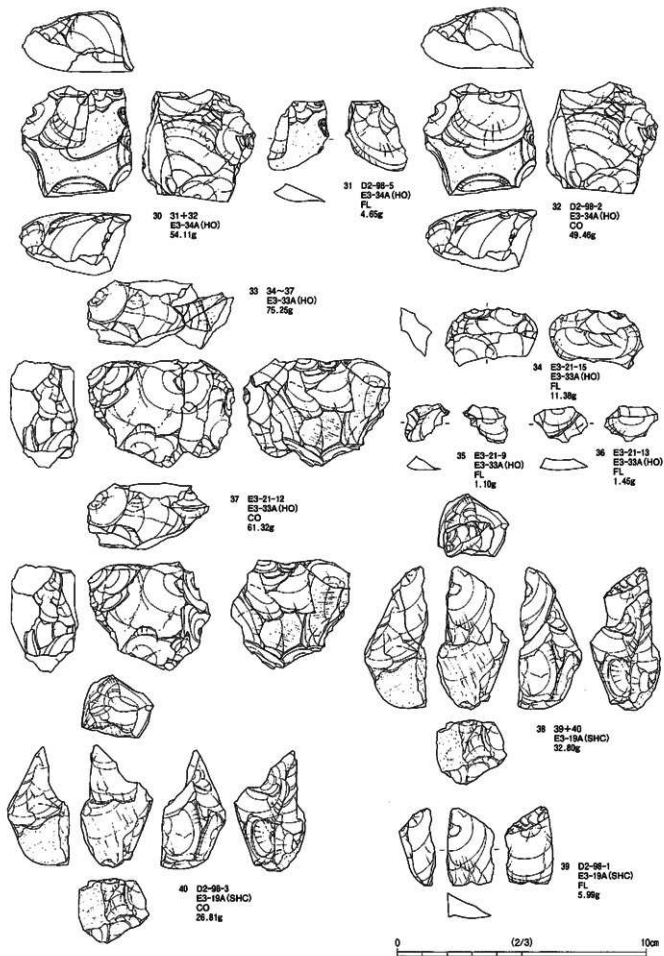


第13図 E3-Aブロック出土遺物(2)

第2節 第1文化層



第14図 E3-Aブロック出土遺物(3)



第15図 E3-Aブロック出土遺物(4)

・E3-20 (第14図27~29) 灰オリーブ色 (5Y4/2) などの嶺岡産頁岩である。27は剥片3点 (2個体: 28a・28b・29) の接合資料である。その内、28a・28bは剥片2点が接合して1個体となる。

・E3-34 (第15図30~32) 灰色 (5Y5/1) などのホルンフェルスである。30は剥片1点 (31)、石核1点 (32) の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら、求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。

・E3-33 (第15図33~37) 灰色 (10Y4/1) などのホルンフェルスである。33は剥片3点 (34~36)、石核1点 (37) の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら、求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。

・E3-19 (第15図38~40) 灰オリーブ色 (5Y4/2) などの嶺岡産頁岩である。38は剥片1点 (39)、石核1点 (40) の接合資料である。40は打面を転移しながら、不定型な剥片を剥離している。

2 C4-Cブロック (第16~42図, 第4~6表, 図版3~5, カラー図版1~4・8・9)

1) ブロックの概要

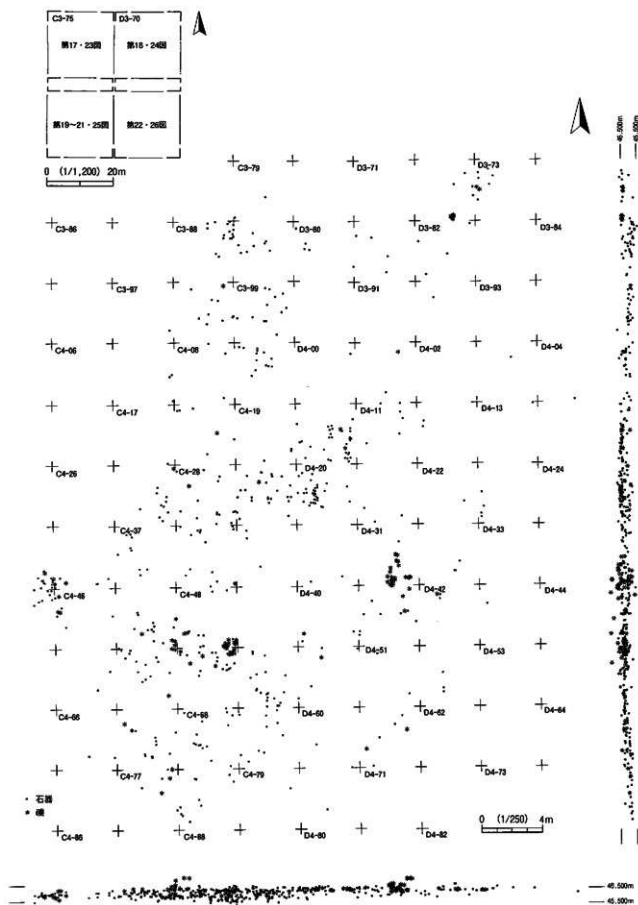
C4-Cブロックは、調査範囲西側のC3-79・88・89・97~99, C4-07~09・17~19・27~29・35~39・45~48・56~59・66~69・77~79, D3-72・73・80~82・92, D4-00・01・03・04・10~13・20~23・30~32・40~43・50~52・60・61・70グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地のほぼ中央部で、傾斜変換点 (台地の縁辺) までの距離は18mである。

ブロックの規模と形状は、長軸48m, 短軸29mの範囲に593点の石器・礫が分布する。その内、原位置不明の遺物が31点ある。出土層位はⅢ層からⅪ層にかけて、180cmほどの高低差をもって包含されているが、中心はⅨa層からⅨc層にかけて、40cmほどである (第16~27図)。

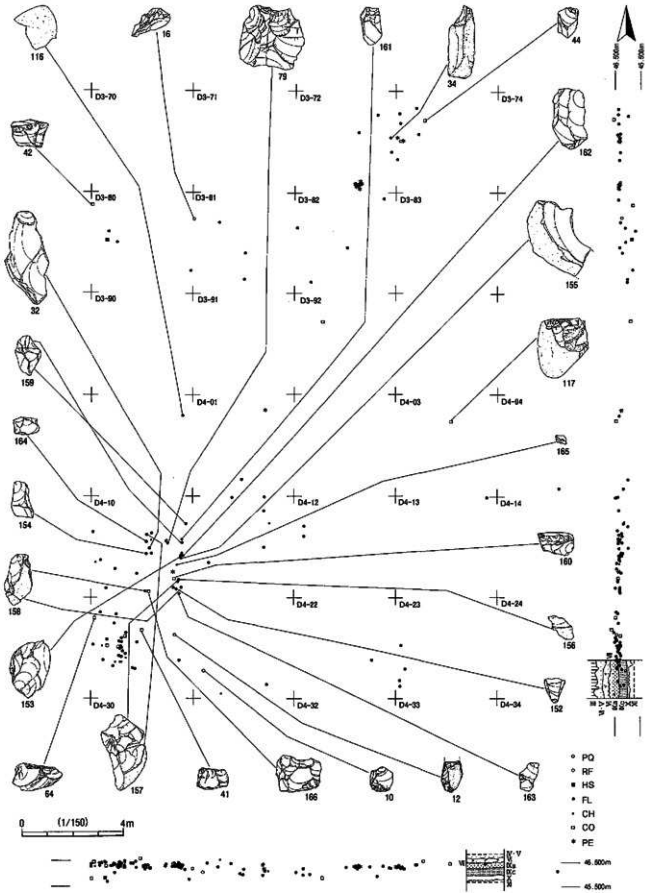
ブロックは、ナイフ形石器7点, 楔形石器8点, 加工痕ある剥片11点 (10個体), 使用痕ある剥片5点, 石刃5点 (4個体), 局部磨製石斧1点, 敲石4点 (3個体), 剥片350点 (331個体), 砕片31点, 石核49点 (46個体) の合計471点 (446個体) と礫122点で構成される。石器石材は、黒曜石A 2点, 黒曜石B 49点 (48個体), 黒曜石G 16点, 安山岩116点 (108個体), 軟質の安山岩19点, 流紋岩9点, 頁岩A 10点, 頁岩B 10点, 頁岩C 57点 (53個体), 頁岩D 10点, 頁岩E 50点 (46個体), チャート18点 (17個体), 凝灰岩11点, 粘板岩4点, 砂岩5点, ホルンフェルス65点 (58個体), 瑪瑙・玉髄20点である。礫石材は安山岩2点 (2母岩: 476.08g), 軟質の安山岩1点 (1母岩: 57.84g), 流紋岩9点 (9母岩: 326.21g), チャート16点 (15母岩: 708.78g), 凝灰岩31点 (14母岩: 1,122.02g), 粘板岩1点 (1母岩: 10.36g), 砂岩57点 (38母岩: 3,722.11g), ホルンフェルス3点 (2母岩: 332.73g), 識別できなかった流紋岩1点 (71.28g), 砂岩1点 (424.21g) で、識別率は98%である。

2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは237母岩を識別した。内訳は、黒曜石A 2母岩 (C4-1・2), 黒曜石B 21母岩 (C4-3~11・13~24), 黒曜石G 6母岩 (C4-25~29・292), 安山岩40母岩 (C4-30~38・41~71), 軟質の安山岩12母岩 (C4-72~83), 流紋岩6母岩 (C4-39・84~88), 頁岩A 7母岩 (C4-89~95), 頁岩B 10母岩 (C4-96~105), 頁岩C 23母岩 (C4-106~128), 頁岩D 9母岩 (C4-129~137), 頁岩E 25母岩 (C4-138~162), チャート11母岩 (C4-163~173), 凝灰岩7母岩 (C4-174~180), 粘板岩4母岩 (C4-181~184), 砂岩5母岩 (C4-40・185~188), ホルンフェルス33母岩 (C4-189~220・279), 瑪瑙・玉髄16母岩 (C4-

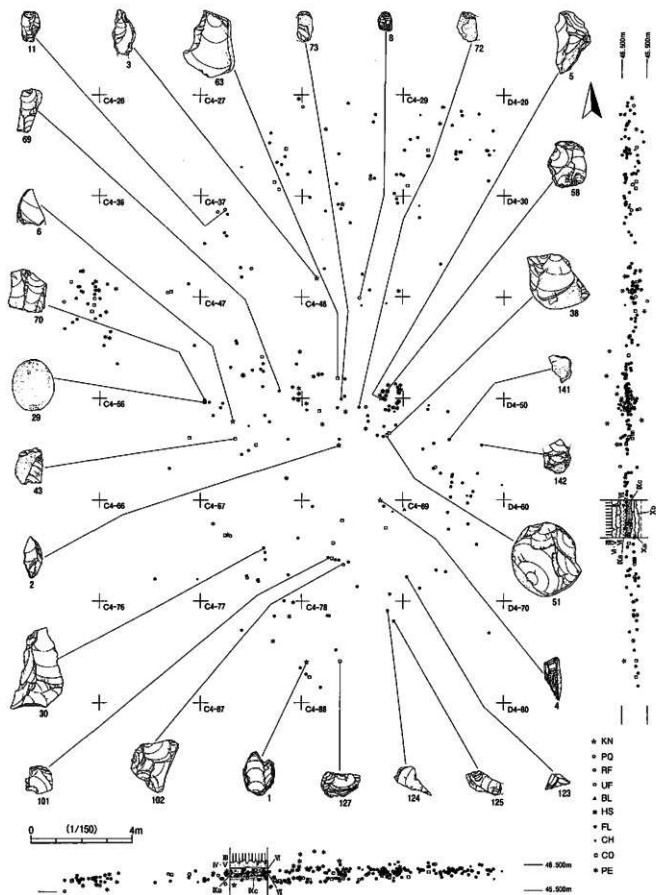


第16図 C4-Cブロック出土遺物分布(1) -器種・類別分布-

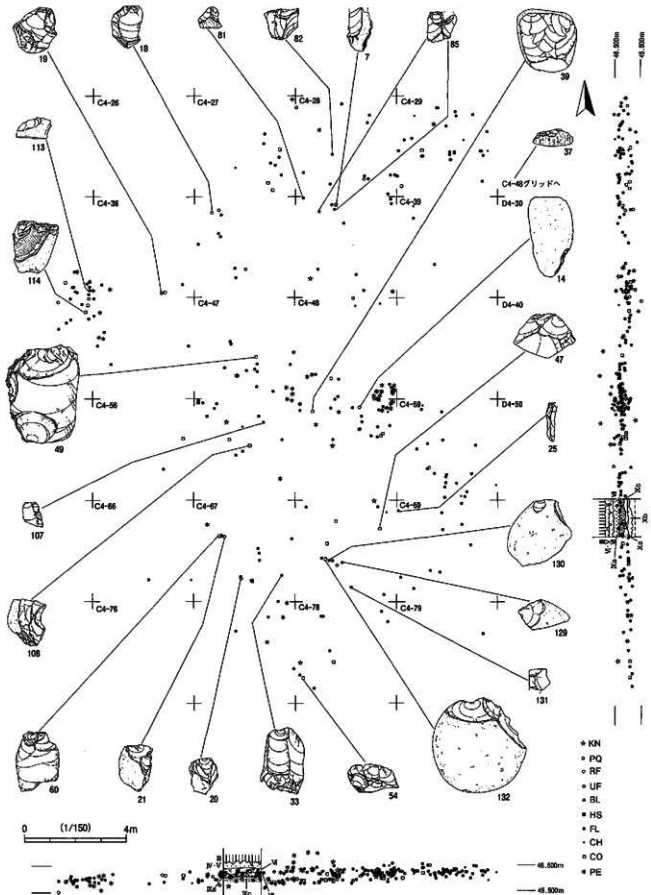


第18図 C4-Cブロック出土遺物分布(3) -器種別分布(2) -

第2節 第1文化層

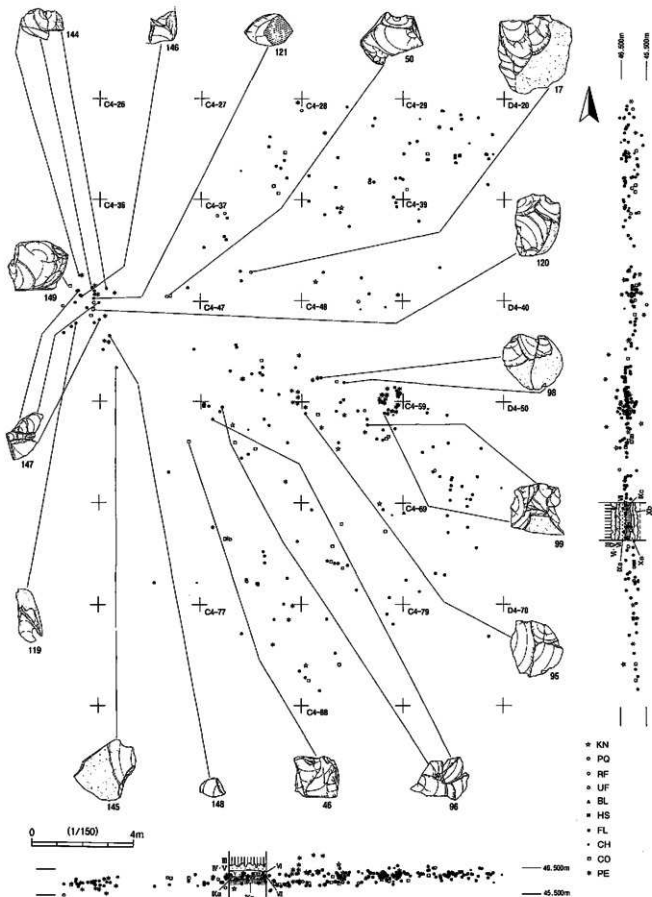


第19図 C4-Cブロック出土遺物分布(4) - 器種別分布(3) -

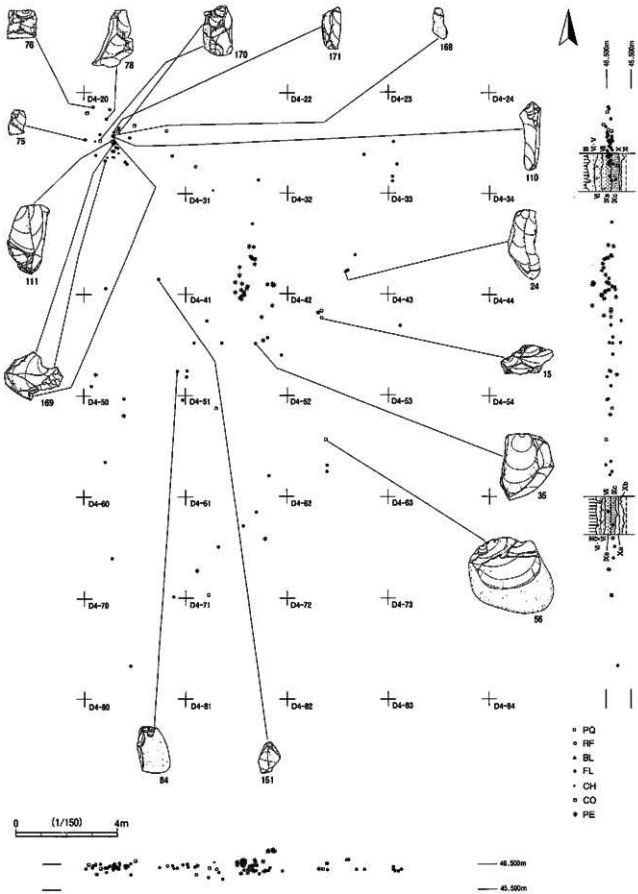


第20図 C4-Cブロック出土遺物分布(5) - 器種別分布(4) -

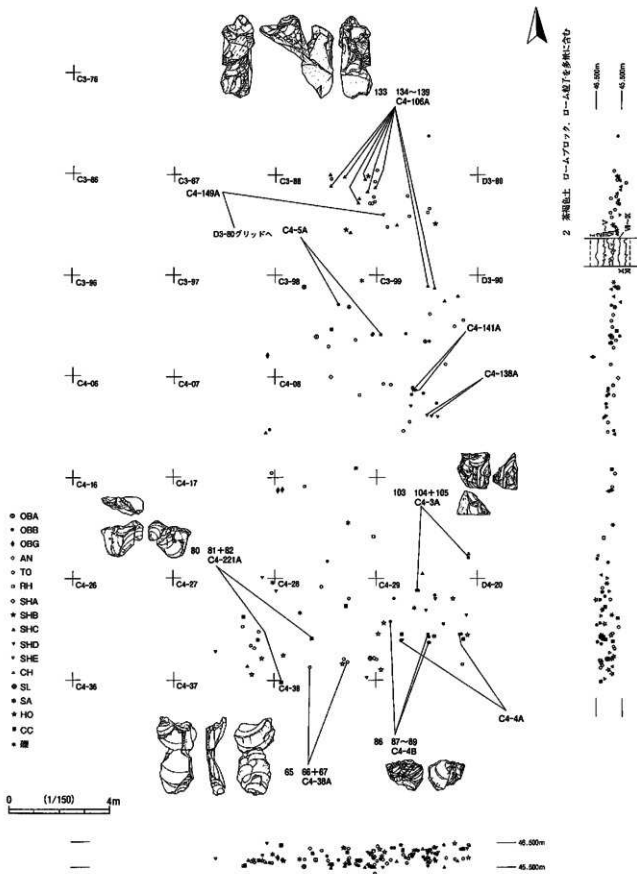
第2節 第1文化層



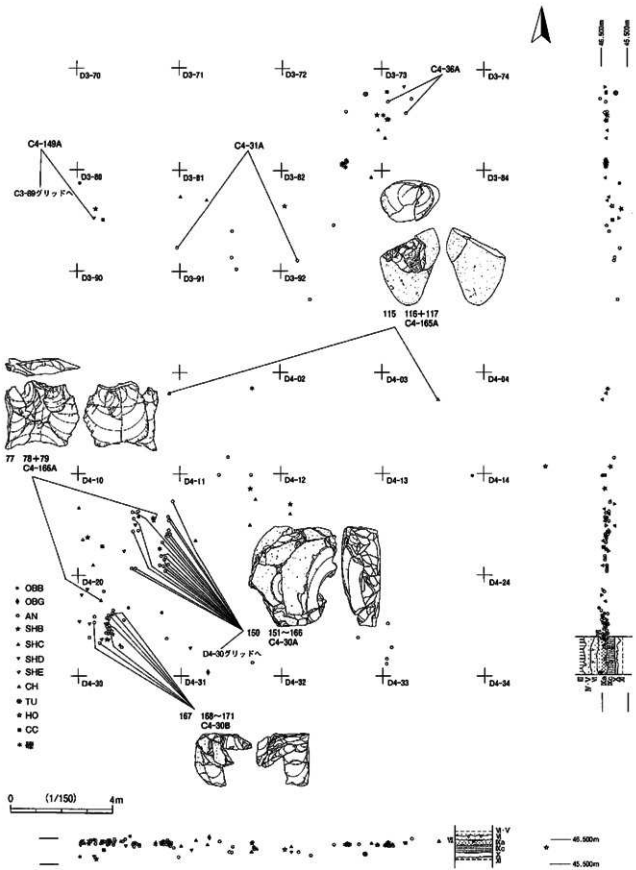
第21図 C4-Cブロック出土遺物分布(6) -器種別分布(5) -



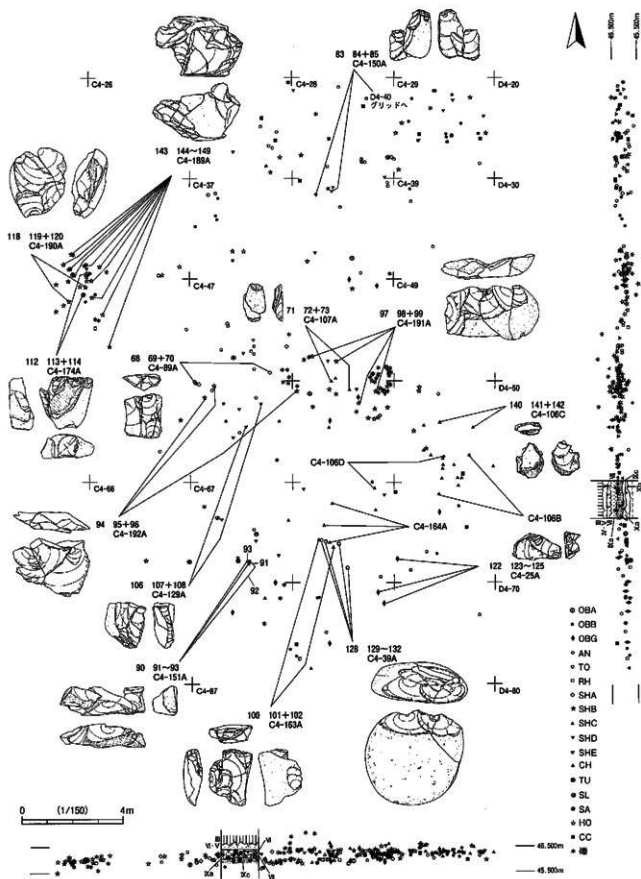
第22図 C4-Cブロック出土遺物分布(7) -器種別分布(6) -



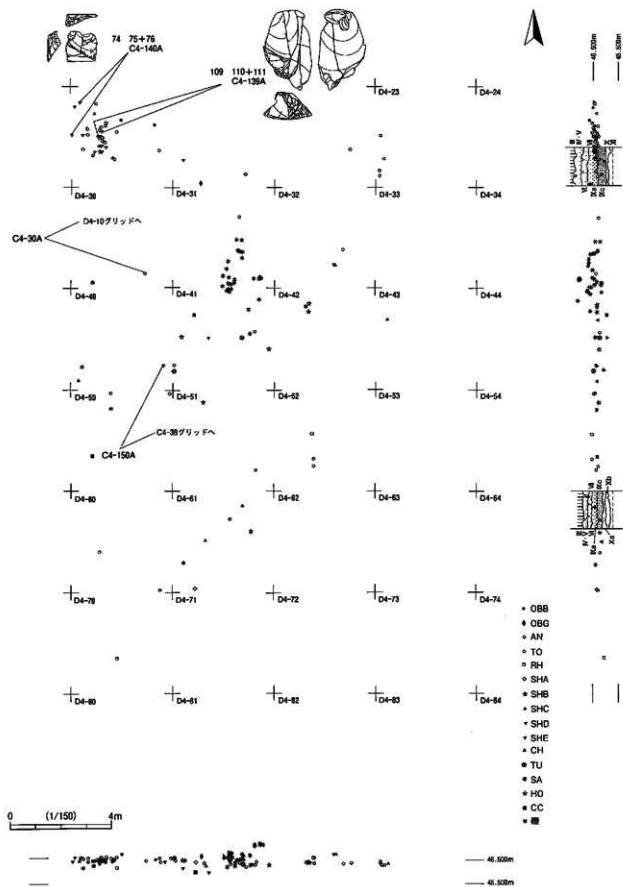
第23図 C4-Cブロック出土遺物分布(8) - 石材別分布(1) -



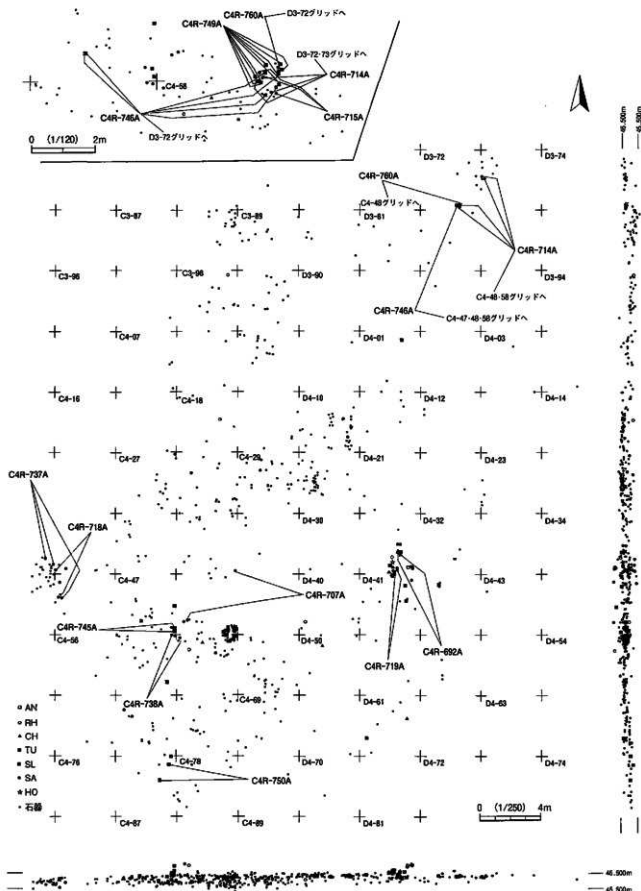
第24図 C4-Cブロック出土遺物分布(9) -石材別分布(2) -



第25図 C4-Cブロック出土遺物分布 (10) - 石材別分布 (3) -



第26図 C4-Cブロック出土遺物分布(11) -石材別分布(4) -



第27図 C4-Cブロック出土遺物分布(12) - 礫石材別分布 -

221~236)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は85% (402/471点)である。

- ・C4-1：自然面は紙ヤスリ状で暗灰色 (N3/0)、内部は黒色の黒曜石である。φ 1mmほどの白色の夾雑物を含む。栃木県高原文産と考えられる。剥片1点 (255g)の単独資料である。
- ・C4-2：暗黒灰色の黒曜石である。φ 1mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原文産と考えられる。剥片1点 (1.09g)の単独資料である。
- ・C4-3：自然面は紙ヤスリ状で暗灰色 (N3/0)、内部及び新鮮な面は黒色、節理は黄灰色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片1点、石核1点の合計2点 (10.79g)である。接合資料は、剥片1点、石核1点の合計2点 (10.79g)である。
- ・C4-4：自然面は平滑で、自然面・内部・新鮮な面は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片5点 (4個体; 938g)である。接合資料は、2グループあり、Aは剥片2点 (1個体; 480g)である。Bは剥片3点 (458g)である。なお、Bの表面の白濁は被熱による可能性がある。
- ・C4-5：自然面は平滑でにぶい黄色 (25Y6/3)、内部は黒色の黒曜石である。表面の白濁は被熱による可能性がある。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片1点、碎片1点の合計2点 (1.77g)である。接合資料は、剥片1点、碎片1点の合計2点 (1.77g)である。
- ・C4-6：内部及び新鮮な面は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片3点、石核1点の合計4点 (21.23g)である。
- ・C4-7：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色、内部は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片2点 (4.02g)である。
- ・C4-8：自然面は平滑で浅黄色 (25Y7/4)、内部及び新鮮な面は黒色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片1点 (2.13g)の単独資料である。
- ・C4-9：自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (1.15g)の単独資料である。
- ・C4-10：内部は透明な地に黒灰色のモヤが入り、節理は浅黄色 (25Y7/4)の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (0.77g)の単独資料である。
- ・C4-11：自然面は比較的平滑でにぶい黄色 (25Y6/4)、内部は透明な地に黒色・黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (2.77g)の単独資料である。
- ・C4-13：自然面は平滑な部分と紙ヤスリ状の部分があり、自然面及び内部は薄墨を流したような地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核1点 (5.28g)の単独資料である。
- ・C4-14：自然面は平滑で、自然面・内部・新鮮な面は黒灰色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核1点 (7.39g)の単独資料である。
- ・C4-15：透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。φ 1mmほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (4.78g)の単独資料である。
- ・C4-16：薄墨を流したような透明な黒曜石である。φ 1mm以下の黄灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片2点 (1.55g)である。
- ・C4-17：内部及び節理は薄墨を流したような透明な黒曜石である。φ 1mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (9.16g)の単独資料である。

- ・C4-18: 自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ 1mmほどの灰白色・黄灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点 (3.69g) の単独資料である。
- ・C4-19: 自然面は紙ヤスリ状で、自然面・内部・新鮮な面は半透明な地に黒灰色のモヤの入る黒曜石である。φ 1mmほどの白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片2点 (3.87g) である。
- ・C4-20: 自然面は平滑で、自然面及び内部は透明な地に淡黒灰色のモヤの入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点 (2.48g) の単独資料である。
- ・C4-21: 自然面は平滑で浅黄色 (2.5Y7/4)、内部は薄墨を流したような地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片2点 (1.14g) である。
- ・C4-22: 自然面は比較的平滑で浅黄色 (2.5Y7/4)、内部は透明な地に黒灰色のモヤの入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (0.97g) の単独資料である。
- ・C4-23: 自然面は比較的平滑で浅黄色 (2.5Y7/4)、内部は透明な地に黒灰色のモヤの入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (0.39g) の単独資料である。
- ・C4-24: 自然面は平滑で、自然面及び内部は透明な地に筋状のモヤの入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片2点 (1.27g) である。
- ・C4-25: 自然面は凹凸があり、紙ヤスリ状で灰色 (7.5Y4/1)、内部及び新鮮な面は黒色と黒灰色が縦状に入る黒曜石である。φ 1mmほどの黄灰色の夾雑物を少量含む。産地は不明である。石器群の内訳は、使用痕ある剥片1点、剥片4点、石核1点の合計6点 (38.50g) である。接合資料は、剥片3点 (6.12g) である。
- ・C4-26: 自然面は凹凸があり、紙ヤスリ状で、自然面及び内部は暗黒灰色の黒曜石である。φ 1mm以下の黄灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。石器群の内訳は、剥片2点 (5.26g) である。
- ・C4-27: 自然面は比較的平滑で灰色 (7.5Y4/1)、内部は暗黒灰色の黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は、剥片2点 (1.54g) である。
- ・C4-28: 黒色の黒曜石である。φ 2mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。楔形石器1点 (0.98g) の単独資料である。
- ・C4-29: 暗黒灰色の黒曜石である。φ 1mm以下の黄灰色の夾雑物を含む。表面が被熱のため光沢がない。産地は不明である。剥片1点 (5.05g) の単独資料である。
- ・C4-30: 自然面は浅い爪形の裂痕があり灰色 (5Y6/1)、内部は灰色 (5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片30点 (25個体)、碎片1点、石核4点 (3個体) の合計35点 (29個体; 505.61g) である。接合資料は、2グループあり、Aは剥片16点 (13個体)、碎片1点、石核2点の合計19点 (16個体; 366.48g) である。Bは剥片5点 (3個体)、石核2点 (1個体) の合計7点 (4個体; 80.18g) である。
- ・C4-31: 自然面は紙ヤスリ状で黄灰色 (2.5Y4/1)、内部は黄灰色 (2.5Y5/1) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片2点 (1個体; 6.84g) である。接合資料は、剥片2点 (1個体; 6.84g) である。
- ・C4-32: 自然面は浅い爪形の裂痕があり黄褐色 (2.5Y5/3)、内部は暗灰黄色 (2.5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片2点、石核1点の合計3点 (23.18g) である。
- ・C4-33: 自然面は浅い爪形の裂痕があり暗灰黄色 (2.5Y5/2)、内部は灰オリブ色 (5Y4/2)・灰オリブ

藍色 (5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石核 1 点 (25.10 g) の単独資料である。

・C4-34: 自然面は浅い爪形の裂痕があり、自然面及び内部は暗灰黄色 (2.5Y4/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石核 1 点 (14.38 g) の単独資料である。

・C4-35: 自然面は浅い爪形の裂痕があり暗灰黄色 (2.5Y4/2)、内部は黄灰色 (2.5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石核 1 点 (11.42 g) の単独資料である。

・C4-36: 自然面は深い爪形の裂痕があり暗灰黄色 (2.5Y5/2)、内部は灰色 (5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 2 点 (1 個体: 11.69 g) である。接合資料は、剥片 2 点 (1 個体: 11.69 g) である。

・C4-37: 自然面は浅い爪形の裂痕があり灰オリーブ色 (5Y6/2)、内部は灰黄色 (2.5Y6/2)・灰色 (5Y4/1) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 2 点、石核 1 点の合計 3 点 (7.43 g) である。

・C4-38: 内部は灰色 (7.5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 4 点 (21.74 g) である。接合資料は、剥片 2 点 (19.19 g) である。

・C4-39: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰オリーブ色 (5Y6/2) の地に灰色 (5Y6/1) が部分的に混じり、新鮮な面は灰色 (5Y5/1) の流紋岩である。石器群の内訳は、剥片 3 点、石核 1 点の合計 4 点 (237.57 g) である。接合資料は、剥片 3 点、石核 1 点の合計 4 点 (237.57 g) である。

・C4-40: 自然面は平滑でにぶい黄色 (2.5Y6/3) の地に黒褐色 (2.5Y3/1) が部分的に混じり、内部はにぶい黄色 (2.5Y6/3) の砂岩である。敲石 1 点 (101.45 g) の単独資料である。

・C4-41: 自然面は浅い爪形の裂痕があり灰色 (5Y6/1)・浅黄色 (2.5Y7/3)、内部は灰色 (5Y6/1)、節理は明黄褐色 (10YR6/6) の安山岩である。石核 1 点 (84.80 g) の単独資料である。

・C4-42: 自然面は浅い爪形の裂痕があり灰色 (5Y6/1)、内部は灰色 (5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 3 点 (35.84 g) である。

・C4-43: 内部は灰色 (5Y6/1)、新鮮な面は灰色 (10Y4/1) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 2 点 (40.66 g) である。

・C4-44: 自然面は爪形の裂痕があり、自然面及び内部は暗灰黄色 (2.5Y4/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 2 点 (12.34 g) である。

・C4-45: 内部は黄灰色 (2.5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 2 点 (13.89 g) である。

・C4-46: 自然面は紙ヤスリ状で黄灰色 (2.5Y5/1)、内部は暗灰黄色 (2.5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。剥片 1 点 (31.77 g) の単独資料である。

・C4-47: 自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色 (2.5Y5/2)、内部は黄灰色 (2.5Y4/1) の安山岩である。剥片 1 点 (19.70 g) の単独資料である。

・C4-48: 自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は暗灰黄色 (2.5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。剥片 1 点 (11.93 g) の単独資料である。

・C4-49: 内部は暗灰黄色 (2.5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。剥片 1 点 (12.24 g) の単独資料である。

・C4-50: 自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は暗灰黄色 (2.5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。剥片 1 点 (16.02 g) の単独資料である。

- ・C4-51：自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（12.15g）の単独資料である。
- ・C4-52：内部は黄灰色（2.5Y4/1）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（11.83g）の単独資料である。
- ・C4-53：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y5/2）、内部は黄灰色（2.5Y5/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（13.32g）の単独資料である。
- ・C4-54：自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（15.13g）の単独資料である。
- ・C4-55：自然面は深い爪形の裂痕があり、にぶい黄褐色（10YR6/4）、内部は黄灰色（2.5Y4/1）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（8.56g）の単独資料である。
- ・C4-56：内部は灰色（5Y5/1）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（9.06g）の単独資料である。
- ・C4-57：自然面は深い爪形の裂痕があり黄灰色（2.5Y6/1）、内部は灰色（5Y5/1）の安山岩である。剥片1点（7.36g）の単独資料である。
- ・C4-58：自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。剥片1点（5.53g）の単独資料である。
- ・C4-59：自然面は浅い爪形の裂痕があり黄褐色（2.5Y5/3）、内部は黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。剥片1点（4.17g）の単独資料である。
- ・C4-60：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（5.18g）の単独資料である。
- ・C4-61：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/4）、内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（6.37g）の単独資料である。
- ・C4-62：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（3.77g）の単独資料である。
- ・C4-63：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（4.11g）の単独資料である。
- ・C4-64：内部は黄灰色（2.5Y5/1）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（6.13g）の単独資料である。
- ・C4-65：黄灰色（2.5Y5/1）の安山岩である。剥片1点（6.65g）の単独資料である。
- ・C4-66：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y4/2）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（3.34g）の単独資料である。
- ・C4-67：内部は黄灰色（2.5Y4/1）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（2.82g）の単独資料である。
- ・C4-68：自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（1.79g）の単独資料である。
- ・C4-69：内部は黄灰色（2.5Y4/1）、新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（2.85g）の単独資料である。

- ・C4-70：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色 (25Y5/2)、内部は黄灰色 (25Y5/1) の安山岩である。剥片 1 点 (238 g) の単独資料である。
- ・C4-71：内部はオリーブ褐色 (25Y4/3)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の安山岩である。剥片 1 点 (146 g) 単独資料である。
- ・C4-72：自然面は比較的平滑で灰白色 (5Y8/2) の地に黄褐色 (25Y5/4)・灰オリーブ色 (5Y5/2)・灰色 (5Y6/1)・にぶい黄褐色 (10YR5/4) が部分的に混じり、内部は灰白色 (5Y8/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の軟質の安山岩である。石核 1 点 (207.27 g) の単独資料である。
- ・C4-73：自然面は凹凸があり浅黄色 (5Y8/2)、内部は灰オリーブ色 (5Y6/2)、節理はにぶい黄色 (25Y6/3)、新鮮な面は灰色 (5Y5/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (26.05 g) の単独資料である。
- ・C4-74：自然面は平滑でにぶい黄色 (25Y6/4)、内部は灰白色 (10Y7/1)、新鮮な面は灰色 (10Y5/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (12.67 g) の単独資料である。
- ・C4-75：自然面は平滑でにぶい黄色 (25Y6/3)、内部は灰白色 (10Y7/1) の地に灰白色 (5Y8/1) が部分的に混じり、新鮮な面は灰色 (10Y6/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (18.79 g) の単独資料である。
- ・C4-76：自然面は平滑でにぶい黄色 (25Y6/3)、内部は灰白色 (10Y7/1)、新鮮な面は灰色 (10Y6/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (11.74 g) の単独資料である。
- ・C4-77：自然面は平滑で、自然面及び内部は灰白色 (10Y7/1)、新鮮な面は灰色 (10Y6/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (9.16 g) の単独資料である。
- ・C4-78：自然面は平滑で灰白色 (5Y7/2)、内部は灰白色 (10Y7/1)、新鮮な面は灰色 (10Y6/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (25.01 g) の単独資料である。
- ・C4-79：内部は灰色 (5Y6/1)、節理は灰黄色 (25Y6/2) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (10.49 g) の単独資料である。
- ・C4-80：自然面は平滑で浅黄色 (25Y7/3)、内部は灰白色 (10Y7/1)、節理は灰黄色 (25Y7/2)、新鮮な面は灰色 (10Y5/1) の軟質の安山岩である。石器群の内訳は、剥片 4 点 (19.49 g) である。
- ・C4-81：自然面は平滑でにぶい黄色 (25Y6/4)、内部は灰白色 (10Y7/1) の地に灰白色 (5Y8/1) が部分的に混じり、節理はにぶい黄色 (25Y6/4)、新鮮な面は灰色 (10Y5/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (6.87 g) の単独資料である。
- ・C4-82：自然面は平滑でオリーブ黄色 (5Y6/3)、内部は灰白色 (5Y7/1)、新鮮な面は灰色 (5Y5/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (2.60 g) の単独資料である。
- ・C4-83：自然面は平滑で灰白色 (5Y7/2)・にぶい黄色 (25Y6/3)、内部は灰白色 (5Y7/2)、新鮮な面は灰色 (10Y6/1) の軟質の安山岩である。剥片 1 点 (3.31 g) の単独資料である。
- ・C4-84：自然面は平滑でオリーブ灰色 (25GY5/1)・暗オリーブ灰色 (25GY4/1)・灰褐色 (7.5YR5/2)、内部は赤灰色 (2.5YR5/1)・灰黄褐色 (10YR6/2) の流紋岩である。石核 1 点 (424.93 g) の単独資料である。
- ・C4-85：自然面は平滑でオリーブ灰色 (25GY6/1)・オリーブ灰色 (10Y6/2)、内部はオリーブ灰色 (25GY6/1) の地に灰白色 (25GY8/1) が部分的に混じり、新鮮な面は灰色 (N4/0) の流紋岩である。剥片 1 点 (63.88 g) の単独資料である。
- ・C4-86：自然面は凹凸がありオリーブ黄色 (5Y6/3)、内部は灰オリーブ色 (7.5Y5/2) の地に灰オリーブ

ブ色 (5Y5/3) が粒状に混じり、節理は黄褐色 (2.5Y5/3) の流紋岩である。剥片1点 (3.24g) の単独資料である。

・C4-87: 内部は灰白色 (5Y8/1) の地に灰褐色 (5YR5/2) の点紋が入り、新鮮な面は灰白色 (N7/0) の流紋岩である。石核1点 (8.69g) の単独資料である。

・C4-88: 自然面は比較的平滑で灰白色 (5Y7/2)、内部は灰色 (5Y6/1)・灰白色 (5Y7/1) の流紋岩である。ホルンフェルスの可能性がある。剥片1点 (2.81g) の単独資料である。

・C4-89: 自然面は平滑で暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)、内部は暗灰黄色 (2.5Y4/2) の東北産頁岩である。石器群の内訳は、剥片4点 (16.25g) である。接合資料は、剥片2点 (11.47g) である。

・C4-90: 自然面は爪形の裂痕があり暗褐色 (10YR3/3)、内部は黄灰色 (2.5Y4/1) の地に暗灰黄色 (2.5Y5/2) が帯状に混じり、節理はにぶい黄褐色 (10YR4/3) の東北産頁岩である。剥片1点 (16.45g) の単独資料である。

・C4-91: 内部及び新鮮な面は暗灰褐色 (10YR4/2)・灰黄褐色 (10YR5/2) の東北産頁岩である。使用痕ある剥片1点 (12.57g) の単独資料である。

・C4-92: 自然面は平滑で黄褐色 (2.5Y5/4)、内部及び新鮮な面は黒褐色 (2.5Y3/2) の東北産頁岩である。使用痕ある剥片1点 (30.73g) の単独資料である。

・C4-93: 自然面は平滑でにぶい赤褐色 (5YR4/4)、内部はにぶい黄色 (2.5Y6/3)・オリーブ黒色 (10Y3/1) の東北産頁岩である。剥片1点 (5.15g) の単独資料である。

・C4-94: にぶい黄褐色 (10YR4/3) の東北産頁岩である。石核1点 (7.20g) の単独資料である。

・C4-95: 自然面は浅い爪形の裂痕があり暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)、内部は黒褐色 (2.5Y3/2) の東北産頁岩である。剥片1点 (2.08g) の単独資料である。

・C4-96: 自然面は浅い爪形の裂痕があり褐色 (10YR4/4)、内部及び新鮮な面は黄褐色 (2.5Y5/3)・オリーブ褐色 (2.5Y4/4)・褐色 (7.5YR4/3) の北関東産頁岩である。石核1点 (29.46g) の単独資料である。

・C4-97: 自然面は平滑で、自然面及び内部はにぶい黄色 (2.5Y6/4) の北関東産頁岩である。加工痕ある剥片1点 (2.73g) の単独資料である。

・C4-98: 黄褐色 (2.5Y5/4) の北関東産頁岩である。加工痕ある剥片1点 (6.33g) の単独資料である。

・C4-99: 自然面は平滑でオリーブ褐色 (2.5Y4/6)、内部はにぶい黄褐色 (10YR5/4) の地に浅黄色 (2.5Y7/3) が部分的に混じる北関東産頁岩である。剥片1点 (12.21g) の単独資料である。

・C4-100: 自然面は平滑で黄褐色 (10YR5/6)、内部はにぶい黄色 (2.5Y6/4) の北関東産頁岩である。剥片1点 (3.51g) の単独資料である。

・C4-101: 自然面は比較的平滑で黄褐色 (2.5Y5/4)・褐色 (7.5YR4/3)、内部はにぶい黄色 (2.5Y6/4)、新鮮な面は暗灰黄色 (2.5Y5/2) の北関東産頁岩である。剥片1点 (13.84g) の単独資料である。

・C4-102: 自然面は平滑でにぶい黄褐色 (10YR5/4)、内部はにぶい黄褐色 (10YR5/4) の地に灰オリーブ色 (5Y5/2)・明褐色 (7.5YR5/6)・明黄褐色 (2.5Y6/6) が部分的に混じる北関東産頁岩である。剥片1点 (38.07g) の単独資料である。

・C4-103: 自然面は平滑で褐色 (7.5YR4/4)、内部は黄褐色 (2.5Y5/4) の北関東産頁岩である。剥片1点 (2.06g) の単独資料である。

・C4-104: 自然面は平滑でオリーブ褐色 (2.5Y4/3)、内部はオリーブ黄色 (5Y6/4) の北関東産頁岩であ

る。剥片1点(156g)の単独資料である。

・C4-105: 自然面は平滑で褐色(10YR4/6)、内部は暗オリーブ色(5Y4/4)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(183g)の単独資料である。

・C4-106: 自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色(10YR4/3)、内部は褐色(10YR4/4)・褐灰色(10YR4/1)・暗灰黄色(2.5Y5/2)・黒褐色(2.5Y3/2)、節理はにぶい黄褐色(10YR4/3)・黄灰色(10YR4/1)、新鮮な面はにぶい黄褐色(10YR4/3)の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は、加工痕ある剥片2点(1個体)、剥片17点(15個体)、砕片2点、石核3点(2個体)の合計24点(20個体:198.40g)である。接合資料は、4グループあり、Aは加工痕ある剥片2点(1個体)、剥片3点、石核3点(2個体)の合計8点(6個体:127.52g)である。Bは剥片2点(1個体:9.59g)である。Cは剥片2点(3.86g)である。Dは剥片2点(1個体:8.13g)である。

・C4-107: 自然面は比較的平滑で灰オリーブ色(5Y4/2)・オリーブ褐色(2.5Y4/3)、内部は灰オリーブ色(5Y4/2)、節理は灰オリーブ色(5Y4/2)・にぶい黄褐色(10YR5/4)、新鮮な面は灰オリーブ色(5Y4/2)の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は、剥片2点(3.36g)である。接合資料は、剥片2点(3.36g)である。

・C4-108: 自然面は比較的平滑でオリーブ褐色(2.5Y4/4)、内部は黄褐色(2.5Y5/4)の地に灰色(5Y6/1)・灰オリーブ色(5Y6/2)が部分的に混じり、節理は褐色(7.5YR4/4)・褐色(10YR4/4)の嶺岡産頁岩である。石核1点(33.72g)の単独資料である。

・C4-109: 灰オリーブ色(5Y5/2)・褐色(10YR4/4)の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器1点(1.97g)の単独資料である。

・C4-110: 自然面は比較的平滑でオリーブ褐色(2.5Y4/4)、内部は灰オリーブ色(5Y4/2)、節理は灰オリーブ色(5Y4/2)の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は、加工痕ある剥片1点、剥片2点の合計3点(18.25g)である。

・C4-111: 灰オリーブ色(5Y5/2)・オリーブ褐色(2.5Y4/4)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(12.44g)の単独資料である。

・C4-112: 内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)の地ににぶい黄色(2.5Y6/4)・灰黄色(2.5Y4/1)・にぶい黄褐色(10YR5/4)が部分的に混じり、新鮮な面は暗灰黄色(2.5Y5/2)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(18.94g)の単独資料である。

・C4-113: 灰オリーブ色(5Y5/2)の地ににぶい黄褐色(10YR5/4)が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片1点(1.84g)の単独資料である。

・C4-114: 自然面は比較的平滑で暗灰黄色(2.5Y5/2)、内部は灰色(5Y5/1)・灰オリーブ色(5Y5/2)、節理は褐色(7.5YR4/3)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(12.86g)の単独資料である。

・C4-115: 内部は暗灰黄色(2.5Y4/2)の地に灰オリーブ色(5Y5/2)が部分的に混じり、節理はオリーブ褐色(2.5Y4/4)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(1.54g)の単独資料である。

・C4-116: 自然面は比較的平滑で褐色(10YR4/6)、内部は黄褐色(10YR5/6)・灰オリーブ色(5Y5/2)の地に灰白色(5Y7/2)が部分的に混じり、節理はにぶい黄褐色(10YR5/4)の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は、剥片3点(5.48g)である。

・C4-117: オリーブ灰色(2.5GY5/1)・にぶい黄褐色(10YR5/4)・褐色(7.5YR4/3)の嶺岡産頁岩であ

る。剥片1点(3.55g)の単独資料である。

・C4-118:自然面は浅い爪形の裂痕がありにぶい黄褐色(10YR5/4)、内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・にぶい黄褐色(10YR5/4)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(4.63g)の単独資料である。

・C4-119:自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色(10YR5/4)、内部は灰オリーブ色(5Y5/2)の地に灰色(5Y5/1)が部分的に混じり、節理は褐色(10YR4/4)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(19.30g)の単独資料である。

・C4-120:自然面は比較的平滑で褐色(10YR4/4)、内部は灰オリーブ色(5Y5/2)の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は、剥片2点(19.93g)である。

・C4-121:自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色(10YR5/4)、内部はにぶい黄褐色(10YR5/4)・灰オリーブ色(5Y5/2)・灰オリーブ色(5Y4/2)、節理は褐色(10YR4/6)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(4.42g)の単独資料である。

・C4-122:灰オリーブ色(5Y4/2)の地に灰白色(5Y7/2)が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片1点(3.80g)の単独資料である。

・C4-123:自然面は比較的平滑で黄褐色(2.5Y5/3)、内部は灰オリーブ色(5Y4/2)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(3.24g)の単独資料である。

・C4-124:内部はオリーブ灰色(2.5GY6/1)・黄褐色(2.5Y5/4)の地に褐色(10YR4/4)が部分的に混じり、節理は褐色(10YR4/4)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(17.63g)の単独資料である。

・C4-125:自然面は比較的平滑で褐色(10YR4/4)、内部は褐色(10YR4/4)・黄褐色(2.5Y5/3)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(5.96g)の単独資料である。

・C4-126:自然面は浅い爪形の裂痕があり黄褐色(10YR5/6)・オリーブ褐色(2.5Y4/4)、内部は黄灰色(2.5Y4/1)の地に灰白色(5Y7/2)が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片1点(13.70g)の単独資料である。

・C4-127:内部は黒褐色(2.5Y3/2)の地に黒色(2.5Y2/1)・暗灰黄色(2.5Y5/2)が部分的に混じり、節理は黄褐色(2.5Y5/4)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(15.44g)の単独資料である。

・C4-128:自然面は比較的平滑で褐色(10YR4/4)、内部は褐色(10YR4/4)・黄灰色(2.5Y5/1)の地に黒褐色(2.5Y3/1)・黒褐色(2.5Y3/2)が縞状に混じり、節理は暗灰黄色(2.5Y5/2)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(6.16g)の単独資料である。

・C4-129:自然面は平滑でオリーブ黄色(5Y6/4)、内部はオリーブ灰色(10Y5/2)・緑灰色(7.5GY6/1)、新鮮な面は緑灰色(7.5GY5/1)の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は、剥片1点、石核1点の合計2点(21.25g)である。接合資料は、剥片1点、石核1点の合計2点(21.25g)である。

・C4-130:自然面は平滑でにぶい黄褐色(10YR5/4)、内部はにぶい黄色(2.5Y6/4)の硬質緻密な頁岩である。剥片1点(11.70g)の単独資料である。

・C4-131:灰オリーブ色(5Y4/2)の硬質緻密な頁岩である。剥片1点(0.62g)の単独資料である。

・C4-132:灰色(10Y4/1)の硬質緻密な頁岩である。剥片1点(13.50g)の単独資料である。

・C4-133:黄褐色(2.5Y5/3)・オリーブ灰色(2.5GY6/1)の硬質緻密な頁岩である。剥片1点(2.35g)の単独資料である。

・C4-134:内部は灰白色(5Y8/2)、新鮮な面は灰白色(5Y8/1)の硬質緻密な頁岩である。珪質化した

凝灰岩もしくは流紋岩の可能性がある。石核1点(6.74g)の単独資料である。

・C4-135: にぶい黄褐色(10YR5/4)・暗灰黄色(2.5Y5/2)・灰白色(5Y8/2)の硬質緻密な頁岩である。瑪瑙・玉髄の可能性ある。楔形石器1点(4.07g)の単独資料である。

・C4-136: 自然面は平滑で黄褐色(10YR6/6)、内部はオリーブ灰色(2.5GY6/1)・オリーブ黄色(5Y6/3)・にぶい黄褐色(10YR5/4)の硬質緻密な頁岩である。剥片1点(1.74g)の単独資料である。

・C4-137: 内部は灰色(5Y5/1)・黄褐色(2.5Y5/4)・黄褐色(2.5Y5/6)、節理は黄褐色(2.5Y5/4)の硬質緻密な頁岩である。剥片1点(1.98g)の単独資料である。

・C4-138: 自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の頁岩である。石器群の内訳は、剥片2点(1個体:7.87g)である。接合資料は、剥片2点(1個体:7.87g)である。

・C4-139: 内部及び節理は灰色(10Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の頁岩である。石器群の内訳は、剥片2点、石核1点の合計3点(44.56g)である。接合資料は、剥片1点、石核1点の合計2点(42.33g)である。

・C4-140: 内部は灰色(10Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の頁岩である。石器群の内訳は、剥片2点、砕片1点の合計3点(4.94g)である。接合資料は、剥片2点(4.39g)である。

・C4-141: 自然面は平滑で淡黄色(2.5Y8/3)・にぶい黄橙色(10YR7/4)・灰オリーブ色(5Y5/2)・灰色(5Y6/1)、内部は灰色(10Y5/1)、節理は褐色(10YR4/4)・灰オリーブ色(5Y5/2)、新鮮な面は灰色(5Y4/1)の頁岩である。石器群の内訳は、使用痕ある剥片1点、石刃2点(1個体)、剥片2点、石核2点の合計7点(6個体:855.36g)である。接合資料は、石刃2点(1個体:45.67g)である。

・C4-142: 自然面は平滑な部分と深い爪形の裂痕の部分があり灰オリーブ色(5Y5/2)、内部は灰色(5Y6/1)・灰オリーブ色(5Y6/2)、節理は暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)の頁岩である。剥片1点(24.23g)の単独資料である。

・C4-143: 自然面は平滑で灰オリーブ色(5Y5/2)、内部は灰色(5Y5/1)、節理は暗灰黄色(2.5Y4/2)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の頁岩である。剥片1点(22.65g)の単独資料である。

・C4-144: 灰色(10Y5/1)・灰オリーブ色(5Y5/2)の頁岩である。剥片1点(5.38g)の単独資料である。

・C4-145: 内部は灰色(7.5Y5/1)、新鮮な面は灰色(7.5Y4/1)の頁岩である。剥片1点(1.66g)の単独資料である。

・C4-146: 自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色(5Y6/1)、新鮮な面は灰色(10Y4/1)の頁岩である。剥片1点(9.05g)の単独資料である。

・C4-147: 内部は灰色(10Y6/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の頁岩である。剥片1点(17.60g)の単独資料である。

・C4-148: 自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰オリーブ色(5Y5/2)、新鮮な面は灰色(5Y4/1)の頁岩である。剥片1点(1.14g)の単独資料である。

・C4-149: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰オリーブ色(5Y6/2)・オリーブ黄色(5Y6/3)、新鮮な面は灰色(5Y4/1)の頁岩である。石器群の内訳は、敲石2点(1個体:96.10g)である。接合資料は、敲石2点(1個体:96.10g)である。

・C4-150: 自然面は平滑でにぶい黄橙色(10YR7/4)・褐色(10YR4/6)、内部は灰色(5Y5/1)、新鮮な

面は灰色 (N4/0) の頁岩である。石器群の内訳は、剥片3点 (2個体; 14.52g) である。接合資料は、剥片3点 (2個体; 14.52g) である。

・C4-151: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色 (5Y5/1)・浅黄色 (2.5Y7/4)、節理は灰黄褐色 (10YR5/2)、新鮮な面は黄灰色 (2.5Y4/1) の頁岩である。石器群の内訳は、剥片3点 (26.35g) である。接合資料は、剥片3点 (26.35g) である。

・C4-152: 自然面は浅黄色 (2.5Y7/3)、内部は明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)・灰白色 (5Y7/2)、新鮮な面は灰色 (N4/0) の頁岩である。石核1点 (419.34g) の単独資料である。

・C4-153: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色 (10Y6/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の頁岩である。石器群の内訳は、石刃1点、剥片1点、碎片1点の合計3点 (38.89g) である。

・C4-154: 自然面は平滑で灰オリーブ色 (5Y6/2)・暗灰黄色 (2.5Y5/2)、内部は灰色 (5Y6/1)・灰白色 (5Y7/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の頁岩である。石核1点 (24.60g) の単独資料である。

・C4-155: 自然面は平滑で浅黄色 (2.5Y7/3)、内部は灰白色 (2.5Y8/2) の頁岩である。加工痕ある剥片1点 (27.82g) の単独資料である。

・C4-156: 内部は灰オリーブ色 (5Y6/2)、新鮮な面は暗紫灰色 (5RP3/1)、暗灰色 (N3/0) の頁岩である。石器群の内訳は、剥片1点、碎片1点の合計2点 (11.18g) である。

・C4-157: 内部は灰色 (5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の頁岩であるが、安山岩の可能性がある。加工痕ある剥片1点 (9.85g) の単独資料である。

・C4-158: 自然面は平滑で浅黄色 (2.5Y7/3)・暗灰黄色 (2.5Y4/2)、内部は浅黄色 (2.5Y7/3)、新鮮な面は灰白色 (N7/0) の頁岩である。ナイフ形石器1点 (5.06g) の単独資料である。

・C4-159: 自然面は平滑でオリーブ黒色 (5Y3/2)、内部は灰黄色 (2.5Y7/2)、新鮮な面は灰色 (N5/0) の頁岩である。石核1点 (15.52g) の単独資料である。

・C4-160: 自然面は平滑で暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)、内部はオリーブ黄色 (5Y6/3)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の頁岩である。剥片1点 (12.71g) 単独資料である。

・C4-161: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰白色 (10Y7/1) の地に灰色 (10Y6/1) が縞状に混じり、節理は浅黄色 (2.5Y7/4) の地に黄灰色 (2.5Y4/1)・褐色 (10YR4/4) が部分的に混じり、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の頁岩である。剥片1点 (29.56g) の単独資料である。

・C4-162: 自然面は凹凸があり浅黄色 (2.5Y8/3)、内部は灰色 (10Y6/1)・にぶい黄褐色 (10YR5/3) の頁岩である。剥片1点 (2.64g) の単独資料である。

・C4-163: 自然面は平滑で、自然面及び内部は暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1)・灰オリーブ色 (5Y5/3) のチャートである。石器群の内訳は、楔形石器1点、剥片1点の合計2点 (22.83g) である。接合資料は、楔形石器1点、剥片1点の合計2点 (22.83g) である。

・C4-164: 自然面は平滑で灰色 (10Y4/1) の地に黄褐色 (2.5Y5/3) が部分的に混じり、内部は灰色 (10Y4/1)、節理は黄褐色 (2.5Y5/3) のチャートである。石器群の内訳は、剥片1点、石核2点 (1個体) の合計3点 (2個体; 41.87g) である。接合資料は、剥片1点、石核2点 (1個体) の合計3点 (2個体; 41.87g) である。

・C4-165: 自然面は平滑でオリーブ黒色 (5Y3/2) の地に灰オリーブ色 (5Y6/2)・にぶい黄褐色 (10YR4/3) が部分的に混じり、内部はオリーブ灰色 (2.5GY5/1)、節理は黄褐色 (2.5Y5/3)・にぶい褐色

- (7.5YR5/4), 新鮮な面はオリーブ灰色 (2.5GY6/1) のチャートである。石器群の内訳は, 剥片 1 点, 石核 1 点の合計 2 点 (90.93 g) である。接合資料は, 剥片 1 点, 石核 1 点の合計 2 点 (90.93 g) である。
- ・C4-166: 内部はオリーブ灰色 (5GY5/1)・灰色 (10Y4/1) の地に黒灰色が網目状に入り, 節理は灰オリーブ色 (5Y6/2), 新鮮な面は灰色 (N4/0) のチャートである。石器群の内訳は, 剥片 2 点 (36.48 g) である。接合資料は, 剥片 2 点 (36.48 g) である。
 - ・C4-167: 自然面は平滑でオリーブ黒色 (10Y3/1)・オリーブ灰色 (10Y4/2), 内部は灰色 (10Y4/1), 節理は灰オリーブ色 (7.5Y5/2) のチャートである。剥片 1 点 (12.78 g) の単独資料である。
 - ・C4-168: 自然面は平滑で, 自然面及び内部は灰色 (10Y4/1), 節理はにぶい黄褐色 (10YR4/3) のチャートである。石核 1 点 (26.70 g) の単独資料である。
 - ・C4-169: 自然面は平滑で, 自然面及び内部は灰色 (10Y4/1) のチャートである。剥片 1 点 (4.48 g) の単独資料である。
 - ・C4-170: 灰色 (10Y4/1) のチャートである。剥片 1 点 (2.51 g) の単独資料である。
 - ・C4-171: 自然面は比較的平滑で, 自然面及び内部は灰オリーブ色 (7.5Y5/2) のチャートである。剥片 1 点 (10.51 g) の単独資料である。
 - ・C4-172: 自然面は平滑で青黒色 (5B2/1), 内部は青黒色 (5B2/1)・青灰色 (5B6/1) のチャートである。剥片 1 点 (1.91 g) の単独資料である。
 - ・C4-173: 内部は灰色 (10Y4/1), 節理は灰オリーブ色 (7.5Y4/2) のチャートである。碎片 1 点 (0.70 g) の単独資料である。
 - ・C4-174: 自然面は平滑で, 自然面及び内部は明オリーブ灰色 (5GY7/1)・オリーブ灰色 (5GY6/1), 節理は灰オリーブ色 (5Y5/3) の凝灰岩である。石器群の内訳は, 剥片 2 点, 石核 1 点の合計 3 点 (34.88 g) である。接合資料は, 剥片 1 点, 石核 1 点の合計 2 点 (34.03 g) である。
 - ・C4-175: 自然面は比較的平滑で灰色 (10Y4/1)・灰オリーブ色 (5Y5/2), 内部は淡黄色 (2.5Y8/3)・灰色 (10Y5/1), 新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の凝灰岩である。石核 1 点 (622.59 g) の単独資料である。
 - ・C4-176: 自然面は比較的平滑で, 自然面及び内部は灰オリーブ色 (7.5Y6/2)・浅黄色 (2.5Y7/4), 新鮮な面はオリーブ灰色 (5GY5/1) の凝灰岩である。使用痕ある剥片 1 点 (11.59 g) の単独資料である。
 - ・C4-177: 内部は灰白色 (10Y7/2), 新鮮な面は明青灰色 (5B7/1) の凝灰岩である。剥片 1 点 (26.36 g) の単独資料である。
 - ・C4-178: 内部は浅黄色 (2.5Y7/4)・灰白色 (10Y7/2), 新鮮な面は緑灰色 (5G5/1) の凝灰岩である。剥片 1 点 (4.33 g) の単独資料である。
 - ・C4-179: 緑灰色 (7.5GY5/1) の凝灰岩である。剥片 1 点 (1.45 g) の単独資料である。
 - ・C4-180: 自然面は平滑で灰色 (10Y5/1), 内部は灰白色 (5Y7/2), 節理は灰色 (5Y5/1) の凝灰岩である。碎片 1 点 (0.20 g) の単独資料である。
 - ・C4-181: 自然面は凹凸があり, 自然面及び内部は灰色 (10Y4/1) の地に暗灰黄色 (2.5Y4/2)・浅黄色 (2.5Y7/4) が混じり, 新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の粘板岩である。石刃 1 点 (39.49 g) の単独資料である。
 - ・C4-182: 青黒色 (10BG2/1) の粘板岩である。剥片 1 点 (5.47 g) の単独資料である。
 - ・C4-183: 内部は青黒色 (10BG2/1), 節理は黄褐色 (2.5Y5/3)・明黄褐色 (10YR6/6), 新鮮な面は青黒

色(10BG2/1)の粘板岩である。剥片1点(17.97g)の単独資料である。

・C4-184:自然面は比較的平滑で青黒色(10BG2/1)の地にぶい黄褐色(10YR5/4)の筋が混じり、内部は青黒色(10BG2/1)、節理はにぶい黄褐色(10YR6/4)・暗褐色(7.5YR3/3)の粘板岩である。剥片1点(16.95g)の単独資料である。

・C4-185:自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y5/1)・灰オリーブ色(5Y5/2)、節理は褐色(10YR4/6)の砂岩である。局部磨製石斧1点(146.94g)の単独資料である。

・C4-186:自然面は平滑でオリーブ黒色(10Y3/1)、内部は灰色(10Y4/1)の砂岩である。剥片1点(47.96g)の単独資料である。

・C4-187:自然面は平滑で灰オリーブ色(5Y5/2)、内部は灰黄色(2.5Y6/2)の砂岩である。敲石1点(89.56g)の単独資料である。

・C4-188:自然面は比較的平滑でオリーブ黒色(10Y3/1)、内部は灰色(10Y4/1)の地に淡黄色(2.5Y8/3)が部分的に混じり、節理は黄褐色(2.5Y5/3)の砂岩である。剥片1点(35.40g)の単独資料である。

・C4-189:自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色(5Y5/1)・灰黄色(2.5Y7/2)、節理はにぶい黄褐色(10YR5/4)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。石器群の内訳は、楔形石器2点、剥片13点(9個体)、石核1点の合計16点(12個体:150.39g)である。接合資料は、剥片9点(5個体)、石核1点の合計10点(6個体:115.37g)である。

・C4-190:自然面は平滑で灰色(10Y5/1)、内部は灰色(10Y6/1)・灰白色(5Y7/2)、節理は褐色(10YR4/4)・にぶい黄褐色(10YR5/4)、新鮮な面は灰色(N4/0)のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片2点、石核1点の合計3点(81.05g)である。接合資料は、剥片1点、石核1点の合計2点(67.33g)である。

・C4-191:自然面は比較的平滑で灰色(10Y5/1)・浅黄色(2.5Y7/4)、内部は灰色(5Y5/1)・浅黄色(2.5Y7/4)、節理はオリーブ黒色(5Y3/1)、新鮮な面はオリーブ黒色(5Y3/1)のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片6点(4個体)、砕片1点の合計7点(5個体:60.98g)である。接合資料は、剥片4点(2個体:52.29g)である。

・C4-192:内部は灰色(5Y5/1)・にぶい黄色(2.5Y6/4)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片3点(2個体:27.32g)である。接合資料は、剥片3点(2個体:27.32g)である。

・C4-193:自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y5/1)の地に浅黄色(2.5Y7/3)が縞状に混じり、灰色(10Y4/1)が部分的に混じるホルンフェルスである。石核1点(252.06g)の単独資料である。

・C4-194:自然面は平滑でオリーブ黒色(10Y3/1)、内部は灰色(10Y4/1)、節理は暗灰黄色(2.5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。石核1点(69.14g)の単独資料である。

・C4-195:自然面は平滑で灰オリーブ色(5Y5/2)・灰オリーブ色(5Y6/2)、内部は灰オリーブ色(5Y6/2)・灰色(5Y5/1)、節理はにぶい黄色(2.5Y6/4)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。石核1点(70.38g)の単独資料である。

・C4-196:自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y5/1)の地に灰白色(10Y7/1)が部分的に混じるホルンフェルスである。加工痕ある剥片1点(100.30g)の単独資料である。

・C4-197:自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色(5Y4/1)の地に明黄褐色(2.5Y7/6)の点紋

が入るホルンフェルスである。石核1点(50.98g)の単独資料である。

- ・C4-198:自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(7.5Y4/1)の地に黄粉状の点紋が入るホルンフェルスである。楔形石器1点(11.81g)の単独資料である。
- ・C4-199:内部は灰色(5Y5/1)・灰オリーブ色(5Y6/2)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。ナイフ形石器1点(4.42g)の単独資料である。
- ・C4-200:自然面は平滑で灰オリーブ色(5Y4/2)、内部は灰色(5Y4/1)、節理は灰黄褐色(10YR4/2)のホルンフェルスである。石核1点(43.06g)の単独資料である。
- ・C4-201:自然面は平滑で灰色(10Y4/1)、内部は灰色(10Y4/1)の地に褐色(7.5YR4/4)が部分的に混じり、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。ナイフ形石器1点(13.56g)の単独資料である。
- ・C4-202:自然面は黒褐色(2.5Y3/2)、内部は黒褐色(2.5Y3/1)・黒褐色(2.5Y3/2)・浅黄色(2.5Y7/4)のホルンフェルスである。加工痕ある剥片1点(5.59g)の単独資料である。
- ・C4-203:自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。石器群の内訳は、加工痕ある剥片1点、剥片1点の合計2点(17.03g)である。
- ・C4-204:自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・灰色(5Y5/1)、節理は灰白色(5Y7/1)のホルンフェルスである。剥片1点(8.06g)の単独資料である。
- ・C4-205:自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y4/1)、節理は灰色(5Y5/1)のホルンフェルスである。剥片1点(30.11g)の単独資料である。
- ・C4-206:自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y5/1)・灰オリーブ色(5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。剥片1点(4.59g)の単独資料である。
- ・C4-207:自然面は平滑で灰色(5Y4/1)、内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・青灰色(10BG5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。剥片1点(12.36g)の単独資料である。
- ・C4-208:内部は暗オリーブ灰色(5GY4/1)の地に黄粉状の点紋があり、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。剥片1点(6.26g)の単独資料である。
- ・C4-209:内部は灰色(10Y4/1)の地に黄粉状の点紋が入り、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。剥片1点(22.22g)の単独資料である。
- ・C4-210:内部は灰色(10Y5/1)、新鮮な面は灰色(N4/0)のホルンフェルスである。剥片1点(13.23g)の単独資料である。
- ・C4-211:灰色(10Y4/1)のホルンフェルスである。剥片1点(1.08g)の単独資料である。
- ・C4-212:灰色(10Y4/1)のホルンフェルスである。剥片1点(2.38g)の単独資料である。
- ・C4-213:自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(5Y5/1)の地にぶい黄褐色(10YR4/3)が部分的に混じるホルンフェルスである。剥片1点(3.50g)の単独資料である。
- ・C4-214:内部は灰色(5Y4/1)、新鮮な面は灰色(N4/0)のホルンフェルスである。剥片1点(1.83g)の単独資料である。
- ・C4-215:内部及び新鮮な面は灰色(10Y4/1)のホルンフェルスである。剥片1点(0.91g)の単独資料である。
- ・C4-216:自然面は平滑で灰色(10Y4/1)、内部は灰色(10Y4/1)・灰オリーブ色(5Y6/2)、新鮮な面は

灰色 (N4/0) のホルンフェルスである。剥片1点 (6.31g) の単独資料である。

・C4-217: 自然面は比較的平滑でぶい黄褐色 (10YR4/3)、内部はぶい黄褐色 (10YR5/3)・黄褐色 (2.5Y5/3)、節理はオリーブ褐色 (2.5Y4/3)、新鮮な面は灰色 (N5/0) のホルンフェルスである。剥片1点 (4.12g) の単独資料である。

・C4-218: ぶい黄色 (2.5Y6/3) のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片2点 (5.98g) である。

・C4-219: 自然面は比較的平滑でオリーブ黒色 (5Y3/2)、内部は黄褐色 (2.5Y5/3)・暗灰黄色 (2.5Y4/2) のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片2点 (1.72g) である。

・C4-220: 灰色 (5Y4/1) の地に黄粉をまぶした様なホルンフェルスである。剥片1点 (0.69g) の単独資料である。

・C4-221: 内部及び新鮮な面はオリーブ灰色 (2.5GY6/1)・明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) の地にオリーブ灰色 (10Y4/2) が部分的に混じり、節理は黄褐色 (2.5Y5/4) の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は、剥片3点 (10.71g) である。接合資料は、剥片2点 (8.50g) である。

・C4-222: 黄灰色 (2.5Y5/1)・浅黄色 (2.5Y7/3) の瑪瑙・玉髄である。石刃1点 (1.06g) の単独資料である。

・C4-223: 内部及び新鮮な面は褐灰色 (10YR6/1) の地に灰白色 (10YR7/1) が粒状に混じる瑪瑙・玉髄である。ナイフ形石器1点 (4.27g) の単独資料である。

・C4-224: 黒褐色 (2.5Y3/2)・灰黄色 (2.5Y6/2) の地に灰白色 (2.5Y8/2) が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。剥片1点 (3.36g) の単独資料である。

・C4-225: 黄灰色 (2.5Y4/1)・暗灰黄色 (2.5Y5/2)・ぶい黄褐色 (10YR6/4) の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は、剥片2点 (6.05g) である。

・C4-226: 灰黄色 (2.5Y7/2)・黄灰色 (2.5Y6/1) の瑪瑙・玉髄である。剥片1点 (0.69g) の単独資料である。

・C4-227: 自然面は爪形の裂痕があり黄褐色 (10YR5/6)、内部はオリーブ黒色 (10Y3/1)・灰色 (10Y6/1)・黄褐色 (10YR5/6) の瑪瑙・玉髄である。剥片1点 (4.26g) の単独資料である。

・C4-228: 黄褐色 (10YR5/6)・灰白色 (5Y7/2) の瑪瑙・玉髄である。剥片1点 (0.88g) の単独資料である。

・C4-229: 内部及び新鮮な面は浅黄色 (2.5Y7/4) で半透明な瑪瑙・玉髄である。石核1点 (13.93g) の単独資料である。

・C4-230: 内部は黄灰色 (2.5Y6/2)・浅黄色 (2.5Y7/4)・淡黄色 (2.5Y8/4)、節理は明黄褐色 (10YR6/6) で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点 (6.78g) の単独資料である。

・C4-231: 浅黄色 (2.5Y7/4)・灰白色 (2.5Y8/2) で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点 (4.23g) の単独資料である。

・C4-232: 自然面は比較的平滑で浅黄色 (2.5Y7/4)、内部は淡黄色 (2.5Y8/3) の地に黄灰色 (2.5Y5/1) が部分的に混じり、半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点 (1.37g) の単独資料である。

・C4-233: ぶい黄色 (2.5Y6/4) の地に浅黄褐色 (10YR8/4) が部分的に混じる半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点 (3.88g) の単独資料である。

・C4-234: 自然面は比較的平滑で黄褐色 (10YR5/6)、内部は黄褐色 (10YR5/6) の地に灰黄色 (2.5Y7/2)

が部分的に混じり、半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点(7.60g)の単独資料である。

・C4-235:自然面は紙ヤスリ状で灰白色(2.5Y8/1)の地に浅黄色(2.5Y7/4)が部分的に混じり、内部は浅黄色(2.5Y7/4)で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点(0.64g)の単独資料である。

・C4-236:自然面は平滑で黄褐色(2.5Y5/6)・にぶい黄色(2.5Y6/4)、内部はにぶい黄色(2.5Y6/4)の地に黄灰色(2.5Y5/1)の筋が入り、半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点(8.36g)の単独資料である。

・C4-279:内部は灰色(10Y5/1)・灰色(10Y6/1)、新鮮な面は灰色(N4/0)のホルンフェルスである。石核1点(39.22g)の単独資料である。

・C4-292:自然面は紙ヤスリ状で灰色(N4/0)、内部は黒色の黒曜石である。φ1mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。楔形石器1点(1.94g)の単独資料である。

なお、母岩分類できなかつた資料に、黒曜石B14点(9.59g)、黒曜石G3点(1.19g)、安山岩28点(56.54g)、軟質の安山岩4点(4.31g)、頁岩C5点(20.93g)、頁岩E6点(1.67g)、チャート2点(7.13g)、凝灰岩2点(1.71g)、ホルンフェルス4点(0.84g)、瑪瑙・玉髄1点(12.30g)がある。

3) 出土遺物(第28~33図)

1は瑪瑙・玉髄、2は嶺岡産頁岩、3・5はホルンフェルス、4・6は信州和田峠周辺産の黒曜石、7は頁岩によるナイフ形石器で、1・2は二側縁加工、3・4は一側縁加工、5は部分加工、6は上半部、7は下半部が欠損しており、形態は不明である。1は不定型な剥片の打面側を基部として、2は石刃状の縦長剥片の打面側を先端部として、二側縁に細かい調整加工を行っており、2は左側縁の上半部に刃こぼれが見られる。3・4は縦長剥片の打面側を先端部として、左側縁に急角度の調整加工を行っており、3は表面の右側縁と裏面の左側縁に刃こぼれが見られる。5は縦長剥片の打面側を先端部として、右側縁下半部に急角度の調整加工を行っている。

8・9は産地不明の黒曜石、10は硬質緻密な頁岩、11は安山岩による楔形石器で、両端に対向する剥離痕が見られる。

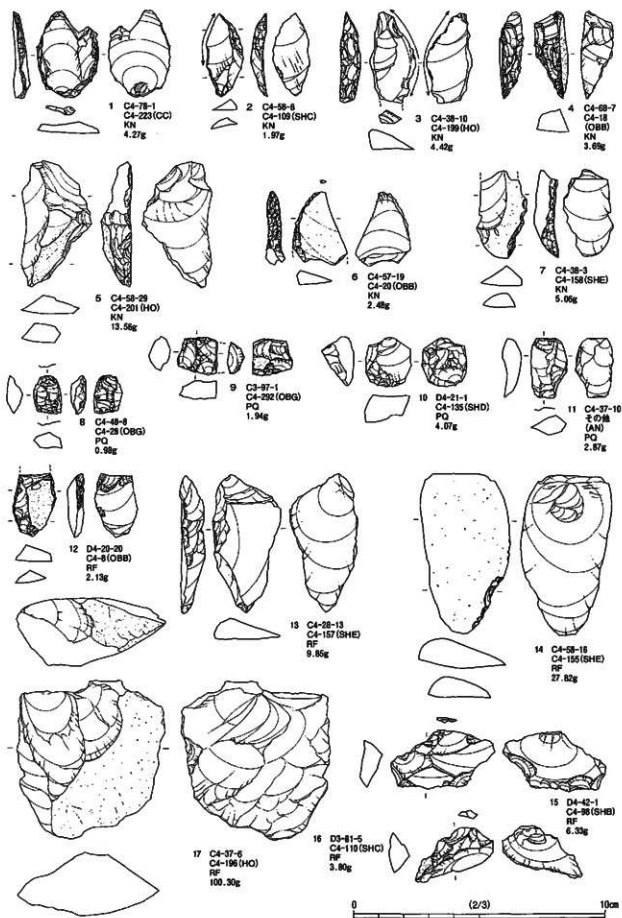
12は信州和田峠周辺産の黒曜石、13・14は頁岩、15は北関東産頁岩、16は嶺岡産頁岩、17はホルンフェルスによる加工痕ある剥片である。12は両側縁、13・16は左側縁の一部、14は右側縁下半部、15は裏面の末端、17は裏面の左側縁の一部に調整加工を行っている。なお、15・16は石核の可能性もある。

18・19は東北産頁岩、20は凝灰岩、21は頁岩による使用痕ある剥片である。18は左側縁、19は正面の右側縁上半部と裏面の左側縁の一部、20は裏面の左側縁の一部、21は右側縁の一部に刃こぼれが見られる。

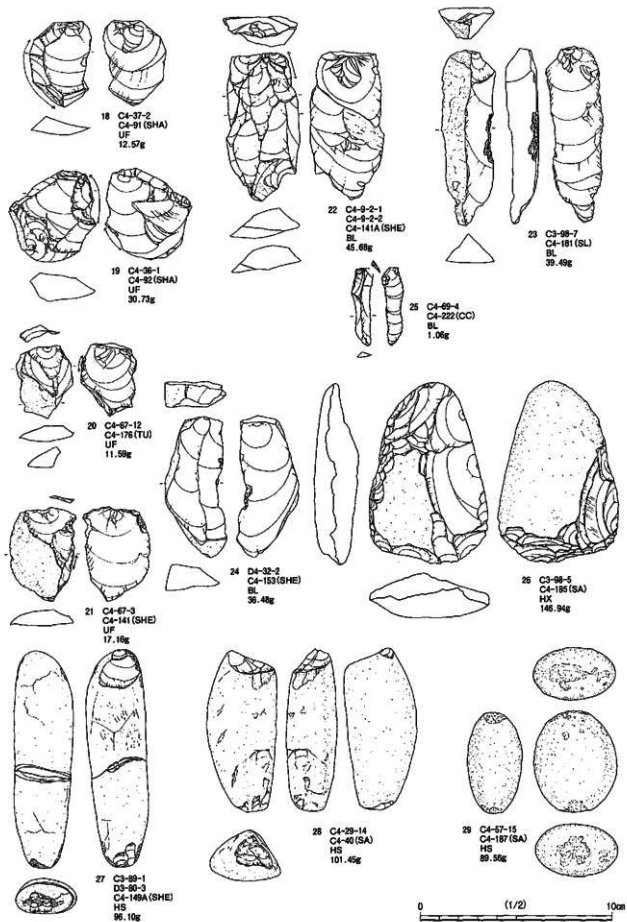
22・24は頁岩、23は粘板岩、25は瑪瑙・玉髄による石刃である。22は右側縁の一部に刃こぼれ、23は右側縁の一部に細かい剥離痕、24は裏面の左側縁の一部に細かいあるいは微細な剥離痕が見られる。22は2点が接合して1個体となる。

26は砂岩による石斧である。比較的小型で扁平な礫を素材として、両面の右側と正面の左側上部には器体中央部まで及ぶような調整加工、正面の左側縁下半部から末端にかけては細かい調整加工を行っている。特に研磨した痕跡は見られない。

27は頁岩、28・29は砂岩による敲石である。27は細長い礫の両端に敲打痕や剥離痕、使用に伴うものか不明だが、裏面のほぼ中央に爪で引っ掻いたような極めて浅い敲打痕状の痕跡が見られる。ほぼ中央で2つに欠損しているが、接合して1個体となる。28はやや不定形で細長い礫、29はやや円に近い楕円形の礫の両端に敲打痕や剥離痕が見られる。



第28図 C4-Cブロック出土遺物(1)



第29図 C4-Cブロック出土遺物(2)

30・31は安山岩、32・33は頁岩、34は北関東産頁岩、35・37は凝灰岩、36は砂岩による剥片である。30～34は縦長剥片あるいは石刃状の縦長剥片で、32・33は背面からの剥離痕が見られることから、稜付きの石刃の可能性もある。35・36は不定型な剥片、37は横長剥片である。

38は軟質な安山岩、39は凝灰岩、40はチャート、41～43は信州和田峠周辺産の黒曜石、44・52・53・59・61は安山岩、45は北関東産頁岩、46・50・51・55・57はホルンフェルス、47は嶺岡産頁岩、48・49・58・60・63は頁岩、54・56は流紋岩、62は瑪瑙・玉髓、64は硬質緻密な頁岩による石核である。38～46・59・62は打面を転移しながら不定型な剥片を剥離している。47～52は打面と作業面を入れ替えながら求心的な剥離作業を行っている。53～57・60・61・64は打面と作業面を入れ替えながら剥離作業を行っている。58は両面の周辺に細かい剥離痕が見られる。削器あるいは楔形石器の可能性もある。63は縦長剥片の左側面に剥離痕が見られる。その剥離面との新旧関係は不明だが、両面の末端に刃こぼれなどが見られることから、刃部再生の可能性もある。

4) 接合資料とその関連資料 (第34～42図)

・C4-38 (第34図65～67) 灰色 (7.5Y4/1) などの安山岩である。65は剥片2点 (66・67) の接合資料である。180度打面を転移して剥離されている。正面には加撃軸に直交する剥離痕も見られる。

・C4-89 (第34図68～70) 暗灰黄色 (2.5Y4/2) などの東北産頁岩である。68は剥片2点 (69・70) の接合資料である。

・C4-107 (第34図71～73) 灰オリーブ色 (5Y4/2) などの嶺岡産頁岩である。71は剥片2点 (72・73) の接合資料である。180度打面を転移して剥離されている。

・C4-140 (第34図74～76) 内部は灰色 (10Y5/1) などの頁岩である。74は剥片2点 (75・76) の接合資料である。

・C4-166 (第34図77～79) オリーブ灰色 (5GY5/1) などのチャートである。77は剥片2点 (78・79) の接合資料である。

・C4-221 (第34図80～82) オリーブ灰色 (2.5GY6/1) などの瑪瑙・玉髓である。80は剥片2点 (81・82) の接合資料である。180度打面を転移して剥離されている。

・C4-150 (第35図83～85) 灰色 (5Y5/1) などの頁岩である。83は剥片3点 (2個体: 84・85) の接合資料である。85は2点が接合して1個体となる。

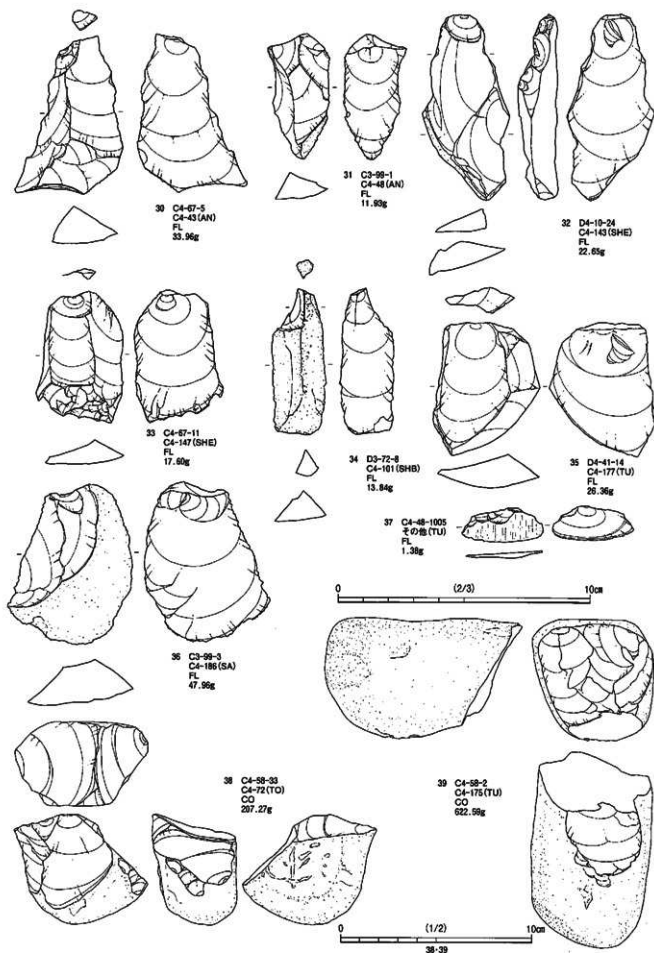
・C4-4 (第35図86～89) 透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。86は剥片3点 (87～89) である。

・C4-151 (第35図90～93) 灰色 (5Y5/1) などの頁岩である。90は剥片3点 (91～93) の接合資料である。

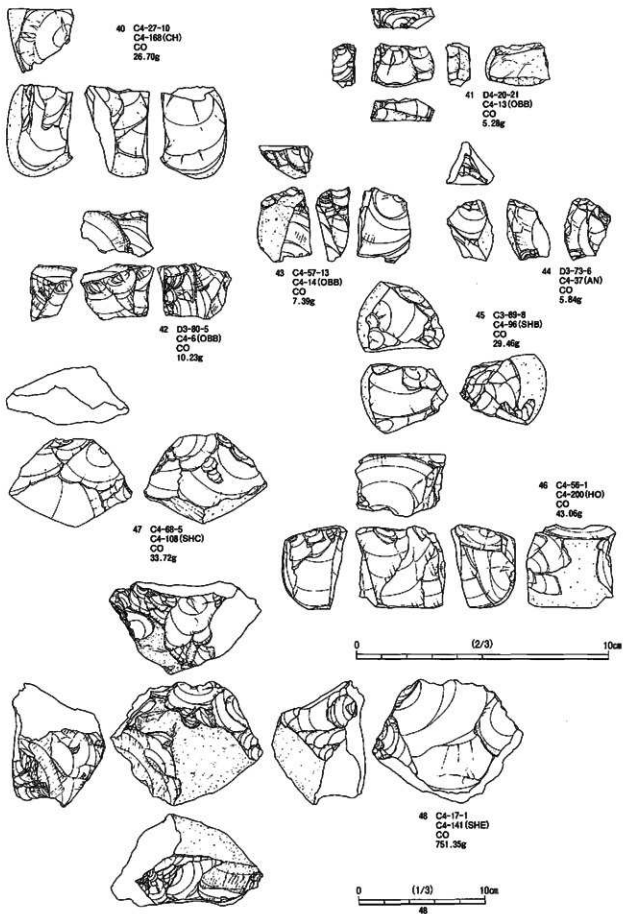
・C4-192 (第35図94～96) 灰色 (5Y5/1) などのホルンフェルスである。94は剥片3点 (2個体: 95・96) の接合資料である。96は2点が接合して1個体となる。

・C4-191 (第35図97～99) 灰色 (5Y5/1) などのホルンフェルスである。97は剥片4点 (2個体: 98・99) の接合資料である。98・99はそれぞれ、2点が接合して1個体となる。

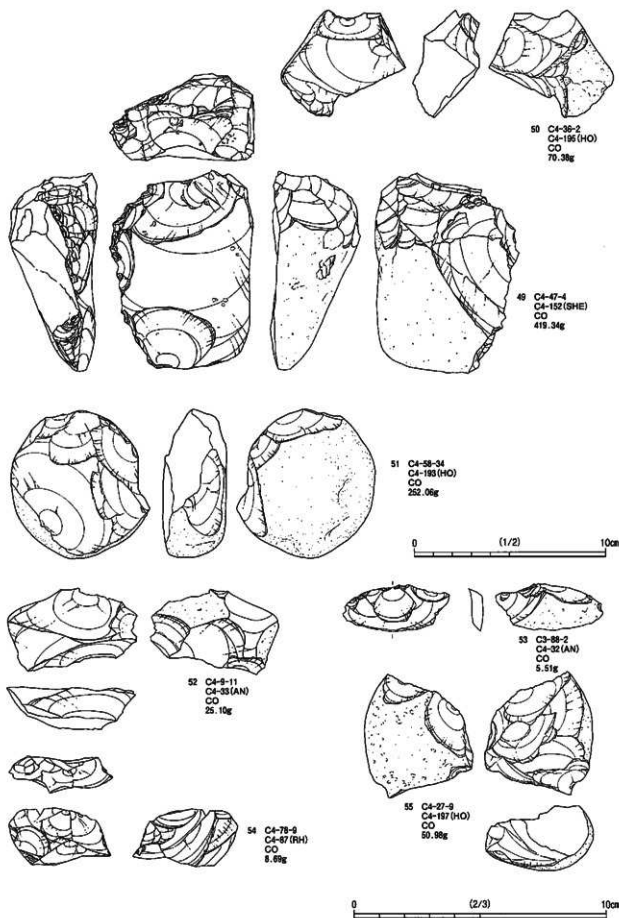
・C4-163 (第36図100～102) 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) などのチャートである。100は楔形石器1点 (102)、剥片1点 (101) の接合資料である。102は両端に対向する剥離痕が見られる。101は楔形石器の削片である。



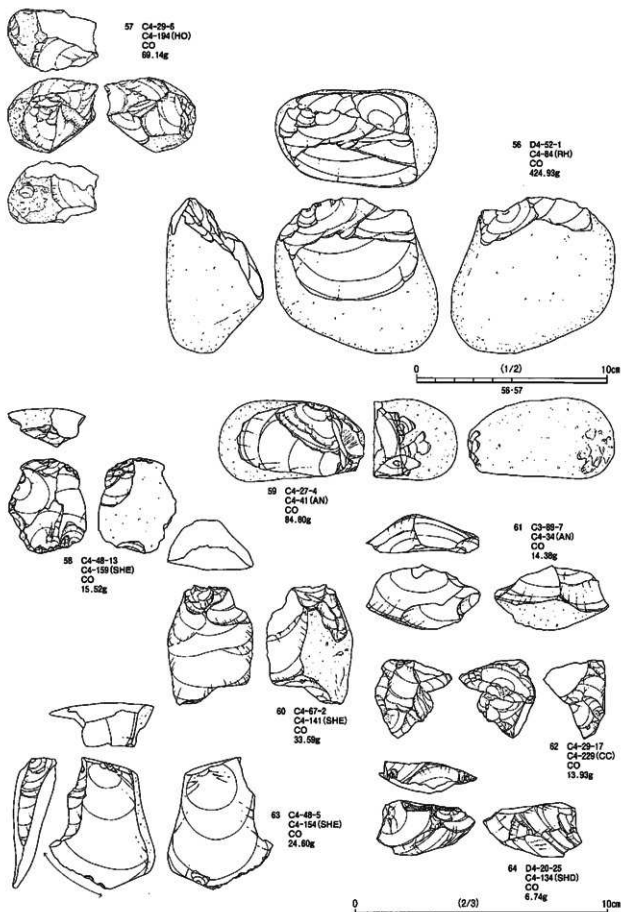
第30図 C4-Cブロック出土遺物(3)



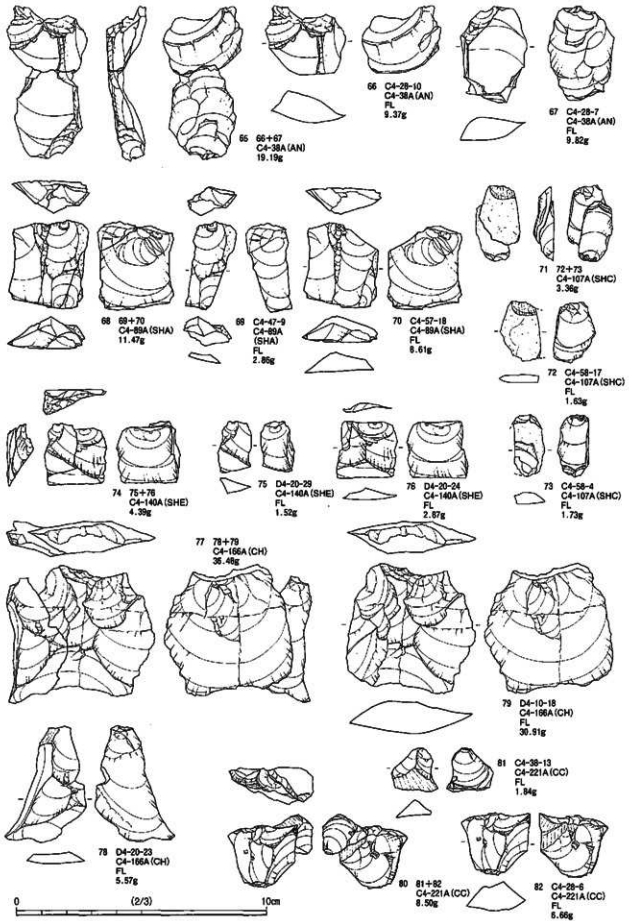
第31圖 C4-Cブロック出土遺物(4)



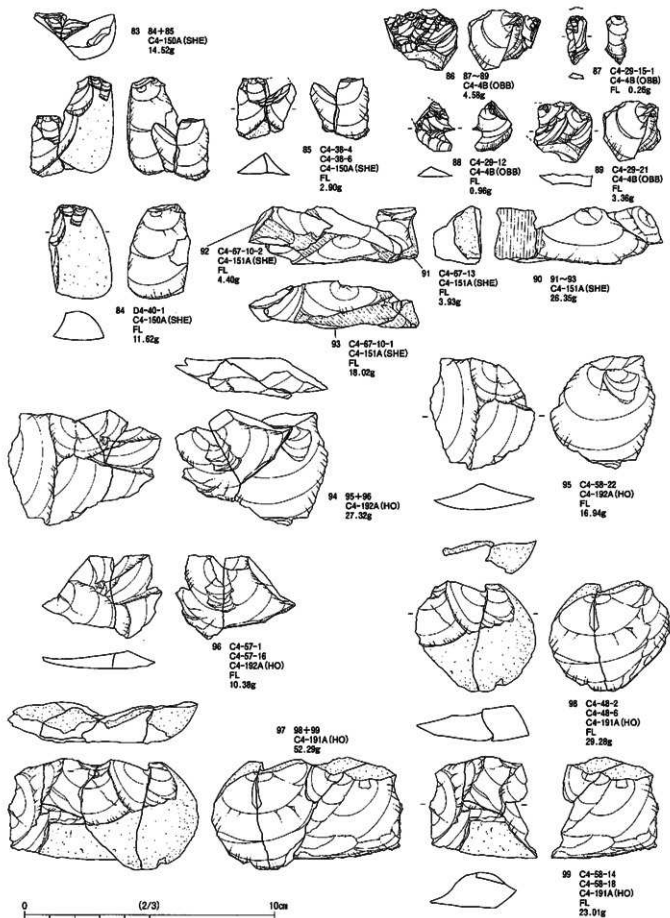
第32図 C4-Cブロック出土遺物(5)



第33図 C4-Cブロック出土遺物(6)



第34図 C4-Cブロック出土遺物(7)



第35図 C4-Cブロック出土遺物(8)

・C4-3 (第36図103~105) 黒色などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。103は剥片1点(104)、石核1点(105)の接合資料である。打面転移を繰り返しながら、104を含む小型で不定型な剥片を剥離している。

・C4-129 (第36図106~108) オリーブ灰色(10Y5/2)などの硬質緻密な頁岩である。106は剥片1点(107)、石核1点(108)の接合資料である。打面転移を繰り返しながら、107を含む不定型な剥片を剥離しており、末端の両面に残る剥離痕から、両極打法による剥離も考えられる。

・C4-139 (第36図109~111) 灰色(10Y5/1)などの頁岩である。109は剥片1点(110)、石核1点(111)の接合資料である。厚みのある剥片の末端の傾斜した平坦面を打面として、110を剥離し、その後も頭部調整を行いながら、小型で不定型な剥片を剥離している。

・C4-174 (第37図112~114) 明オリーブ灰色(5GY7/1)などの凝灰岩である。112は剥片1点(113)、石核1点(114)の接合資料である。114は厚みのある剥片の平坦面を打面として、小型で不定型な剥片を剥離している。

・C4-165 (第37図115~117) オリーブ灰色(2.5GY5/1)などのチャートである。115は剥片1点(116)、石核1点(117)の接合資料である。小型でやや細長い不定型な礫を2分割し、その分割面を打面として、小型で不定型な剥片を剥離している。

・C4-190 (第37図118~121) 灰色(10Y6/1)などのホルンフェルスである。118は剥片1点(119)、石核1点(120)の接合資料である。120はやや厚みのある礫を素材として、打面と作業面を入れ替えながら、求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。その後、119の剥離後は同一面を作業面として、縦長剥片を剥離している。

121は接合しなかった同一母岩の不定型な剥片である。

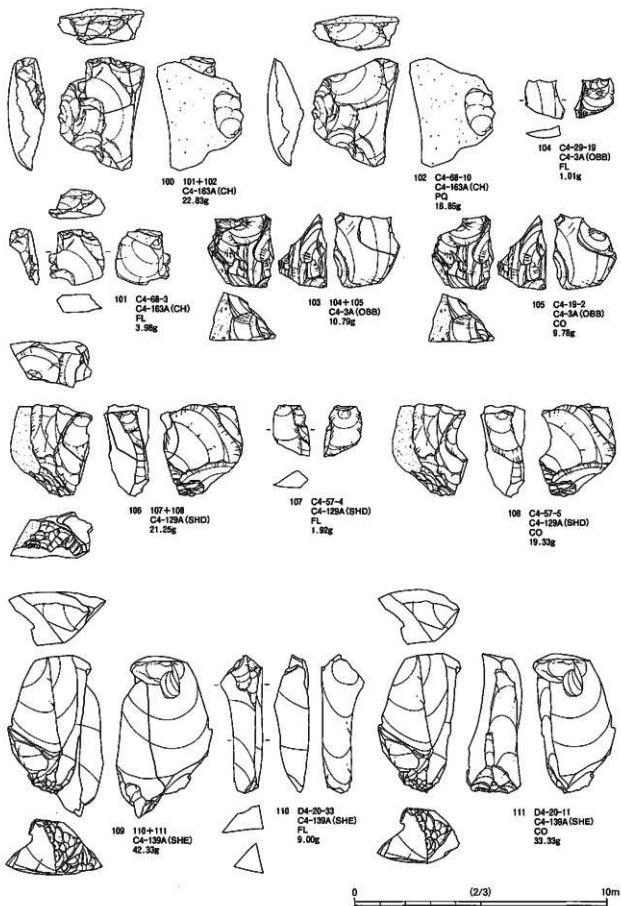
・C4-25 (第38図122~127) 黒色と黒灰色が縞状に入る黒曜石である。産地は不明である。122は剥片3点(123~125)の接合資料である。123を剥離した後、90度打面を転移して、124・125を剥離している。

126は接合しなかった同一母岩の使用痕ある剥片である。正面の上部と裏面の末端に刃こぼれが見られる。127は接合しなかった同一母岩の石核である。打面転移を繰り返しながら、小型で不定型な剥片を剥離している。

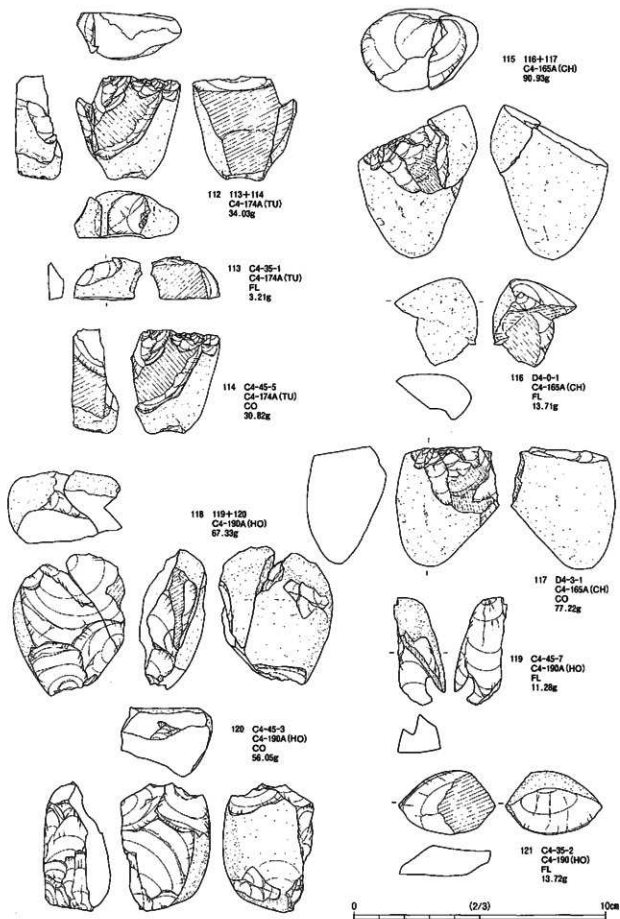
・C4-39 (第38図128~132) 灰オリーブ色(5Y6/2)などの流紋岩である。128は剥片3点(129~131)、石核1点(132)の接合資料である。やや小振りの握り拳大の扁平な礫を素材として、打面と作業面を入れ替えながら不定型な剥片を剥離している。

・C4-106 (第39図) 褐色(10YR4/4)などの嶺岡産頁岩である。133は加工痕ある剥片2点(1個体; 135)、剥片3点(136~138)、石核3点(2個体; 134・139)の接合資料である。厚みのない礫を素材として、134と135~139が節理で分割され、さらに、134の個体、135を含む個体、136~139の個体でそれぞれ剥離作業が行なわれている。なお、135の接合は接合面の狭さから、非接合の可能性も無いとはいえない。その場合、134・135~139が2個体に分割され、それぞれで剥離作業が行われたと考えられる。134は打面と作業面を入れ替えながら、剥離作業を行なっている。135は裏面の右側縁上部の剥離痕を調整加工と考えた。また、135の素材については、節理あるいは節理状の剥離が多く、主要剥離面を明確に断定することが出来なかったため、チャンク状の剥片と考えた。135・139はそれぞれ、2点が接合して1個体となる。

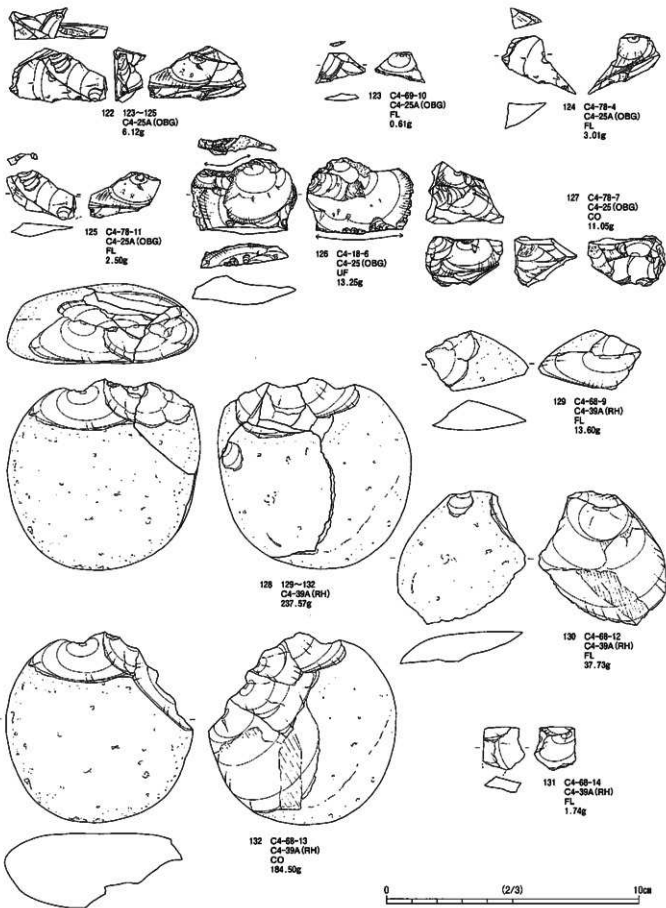
140は剥片2点(141・142)の接合資料である。



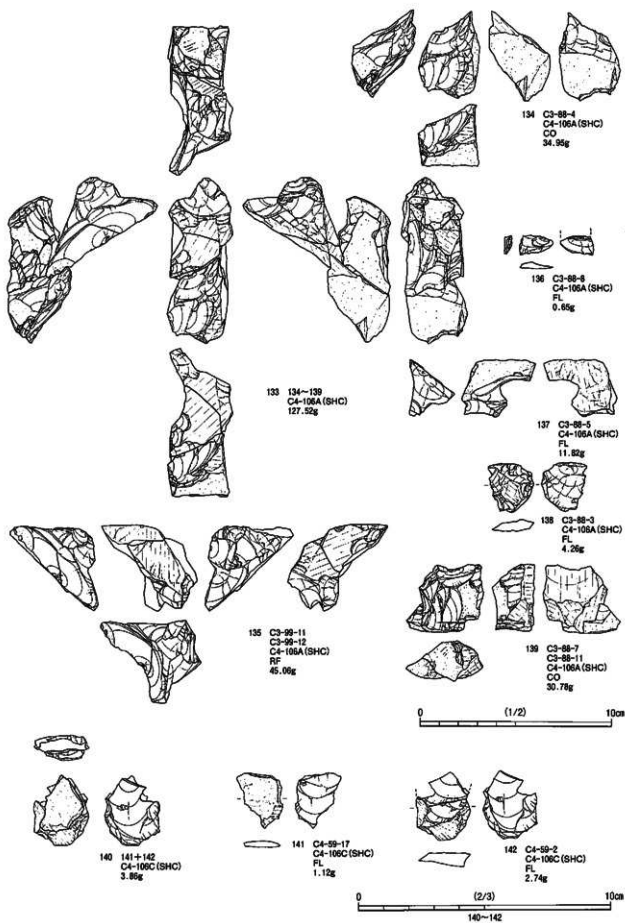
第36図 C4-Cブロック出土遺物(9)



第37図 C4-Cブロック出土遺物 (10)



第38図 C4-Cブロック出土遺物 (11)



第39図 C4-Cブロック出土遺物 (12)

・C4-189 (第40図) 灰色 (5Y5/1) などのホルンフェルスである。143は剥片9点 (5個体: 143~148)、石核1点 (149) の接合資料である。この接合は144~147と148の2つに分割し、144は左方向、145は上方向、146・147は左方向、148は上方向から順に剥離している。149は打面と作業面を入れ替えながら、不定型な剥片を剥離している。

・C4-30 (第41・42図) 灰色 (5Y5/1) などの安山岩である。150は剥片16点 (13個体: 151~159・161~164)、碎片1点 (165)、石核2点 (160・166) の接合資料である。151・152は上方向、153・154は下方向、155~158は上方向から順に剥離し、また、159~162と163~165は2つに分割した後、159は右方向、160は上方向、161・162は右方向から順に剥離し、163は左方向、164は右方向から順に剥離している。さらに165は上方向から剥離されている。166は打面と作業面を入れ替えながら求心的な剥離作業により小型で不定型な剥片を剥離している。

167は剥片5点 (3個体: 168・169・171)、石核2点 (1個体: 170) の接合資料である。168・169は左方向、170は上方向、171は左方向から順に剥離している。その後、170は主要剥離面を打面として求心的な剥離作業により小型で不定型な剥片を剥離している。

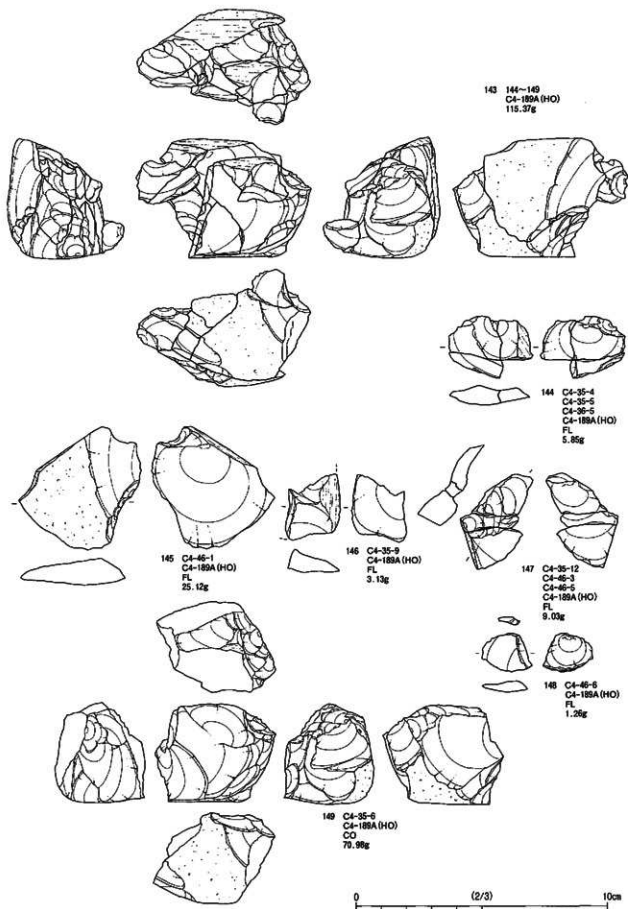
第4表 C4-Cブロック群組成

母岩	石材	個数	重量
C4R-680	AN	1	402.10
C4R-681	AN	1	73.98
C4R-682	TO	1	57.84
C4R-683	RH	1	100.79
C4R-684	RH	1	89.37
C4R-685	RH	1	63.32
C4R-686	RH	1	4.23
C4R-687	RH	1	8.83
C4R-688	RH	1	46.81
C4R-689	RH	1	10.20
C4R-690	RH	1	1.43
C4R-691	RH	1	1.23
C4R-692	CH	2	23.87
C4R-693	CH	1	337.45
C4R-694	CH	1	48.88
C4R-695	CH	1	34.76
C4R-696	CH	1	32.96
C4R-697	CH	1	27.99
C4R-698	CH	1	13.36
C4R-699	CH	1	15.18
C4R-700	CH	1	14.24
C4R-701	CH	1	7.69
C4R-702	CH	1	9.39
C4R-703	CH	1	1.33
C4R-704	CH	1	0.90
C4R-705	CH	1	8.72
C4R-706	CH	1	112.26
C4R-707	SA	2	145.44
C4R-708	SA	1	196.39
C4R-709	SA	1	496.25
C4R-710	SA	1	181.39
C4R-711	SA	1	257.48
C4R-712	SA	1	82.58
C4R-713	SA	1	89.89
C4R-714	SA	7	347.35

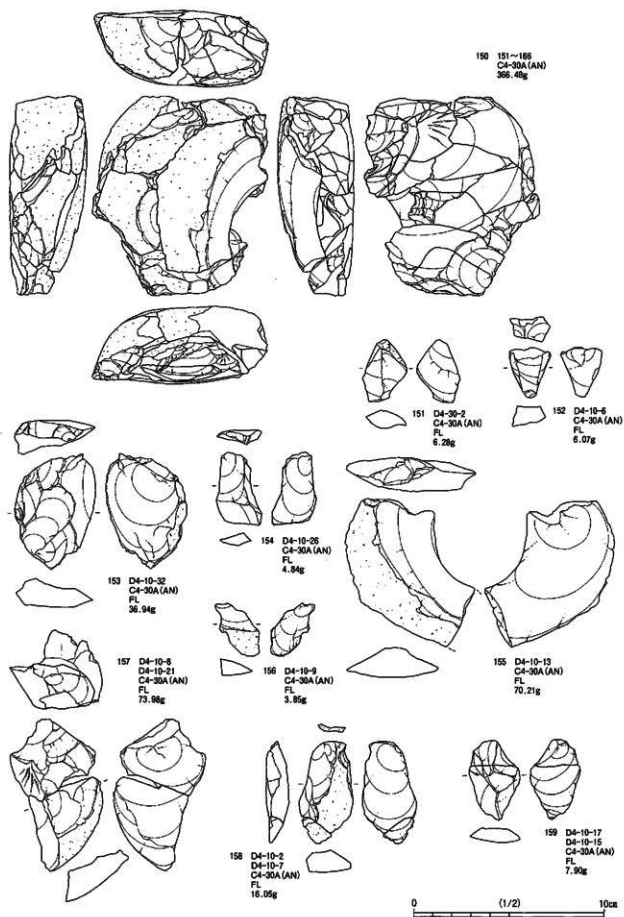
母岩	石材	個数	重量
C4R-715	SA	3	342.84
C4R-716	SA	4	386.59
C4R-717	SA	2	49.24
C4R-718	SA	3	17.34
C4R-719	SA	2	96.10
C4R-720	SA	1	278.41
C4R-721	SA	1	93.51
C4R-722	SA	1	133.96
C4R-723	SA	1	21.82
C4R-724	SA	1	22.48
C4R-725	SA	1	11.84
C4R-726	SA	1	7.88
C4R-727	SA	1	12.84
C4R-728	SA	1	23.85
C4R-729	SA	1	70.44
C4R-730	SA	1	40.76
C4R-731	SA	1	26.78
C4R-732	SA	1	12.08
C4R-733	SA	1	53.67
C4R-734	SA	1	8.96
C4R-735	SA	1	0.37
C4R-736	SA	1	56.13
C4R-737	SA	3	13.70
C4R-738	SA	2	19.31
C4R-739	SA	1	35.35
C4R-740	SA	1	14.16
C4R-741	SA	1	5.14
C4R-742	SA	1	60.43
C4R-743	SA	1	18.37
C4R-744	SA	1	0.89
C4R-745	TU	2	18.73
C4R-746	TU	7	348.05
C4R-747	TU	1	81.96
C4R-748	TU	1	1.93
C4R-749	TU	9	137.31

母岩	石材	個数	重量
C4R-750	TU	3	55.53
C4R-751	TU	1	209.38
C4R-752	TU	1	18.14
C4R-753	TU	1	75.39
C4R-754	TU	1	91.23
C4R-755	TU	1	12.89
C4R-756	TU	1	7.58
C4R-757	TU	1	61.56
C4R-758	TU	1	4.34
C4R-759	SL	1	10.36
C4R-760	HO	2	295.62
C4R-761	HO	1	37.11
その他	RH	1	71.28
その他	SA	1	424.21

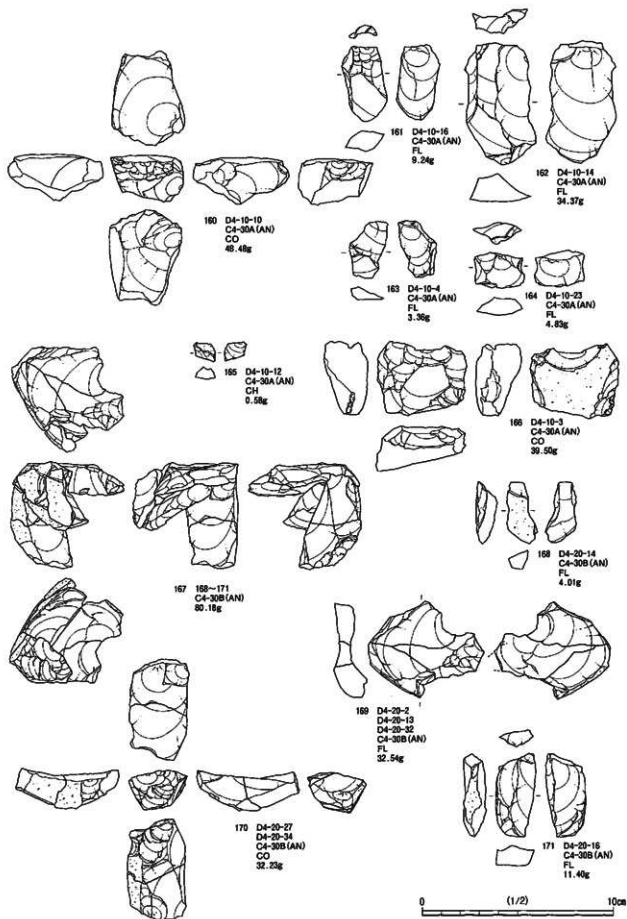
石材	個数	重量
安山岩(AN)	2	478.08
安山岩(TO)	1	57.84
流紋岩(RH)	10	397.49
チャート(CH)	16	708.78
凝灰岩(TU)	31	1,122.02
粘板岩(SL)	1	10.36
砂岩(SA)	98	4,148.32
ホルンフェルス(HO)	3	332.73
合計	122	7,251.62



第40図 C4-Cブロック出土遺物 (13)



第41図 C4-Cブロック出土遺物 (14)



第42図 C4-Cブロック出土遺物 (15)

第2節 第1文化層

第5表 C4-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C4-1(OBA)																	1							1
C4-2(OBA)																	1							1
C4-3(OBB)																	1		1					2
C4-4(OBB)																	5(4)							5(4)
C4-5(OBB)																	1	1						2
C4-6(OBB)																	2		1					4
C4-7(OBB)																	2							2
C4-8(OBB)										1														1
C4-9(OBB)																	1							1
C4-10(OBB)																	1							1
C4-11(OBB)																	1							1
C4-13(OBB)																				1				1
C4-14(OBB)																				1				1
C4-15(OBB)																	1							1
C4-16(OBB)																	2							2
C4-17(OBB)																	1							1
C4-18(OBB)		1																						1
C4-19(OBB)																	2							2
C4-20(OBB)		1																						1
C4-21(OBB)																	2							2
C4-22(OBB)																	1							1
C4-23(OBB)																	1							1
C4-24(OBB)																	2							2
C4-25(OBB)											1						4		1					6
C4-25(OBB)																	2							2
C4-27(OBB)																	2							2
C4-28(OBB)								1																1
C4-29(OBB)																	1							1
C4-30(AND)																	30(25)		1	4(3)				35(29)
C4-31(AND)																	2(1)							2(1)
C4-32(AND)																	2		1					3
C4-33(AND)																			1					1
C4-34(AND)																				1				1
C4-35(AND)																				1				1
C4-36(AND)																	2(1)							2(1)
C4-37(AND)																	2		1					3
C4-38(AND)																	4							4
C4-39(BH)																	3		1					4
C4-40(SA)															1									1
C4-41(AND)																				1				1
C4-42(AND)																	3							3
C4-43(AND)																	2							2
C4-44(AND)																	2							2
C4-45(AND)																	2							2
C4-46(AND)																	1							1
C4-47(AND)																	1							1
C4-48(AND)																	1							1
C4-49(AND)																	1							1
C4-50(AND)																	1							1
C4-51(AND)																	1							1
C4-52(AND)																	1							1
C4-53(AND)																	1							1
C4-54(AND)																	1							1
C4-55(AND)																	1							1
C4-56(AND)																	1							1
C4-57(AND)																	1							1
C4-58(AND)																	1							1
C4-59(AND)																	1							1
C4-60(AND)																	1							1
C4-61(AND)																	1							1

保掛番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C4-82(AN)																								1
C4-83(AN)																		1						1
C4-84(AN)																								1
C4-85(AN)																		1						1
C4-86(AN)																		1						1
C4-87(AN)																		1						1
C4-88(AN)																		1						1
C4-89(AN)																		1						1
C4-90(AN)																		1						1
C4-91(AN)																		1						1
C4-92(TO)																			1					1
C4-93(TO)																			1					1
C4-94(TO)																			1					1
C4-95(TO)																			1					1
C4-96(TO)																			1					1
C4-97(TO)																			1					1
C4-98(TO)																			1					1
C4-99(TO)																			1					1
C4-100(TO)																			1					1
C4-101(TO)																			1					1
C4-102(TO)																			1					1
C4-103(TO)																			1					1
C4-104(TO)																			1					1
C4-105(TO)																			1					1
C4-106(TO)																			1					1
C4-107(TO)																			1					1
C4-108(TO)																			1					1
C4-109(TO)																			1					1
C4-110(TO)																			1					1
C4-111(TO)																			1					1
C4-112(TO)																			1					1
C4-113(TO)																			1					1
C4-114(TO)																			1					1
C4-115(TO)																			1					1
C4-116(TO)																			1					1
C4-117(TO)																			1					1
C4-118(TO)																			1					1
C4-119(TO)																			1					1
C4-120(TO)																			1					1
C4-121(TO)																			1					1
C4-84(RHD)																			1					1
C4-85(RHD)																			1					1
C4-86(RHD)																			1					1
C4-87(RHD)																			1					1
C4-88(RHD)																			1					1
C4-89(SHA)																			1					1
C4-90(SHA)																			1					1
C4-91(SHA)											1													1
C4-92(SHA)											1													1
C4-93(SHA)																			1					1
C4-94(SHA)																			1					1
C4-95(SHA)																			1					1
C4-96(SHB)																			1					1
C4-97(SHB)																			1					1
C4-98(SHB)											1													1
C4-99(SHB)																			1					1
C4-100(SHB)																			1					1
C4-101(SHB)																			1					1
C4-102(SHB)																			1					1
C4-103(SHB)																			1					1
C4-104(SHB)																			1					1
C4-105(SHB)																			1					1
C4-106(SHB)																			1					1
C4-107(SHC)											2(1)								17(15)	2	3(2)			24(20)
C4-108(SHC)																			2					2
C4-109(SHC)																				1				1
C4-110(SHC)	1																							1
C4-111(SHC)											1								2					3
C4-112(SHC)																			1					1
C4-113(SHC)																			1					1
C4-114(SHC)																			1					1
C4-115(SHC)																			1					1
C4-116(SHC)																			3					3
C4-117(SHC)																			1					1
C4-118(SHC)																			1					1
C4-119(SHC)																			1					1
C4-120(SHC)																			2					2
C4-121(SHC)																			1					1

第2節 第1文化層

母体番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C4-122(SHC)																	1							1
C4-123(SHC)																	1							1
C4-124(SHC)																	1							1
C4-125(SHC)																	1							1
C4-126(SHC)																	1							1
C4-127(SHC)																	1							1
C4-128(SHC)																	1							1
C4-129(SHD)																	1		1					2
C4-130(SHD)																	1							1
C4-131(SHD)																	1							1
C4-132(SHD)																	1							1
C4-133(SHD)																	1							1
C4-134(SHD)																			1					1
C4-135(SHD)									1															1
C4-136(SHD)																	1							1
C4-137(SHD)																	1							1
C4-138(SHE)																	2(1)							2(1)
C4-139(SHE)																	2		1					3
C4-140(SHE)																	2	1						3
C4-141(SHE)											1	2(1)					2		2					7(1)
C4-142(SHE)																	1							1
C4-143(SHE)																	1							1
C4-144(SHE)																	1							1
C4-145(SHE)																	1							1
C4-146(SHE)																	1							1
C4-147(SHE)																	1							1
C4-148(SHE)																	1							1
C4-149(SHD)																2(1)								2(1)
C4-150(SHE)																	3(2)							3(2)
C4-151(SHE)																	3							3
C4-152(SHE)																	1		1					1
C4-153(SHE)												1					1	1						3
C4-154(SHE)																			1					1
C4-155(SHE)										1														1
C4-156(SHE)																	1	1						2
C4-157(SHE)										1														1
C4-158(SHD)	1																							1
C4-159(SHD)																			1					1
C4-160(SHE)																	1							1
C4-161(SHE)																	1							1
C4-162(SHE)																	1							1
C4-163(CH)								1									1							2
C4-164(CH)																	1		2(1)					3(2)
C4-165(CH)																	1		1					2
C4-166(CH)																	2							2
C4-167(CH)																	1							1
C4-168(CH)																			1					1
C4-169(CH)																	1							1
C4-170(CH)																	1							1
C4-171(CH)																	1							1
C4-172(CH)																	1							1
C4-173(CH)																	1							1
C4-174(TU)																	2		1					3
C4-175(TU)																			1					1
C4-176(TU)											1													1
C4-177(TU)																	1							1
C4-178(TU)																	1							1
C4-179(TU)																	1							1
C4-180(TU)																		1						1
C4-181(SL)												1												1

母道番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C4-182(SL)																		1						1
C4-183(SL)																		1						1
C4-184(SL)																		1						1
C4-185(SA)													1											1
C4-186(SA)																		1						1
C4-187(SA)															1									1
C4-188(SA)																		1						1
C4-189(HO)									2								13(9)		1					18(12)
C4-190(HO)																		2	1					3
C4-191(HO)																		6(4)	1					7(5)
C4-192(HO)																		3(2)						3(2)
C4-193(HO)																			1					1
C4-194(HO)																			1					1
C4-195(HO)																			1					1
C4-196(HO)											1													1
C4-197(HO)																			1					1
C4-198(HO)									1															1
C4-199(HO)	1																			1				1
C4-200(HO)																			1					1
C4-201(HO)	1																							1
C4-202(HO)										1														1
C4-203(HO)											1							1						2
C4-204(HO)																		1						1
C4-205(HO)																		1						1
C4-206(HO)																		1						1
C4-207(HO)																		1						1
C4-208(HO)																		1						1
C4-209(HO)																		1						1
C4-210(HO)																		1						1
C4-211(HO)																		1						1
C4-212(HO)																		1						1
C4-213(HO)																		1						1
C4-214(HO)																		1						1
C4-215(HO)																		1						1
C4-216(HO)																		1						1
C4-217(HO)																		1						1
C4-218(HO)																		2						2
C4-219(HO)																		2						2
C4-220(HO)																		1						1
C4-221(CC)																		3						3
C4-222(CC)													1											1
C4-223(CC)	1																							1
C4-224(CC)																		1						1
C4-225(CC)																		2						2
C4-226(CC)																		1						1
C4-227(CC)																		1						1
C4-228(CC)																		1						1
C4-229(CC)																			1					1
C4-230(CC)																		1						1
C4-231(CC)																		1						1
C4-232(CC)																		1						1
C4-233(CC)																		1						1
C4-234(CC)																		1						1
C4-235(CC)																		1						1
C4-236(CC)																		1						1
C4-236(HO)																			1					1
C4-237(OBG)									1															1
その他(OBG)																		8	8					14
その他(OBG)																		1	2					3
その他(AN)									1									27						28

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
土の他(TO)																		4						4
土の他(SHC)																		2	2	1				5
土の他(SHE)																				8				8
土の他(CH)																		2						2
土の他(TU)																		1	1					2
土の他(HO)																				4				4
土の他(CO)																				1				1
合計	7								8	11(10)	5	5(4)	1		4(3)		350(331)	31	48(48)					471(448)

第6表 C4-Cブロック石材別石器組成

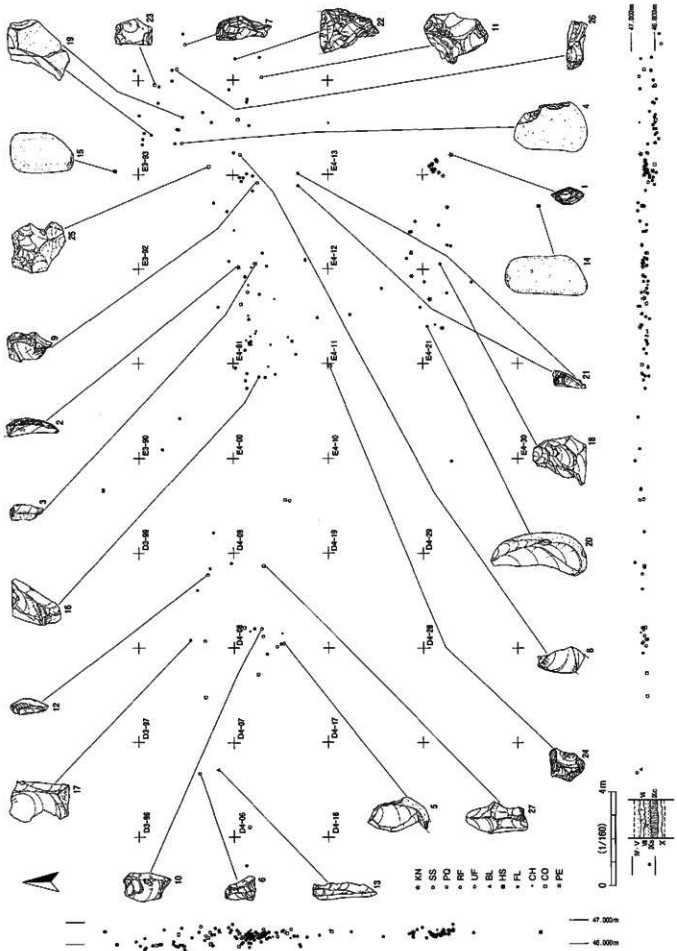
石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石A(OBA)																		2						2
黒曜石B(OBB)	2									1							35(34)	7	4					46(48)
黒曜石G(OBG)									2		1						10	2	1					15
安山岩(AN)								1									104(97)	1	10(9)					118(108)
安山岩(TO)																		18		1				19
流紋岩(PH)																		9		3				9
頁岩A(SHA)										2								7		1				10
頁岩B(SHB)										2								7		1				10
頁岩C(SHC)	1									3(2)							44(42)	4	5(4)					57(53)
頁岩D(SHD)								1										7		2				10
頁岩E(SHE)	1									2	1	3(2)		2(1)			26(24)	8	8					50(48)
チャート(CH)									1									12	1	4(3)				18(17)
凝灰岩(TU)											1							9	2	2				11
粘板岩(SL)												1						3						4
砂岩(SA)														1	2			2						5
ホルンフェルス20mg)	2								3	3							44(37)	5	8					65(58)
瑪瑙・玉髄(CO)	1											1						17		1				20
合計	7								8	11(10)	5	5(4)	1		4(3)		350(331)	31	48(48)					471(448)

3 E4-Aブロック (第43~50図, 第7~9表, 図版3, カラー図版5・9)

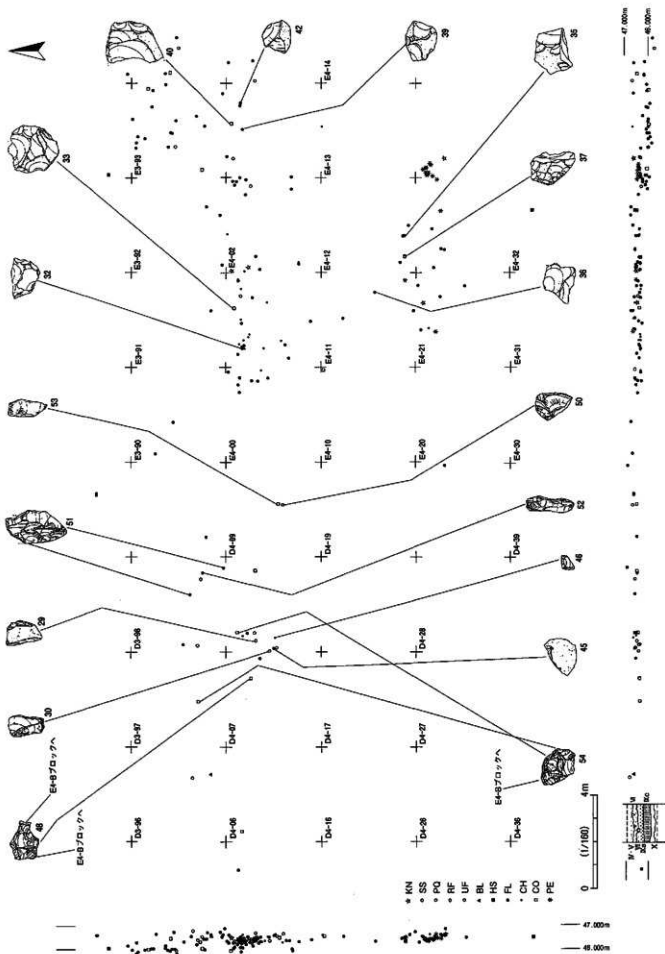
1) ブロックの概要

E4-Aブロックは、調査範囲西側のD3-89・96~99, D4-05~09・29, E3-83・84・90~94, E4-00~04・10~13・21~23・32グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地のほぼ中央部で、傾斜変換点(台地の縁辺)までの距離は20mである。ブロックの規模と形状は、長軸36m、短軸19mの範囲に154点の石器・礫が分布する。その内、原位置不明の遺物が2点ある。出土層位は、IV・V層からX層にかけて、120cmほどの高低差をもって包含されているが、中心は調査時の所見によれば、IXa層からIXc層で、40cmほどである(第43~45図)。なお、後述するE4-Bブロックについて、遺物の注記によればE4-07グリッドであったが、D4-07グリッドの可能性が高く、その場合、E4-Aブロックに帰属すると考えられる。

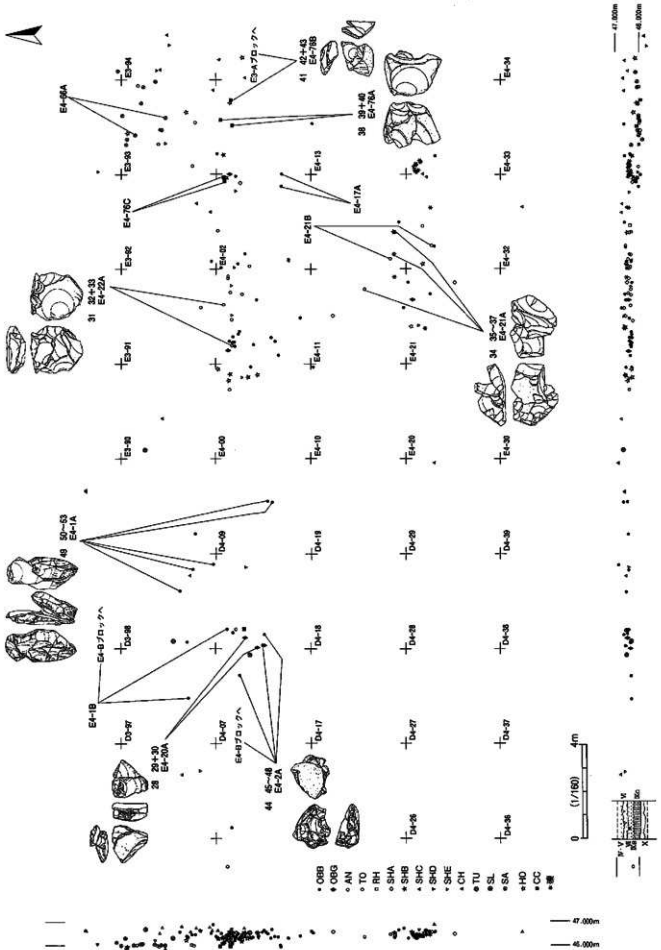
ブロックは、ナイフ形石器4点、削器2点、楔形石器1点、加工痕ある剥片9点、使用痕ある剥片2点、石刃1点、敲石2点、剥片84点(80個体)、砕片23点、石核13点(12個体)の合計141点(136個体)と礫13点で構成される。石器石材は、黒曜石B47点(44個体)、黒曜石G5点、安山岩20点、軟質の安山岩3点、流紋岩1点、頁岩A3点、頁岩B2点、頁岩C2点、頁岩D3点、頁岩E11点、チャート13点、凝灰岩1点、粘板岩2点、砂岩10点(9個体)、ホルンフェルス12点、瑪瑙・玉髄6点(5個体)である。礫石材は、流紋岩3点(2母岩:33.25g)、チャート4点(4母岩:123.69g)、凝灰岩1点(1母岩:11.54g)、砂岩4点(4母岩:123.76g)、ホルンフェルス1点(1母岩:28.85g)で、識別率は100%である。



第43図 E4-Aブロック出土遺物分布(1) -器種別分布(1) -



第44図 E4-Aブロック出土遺物分布(2) - 器種別分布(2) -



第45図 E4-Aブロック出土遺物分布(3) - 石材別分布 -

2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは78母岩を識別した。内訳は、黒曜石B20母岩 (E4-1~19・86)、黒曜石G1母岩 (E4-20)、安山岩11母岩 (E4-21~31)、軟質の安山岩3母岩 (E4-32~34)、流紋岩1母岩 (E4-35)、頁岩A2母岩 (E4-36・37)、頁岩B2母岩 (E4-38・39)、頁岩C2母岩 (E4-40・41)、頁岩D3母岩 (E4-42~44)、頁岩E7母岩 (E4-45~51)、チャート11母岩 (E4-52~62)、凝灰岩1母岩 (E4-63)、粘板岩2母岩 (E4-64・65)、砂岩1母岩 (E4-66)、ホルンフェルス9母岩 (E4-67~75)、瑪瑙・玉髓2母岩 (E4-76・77) である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は86% (121/141点) である。

・E4-1：自然面は平滑で、自然面・内部・新鮮な面は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、加工痕ある剥片1点、剥片3点 (2個体)、石核3点 (2個体) の合計7点 (5個体; 38.76g) である。接合資料は、2グループあり、Aは、加工痕ある剥片1点、剥片3点 (2個体)、石核1点の合計5点 (4個体; 29.76g) である。Bは、石核2点 (1個体; 9.00g) がE4-Bブロックの石核1点と接合して1個体となる。

・E4-2：自然面は平滑で暗灰色 (N3/0)、内部は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片1点、碎片1点、石核1点の合計3点 (11.66g) である。接合資料は、剥片1点、碎片1点、石核1点の合計3点 (11.66g) がE4-Bブロックの剥片1点、石核2点 (1個体) と接合している。

・E4-3：自然面は紙ヤスリ状で灰色 (N4/0)、内部は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核1点 (7.42g) の単独資料である。

・E4-4：黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核1点 (7.88g) の単独資料である。

・E4-5：自然面は紙ヤスリ状で暗灰色 (N3/0)、内部は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点 (2.90g) の単独資料である。

・E4-6：自然面は平滑で、自然面及び内部は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片1点 (0.96g) の単独資料である。

・E4-7：内部は黒色、節理はにぶい黄褐色 (10YR7/3) の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (0.51g) の単独資料である。

・E4-8：黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片3点 (2.65g) である。

・E4-9：自然面は比較的平滑で暗灰色 (N3/0)、黒色の地に暗赤褐色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点 (2.26g) の単独資料である。

・E4-10：黒色の地に暗赤褐色が縞状に混じる黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点 (6.63g) の単独資料である。

・E4-11：自然面は比較的平滑で暗赤褐色、内部は透明な地に暗黒灰色・暗赤褐色が縞状に混じる黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (2.95g) の単独資料である。

・E4-12：内部及び新鮮な面は暗黒灰色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点 (2.75g) の単独資料である。

・E4-13：自然面は紙ヤスリ状で暗灰色 (N3/0)、透明な地に暗灰色の筋が多数入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片2点 (5.28g) である。

- ・E4-14: 透明な地に暗黒灰色のモヤ状の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点(0.98g)の単独資料である。
- ・E4-15: 自然面は紙ヤスリ状で暗灰色(N3/0)、内部は透明な地に暗黒灰色のモヤの入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、砕片2点(0.58g)である。
- ・E4-16: 自然面は紙ヤスリ状で明黄褐色(2.5Y6/6)、内部は黒灰色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点(1.03g)の単独資料である。
- ・E4-17: 自然面は比較的平滑で、自然面・内部・新鮮な面は薄墨を流したような黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、剥片3点(2個体:5.20g)である。接合資料は、剥片2点(1個体:4.15g)である。
- ・E4-18: 薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点(1.18g)の単独資料である。
- ・E4-19: 自然面は紙ヤスリ状で灰色(N4/0)、内部は透明な地に淡黒灰色のモヤの入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点(1.23g)の単独資料である。
- ・E4-20: 自然面は比較的平滑で灰色(N4/0)、内部は黒色の黒曜石である。φ1mmほどの灰白色の夾雑物を多数含む。産地は不明である。石器群の内訳は、ナイフ形石器1点、加工痕ある剥片2点、剥片2点の合計5点(32.68g)である。接合資料は、加工痕ある剥片2点(10.88g)である。
- ・E4-21: 自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は黄灰色(2.5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石器群の内訳は、剥片4点、石核1点の合計5点(53.15g)である。接合資料は、2グループあり、Aは剥片2点、石核1点の合計3点(48.49g)である。Bは剥片2点(4.66g)である。
- ・E4-22: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(5Y5/1)・灰色(5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石器群の内訳は、加工痕ある剥片1点、剥片2点、石核1点の合計4点(42.84g)である。接合資料は、剥片1点、石核1点の合計2点(29.15g)である。
- ・E4-23: 自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y6/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石核1点(10.86g)の単独資料である。
- ・E4-24: 内部は灰色(10Y6/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。剥片1点(6.67g)の単独資料である。
- ・E4-25: 自然面は比較的平滑で灰色(5Y6/1)、内部は灰色(5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。剥片1点(6.84g)の単独資料である。
- ・E4-26: 自然面は爪形の裂痕があり黄褐色(2.5Y5/3)、内部は灰色(5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。剥片1点(6.78g)の単独資料である。
- ・E4-27: 内部は灰色(5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。E4-28・29と同一母岩の可能性はある。剥片1点(4.52g)の単独資料である。
- ・E4-28: 内部は灰色(5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。E4-27・29と同一母岩の可能性はある。剥片1点(3.35g)の単独資料である。
- ・E4-29: 自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は灰色(5Y5/1)の安山岩である。E4-27・28と同一母岩の可能性はある。剥片1点(3.64g)の単独資料である。
- ・E4-30: 内部は黄灰色(2.5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。剥片1点(1.04g)の

単独資料である。

- ・E4-31: 暗灰黄色 (25Y5/2) の安山岩である。剥片1点 (0.70 g) の単独資料である。
- ・E4-32: 自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は灰白色 (7.5Y7/1) の地に灰白色 (2.5Y8/1) が部分的に混じり、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の軟質の安山岩である。石核1点 (34.62 g) の単独資料である。
- ・E4-33: 内部は灰白色 (5Y7/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の軟質の安山岩である。剥片1点 (3.75 g) の単独資料である。
- ・E4-34: 自然面は比較的平滑で黄褐色 (2.5Y5/4)、内部は灰白色 (5Y7/1)・灰白色 (2.5Y8/2) の軟質の安山岩である。剥片1点 (4.73 g) の単独資料である。
- ・E4-35: 自然面は比較的平滑で灰色 (5Y5/1)、内部は灰色 (5Y5/1) の地に灰オリーブ色 (5Y5/2) の粒が混じり、節理は明褐色 (7.5YR5/6)、新鮮な面は灰色 (N4/0) の流紋岩である。剥片1点 (21.32 g) の単独資料である。
- ・E4-36: 灰黄褐色 (10YR5/2) の東北産頁岩である。加工痕ある剥片1点 (7.73 g) の単独資料である。
- ・E4-37: 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) の東北産頁岩である。石器群の内訳は、剥片2点 (5.17 g) である。
- ・E4-38: 自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色 (10YR6/4)、内部は暗灰黄色 (2.5Y4/2)・暗灰黄色 (2.5Y5/2) の北関東産頁岩である。加工痕ある剥片1点 (5.98 g) の単独資料である。
- ・E4-39: 自然面は平滑で褐色 (10YR4/6)、内部は黄褐色 (2.5Y5/4) の北関東産頁岩である。剥片1点 (7.46 g) の単独資料である。
- ・E4-40: 自然面は平滑で褐色 (10YR4/4)、内部は灰オリーブ色 (5Y5/2)・オリーブ褐色 (2.5Y4/4)・黄褐色 (2.5Y5/3) の嶺南産頁岩である。剥片1点 (10.26 g) の単独資料である。
- ・E4-41: 自然面は平滑でにぶい黄褐色 (10YR5/4)・褐色 (10YR4/4)、内部は黄灰色 (2.5Y4/1) の地に黒褐色 (2.5Y3/1) が部分的に混じる嶺南産頁岩である。剥片1点 (5.89 g) の単独資料である。
- ・E4-42: 自然面は平滑で、自然面及び内部はオリーブ灰色 (5GY6/1) の地に淡黄色 (5Y8/3) の筋が入る硬質緻密な頁岩である。敲石1点 (247.56 g) の単独資料である。
- ・E4-43: 自然面は比較的平滑で、自然面及び内部はオリーブ灰色 (10Y5/2)、節理は黒褐色 (2.5Y3/1) の硬質緻密な頁岩である。削器1点 (16.39 g) の単独資料である。
- ・E4-44: 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1)・褐色 (5YR4/1)・暗赤褐色 (5YR3/2) の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片1点 (6.89 g) の単独資料である。
- ・E4-45: 自然面は比較的平滑で灰色 (7.5Y6/1)、内部は灰色 (10Y6/1)・灰色 (10Y5/1)・灰色 (10Y4/1)、節理は黒褐色 (10YR3/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の頁岩である。削器1点 (56.56 g) の単独資料である。
- ・E4-46: 内部は灰色 (5Y5/1)、新鮮な面は褐色 (7.5YR4/1) の頁岩である。石刃1点 (4.82 g) の単独資料である。
- ・E4-47: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色 (5Y5/1)、新鮮な面は灰色 (N4/0)・褐色 (5YR4/1) の頁岩である。石核1点 (17.77 g) の単独資料である。
- ・E4-48: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色 (5Y5/1)、節理は暗灰黄色 (2.5Y4/2)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の頁岩である。剥片1点 (16.76 g) の単独資料である。
- ・E4-49: 自然面は平滑で黄褐色 (2.5Y5/4)、内部は灰白色 (7.5Y7/1) の地に灰色 (7.5Y6/1) の点紋が

混じり、節理は黄褐色 (10YR5/6)・褐色 (10YR4/4)、新鮮な面は灰色 (N5/0) の頁岩である。剥片1点 (7.54g) の単独資料である。

・E4-50：内部はオリーブ黄色 (5Y6/3)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の頁岩である。剥片1点 (4.08g) の単独資料である。

・E4-51：灰オリーブ色 (5Y6/2) の頁岩である。砕片1点 (0.40g) の単独資料である。

・E4-52：自然面は平滑で黄褐色 (2.5Y5/4) の地に暗青灰色 (10BG3/1) の縞が混じり、内部は浅黄色 (2.5Y7/4) のチャートである。敲石1点 (302.01g) の単独資料である。

・E4-53：内部はオリーブ灰色 (2.5GY5/1)・灰色 (10Y4/1) の地に暗青灰色の筋が入り、新鮮な面は灰色 (10Y4/1)・灰白色 (N8/0) のチャートである。楔形石器1点 (4.87g) の単独資料である。

・E4-54：自然面は平滑でオリーブ褐色 (2.5Y4/3)、内部は灰オリーブ色 (5Y4/2)・青黒色 (10BG2/1)、新鮮な面は灰色 (10Y5/1) のチャートである。使用痕ある剥片1点 (2.64g) の単独資料である。

・E4-55：灰褐色 (10Y4/1)・オリーブ黒色 (10Y3/1)・灰オリーブ色 (7.5Y4/2) のチャートである。石核1点 (26.27g) の単独資料である。

・E4-56：内部はオリーブ黒色 (5Y3/1)・暗緑灰色 (7.5GY4/1)・暗紫灰色 (5RP3/1)、節理は暗灰黄色 (2.5Y5/2) のチャートである。剥片1点 (26.54g) の単独資料である。

・E4-57：内部は青黒色 (10BG1.7/1)・灰色 (5Y4/1)、節理は暗灰黄色 (2.5Y4/2) のチャートである。加工痕ある剥片1点 (31.12g) の単独資料である。

・E4-58：オリーブ灰色 (5GY5/1) の地に灰オリーブ色 (7.5Y34/2)・灰色 (10Y4/1) が部分的に混じるチャートである。石器群の内訳は、剥片2点 (18.19g) である。

・E4-59：暗緑灰色 (10GY4/1) の地に暗紫灰色 (5RP4/1) が部分的に混じるチャートである。剥片1点 (7.67g) の単独資料である。

・E4-60：自然面は凹凸がありオリーブ黒色 (5Y3/2)、内部はオリーブ黒色 (10Y3/2)・暗緑灰色 (7.5GY4/1) のチャートである。剥片1点 (12.12g) の単独資料である。

・E4-61：自然面は凹凸があり黒褐色 (2.5Y3/2)、内部は黒褐色 (2.5Y3/1)・暗緑灰色 (7.5GY4/1) のチャートである。剥片1点 (1.48g) の単独資料である。

・E4-62：灰色 (10Y5/1)・オリーブ黒色 (10Y3/1) のチャートである。石器群の内訳は、剥片2点 (1.26g) である。

・E4-63：内部は明オリーブ灰色 (5GY7/1)、節理は明黄褐色 (2.5Y6/6)・暗灰黄色 (2.5Y4/2)、新鮮な面はオリーブ灰色 (5GY5/1) の凝灰岩である。剥片1点 (21.54g) の単独資料である。

・E4-64：オリーブ黒色 (5Y3/1) の粘板岩である。剥片1点 (5.02g) の単独資料である。

・E4-65：灰色 (10Y4/1) の粘板岩である。剥片1点 (0.56g) の単独資料である。

・E4-66：自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色 (5Y5/1)・灰オリーブ色 (5Y5/2)、新鮮な面は灰色 (5Y4/1) の砂岩である。石器群の内訳は、剥片10点 (9個体：51.86g) である。接合資料は、剥片2点 (1個体：30.68g) である。

・E4-67：自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色 (10Y4/1) のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片2点 (21.65g) である。

・E4-68：自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色 (10Y4/1)、節理は灰色 (10Y4/1) の地に暗灰黄色

(25Y5/2) が混じるホルンフェルスである。剥片1点(42.02g)の単独資料である。

・E4-69:自然面は平滑で灰色(10Y4/1)・にぶい褐色(7.5YR5/4)、内部は灰色(10Y5/1)の地に黄粉状の点紋が入り、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。剥片1点(43.22g)の単独資料である。

・E4-70:内部は灰色(10Y5/1)の地に黄粉状の点紋が入り、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。剥片1点(29.79g)の単独資料である。

・E4-71:自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y4/1)の地に黄粉状の点紋が入り、新鮮な面はオリブ黒色(10Y3/1)のホルンフェルスである。剥片1点(11.08g)の単独資料である。

・E4-72:自然面は比較的平滑で灰色(10Y5/1)、内部は灰色(10Y5/1)のホルンフェルスである。剥片1点(18.33g)の単独資料である。

・E4-73:内部は黄灰色(25Y4/1)の地に黄粉状の点紋が入り、新鮮な面は灰色(5Y4/1)のホルンフェルスである。剥片1点(4.02g)の単独資料である。

・E4-74:灰色(10Y4/1)・灰黄色(25Y6/2)のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片2点(4.53g)である。

・E4-75:自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y4/1)のホルンフェルスである。剥片1点(1.72g)の単独資料である。

・E4-76:灰黄色(25Y7/2)などの瑪瑙・玉髓である。母岩の特徴はE3-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は、剥片4点(3個体)、石核1点の合計5点(4個体;51.12g)である。接合資料は、3グループあり、Aは剥片1点、石核1点の合計2点(40.17g)である。Bは剥片1点(6.62g)がE3-Aブロックの剥片1点と接合している。Cは剥片2点(1個体;4.33g)である。

・E4-77:内部は淡黄色(25Y8/3)、節理は黄褐色(10YR7/8)、新鮮な面は灰白色(N8/0)で半透明な瑪瑙・玉髓である。加工痕ある剥片1点(10.46g)の単独資料である。

・E4-86:透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周産と考えられる剥片1点(1.13g)の単独資料である。

なお、母岩分類できなかった資料に、黒曜石B13点(1.37g)、安山岩2点(1.23g)、頁岩E4点(0.55g)、ホルンフェルス1点(0.39g)がある。

3) 出土遺物(第46~48図23~27)

1~3は信州和田峠周産の黒曜石によるナイフ形石器である。1は二側縁加工で、横長剥片を横位に用い、左側縁と右側縁下半部に細かい調整加工を行っている。また、裏面の左側縁上半部に刃こぼれが見られる。2は一側縁加工で、石刃の打面側を先端部として、右側縁に直角に近い急角度の調整加工を行っている。また、裏面の右側縁に刃こぼれが見られる。3は部分加工のナイフ形石器と考えたが、後述する7に近い調整加工のあり方から、加工痕ある剥片とした方が良くもかもしれない。縦長剥片の打面側を先端部として、正面の左側縁下部と裏面の両側縁のほぼ中央に細かい調整加工を行っている。また、正面の右側縁上部に刃こぼれが見られる。

4は頁岩、5は硬質緻密な頁岩による削器で、4は鋭角、5は急角度の調整加工を右側縁に行っている。

6はチャートによる楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。

7は硬質緻密な頁岩、8は北関東産頁岩、9は東北産頁岩、10は瑪瑙・玉髓、11はチャートによる加工痕ある剥片である。7は正面の右側縁上半部と裏面の両側縁のほぼ中央に調整加工を行っている。裏面の

剥離痕の大きさから石核の可能性もある。8は左側縁の一部、9は右側縁上半部、10は裏面の左側縁、11は末端に細かい調整加工を行っている。また、9は正面の左側縁と裏面の両側縁の一部、10は両面の右側縁に刃こぼれが見られる。12はチャートによる使用痕ある剥片である。正面の右側縁と裏面の両側縁の一部に刃こぼれが見られる。13は頁岩による石刃である。

14はチャート、15は硬質緻密な頁岩による敲石である。14は細長く厚みがある際の両端、15は不定型でやや細長く厚みがある際の両端に敲打痕が見られる。

16は頁岩、17は凝灰岩、18・20はホルンフェルス、19は砂岩、21は信州和田峠周辺産の黒曜石、22はチャートによる剥片で、16～21は縦長剥片、22は不定型な剥片である。19・21はそれぞれ、2点が接合して1個体となる。21は両端に対向する細かい剥離痕が見られることから、楔形石器の削片の可能性もある。

23は安山岩、24は信州和田峠周辺産の黒曜石、25は軟質な安山岩、26はチャート、27は頁岩による石核である。23は打面を転移しながら、不定型な剥片を剥離している。24～26は打面と作業面を入れ替えながら求心的な剥離作業を行っている。また、24は剥離痕の大きさ、正面の左側縁と裏面の右側縁に刃こぼれが見られることから、加工痕ある剥片、あるいは残核を使用した可能性がある。27も縦長剥片の末端に細かい剥離痕が見られる。その剥離痕の大きさから加工痕ある剥片の可能性もある。26は全周に上面からの剥離痕が見られることから、打面再生剥片を素材としたと思われる。

4) 接合資料とその関連資料(第48図28～33, 第49・50図)

・E4-20(第48図28～30) 黒色などの黒曜石である。産地は不明である。28は加工痕ある剥片2点(29・30)の接合資料である。29・30は右側縁に調整加工を行っている。

・E4-22(第48図31～33) 灰色(5Y5/1)などの安山岩である。31は剥片1点(32)、石核1点(33)の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら求心的な剥離作業により、32を含む不定型な剥片を剥離している。

・E4-21(第49図34～37) 黄灰色(2.5Y4/1)などの安山岩である。34は剥片2点(35・36)、石核1点(37)の接合資料である。37は石核と考えたが、明らかに素材の主要剥離面を切る剥離面はないことから、剥片の可能性もある。

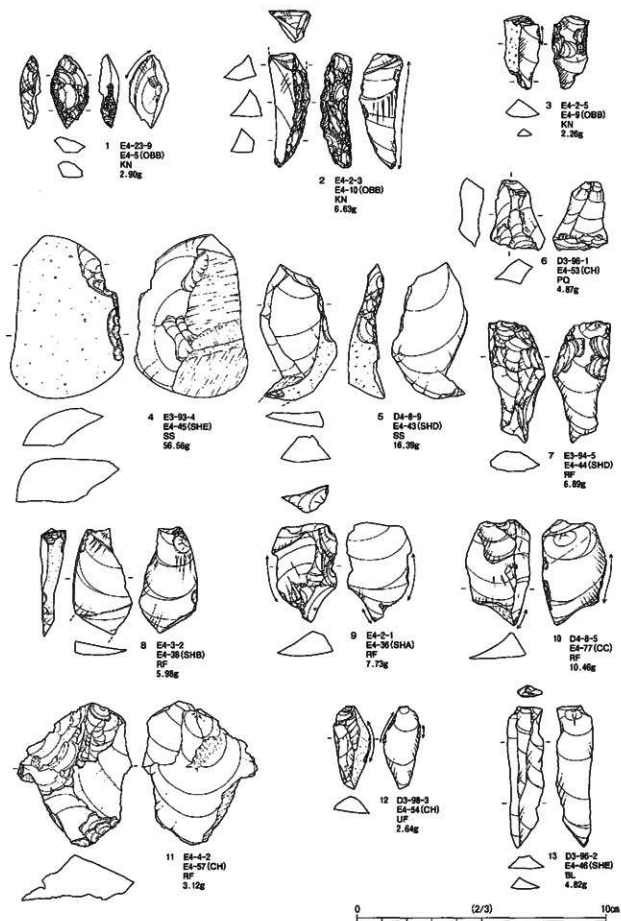
・E4-76(第49図38～43) 灰黄色(2.5Y7/2)などの瑪瑙・玉髄である。38は剥片1点(39)、石核1点(40)の接合資料である。40は素材の主要剥離面を打面として、小型で不定型な剥片を剥離している。

41は剥片1点(42)、E3-Aブロックの剥片1点(43)の接合資料である。

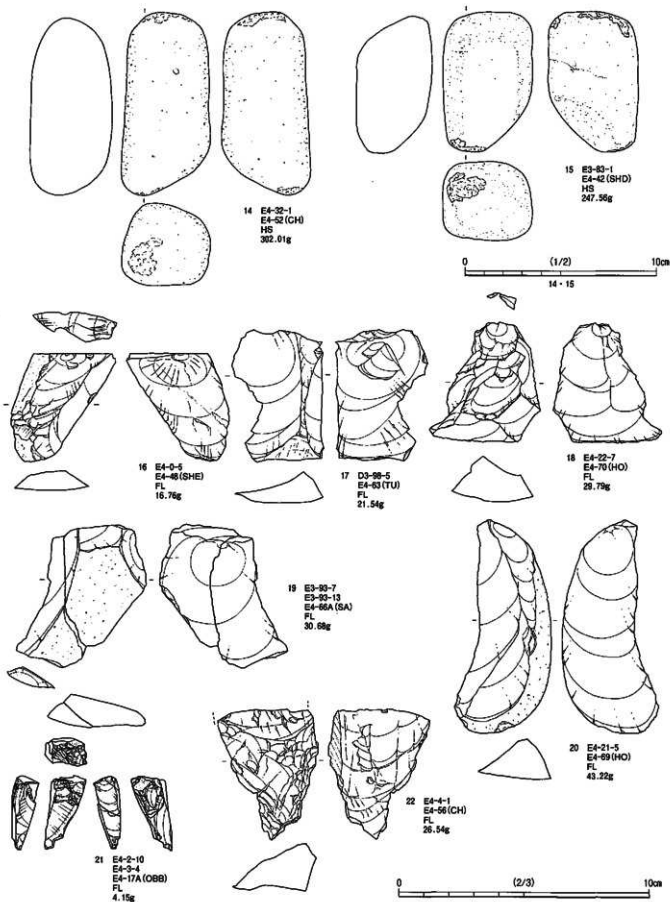
・E4-2(第50図44～48) 黒色などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。44は剥片1点(45)、E4-Bブロックの剥片1点(47)、碎片1点(46)、石核1点(48)、E4-Bブロックの石核2点(1個体:48)の接合資料である。その内、本ブロックの石核1点(48)がE4-Bブロックの石核2点(48)と接合して1個体となる。45は上方向、46は右方向、47は左方向から順に剥離している。48は素材の主要剥離面を打面として、求心的な剥離作業により、小型で不定型な剥片を剥離している。

・E4-1(第50図49～54) 黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。49は加工痕ある剥片1点(50)、剥片3点(2個体:51・52)、石核1点(53)の接合資料である。51は2点が接合して1個体となる。また、50・51は同時剥離(欠損)である。その後、50は左側縁に調整加工を行っている。

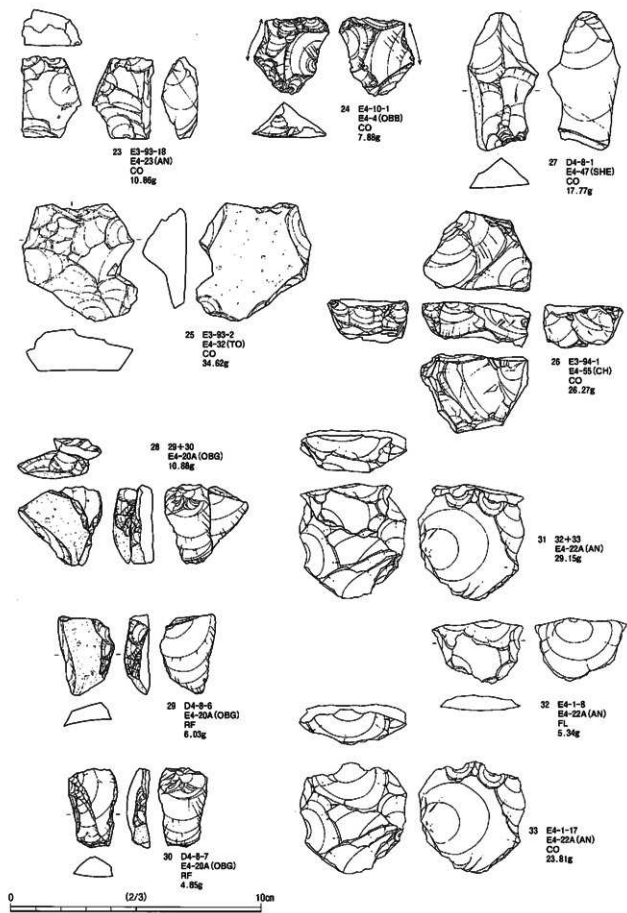
54は石核2点(1個体:54)がE4-Bブロックの石核1点(54)と接合して1個体となる。求心的な剥離作業により、小型で不定型な剥片を剥離している。



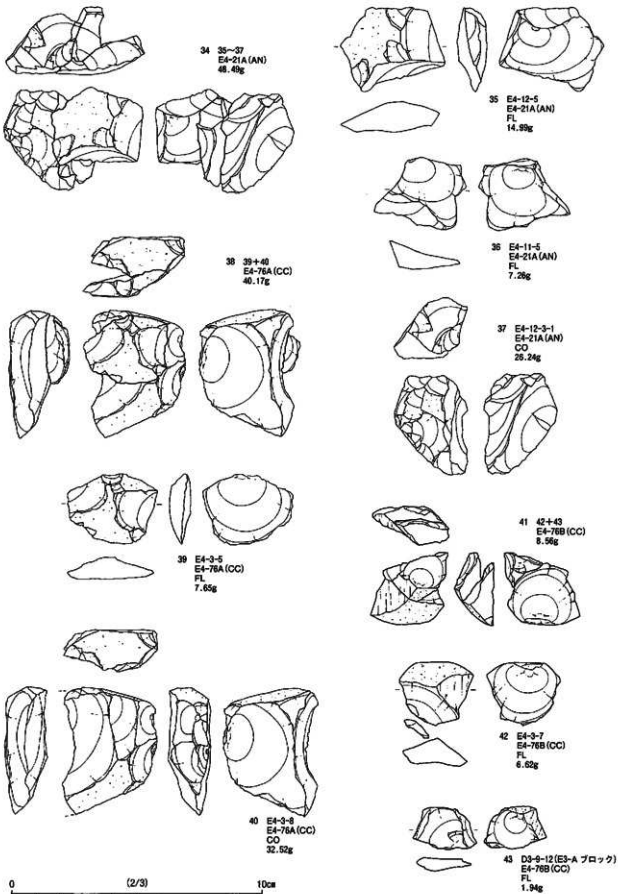
第46図 E4-Aブロック出土遺物(1)



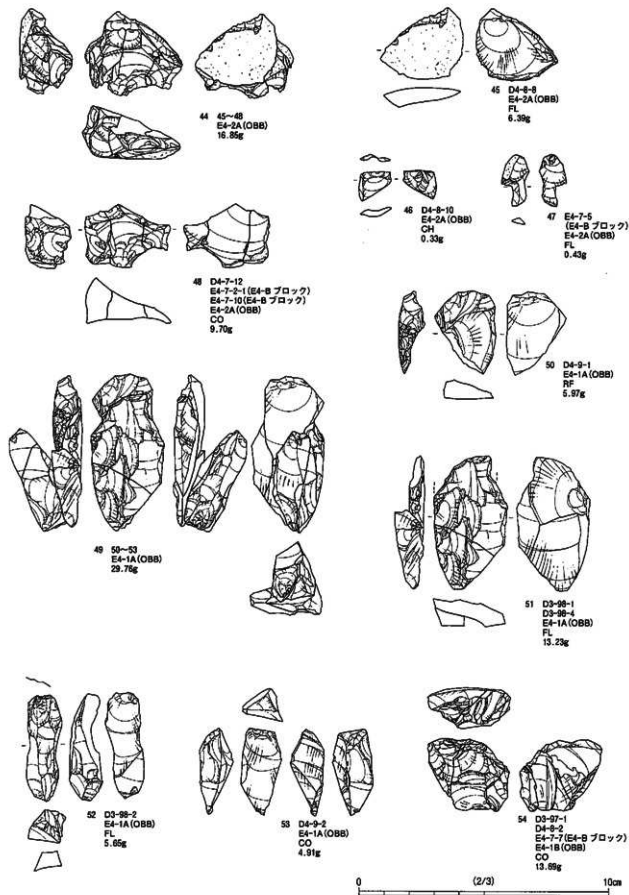
第47図 E4-Aブロック出土遺物(2)



第48図 E4-Aブロック出土遺物(3)



第49図 E4-Aブロック出土遺物(4)



第50図 E4-Aブロック出土遺物(5)

第7表 E4-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E4-1(OBB)										1								3(2)		3(2)				7(5)
E4-2(OBB)																		1	1	1				3
E4-3(OBB)																				1				1
E4-4(OBB)																				1				1
E4-5(OBB)	1																							1
E4-6(OBB)												1												1
E4-7(OBB)																		1						1
E4-8(OBB)																		3						3
E4-9(OBB)	1																							1
E4-10(OBB)	1																							1
E4-11(OBB)																		1						1
E4-12(OBB)																			1					1
E4-13(OBB)																			2					2
E4-14(OBB)																		1						1
E4-15(OBB)																			2					2
E4-16(OBB)																		1						1
E4-17(OBB)																		3(2)						3(2)
E4-18(OBB)																		1						1
E4-19(OBB)																								1
E4-20(OBB)	1									2								2						5
E4-21(AN)																		4		1				5
E4-22(AN)										1								2		1				4
E4-23(AN)																				1				1
E4-24(AN)																		1						1
E4-25(AN)																		1						1
E4-26(AN)																		1						1
E4-27(AN)																		1						1
E4-28(AN)																								1
E4-29(AN)																		1						1
E4-30(AN)																		1						1
E4-31(AN)																		1						1
E4-32(TO)																				1				1
E4-33(TO)																		1						1
E4-34(TO)																								1
E4-35(PH)																								1
E4-36(SHA)										1														1
E4-37(SHA)																		2						2
E4-38(SHB)										1														1
E4-39(SHB)																		1						1
E4-40(SHC)																		1						1
E4-41(SHC)																		1						1
E4-42(SHD)															1									1
E4-43(SHD)						1																		1
E4-44(SHD)										1														1
E4-45(SHE)						1																		1
E4-46(SHE)													1											1
E4-47(SHE)																				1				1
E4-48(SHE)																		1						1
E4-49(SHE)																		1						1
E4-50(SHE)																		1						1
E4-51(SHE)																				1				1
E4-52(CH)															1									1
E4-53(CH)										1														1
E4-54(CH)											1													1
E4-55(CH)																				1				1
E4-56(CH)																		1						1
E4-57(CH)										1														1
E4-58(CH)																		2						2
E4-59(CH)																		1						1
E4-60(CH)																		1						1

第2節 第1文化層

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E4-81(CH)																		1						1
E4-82(CH)																		2						2
E4-83(TU)																		1						1
E4-84(SL)																		1						1
E4-85(SL)																		1						1
E4-86(SA)																		10(9)						10(9)
E4-87(HO)																		2						2
E4-88(HO)																		1						1
E4-89(HO)																		1						1
E4-90(HO)																		1						1
E4-70(HO)																		1						1
E4-71(HO)																		1						1
E4-72(HO)																		1						1
E4-73(HO)																		1						1
E4-74(HO)																		2						2
E4-75(HO)																		1						1
E4-76(CC)																		4(3)		1				5(4)
E4-77(CC)										1														1
E4-88(OBB)																		1						1
その他(OBB)																			13					13
その他(AND)																			2					2
その他(SHE)																			4					4
その他(HO)																		1						1
合計	4					2			1	9	2	1				2	84(80)	23	13(12)					141(138)

第8表 E4-Aブロック石材別石器組成

石 材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石(OBB)	3									1	1						20(18)	16	8(3)					47(44)
黒曜石(OBG)	1								2									2						5
安山岩(AND)									1								14	2	3					20
安山岩(TO)																	2		1					3
流紋岩(RH)																		1						1
頁岩(A(SHA))										1							2							3
頁岩(SHA)										1							1							2
頁岩(C(SHC))																	2							2
頁岩(D(SHD))						1				1					1									3
頁岩(E(SHE))						1							1				3	5	1					11
チャート(CH)										1	1	1			1		8		1					13
凝灰岩(TU)																	1							1
粘板岩(SL)																		2						2
砂岩(SA)																	10(9)							10(9)
ホーンフェルス(HO)																	12							12
瑪瑙・玉髓(CC)										1							4(3)		1					6(5)
合計	4					2			1	9	2	1				2	84(80)	23	13(12)					141(138)

第9表 E4-Aブロック礫組成

母 岩	石 材	個数	質量
E4R-1	RH	1	11.47
E4R-2	RH	2	21.78
E4R-3	CH	1	39.88
E4R-4	CH	1	27.07
E4R-5	CH	1	17.35

母 岩	石 材	個数	質量
E4R-6	CH	1	39.88
E4R-7	TU	1	11.54
E4R-8	SA	1	39.18
E4R-9	SA	1	5.47
E4R-10	SA	1	21.97
E4R-11	SA	1	37.14
E4R-12	HO	1	28.85

石 材	個数	質量
流紋岩(RH)	3	33.25
チャート(CH)	4	123.89
凝灰岩(TU)	1	11.54
砂岩(SA)	4	123.78
ホルンフェルス(HO)	1	28.85
合計	13	321.09

4 E4-Bブロック (第51図, 第10・11表, カラー図版4)

1) ブロックの概要

E4-Bブロックは、調査範囲西側のE4-07グリッドで、ブロックの立地は、台地の東側にのびる緩斜面に位置する。ブロックの規模と形状は、不明である。出土層位は、調査時の所見によれば、Ⅰa層からⅠc層にかけて、40cmほどの高低差をもって包含されている。なお、遺物の注記によればE4-07グリッドであったが、D4-07グリッドの可能性が高く、その場合、本ブロックはE4-Aブロックに帰属すると考えられる。

ブロックは、ナイフ形石器1点、石刃3点、剥片3点、碎片3点、石核4点(3個体)の合計14点(13個体)で構成される。石器石材は、黒曜石B6点(5個体)、軟質の安山岩1点、流紋岩1点、頁岩E2点、凝灰岩3点、粘板岩1点である。

2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は、黒曜石B3母岩(E4-1・2・78)、軟質の安山岩1母岩(E4-79)、流紋岩1母岩(E4-80)、頁岩E2母岩(E4-81・82)、凝灰岩2母岩(E4-83・84)、粘板岩1母岩(E4-85)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%(14/14点)である。

・E4-1: 黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はE4-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは石核1点(4.74g)の単独資料であるが、E4-Aブロックの石核2点(1個体)と接合して1個体となる。その他に同一母岩がE4-Aブロックに5点(4個体)ある。

・E4-2: 黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はE4-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は、剥片1点、石核2点(1個体)の合計3点(2個体; 5.19g)である。接合資料は、剥片1点、石核2点(1個体)の合計3点(2個体; 5.19g)がE4-Aブロックの剥片1点、碎片1点、石核1点の合計3点と接合している。

・E4-78: 黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は、ナイフ形石器1点、碎片1点の合計2点(2.28g)である。

・E4-79: 自然面は比較的平滑で褐色(10YR4/6)、内部は灰白色(10Y7/1)の地に灰白色(5Y8/1)が部分的に混じる軟質の安山岩である。剥片1点(5.98g)の単独資料である。

・E4-80: 内部はにぶい黄褐色(10YR5/3)・浅黄褐色(7.5YR8/4)・にぶい橙色(5YR7/4)、新鮮な面は黒褐色(10YR3/2)の流紋岩である。碎片1点(0.12g)の単独資料である。

・E4-81: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰オリーブ色(5Y5/3)、新鮮な面は灰色(5Y5/1)の頁岩である。石核1点(14.83g)の単独資料である。

・E4-82: 内部は灰色(10Y5/1)、節理はにぶい黄褐色(10YR6/4)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の頁岩である。石刃1点(4.61g)の単独資料である。

・E4-83: 自然面は平滑で、自然面及び内部はオリーブ灰色(5GY6/1)、新鮮な面は暗緑灰色(10GY4/1)の凝灰岩である。石刃1点(52.45g)の単独資料である。

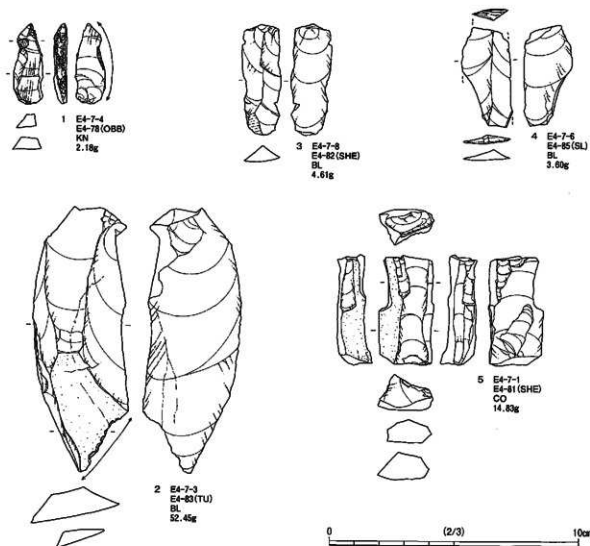
・E4-84: 内部は灰色(10Y4/1)、節理は浅黄色(2.5Y7/4)、新鮮な面は灰色(10Y4/1)の凝灰岩である。石器群の内訳は、剥片1点、碎片1点の合計2点(0.64g)である。

・E4-85: 暗青灰色(10BG3/1)の粘板岩である。石刃1点(3.60g)の単独資料である。

3) 出土遺物 (第51図)

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による一側縁加工のナイフ形石器である。石刃あるいは石刃状の縦長剥

第2節 第1文化層



第51図 E 4-Bブロック出土遺物

第10表 E 4-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HK	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E4-1(OBB)																			1					1
E4-2(OBB)																	1		2(1)					3(2)
E4-78(OBB)	1																	1						2
E4-78(TO)																	1							1
E4-80(PH)																		1						1
E4-81(SHE)																			1					1
E4-82(SHE)											1													1
E4-83(TU)											1													1
E4-84(TU)																	1	1						2
E4-85(SL)												1												1
合計	1										3						3	3	4(3)					14(13)

第11表 E4-Bブロック石材別石器組成

石 材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
奥座石山(OBB)	1																1	1	3(2)					6(5)
安山岩(TO)																		1						1
凝灰岩(RH)																		1						1
頁岩(EH)											1								1					2
凝灰岩(TU)												1					1	1						3
粘板岩(SL)																								1
合 計	1										3						3	3	4(3)					14(13)

片の打面側を基部として、右側縁に急角度の調整加工を行っている。また、裏面の右側縁に細かい剥離痕と刃こぼれが見られる。

2は凝灰岩、3は頁岩、4は粘板岩による石刃である。2は右側縁下部に刃こぼれが見られる。

5は頁岩による石核である。石刃の旧打面や折断面を打面として、小石刃状の剥片を剥離している。

5 G5-Aブロック (第52～54図, 第12～14表, カラー図版6・9)

1) ブロックの概要

G5-Aブロックは、調査範囲東側のG5-35・44～46グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地の中央部で、傾斜変換点(台地の縁辺)までの距離は18mである。

ブロックの規模と形状は、長軸8m、短軸3mの範囲に10点の石器・礫が分布する。出土層位は、Ka層からKc層にかけて40cmほどの高低差をもって包含されている(第52・53図)。

ブロックは、楔形石器1点、石刃2点、剥片2点、砕片2点、石核2点の合計9点と礫1点で構成される。石器石材は、安山岩6点、頁岩E1点、チャート2点である。礫石材は、軟質の安山岩1点(1母岩:24.98g)で、識別率は100%である。

2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は、安山岩2母岩(G5-1・2)、頁岩E1母岩(G5-3)、チャート1母岩(G5-4)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%(9/9点)である。

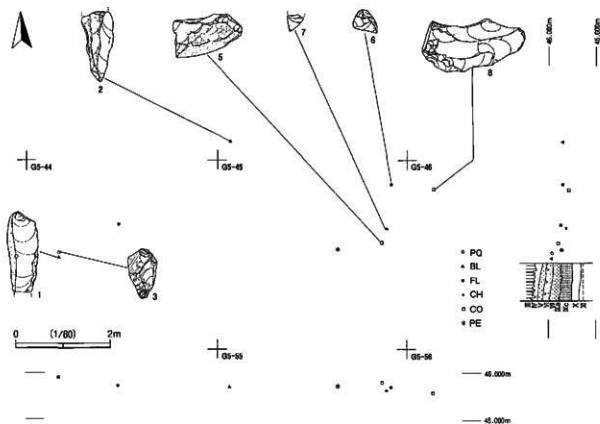
・G5-1: 自然面は平滑で灰色(10Y6/1)の地に淡白色(2.5Y8/3)が帯状に混じり、内部は灰色(10Y6/1)の地に淡白色(2.5Y8/3)・褐色(10YR4/4)が部分的に混じり、節理は灰白色(7.5Y8/1)・淡黄色(2.5Y8/3)・灰色(10Y4/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩としたが、いわゆる黒色頁岩の可能性もある。石器群の内訳は、剥片1点、砕片2点、石核2点の合計5点(190.32g)である。接合資料は、剥片1点、砕片1点、石核2点の合計4点(189.98g)である。

・G5-2: 自然面は浅い爪形の裂痕があり灰色(5Y6/1)、内部は灰色(5Y5/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石刃1点(7.38g)の単独資料である。

・G5-3: 内部は灰白色(10Y7/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の頁岩である。石刃1点(6.19g)の単独資料である。

・G5-4: 自然面は平滑で、自然面及び内部は灰色(10Y4/1)、節理はにぶい黄褐色(10YR5/3)・淡黄色(2.5Y7/3)のチャートである。石器群の内訳は、楔形石器1点、剥片1点の合計2点(7.42g)である。

第2節 第1文化層



第52図 G5-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別分布 -

第12表 G5-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
G5-1(AN)																	1	2	2					5
G5-2(AN)												1												1
G5-3(SHE)													1											1
G5-4(CH)										1							1							2
合計									1	1		2					2	2	2					9

第13表 G5-Aブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)											1						1	2	2					6
頁岩(SHE)												1												1
チャート(CH)									1								1							2
合計									1	1		2					2	2	2					9

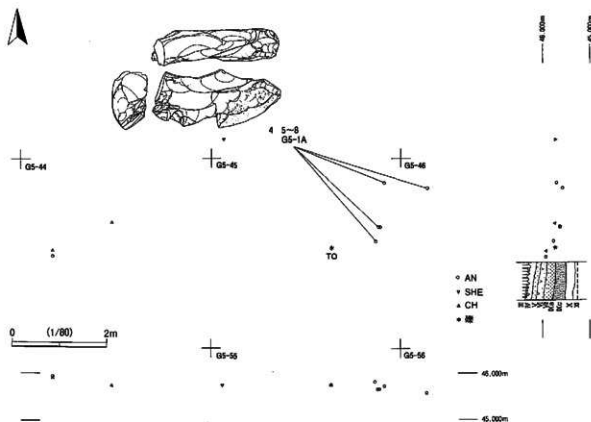
3) 出土遺物 (第54図1~3)

1は安山岩, 2は頁岩による石刃である。1は右側縁, 2は正面の両側縁の一部と表面の左側縁の一部に刃こぼれが見られる。

3はチャートによる楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。

4) 接合資料とその関連資料 (第54図4~8)

・G5-1 (第54図4~8) 灰色(10Y6/1)などの安山岩である。4は剥片1点(6), 碎片1点(7), 石核2点(5・8)の接合資料である。5・8は元々, 同一個体の石核であったが, 欠損後も, 8は打面と作業面を入れ替えながら不定型な剥片を剥離している。

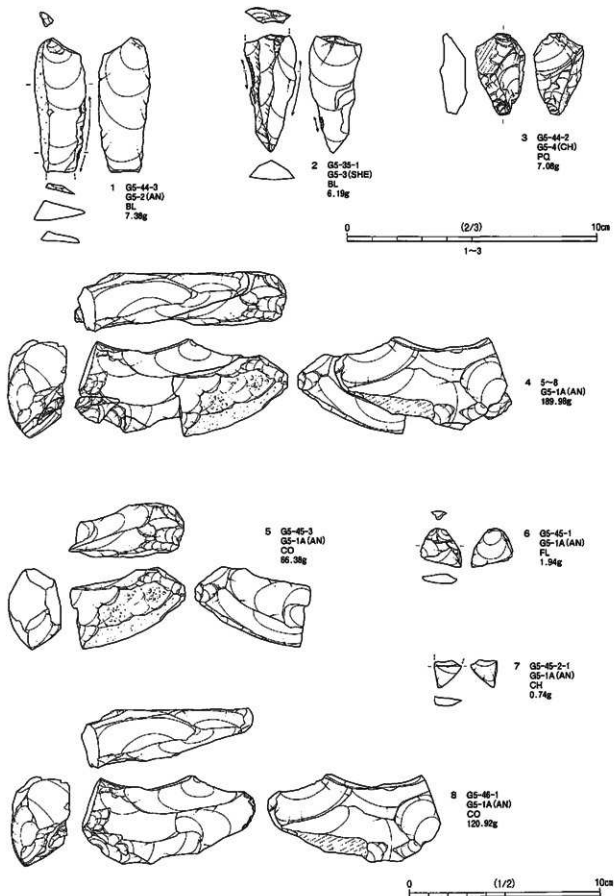


第53図 G5-Aブロック出土遺物分布(2) -石材別分布-

第14表 G5-Aブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
G5R-1	TO	1	24.98

石材	個数	重量
安山岩(TO)	1	24.98
合計	1	24.98



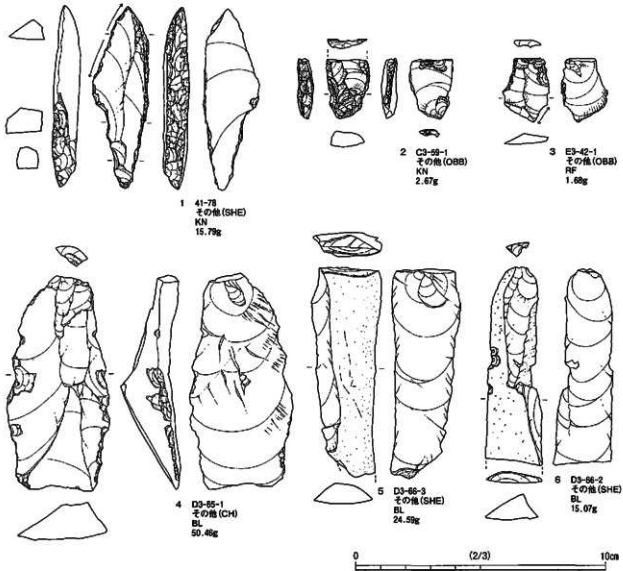
第54図 G5-Aブロック出土遺物

6 ブロック外 (第55・56図, カラー図版6)

石器群の内訳は、ナイフ形石器2点、加工痕ある剥片1点、石刃3点、礫1点の合計7点である。

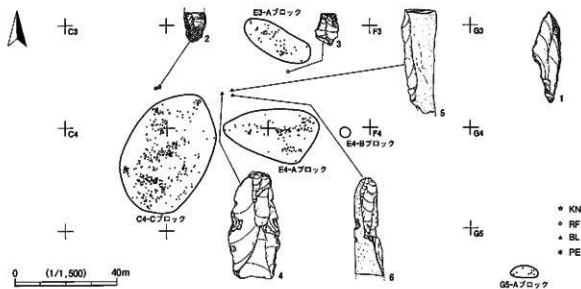
1は灰オリーブ色 (5Y5/2) の地に浅黄色 (5Y7/3) が部分的に混じる頁岩による二側縁加工のナイフ形石器である。石刃の打面側を基部として、右側縁と左側縁下半部に急角度の調整加工を行っている。また、左側縁上半部には刃こぼれが見られる。41住居 (E4-36グリッド) から出土している。2は薄墨を流したような透明な黒曜石によるナイフ形石器である。信州和田峠周辺産と考えられる。形態は不明である。C3-59グリッドから出土している。

3は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石による加工痕ある剥片である。信州和田峠周辺産と考えられる。不定型な剥片の正面の両側縁上部と表面の左側縁に細かい調整加工を行っている。また、正面の右側縁下部に刃こぼれが見られる。E3-42グリッドから出土している。



第55図 第1文化層ブロック外出土遺物

4は灰色(10Y4/1)の地に黒色の筋が入るチャートによる石刃である。両側縁に細かい剥離痕が見られる。D3-65グリッドから出土している。5は自然面は平滑で、自然面及び内部は灰白色(5Y7/1)・にぶい黄橙色(10YR6/4)の地に灰色(5Y4/1)の線が入り、節理は褐灰色(10YR4/1)、新鮮な面は灰色(5Y4/1)の頁岩による石刃である。D3-66グリッドから出土している。6は自然面は平滑で浅灰色(2.5Y7/4)の地に灰色(5Y6/1)の線が入り、内部は灰白色(5Y7/2)の地にオリーブ褐色(2.5Y4/6)が部分的に混じり、節理は暗褐色(10YR3/3)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の頁岩による石刃である。左側縁に細かい剥離痕が見られる。D3-66グリッドから出土している。



第56図 第1文化層ブロック外出土遺物分布

7 礫群 (第15～17表)

本文化層では、4か所のブロックと1か所の単独地点から礫の集中分布が確認されており、それらに対して通例の名称である礫群を呼称した。礫群を構成する礫の属性分類に当たっては、石材・母岩・重量・礫分類・礫遺存率・母岩復元率について分類を行った。礫分類は、A：完形被焼成礫、B：破損被焼成礫(破損面非焼成)、C：破損被焼成礫(破損面被焼成)、D：完形非焼成礫、E：破損非焼成礫に区分し、礫遺存率及び母岩復元率は、a：完形、b：1/2以上、c：1/2未満、d：破片とした。なお、被焼成と非焼成の区別は、表面が赤化している、焦けたように黒くなっている、あるいはひび割れが生じているなど、被熱によると考えられる痕跡が肉眼で観察されるか否かによった。

礫の総点数は138点、総重量は7,686.86gである。最大重量は496.25g、最低重量は0.37g、平均重量は55.70gである。母岩分類のできなかつた資料を除いた石材の母岩数と点数は、ブロックにより差があるが、全体としては、砂岩が42母岩(44%)・61点(45%)とほぼ半数を占め、以下、流紋岩が11母岩(11%)・12点(9%)、凝灰岩が15母岩(16%)・32点(24%)、チャートが19母岩(20%)・20点(15%)、ホルンフェルスが3母岩(3%)・4点(3%)で砂岩と合わせ、母岩数で94%、点数で96%を占める。礫分類はC：破損被焼成礫(破損面被焼成)、礫遺存率はc：1/2未満、母岩復元率はc：1/2未満がほぼ半数である。

第15表 ブロック別礫分類

礫分類 ブロック名	A		B		C		D		E		合計	
	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比
E3-A									1	100.0%	1	100.0%
C4-C	11	8.0%	12	9.8%	75	61.5%	5	4.1%	19	15.6%	122	100.0%
E4-A							10	78.9%	3	23.1%	13	100.0%
G5-A							1	100.0%			1	100.0%
ブロック外							1	100.0%			1	100.0%
合計	11	8.0%	12	8.7%	75	54.3%	17	12.3%	23	16.7%	138	100.0%

礫分類

A: 完形被焼成礫

D: 完形非焼成礫

B: 破損被焼成礫 (破損面非焼成)

E: 破損非焼成礫

C: 破損被焼成礫 (破損面被焼成)

第16表 ブロック別礫遺存率

礫遺存率 ブロック名	a		b		c		d		合計	
	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比
E3-A					1	100.0%			1	100.0%
C4-C	15	12.3%	13	10.7%	87	71.3%	7	5.7%	122	100.0%
E4-A	10	78.9%			2	15.4%	1	7.7%	13	100.0%
G5-A	1	100.0%							1	100.0%
ブロック外	1	100.0%							1	100.0%
合計	27	19.8%	13	9.4%	90	65.2%	8	5.9%	138	100.0%

礫遺存率

a: 完形

b: 1/2以上

c: 1/2未満

d: 破片

第17表 ブロック別母岩復元率

母岩復元率 ブロック名	a		b		c		d		合計	
	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比
E3-A					1	100.0%			1	100.0%
C4-C	14	17.1%	16	19.5%	46	58.1%	6	7.3%	82	100.0%
E4-A	10	83.3%			2	16.7%			12	100.0%
G5-A	1	100.0%							1	100.0%
合計	25	26.0%	16	16.7%	49	51.0%	6	6.3%	96	100.0%

母岩復元率

a: 完形

b: 1/2以上

c: 1/2未満

d: 破片

第3節 第2文化層

第2文化層は、立川ローム層のハードローム層（Ⅳ層下部～Ⅴ層）を中心に包含される石器群である。D2-A・B、D3-A～C、C4-A・Bブロックと4か所の単独出土地点が該当する。武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に相当すると考えられる。

1 D2-Aブロック（第57～60図、図版6、カラー図版6）

1) ブロックの概要

D2-Aブロックは、調査範囲西側のD2-41・42・51・52・62・63・72・73グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地の北側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は、長軸16m、短軸7mの範囲に131点の石器・礫が分布する。出土層位は、Ⅲ層を中心に、80cmほどの高低差をもって包含されている（第57～59図）。

ブロックは、敲石1点、剥片4点（3個体）の合計5点（4個体）と礫126点で構成される。石器石材は、黒曜石G 4点（3個体）、ホルンフェルス1点である。礫石材は、流紋岩25点（18母岩：655.09g）、チャート6点（3母岩：72.42g）、凝灰岩5点（4母岩：185.73g）、砂岩77点（56母岩：1,890.24g）、ホルンフェルス13点（9母岩：311.08g）で、識別率は100%である。

2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は、黒曜石G 1母岩（D2-1）、ホルンフェルス1母岩（D2-2）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（5/5点）である。

・D2-1：自然面は平滑で、自然面及び内部は暗黒灰色と黒灰色が縞状に入る黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は、剥片4点（3個体：6.97g）である。接合資料は、剥片2点（1個体：5.81g）である。

・D2-2：自然面は比較的平滑でにぶい黄色（25Y6/3）、内部はにぶい黄色（25Y6/4）・黄褐色（25Y5/3）のホルンフェルスである。敲石1点（219.76g）の単独資料である。

3) 出土遺物（第60図）

1は産地不明の黒曜石による不定型な剥片である。2点が接合して1個体となる。

2はホルンフェルスによる敲石である。不定型な礫の両端と正面のほぼ中央に表皮が剥けたような浅い敲打痕が見られる。

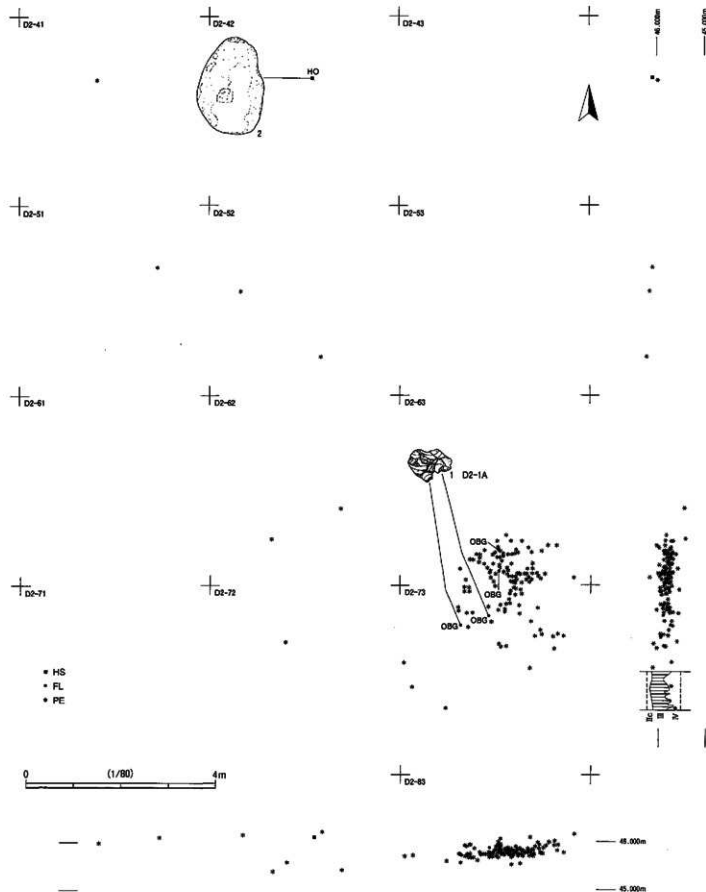
第18表 D2-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
D2-1(OBQ)																	4(3)							4(3)	
D2-2(HQ)															1										1
合計															1		4(3)							5(4)	

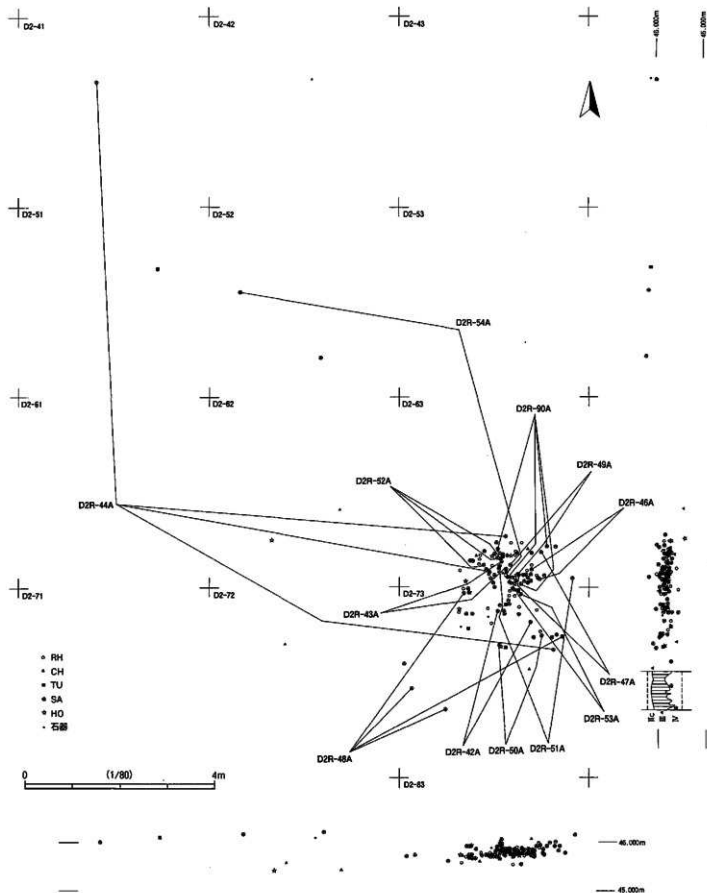
第19表 D2-Aブロック石材別石器組成

石 材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
黒曜石(OBQ)																	4(3)								4(3)
ホルンフェルス(HQ)															1										1
合計															1		4(3)								5(4)

1 D2-Aブロック

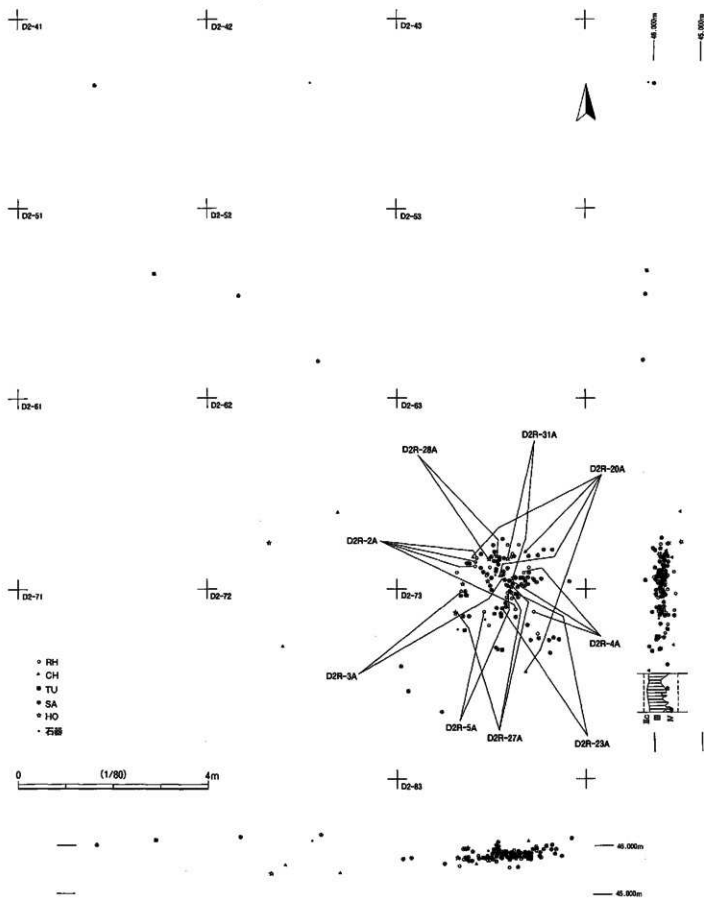


第57図 D2-Aブロック出土遺物分布(1) -器種・石材別分布-

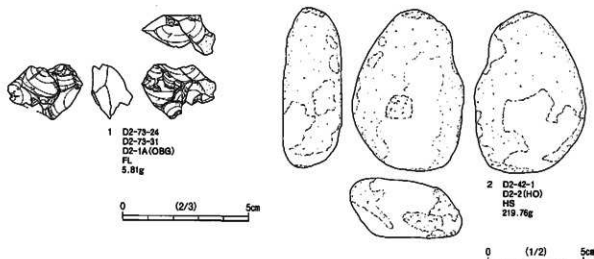


第58図 D 2-Aブロック出土遺物分布(2) - 礫石材別分布(1) -

1 D2-Aブロック



第59図 D2-Aブロック出土遺物分布(3) - 礫石材別分布(2) -



第60図 D 2-Aブロック出土遺物

第20表 D 2-Aブロック構成

母	岩	石材	個数	重量
D2R-1	RH		1	41.71
D2R-2	RH		4	76.92
D2R-3	RH		2	81.73
D2R-4	RH		3	45.84
D2R-5	RH		2	55.91
D2R-6	RH		1	108.99
D2R-7	RH		1	41.44
D2R-8	RH		1	34.59
D2R-9	RH		1	71.82
D2R-10	RH		1	59.71
D2R-11	RH		1	10.01
D2R-12	RH		1	24.57
D2R-13	RH		1	3.79
D2R-14	RH		1	5.23
D2R-15	RH		1	6.48
D2R-16	RH		1	4.07
D2R-17	RH		1	1.57
D2R-18	RH		1	0.91
D2R-19	CH		1	34.10
D2R-20	CH		4	36.40
D2R-21	CH		1	1.92
D2R-22	TU		1	46.99
D2R-23	TU		2	79.71
D2R-24	TU		1	33.61
D2R-25	TU		1	25.42
D2R-26	HO		1	102.47
D2R-27	HO		3	56.01
D2R-28	HO		2	44.65
D2R-29	HO		1	45.68
D2R-30	HO		1	22.83
D2R-31	HO		2	5.68
D2R-32	HO		1	21.32
D2R-33	HO		1	12.13
D2R-34	HO		1	0.33
D2R-35	SA		1	55.83

母	岩	石材	個数	重量
D2R-36	SA		1	64.60
D2R-37	SA		1	75.71
D2R-38	SA		1	43.55
D2R-39	SA		1	53.35
D2R-40	SA		1	34.60
D2R-41	SA		1	22.05
D2R-42	SA		2	73.88
D2R-43	SA		2	94.26
D2R-44	SA		4	63.85
D2R-45	SA		1	51.86
D2R-46	SA		2	57.33
D2R-47	SA		2	43.08
D2R-48	SA		4	59.32
D2R-49	SA		2	25.32
D2R-50	SA		2	19.66
D2R-51	SA		2	33.71
D2R-52	SA		3	46.85
D2R-53	SA		2	85.77
D2R-54	SA		2	22.05
D2R-55	SA		1	105.05
D2R-56	SA		1	75.74
D2R-57	SA		1	51.92
D2R-58	SA		1	32.67
D2R-59	SA		1	49.36
D2R-60	SA		1	69.03
D2R-61	SA		1	49.78
D2R-62	SA		2	29.96
D2R-63	SA		1	25.82
D2R-64	SA		1	17.20
D2R-65	SA		1	27.45
D2R-66	SA		1	31.28
D2R-67	SA		1	16.89
D2R-68	SA		1	20.22
D2R-69	SA		1	24.70
D2R-70	SA		1	20.21

母	岩	石材	個数	重量
D2R-71	SA		1	15.53
D2R-72	SA		1	21.55
D2R-73	SA		1	14.93
D2R-74	SA		1	19.92
D2R-75	SA		1	11.43
D2R-76	SA		1	5.26
D2R-77	SA		1	5.77
D2R-78	SA		1	3.50
D2R-79	SA		1	5.33
D2R-80	SA		1	6.99
D2R-81	SA		1	3.53
D2R-82	SA		1	8.25
D2R-83	SA		1	1.82
D2R-84	SA		1	1.93
D2R-85	SA		1	1.44
D2R-86	SA		1	1.21
D2R-87	SA		1	1.71
D2R-88	SA		1	1.32
D2R-89	SA		1	0.17
D2R-90	SA		4	87.92

石材	個数	重量
流紋岩(RH)	25	655.09
チャート(CH)	6	72.42
凝灰岩(TU)	5	185.73
砂岩(SA)	77	1,890.24
ルンツァルズ(HO)	13	311.08
合計	126	3,114.56

2 D2-Bブロック (第61～63図, 第21～23表, 図版6, カラー図版6)

1) ブロックの概要

D2-Bブロックは、調査範囲西側のD2-94, D3-03～05グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地の北西側縁辺部で、傾斜変換点(台地の縁辺)までの距離は13mである。

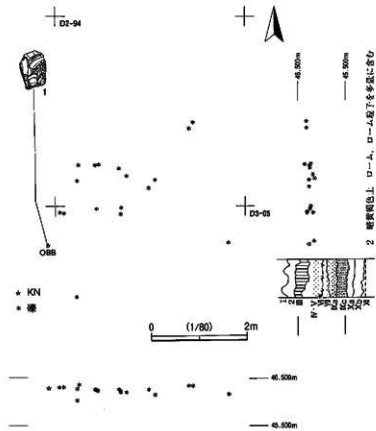
ブロックの規模と形状は、長軸5m, 短軸4mの範囲に20点の石器・礫が分布する。その内、原位置不明の遺物が2点ある。出土層位は、IV・V層を中心に、30cmほどの高低差をもって包含されている(第61・62図)。

ブロックは、ナイフ形石器1点, 剥片2点の合計3点と礫17点で構成される。石器石材は、黒曜石B1点, 凝灰岩1点, 粘板岩1点である。礫石材は、流紋岩9点(3母岩:352.40g), 砂岩8点(8母岩:193.19g)で、識別率は100%である。

2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は、黒曜石B1母岩(D2-3), 粘板岩1母岩(D2-4)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は67%(2/3点)である。

・D2-3: 薄墨を流したような透明な地に黒灰色の線状のモヤが縞状に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点(2.85g)の単独資料である。



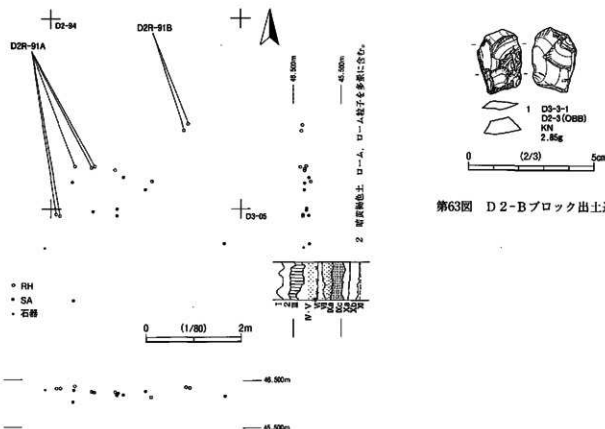
第61図 D2-Bブロック出土遺物分布(1) - 器種別分布 -

・D2-4：内部は黒色（10Y2/1）、節理にはぶい黄褐色（10YR5/3）の粘板岩である。剥片1点（1.22g）の単独資料である。

なお、母岩分類できなかった資料に、凝灰岩1点（23.33g）がある。

3) 出土遺物（第63図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器としたが、加工痕ある剥片あるいは楔形石器の可能性もある。横長剥片を横位に用い、両側縁に細かい調整加工を行っている。



第63図 D2-Bブロック出土遺物

第62図 D2-Bブロック出土遺物分布（2）- 礫石材別分布 -

第21表 D2-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
D2-3(OBB)	1																								1
D2-6(SL)																		1							1
その他(TU)																		1							1
合計	1																	2							3

第22表 D2-Bブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
黒曜石(OBB)	1																								1
凝灰岩(TU)																		1							1
粘板岩(SL)																		1							1
合計	1																	2							3

第23表 D2-Bブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
D2R-91	RH	7	234.26
D2R-92	RH	1	112.30
D2R-93	RH	1	5.84
D2R-94	SA	1	46.39
D2R-95	SA	1	19.61

母岩	石材	個数	重量
D2R-96	SA	1	24.28
D2R-97	SA	1	9.96
D2R-98	SA	1	19.84
D2R-99	SA	1	13.74
D2R-100	SA	1	4.69
D2R-101	SA	1	56.68

石材	個数	重量
流紋岩(RH)	9	352.40
砂岩(SA)	8	193.19
合計	17	545.59

3 D3-Aブロック (第64～66図, 第24～26表, 図版6, カラー図版6)

1) ブロックの概要

D3-Aブロックは, 調査範囲西側のD3-25・33～35・43・44・53グリッドに位置する。ブロックの立地は, 台地のほぼ中央部で, 傾斜変換点(台地の縁辺)までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は, 長軸14m, 短軸9mの範囲に88点の石器・礫が分布する。出土層位は, III層を中心に, 50cmほどの高低差をもって包含されている(第64・65図)。

ブロックは, 剥片3点, 石核1点の合計4点と礫84点で構成される。石器石材は, 黒曜石B1点, 安山岩2点, 粘板岩1点である。礫石材は流紋岩6点(5母岩:206.43g), 凝灰岩4点(3母岩:54.26g), 砂岩56点(31母岩:1,758.80g), ホルンフェルス18点(10母岩:372.54g)で, 識別率は100%である。

2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は, 黒曜石B1母岩(D3-1), 安山岩2母岩(D3-2・3), 粘板岩1母岩(D3-4)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%(4/4点)である。

・D3-1:自然面は比較的平滑で, 自然面・内部・新鮮な面は透明な地に黒色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点(5.11g)の単独資料である。

・D3-2:自然面は凹凸があり紙ヤスリ状で, 自然面及び内部は黄褐色(2.5Y5/3)・暗灰黄色(2.5Y4/2), 新鮮な面は灰色(N4/0)の安山岩である。石核1点(46.16g)の単独資料である。

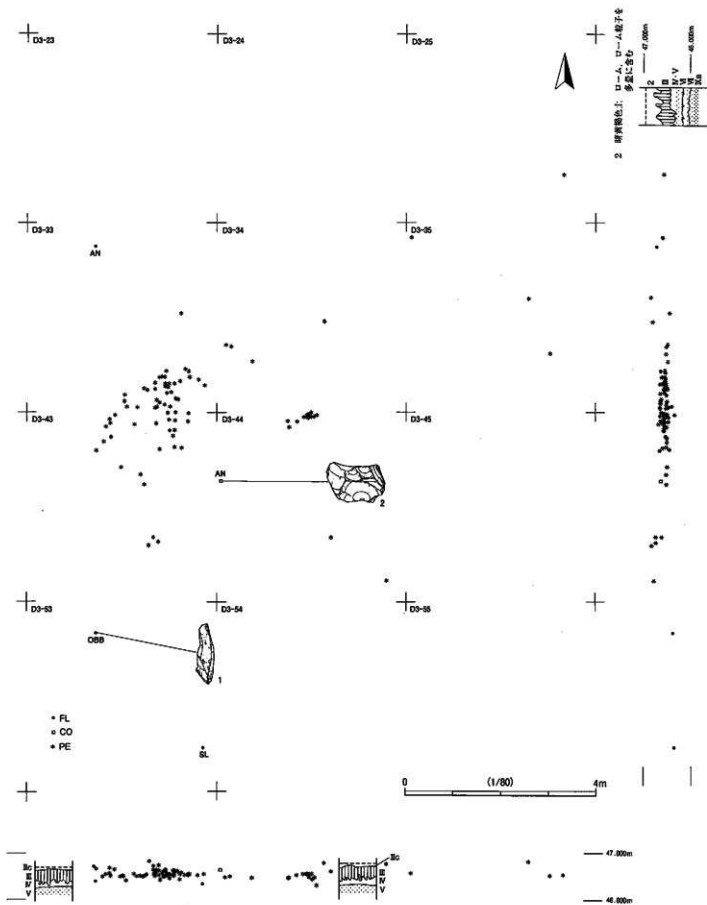
第24表 D3-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
D3-1(OBB)																	1							1	
D3-2(AN)																			1						1
D3-3(AN)																	1								1
D3-4(SL)																	1								1
合計																	3		1						4

第25表 D3-Aブロック石材別石器組成

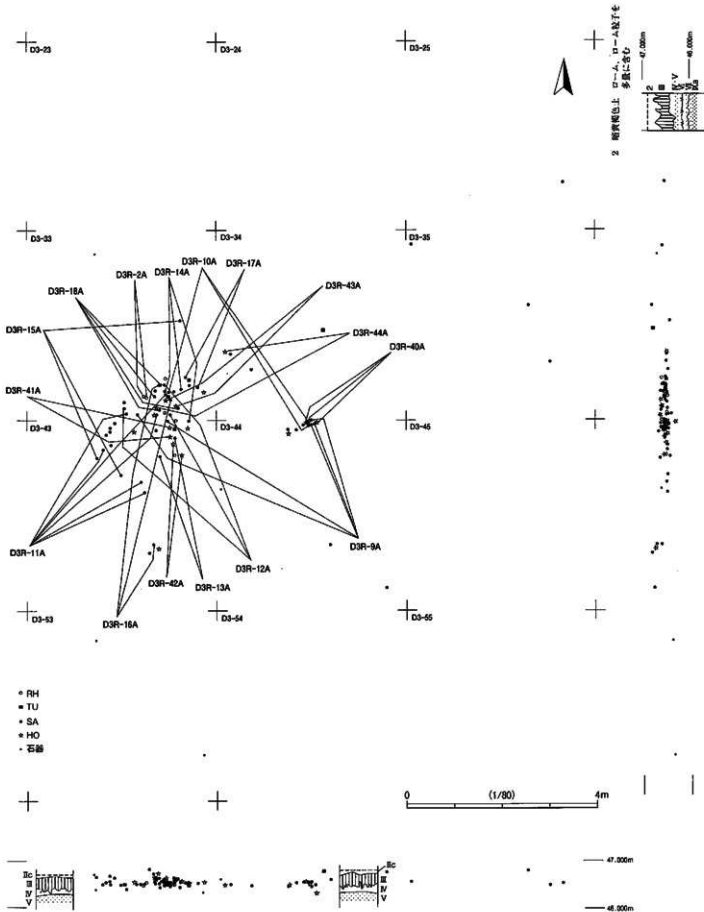
石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
黒曜石(OBB)																	1								1
安山岩(AN)																	1		1						2
粘板岩(SL)																	1								1
合計																	3		1						4

第3節 第2文化層



第64図 D3-Aブロック出土遺物分布(1) -器種別・石材別分布-

3 D3-Aブロック



第65図 D3-Aブロック出土遺物分布(2) - 礫石材別分布 -

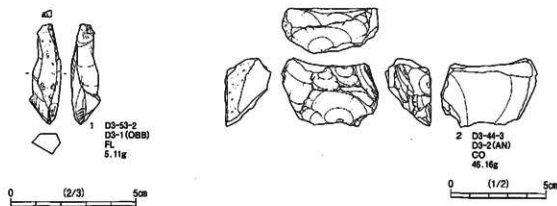
・D3-3：自然面は紙ヤスリ状でオリブ褐色(25Y4/4)、内部は暗灰黄色(25Y4/2)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。剥片1点(5.42g)の単独資料である。

・D3-4：内部は灰色(10Y4/1)・オリブ黒色(10Y3/2)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の粘板岩である。剥片1点(1.07g)の単独資料である。

3) 出土遺物(第66図)

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による縦長剥片である。

2は安山岩による石核である。求心的な剥離作業により、不定型な剥片を剥離している。



第66図 D3-Aブロック出土遺物

第26表 D3-Aブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
D3R-1	RH	1	76.58
D3R-2	RH	2	50.31
D3R-3	RH	1	50.11
D3R-4	RH	1	27.27
D3R-5	RH	1	2.15
D3R-6	TU	2	47.47
D3R-7	TU	1	6.58
D3R-8	TU	1	0.21
D3R-9	SA	5	153.43
D3R-10	SA	3	105.79
D3R-11	SA	6	325.44
D3R-12	SA	3	170.15
D3R-13	SA	2	36.46
D3R-14	SA	3	97.72
D3R-15	SA	3	46.03
D3R-16	SA	3	75.94
D3R-17	SA	2	80.06
D3R-18	SA	4	99.74
D3R-19	SA	2	69.61
D3R-20	SA	1	81.99

母岩	石材	個数	重量
D3R-21	SA	1	54.95
D3R-22	SA	1	101.04
D3R-23	SA	1	53.77
D3R-24	SA	1	24.05
D3R-25	SA	1	27.54
D3R-26	SA	1	18.42
D3R-27	SA	1	10.70
D3R-28	SA	1	20.18
D3R-29	SA	1	22.30
D3R-30	SA	1	24.41
D3R-31	SA	1	5.49
D3R-32	SA	1	6.03
D3R-33	SA	1	3.46
D3R-34	SA	1	0.65
D3R-35	SA	1	0.47
D3R-36	SA	1	1.29
D3R-37	SA	1	13.41
D3R-38	SA	1	27.35
D3R-39	SA	1	0.90
D3R-40	HO	4	103.51

母岩	石材	個数	重量
D3R-41	HO	3	25.02
D3R-42	HO	2	46.80
D3R-43	HO	2	5.20
D3R-44	HO	2	3.65
D3R-45	HO	1	73.38
D3R-46	HO	1	67.92
D3R-47	HO	1	13.04
D3R-48	HO	1	18.38
D3R-49	HO	1	13.64

石材	個数	重量
流紋岩(RH)	6	206.43
凝灰岩(TU)	4	54.26
砂岩(SA)	56	1,758.90
ホルンフェルズ(HO)	18	372.54
合計	84	2,392.03

4 D3-Bブロック (第67~70図, 第27~29表, 図版6, カラー図版6・9)

1) ブロックの概要

D3-Bブロックは、調査範囲西側のD3-28・29・38・39・48・49, E3-20・30・31・40・41グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地の北東側縁辺で、傾斜変換点(台地の縁辺)までの距離は14mである。

ブロックの規模と形状は、直径13mの範囲に133点の石器・礫が分布する。その内、垂直分布のない遺物が1点ある。出土層位は、IIc層からIII層にかけて、70cmほどの高低差をもって包含されている(第67~69図)。

ブロックは、加工痕ある剥片1点、敲石1点、剥片17点(16個体)、石核1点の合計20点(19個体)と礫113点で構成される。石器石材は、黒曜石B 2点、頁岩C 1点、チャート6点、砂岩1点、ホルンフェルス8点、瑪瑙・玉髓2点(1個体)である。礫石材は、流紋岩11点(10母岩;149.22g)、頁岩1点(1母岩;7.02g)、チャート4点(4母岩;31.77g)、凝灰岩9点(8母岩;69.57g)、砂岩84点(69母岩;2033.87g)、ホルンフェルス4点(3母岩;229.30g)で、識別率は100%である。

2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは12母岩を識別した。内訳は、黒曜石B 2母岩(D3-5・6)、頁岩C 1母岩(D3-7)、チャート3母岩(D3-8~10)、砂岩1母岩(D3-11)、ホルンフェルス4母岩(D3-12~15)、瑪瑙・玉髓1母岩(D3-16)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は95%(19/20点)である。

・D3-5:自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点(2.16g)の単独資料である。

・D3-6:黒灰色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片1点(0.55g)の単独資料である。

・D3-7:灰オリーブ色(5Y4/2)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(1.48g)の単独資料である。

・D3-8:自然面は凹凸があり、自然面及び内部は黒色(10Y2/1)・オリーブ灰色(5GY6/1)・灰白色(2.5Y7/1)、節理は灰黄色(2.5Y6/2)のチャートである。石器群の内訳は、剥片2点、石核1点の合計3点(53.73g)である。

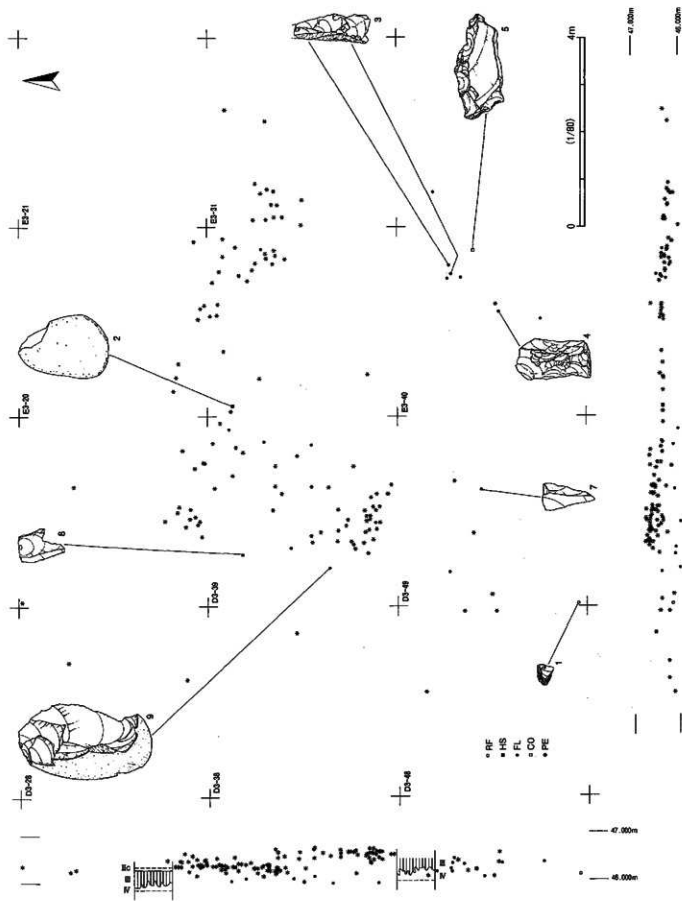
・D3-9:黒色(5Y2/1)・オリーブ灰色(2.5GY5/1)の地に暗オリーブ灰色(5GY4/1)が縞状に入るチャートである。剥片1点(8.78g)の単独資料である。

・D3-10:自然面は比較的平滑で黄褐色(2.5Y5/4)、内部は灰色(5Y4/1)・灰色(5Y5/1)・灰黄色(2.5Y6/2)・褐色(7.5YR4/6)、節理は灰黄色(2.5Y6/2)・灰色(5Y5/1)のチャートである。剥片1点(16.18g)の単独資料である。

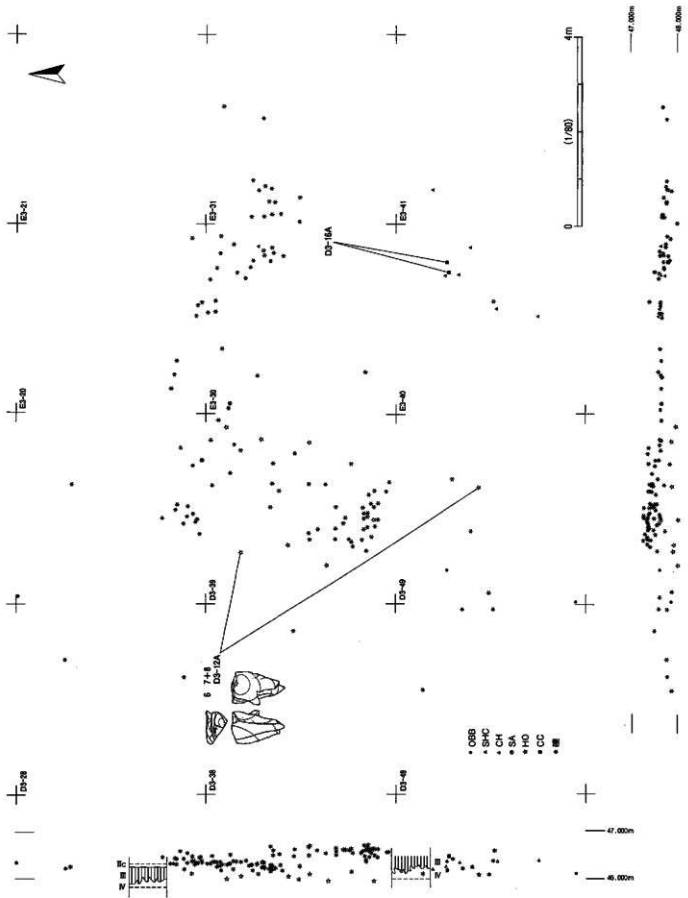
・D3-11:自然面は比較的平滑で黒褐色(2.5Y3/2)・にぶい黄褐色(10YR5/4)、内部はにぶい赤褐色(5YR4/4)・にぶい橙色(5YR6/4)・にぶい黄橙色(10YR6/4)の砂岩である。敲石1点(94.39g)の単独資料である。

・D3-12:自然面は比較的平滑で灰色(5Y4/1)・灰オリーブ色(5Y5/2)、内部は灰色(5Y5/1)・灰オリーブ色(5Y5/2)・灰色(5Y4/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片5点(89.03g)である。接合資料は、剥片2点(6.01g)である。

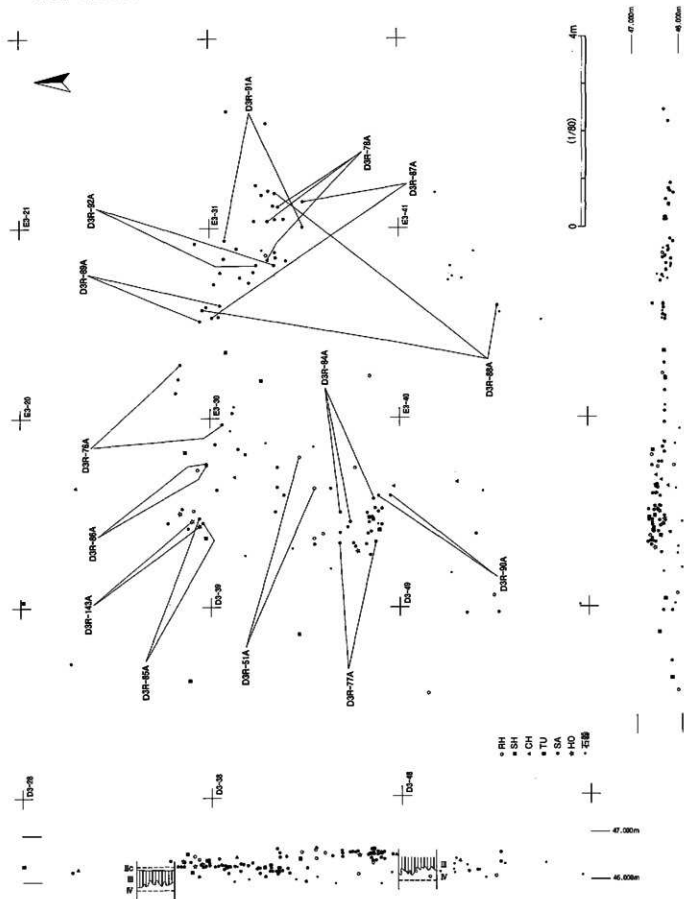
・D3-13:自然面は平滑で灰色(10Y4/1)、内部は灰色(10Y5/1)、新鮮な面は灰色(10Y4/1)のホルンフェルスである。剥片1点(7.98g)の単独資料である。



第67図 D3-Bブロック出土遺物分布(1) -器種別分布-



第68図 D3-Bブロック出土遺物分布(2) -石材別分布-



第69図 D3-Bブロック出土遺物分布(3) - 礫石材別分布 -

・D3-14: 内部は灰色 (10Y5/1) の地に黄粉状の点紋が入り、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) のホルンフェルスである。剥片1点 (0.84 g) の単独資料である。

・D3-15: 内部は灰色 (5Y5/1) ・にぶい黄色 (2.5Y6/4)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) のホルンフェルスである。剥片1点 (1.06 g) の単独資料である。

・D3-16: 内部は暗灰色 (2.5Y5/2) の地に褐色 (7.5YR4/4) ・黄灰色 (2.5Y6/1) が部分的に混じり、節理はにぶい黄褐色 (10YR5/3) で半透明な瑪瑙・玉髓である。石器群の内訳は、剥片2点 (1個体: 10.92 g) である。接合資料は、剥片2点 (1個体: 10.92 g) である。

なお、母岩分類できなかった資料に、チャート1点 (0.77 g) がある。

3) 出土遺物 (第70図1~5)

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片で、折断面に細かい調整加工を行っている。

2は砂岩による敲石である。末端に敲打痕が見られる。

3は瑪瑙・玉髓、4はチャートによる縦長剥片である。3は2点が接合して1個体となる。

5はチャートによる石核である。求心的な剥離作業により、小型で不定型な剥片を剥離している。

4) 接合資料とその関連資料 (第70図6~9)

・D3-12 (第70図6~9) 灰色 (5Y5/1) などのホルンフェルスである。6は剥片2点 (7・8) の接合資料である。

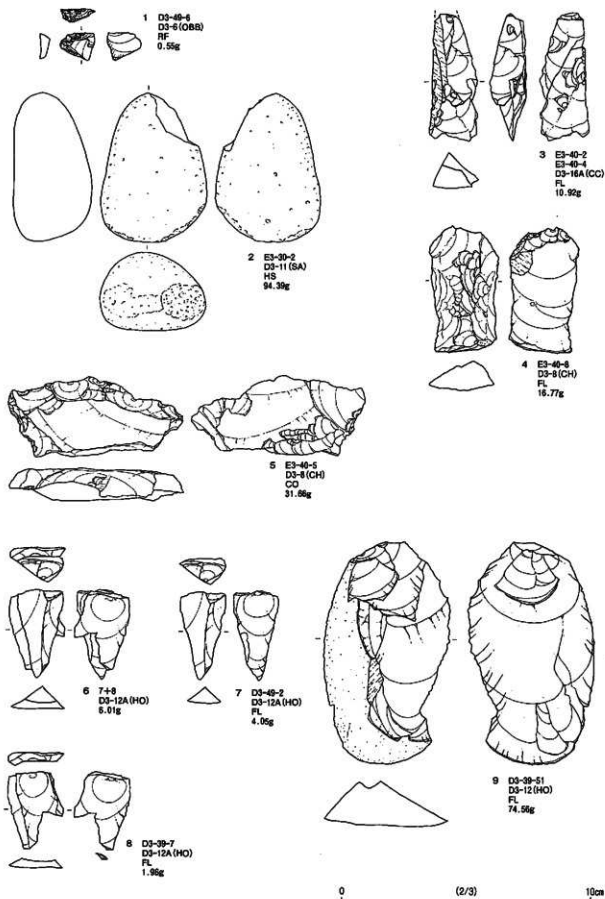
9は接合しなかった同一母岩の縦長剥片である。

第27表 D3-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
D3-6(OBB)																	1							1
D3-8(OBB)										1														1
D3-7(SHC)																	1							1
D3-8(CH)																	2	1						3
D3-9(CH)																	1							1
D3-10(CH)																	1							1
D3-11(SA)															1									1
D3-12(HO)																	5							5
D3-13(HO)																	1							1
D3-14(HO)																	1							1
D3-15(HO)																	1							1
D3-16(CO)																	2(1)							2(1)
その他(CH)																	1							1
合計										1					1		17(16)	1						20(19)

第28表 D3-Bブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石(OBB)											1						1							2
頁岩(CSHC)																	1							1
チャート(CH)																	5		1					6
砂岩(SA)															1									1
ホルンフェルス(HO)																	8							8
瑪瑙・玉髓(CO)																	2(1)							2(1)
合計										1					1		17(16)	1						20(19)



第70図 D3-Bブロック出土遺物

第29表 D3-Bブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
D3R-80	RH	1	11.18
D3R-81	RH	2	85.66
D3R-82	RH	1	12.12
D3R-83	RH	1	18.06
D3R-84	RH	1	9.44
D3R-85	RH	1	4.54
D3R-86	RH	1	2.91
D3R-87	RH	1	1.86
D3R-88	RH	1	2.43
D3R-89	RH	1	1.22
D3R-90	SH	1	7.02
D3R-91	CH	1	10.54
D3R-92	CH	1	4.94
D3R-93	CH	1	11.81
D3R-94	CH	1	4.46
D3R-95	HQ	1	25.14
D3R-96	TU	1	9.01
D3R-97	TU	2	31.84
D3R-98	TU	1	5.67
D3R-99	TU	1	11.37
D3R-100	TU	1	5.18
D3R-101	TU	1	1.28
D3R-102	TU	1	1.31
D3R-103	TU	1	3.61
D3R-104	SA	1	53.54
D3R-105	SA	1	59.58
D3R-106	SA	2	129.94
D3R-107	SA	2	31.83
D3R-108	SA	3	111.20
D3R-109	SA	1	76.59
D3R-110	SA	1	59.14
D3R-111	SA	1	9.36
D3R-112	SA	1	7.86
D3R-113	SA	1	0.31
D3R-114	SA	3	46.20

母岩	石材	個数	重量
D3R-85	SA	2	33.73
D3R-86	SA	2	65.47
D3R-87	SA	2	66.43
D3R-88	SA	3	86.01
D3R-89	SA	2	18.94
D3R-90	SA	2	22.43
D3R-91	SA	2	6.66
D3R-92	SA	2	11.66
D3R-93	SA	1	137.35
D3R-94	SA	1	80.38
D3R-95	SA	1	132.06
D3R-96	SA	1	58.29
D3R-97	SA	1	49.35
D3R-98	SA	1	42.29
D3R-99	SA	1	34.90
D3R-100	SA	1	25.85
D3R-101	SA	1	21.30
D3R-102	SA	1	47.17
D3R-103	SA	1	17.83
D3R-104	SA	1	36.87
D3R-105	SA	1	34.55
D3R-106	SA	1	28.23
D3R-107	SA	1	23.76
D3R-108	SA	1	18.17
D3R-109	SA	1	16.08
D3R-110	SA	1	12.89
D3R-111	SA	1	22.97
D3R-112	SA	1	8.31
D3R-113	SA	1	14.31
D3R-114	SA	1	22.70
D3R-115	SA	1	22.15
D3R-116	SA	1	24.91
D3R-117	SA	1	18.96
D3R-118	SA	1	13.36
D3R-119	SA	1	13.83

母岩	石材	個数	重量
D3R-120	SA	1	7.22
D3R-121	SA	1	7.88
D3R-122	SA	1	4.50
D3R-123	SA	1	14.20
D3R-124	SA	1	6.09
D3R-125	SA	1	3.74
D3R-126	SA	1	5.39
D3R-127	SA	1	4.31
D3R-128	SA	1	15.38
D3R-129	SA	1	7.95
D3R-130	SA	1	14.89
D3R-131	SA	1	4.42
D3R-132	SA	1	15.47
D3R-133	SA	1	4.57
D3R-134	SA	1	11.79
D3R-135	SA	1	7.01
D3R-136	SA	1	4.91
D3R-137	SA	1	5.59
D3R-138	SA	1	2.56
D3R-139	SA	1	3.02
D3R-140	SA	1	4.05
D3R-141	SA	1	2.85
D3R-142	SA	1	1.30
D3R-143	HO	2	50.41
D3R-144	HO	1	153.75

石材	個数	重量
流紋岩(RH)	11	149.22
頁岩(SH)	1	7.02
チャート(CH)	4	31.77
凝灰岩(TU)	9	69.57
砂岩(SA)	84	2,033.87
ホルンフェルス(HO)	4	229.30
合計	113	2,520.75

5 D3-Cブロック (第71・72図, 第30~32表, カラー図版6)

1) ブロックの概要

D3-Cブロックは、調査範囲西側のD3-14グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地の北東側縁辺部で、傾斜変換点(台地の縁辺)までの距離は17mである。

ブロックの規模と形状は、直径2mの範囲に3点の石器・礫が分布する。出土層位は、Ⅲ層を中心に、30cmほどの高低差をもって包含されている(第71図)。

ブロックは、割片1点と礫2点で構成される。石器石材は、頁岩C1点である。礫石材は、流紋岩1点(1母岩:16.59g)、砂岩1点(1母岩:14.13g)で、識別率は100%である。

2) 母岩の特徴と内容

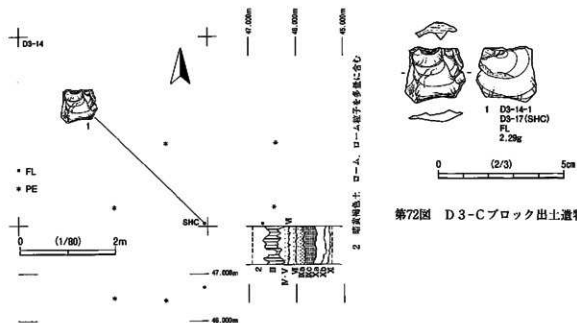
本ブロックでは1母岩を識別した。内訳は、頁岩C1母岩(D3-17)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%(1/1点)である。

第3節 第2文化層

・D3-17：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・黄褐色（10YR5/6）、節理は黄褐色（10YR5/6）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.29g）の単独資料である。

3) 出土遺物（第72図）

1は嶺岡産頁岩による不定型な剥片である。



第72図 D3-Cブロック出土遺物

第71図 D3-Cブロック出土遺物分布・器種・石材別分布

第30表 D3-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
D3-17(SHG)																		1							1
合計																	1								1

第31表 D3-Cブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
頁岩(SHG)																	1								1
合計																	1								1

第32表 D3-Cブロック標組成

母岩	石材	個数	重量
D3R-145	RH	1	16.59
D3R-146	SA	1	14.13

石材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	16.59
砂岩(SA)	1	14.13
合計	2	30.72

6 C4-Aブロック (第73~83図, 第33~35表, 図版5・6, カラー図版6・7・9)

1) ブロックの概要

C4-Aブロックは、調査範囲西側のC4-40~44・50~55・64~66・74~77・81~84・91~94, C5-01~04グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地の南西側縁辺部で、傾斜変換点(台地の縁辺)までの距離は15mである。

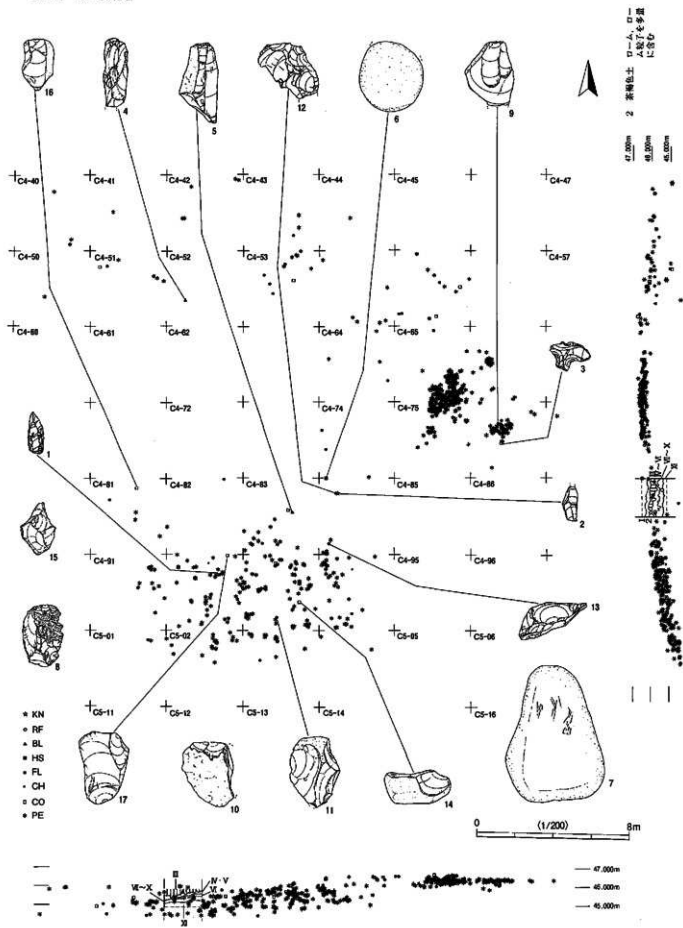
ブロックの規模と形状は、長軸29m, 短軸26mの範囲に848点の石器・礫が分布する。その内、原位置不明の遺物が207点ある。出土層位は、Ⅲ層上部からⅣ層下部にかけて、200cmほどの高低差をもって包含されている(第73~79図)。

ブロックは、ナイフ形石器2点、加工痕ある剥片1点、石刃2点、敲石1点、台石1点、剥片39点、砕片2点、石核14点の合計62点と礫786点で構成される。石器石材は、黒曜石B2点、安山岩8点、軟質の安山岩3点、流紋岩1点、頁岩B4点、頁岩C7点、頁岩D5点、頁岩E8点、凝灰岩7点、砂岩2点、ホルンフェルス12点、瑪瑙・玉髄3点である。礫石材は、安山岩7点(7母岩; 351.84g)、流紋岩215点(174母岩; 11,785.92g)、頁岩2点(2母岩; 91.71g)、チャート68点(65母岩; 3,195.64g)、凝灰岩71点(67母岩; 6,308.46g)、砂岩377点(317母岩; 22,818.38g)、ホルンフェルス46点(41母岩; 3,662.20g)で、識別率は100%である。

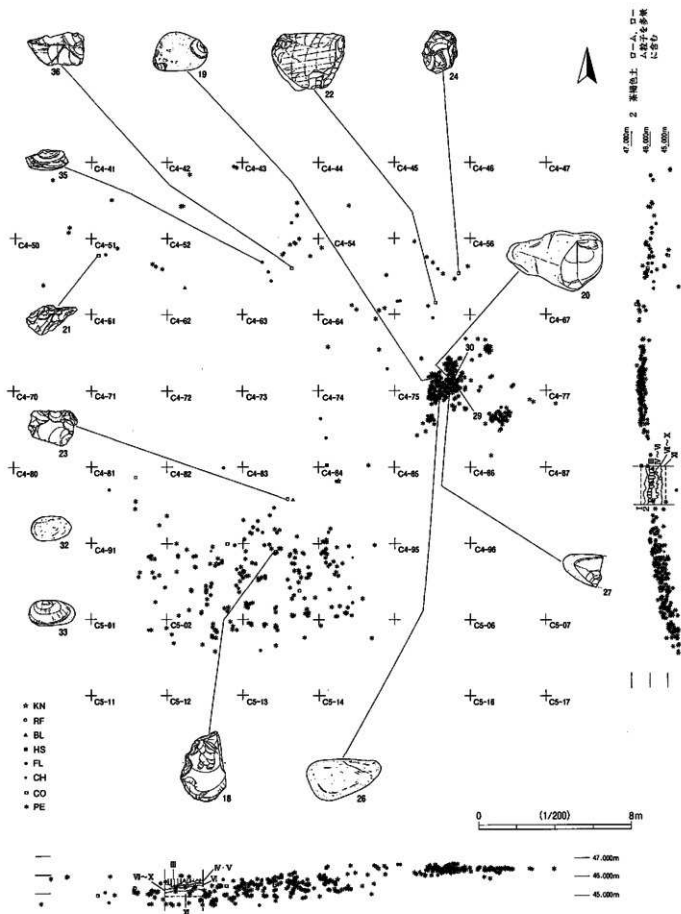
2) 母岩の特徴と内容

本ブロックでは52母岩を識別した。内訳は、黒曜石B2母岩(C4-237・291)、安山岩6母岩(C4-238~243)、軟質の安山岩3母岩(C4-245~247)、流紋岩1母岩(C4-244)、頁岩B2母岩(C4-248・249)、頁岩C6母岩(C4-250~255)、頁岩D4母岩(C4-256~259)、頁岩E7母岩(C4-260~266)、凝灰岩6母岩(C4-267~272)、砂岩2母岩(C4-273・274)、ホルンフェルス10母岩(C4-275~278・280~285)、瑪瑙・玉髄3母岩(C4-286~288)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は97%(60/62点)である。

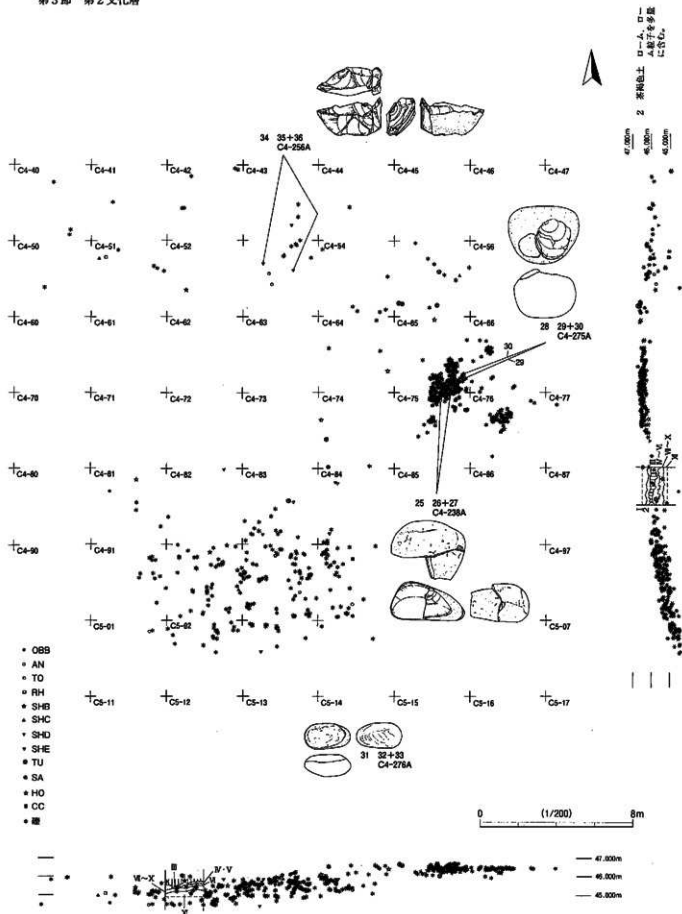
- ・C4-237: 薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点(1.93g)の単独資料である。
- ・C4-238: 自然面は浅い爪形の裂痕があり暗灰黄色(2.5Y4/2)・にぶい黄褐色(10YR6/4)の地ににぶい赤褐色(5YR4/4)が帯状に混じり、内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石器群の内訳は、剥片2点(219.02g)である。接合資料は、剥片2点(219.02g)である。
- ・C4-239: 自然面は深い爪形の裂痕があり、自然面及び内部は灰黄色(2.5Y6/2)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石核1点(15.55g)の単独資料である。
- ・C4-240: 自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部はオリーブ褐色(2.5Y4/4)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。剥片1点(35.13g)の単独資料である。
- ・C4-241: 内部はオリーブ褐色(2.5Y4/3)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。剥片1点(1.99g)の単独資料である。
- ・C4-242: 自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部はオリーブ褐色(2.5Y4/4)の安山岩である。剥片1点(5.28g)の単独資料である。
- ・C4-243: 灰色(5Y5/1)・暗青灰色(5PB4/1)の安山岩である。剥片1点(4.07g)の単独資料である。
- ・C4-244: 自然面は比較的平滑でにぶい黄色(2.5Y6/3)、内部は灰白色(10Y7/1)の地に灰黄色



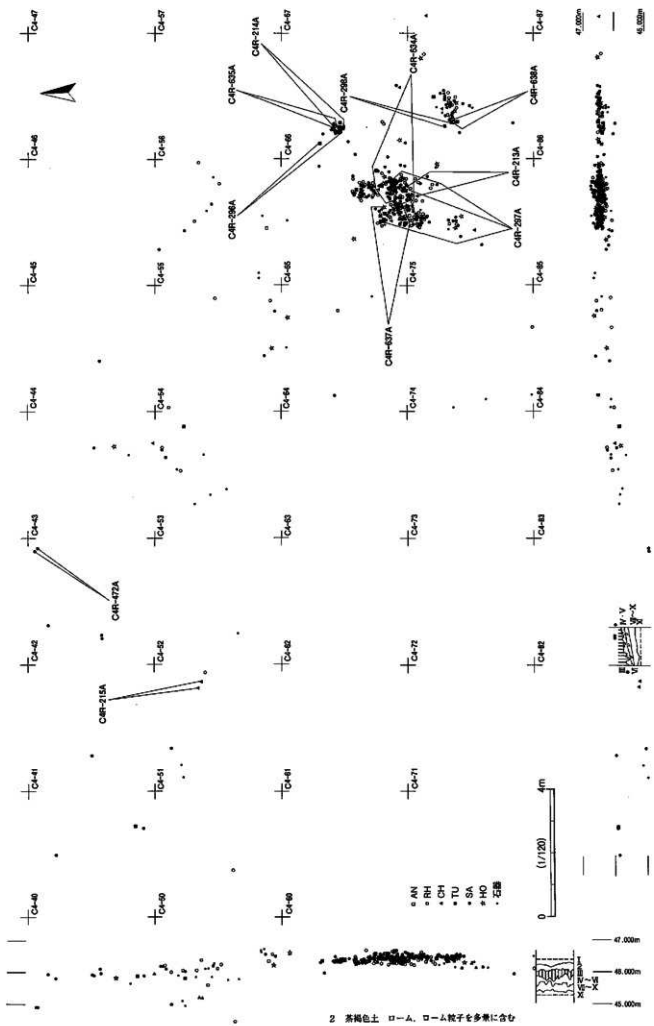
第73図 C4-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別分布(1) -



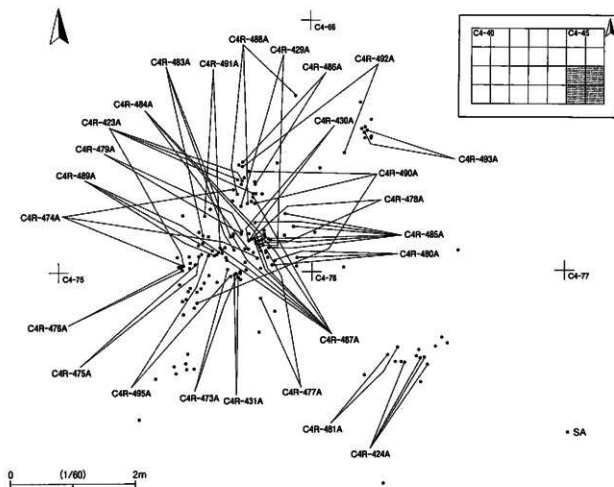
第74図 C4-Aブロック出土遺物分布(2) - 器種別分布(2) -



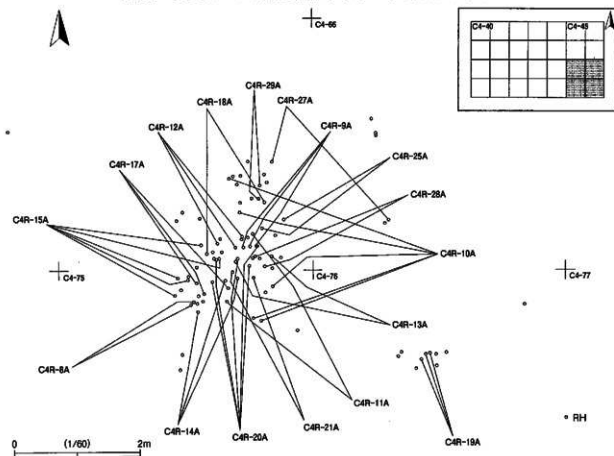
第75図 C4-Aブロック出土遺物分布(3) -石材別分布-



第76図 C4-Aブロック出土遺物分布(4) - 礫石材別分布(1) -



第78図 C4-Aブロック出土遺物分布(6) - 礫母岩別分布(1) -



第79図 C4-Aブロック出土遺物分布(7) - 礫母岩別分布(2) -

(25Y7/2) が部分的に混じり、節理はにぶい黄褐色 (10YR5/4) の流紋岩である。剥片1点 (15.02 g) の単独資料である。

・C4-245: 自然面は比較的平滑でにぶい橙色 (7.5YR7/4) ・にぶい褐色 (7.5YR5/4)、内部は灰白色 (2.5Y8/1)、節理はにぶい黄褐色 (10YR5/3) ・暗赤褐色 (5YR3/3) の軟質の安山岩である。石核1点 (34.21 g) の単独資料である。

・C4-246: 内部は灰白色 (10Y7/1) の地に灰白色 (2.5Y8/2) が部分的に混じり、新鮮な面は灰色 (10Y5/1) の軟質の安山岩である。剥片1点 (1.86 g) の単独資料である。

・C4-247: 内部は灰白色 (10Y7/1)、新鮮な面は灰色 (10Y5/1) の軟質の安山岩である。剥片1点 (5.12 g) の単独資料である。

・C4-248: 内部は黄褐色 (2.5Y5/3) ・褐色 (7.5YR4/4)、新鮮な面は灰黄色 (2.5Y6/2) ・灰白色 (2.5Y7/1) の北関東産頁岩である。石刃1点 (9.96 g) の単独資料である。

・C4-249: 自然面は比較的平滑で黄褐色 (10YR5/6)、内部は黄褐色 (2.5Y5/3) の地に褐色 (7.5YR4/4) が混じり、節理は褐色 (10YR4/6) の北関東産頁岩である。石器群の内訳は、剥片2点 (25.48 g) である。

・C4-250: 内部はにぶい黄色 (2.5Y6/3) ・黄灰色 (2.5Y5/1)、新鮮な面は灰黄褐色 (10YR5/2) の嶺南産頁岩である。石核1点 (8.29 g) の単独資料である。

・C4-251: 自然面は凹凸があり灰オリーブ色 (5Y6/2)、内部は黄灰色 (2.5Y5/1) ・灰オリーブ色 (5Y5/2) ・にぶい褐色 (7.5YR5/3)、新鮮な面は灰オリーブ色 (5Y5/2) の嶺南産頁岩である。自然面は節理の可能性がある。石核1点 (15.67 g) の単独資料である。

・C4-252: 内部は黄褐色 (2.5Y5/4) の地に黄灰色 (2.5Y5/1) が部分的に混じり、節理は褐色 (10YR4/6) の嶺南産頁岩である。剥片1点 (4.37 g) の単独資料である。

・C4-253: 内部及び新鮮な面は灰色 (5Y4/1) ・灰オリーブ色 (5Y4/2) の地に褐色 (10YR4/4) が部分的に混じり、節理はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) ・にぶい黄褐色 (10YR5/4) の嶺南産頁岩である。石器群の内訳は、剥片2点 (35.53 g) である。

・C4-254: 自然面は凹凸があり褐色 (10YR4/4)、内部は灰オリーブ色 (5Y4/2) の嶺南産頁岩である。剥片1点 (4.97 g) の単独資料である。

・C4-255: 自然面は爪形の裂痕がありオリーブ褐色 (2.5Y4/3)、内部は黄褐色 (2.5Y5/3) の地に灰白色 (5Y7/2) ・灰色 (5Y5/1) が部分的に混じり、節理は褐色 (7.5YR4/4) の嶺南産頁岩である。剥片1点 (9.12 g) の単独資料である。

・C4-256: 自然面は比較的平滑で暗灰黄色 (2.5Y4/2) ・黒褐色 (2.5Y3/2)、内部は暗灰黄色 (2.5Y4/2) の地に浅黄色 (2.5Y7/4) の斑紋が入る硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は、剥片1点、石核1点の合計2点 (26.51 g) である。接合資料は、剥片1点、石核1点の合計2点 (26.51 g) である。

・C4-257: 自然面は浅い爪形の裂痕があり黒褐色 (2.5Y3/2)、内部は灰色 (7.5Y4/1) ・灰色 (7.5Y5/1) の地に青黒色 (10B2/1) が部分的に網目状に入り、節理はオリーブ褐色 (2.5Y4/4) の硬質緻密な頁岩である。剥片1点 (8.01 g) の単独資料である。

・C4-258: 黒褐色 (2.5Y3/1) ・暗灰黄色 (2.5Y4/2) の硬質緻密な頁岩である。剥片1点 (2.46 g) の単独資料である。

・C4-259: 内部は灰黄色 (2.5Y7/2)、節理は明黄褐色 (2.5Y6/6) の硬質緻密な頁岩である。剥片1点

(23.48 g) の単独資料である。

- ・C4-260:自然面は比較的平滑でぶい黄色 (25Y6/3)・灰オリーブ色 (5Y6/2)、内部は灰白色 (10Y7/1)、新鮮な面は灰色 (10Y5/1) の頁岩である。石核 1点 (97.07 g) の単独資料である。
- ・C4-261:自然面は比較的平滑で灰オリーブ色 (5Y6/2)、内部は灰色 (5Y5/1)・灰黄色 (25Y6/2)、新鮮な面は灰色 (N5/0) の頁岩である。石刃 1点 (19.55 g) の単独資料である。
- ・C4-262:内部は灰色 (10Y6/1)・ぶい黄色 (25Y6/3)、新鮮な面は灰色 (N5/0) の頁岩である。石器群の内訳は、ナイフ形石器 1点、剥片 1点の合計 2点 (12.51 g) である。
- ・C4-263:自然面は爪形の裂痕があり灰黄色 (25Y7/2)、内部は灰色 (5Y6/1)、節理はぶい黄色 (25Y6/3)・灰黄褐色 (10YR7/2)、新鮮な面は灰色 (N6/0)・暗灰色 (N3/0) の頁岩である。石核 1点 (66.58 g) の単独資料である。
- ・C4-264:自然面は平滑で灰オリーブ色 (5Y5/2)、内部は浅黄色 (25Y7/3)、新鮮な面は暗青灰色 (5PB3/1) の頁岩である。剥片 1点 (14.88 g) の単独資料である。
- ・C4-265:自然面は紙ヤスリ状でぶい褐色 (7.5YR5/4)、内部は灰白色 (2.5Y8/2)・灰白色 (7.5Y7/1)、節理は黄褐色 (2.5Y5/3) の頁岩である。剥片 1点 (3.69 g) の単独資料である。
- ・C4-266:自然面は凹凸がありぶい褐色 (7.5YR5/4)、内部は灰白色 (7.5Y7/1)、節理は褐色 (7.5YR4/4) の頁岩である。剥片 1点 (8.23 g) の単独資料である。
- ・C4-267:自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は灰色 (10Y6/1)・浅黄色 (2.5Y7/3)、節理は褐色 (7.5YR4/4) の凝灰岩である。石核 1点 (221.37 g) の単独資料である。
- ・C4-268:自然面は比較的平滑でオリーブ黄色 (5Y6/3)・浅黄色 (2.5Y7/3) の地に黒褐色 (2.5Y3/1) が混じり、内部は明緑灰色 (7.5GY7/1)・暗緑灰色 (7.5GY4/1) の地にオリーブ黄色 (5Y6/3) が黄粉状に混じる凝灰岩である。石核 1点 (185.14 g) の単独資料である。
- ・C4-269:自然面は平滑で灰白色 (7.5Y7/2)、内部は灰白色 (10Y8/1)、新鮮な面は灰白色 (10Y8/1) の凝灰岩である。石核 1点 (18.05 g) の単独資料である。
- ・C4-270:自然面は凹凸があり灰白色 (5Y8/2)・ぶい黄色 (25Y6/4)、内部及び新鮮な面はオリーブ灰色 (5GY5/1) にオリーブ灰色 (5GY6/1) の点紋が入る凝灰岩である。珪化度が高い。剥片 1点 (28.03 g) の単独資料である。
- ・C4-271:内部は灰色 (10Y5/1)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の凝灰岩である。剥片 1点 (2.81 g) の単独資料である。
- ・C4-272:内部は灰色 (10Y5/1)、節理は黄褐色 (2.5Y5/3)、新鮮な面は暗灰色 (N3/0) の凝灰岩である。石器群の内訳は、剥片 2点 (5.92 g) である。
- ・C4-273:自然面は比較的平滑で灰黄色 (25Y6/2)・浅黄色 (2.5Y7/3)、内部は黄灰色 (2.5Y5/1) の砂岩である。敲石 1点 (397.99 g) の単独資料である。
- ・C4-274:自然面は比較的平滑でぶい橙色 (2.5YR6/4)・ぶい黄褐色 (10YR5/3)・暗灰黄色 (2.5Y5/2)、内部は灰黄褐色 (10YR6/2)・ぶい橙色 (2.5YR6/4)、節理は灰赤色 (2.5YR4/2)、新鮮な面は褐色 (10YR4/4) の砂岩である。YR系は被熱による変色の可能性がある。台石 1点 (1,092.66 g) の単独資料である。
- ・C4-275:自然面は比較的平滑で灰オリーブ色 (5Y5/2)・暗灰黄色 (2.5Y5/2) の地に灰白色 (5Y7/2)

が同心円状に混じり、内部は灰色(5Y5/1)・灰白色(5Y8/2)・褐色(10YR4/4)、節理は褐色(10YR4/4)・灰黄褐色(10YR5/2)、新鮮な面は灰黄褐色(10YR4/2)・灰色(5Y5/1)のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片1点、石核1点の合計2点(341.32g)である。接合資料は、剥片1点、石核1点の合計2点(341.32g)である。

・C4-276：自然面は比較的平滑で、自然面及び内部は暗灰黄色(2.5Y4/2)・にぶい褐色(7.5YR5/4)・浅黄色(2.5Y7/3)のホルンフェルスである。石器群の内訳は、剥片1点、石核1点の合計2点(40.03g)である。接合資料は、剥片1点、石核1点の合計2点(40.03g)である。

・C4-277：自然面は比較的平滑で暗灰黄色(2.5Y5/2)・灰色(5Y5/1)、内部は灰黄色(2.5Y6/2)・灰黄褐色(10YR5/2)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。石核1点(26.52g)の単独資料である。

・C4-278：自然面は平滑で灰色(5Y5/1)、内部は灰色(5Y6/1)・灰オリーブ色(5Y6/2)、節理はにぶい黄褐色(10YR5/4)、新鮮な面は灰色(N5/0)のホルンフェルスである。石核1点(35.00g)の単独資料である。

・C4-280：自然面は平滑でオリーブ褐色(2.5Y4/6)、内部は灰色(5Y6/1)、節理は褐色(10YR4/4)のホルンフェルスである。剥片1点(7.96g)の単独資料である。

・C4-281：灰色(10Y5/1)のホルンフェルスである。剥片1点(1.40g)の単独資料である。

・C4-282：自然面は比較的平滑でにぶい黄色(2.5Y6/3)の地に黄灰色(2.5Y5/1)・灰白色(2.5Y7/1)が部分的に混じり、内部は黄灰色(2.5Y5/1)・にぶい黄褐色(10YR6/4)で、黒い粉状の付着物のあるホルンフェルスである。剥片1点(5.27g)の単独資料である。

・C4-283：自然面は平滑で灰色(5Y4/1)、内部は灰オリーブ色(5Y5/2)、節理はオリーブ黒色(5Y3/1)、新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。剥片1点(7.20g)の単独資料である。

・C4-284：自然面は比較的平滑で黄褐色(2.5Y5/3)、内部は浅黄色(2.5Y7/3)、節理はオリーブ褐色(2.5Y4/4)のホルンフェルスである。剥片1点(0.86g)の単独資料である。

・C4-285：内部は灰色(10Y5/1)・暗灰黄色(2.5Y5/2)、新鮮な面は灰色(N4/0)のホルンフェルスである。剥片1点(7.11g)の単独資料である。

・C4-286：灰白色(2.5Y8/1)・浅黄色(2.5Y7/3)の瑪瑙・玉髄である。加工痕ある剥片1点(5.63g)の単独資料である。

・C4-287：内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)、節理は灰白色(2.5Y8/1)の瑪瑙・玉髄である。剥片1点(1.28g)の単独資料である。

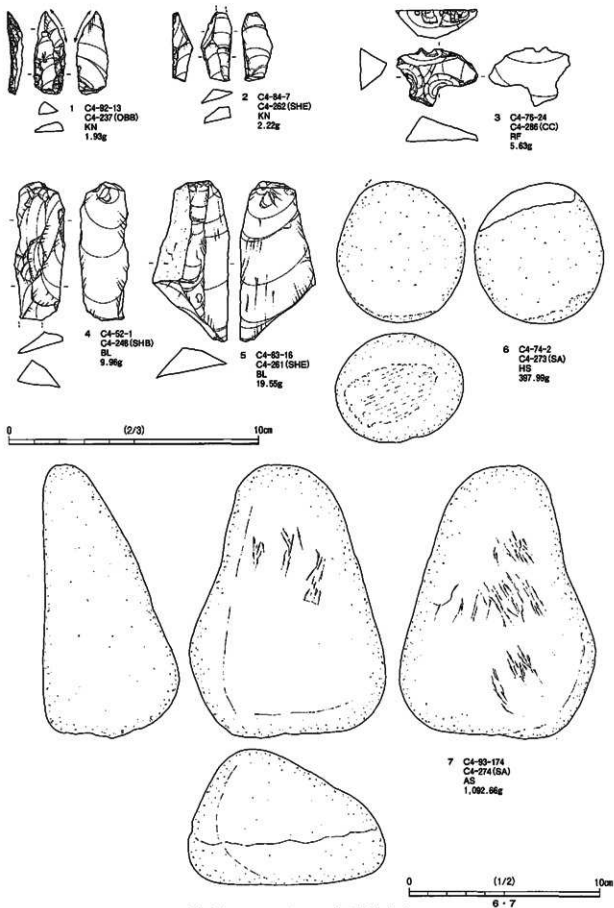
・C4-288：黒褐色(10YR2/2)の瑪瑙・玉髄である。砕片1点(0.59g)の単独資料である。

・C4-291：自然面は紙ヤスリ状で、自然面及び内部は透明な地に黒灰色のモヤの入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点(0.59g)の単独資料である。

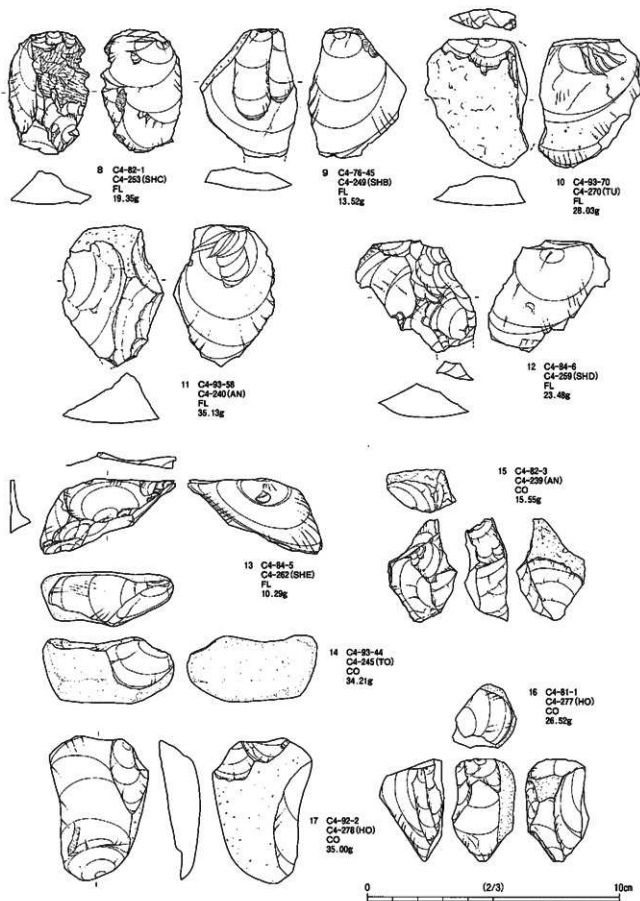
なお、母岩分類できなかった資料に、安山岩1点(1.64g)、頁岩B1点(0.24g)がある。

3) 出土遺物(第80～82図)

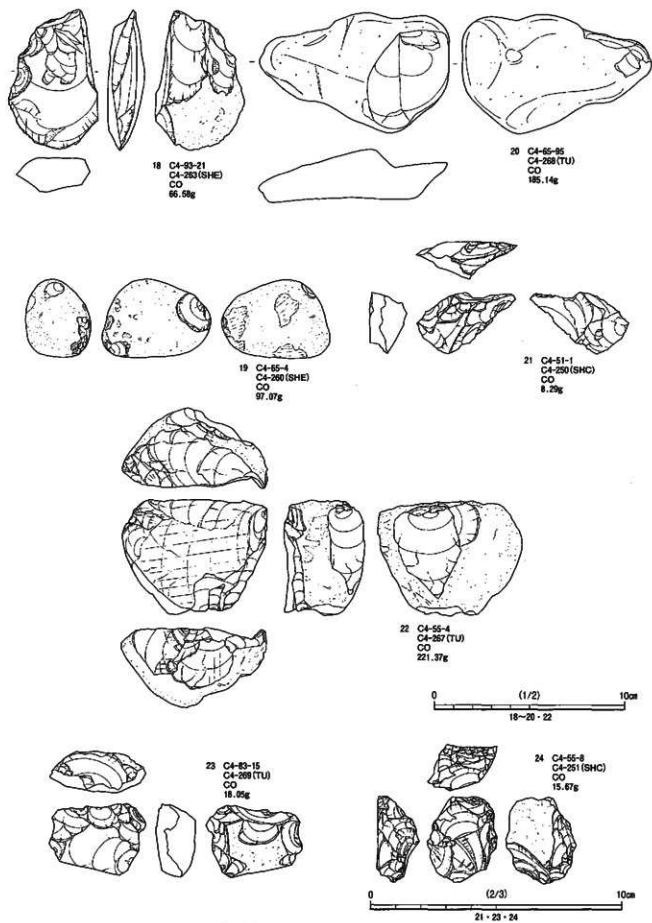
1は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片あるいは石刃の打面側を基部として、左側縁と右側縁下半部に細かい調整加工を行っている。また、正面の右側縁上半部と裏面の左側縁上半部に刃こぼれが見られる。2は頁岩による一側縁加工あるいは部分加工のナイフ形石器で



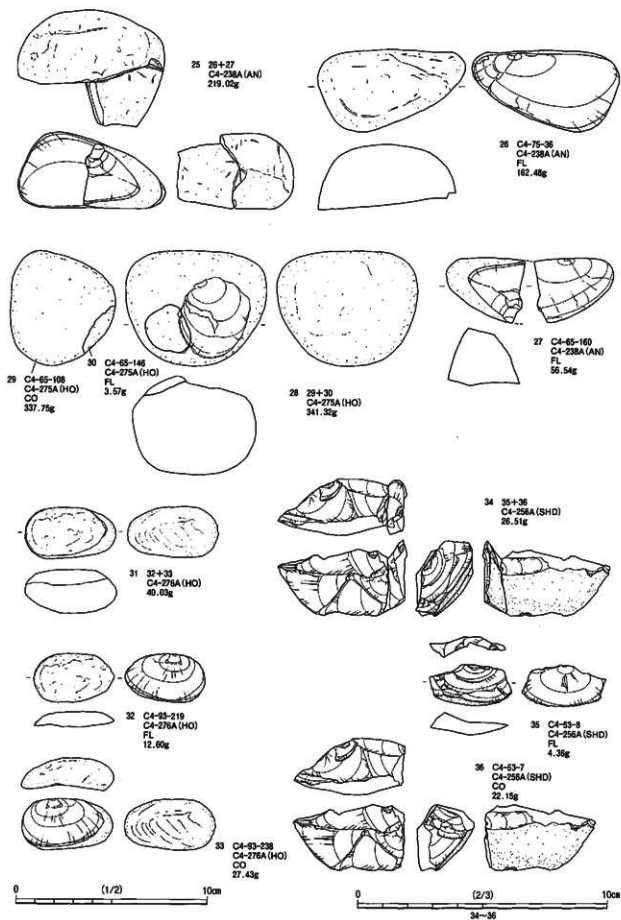
第80図 C4-Aブロック出土遺物(1)



第81図 C4-Aブロック出土遺物(2)



第82図 C4-Aブロック出土遺物(3)



第83図 C4-Aブロック出土遺物(4)

ある。縦長剥片あるいは石刃の打面側を基部として、左側縁に細かい調整加工を行っている。

3は玉髄・瑪瑙による加工痕ある剥片である。求心的な剥離作業を行った残核の右側縁に細かい調整加工を行っている。

4は北関東産頁岩による稜付き石刃、5は頁岩による石刃である。

6は砂岩による敲石である。小振りの握り拳大の礫の末端に磨痕状の敲打痕が見られる。

7は砂岩による台石である。比較的大型の不定型な礫の両面の平坦面に浅い敲打痕が見られる。

8は嶺岡産頁岩、9は北関東産頁岩、10は凝灰岩、11は安山岩、12は硬質緻密な頁岩、13は頁岩による剥片である。8～12は不定型な剥片、13は横長剥片である。

14は軟質な安山岩、15は安山岩、16・17はホルンフェルス、18・19は頁岩、20・22・23は凝灰岩、21・24は嶺岡産頁岩による石核である。14・17～19・21は打面と作業面を入れ替えながら、15・16・20・22は打面を転移しながら、23・24は打面と作業面を入れ替えながら、求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。

4) 接合資料とその関連資料 (第83図)

・C4-238 (第83図25～27) 暗灰黄色 (2.5Y5/2) などの安山岩である。25は剥片2点 (26・27) の接合資料である。

・C4-275 (第83図28～30) 灰色 (5Y5/1) などのホルンフェルスである。28は剥片1点 (30)、石核1点 (29) の接合資料である。30は図示しなかったが、29に残る剥離痕と同一方向の加撃により、剥離されている。

・C4-276 (第83図31～33) 暗灰黄色 (2.5Y4/2) などのホルンフェルスである。31は剥片1点 (32)、石核1点 (33) の接合資料である。

・C4-256 (第83図34～36) 暗灰黄色 (2.5Y4/2) などの硬質緻密な頁岩である。34は剥片1点 (35)、石核1点 (36) の接合資料である。36は35を剥離した後、その面を打面として、小型で不定型な剥片を剥離している。

第33表 C4-Aブロック石材別石器組成

石 材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計	
風稜石(OBB)	1																1							2	
安山岩(AN)																	7		1						8
燧山岩(TO)																	2		1						3
凝灰岩(RH)																	1								1
頁岩(SH)												1					2	1							4
頁岩C(SHC)																	5		2						7
頁岩D(SHD)																	4		1						5
頁岩E(SHE)	1											1					4		2						8
凝灰岩(TU)																	4		3						7
砂岩(SA)															1	1									2
ホルンフェルス(HF)																	8		4						12
瑪瑙・玉髄(CC)										1							1	1							3
合 計	2									1	1	2			1	1	39	2	14						62

第34表 C4-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C4-237(OBB)	1																							1
C4-238(AN)																	2							2
C4-239(AN)																			1					1
C4-240(AN)																	1							1
C4-241(AN)																	1							1
C4-242(AN)																	1							1
C4-243(AN)																	1							1
C4-244(RD)																	1							1
C4-245(TO)																			1					1
C4-246(TO)																	1							1
C4-247(TO)																	1							1
C4-248(SHB)												1												1
C4-249(SHB)																	2							2
C4-250(SHC)																			1					1
C4-251(SHC)																			1					1
C4-252(SHC)																	1							1
C4-253(SHC)																	2							2
C4-254(SHC)																	1							1
C4-255(SHC)																	1							1
C4-256(SHD)																	1		1					2
C4-257(SHD)																	1							1
C4-258(SHD)																	1							1
C4-259(SHD)																	1							1
C4-260(SHE)																			1					1
C4-261(SHE)												1												1
C4-262(SHE)	1																1							2
C4-263(SHE)																			1					1
C4-264(SHE)																	1							1
C4-265(SHE)																	1							1
C4-266(SHE)																	1							1
C4-267(TU)																			1					1
C4-268(TU)																			1					1
C4-269(TU)																			1					1
C4-270(TU)																	1							1
C4-271(TU)																	1							1
C4-272(TU)																	2							2
C4-273(SA)															1									1
C4-274(SA)																1								1
C4-275(HO)																	1		1					2
C4-276(HO)																	1		1					2
C4-277(HO)																			1					1
C4-278(HO)																			1					1
C4-280(HO)																	1		1					1
C4-281(HO)																	1							1
C4-282(HO)																	1							1
C4-283(HO)																	1							1
C4-284(HO)																	1							1
C4-285(HO)																	1							1
C4-286(GC)										1														1
C4-287(GC)																								1
C4-288(GC)																	1		1					1
C4-291(OBB)																			1		1			1
その他(AN)																			1					1
その他(SHB)																			1					1
合計	2									1	2				1	1	39	2	14					62

第35表 C4-Aブロック群組成

母	岩	石	材	個数	重量
C4R-1	AN			1	32.04
C4R-2	AN			1	43.67
C4R-3	AN			1	38.14
C4R-4	AN			1	74.44
C4R-5	AN			1	58.55
C4R-6	AN			1	31.99
C4R-7	AN			1	72.01
C4R-8	RH			2	67.00
C4R-9	RH			3	237.35
C4R-10	RH			5	238.19
C4R-11	RH			2	195.05
C4R-12	RH			3	203.40
C4R-13	RH			2	198.18
C4R-14	RH			3	282.85
C4R-15	RH			5	353.57
C4R-16	RH			2	60.00
C4R-17	RH			3	117.18
C4R-18	RH			2	87.39
C4R-19	RH			3	202.87
C4R-20	RH			5	139.74
C4R-21	RH			2	84.44
C4R-22	RH			4	132.08
C4R-23	RH			2	139.83
C4R-24	RH			2	84.50
C4R-25	RH			2	43.89
C4R-26	RH			3	34.40
C4R-27	RH			2	26.97
C4R-28	RH			2	46.80
C4R-29	RH			2	37.40
C4R-30	RH			1	132.75
C4R-31	RH			1	124.90
C4R-32	RH			1	142.83
C4R-33	RH			1	84.64
C4R-34	RH			1	110.10
C4R-35	RH			1	72.57
C4R-36	RH			1	203.85
C4R-37	RH			1	180.32
C4R-38	RH			1	102.82
C4R-39	RH			1	79.09
C4R-40	RH			1	183.60
C4R-41	RH			1	93.01
C4R-42	RH			1	173.96
C4R-43	RH			1	109.93
C4R-44	RH			1	179.81
C4R-45	SA			1	101.49
C4R-46	RH			1	108.85
C4R-47	RH			1	82.24
C4R-48	RH			1	76.47
C4R-49	RH			1	24.38
C4R-50	RH			1	51.87
C4R-51	RH			1	55.96
C4R-52	RH			1	40.06
C4R-53	RH			1	83.08
C4R-54	RH			1	45.52
C4R-55	RH			1	5.31
C4R-56	RH			1	33.77
C4R-57	RH			1	88.78
C4R-58	RH			1	82.84
C4R-59	RH			1	49.15
C4R-60	RH			1	40.83

母	岩	石	材	個数	重量
C4R-61	RH			1	51.19
C4R-62	RH			1	39.25
C4R-63	RH			1	31.86
C4R-64	RH			1	55.58
C4R-65	RH			1	39.43
C4R-66	RH			1	42.19
C4R-67	RH			1	34.42
C4R-68	RH			1	31.05
C4R-69	RH			1	27.27
C4R-70	RH			1	53.18
C4R-71	RH			1	51.20
C4R-72	RH			1	64.50
C4R-73	RH			1	54.40
C4R-74	RH			1	56.07
C4R-75	RH			1	53.07
C4R-76	RH			1	33.24
C4R-77	RH			1	42.43
C4R-78	RH			1	46.50
C4R-79	RH			1	18.47
C4R-80	RH			1	31.18
C4R-81	RH			1	34.61
C4R-82	RH			1	72.82
C4R-83	RH			1	37.00
C4R-84	RH			1	19.20
C4R-85	RH			1	28.19
C4R-86	RH			1	32.40
C4R-87	RH			1	47.85
C4R-88	RH			1	40.73
C4R-89	RH			1	155.60
C4R-90	RH			1	32.61
C4R-91	RH			1	29.80
C4R-92	RH			1	128.75
C4R-93	RH			1	78.40
C4R-94	RH			1	52.38
C4R-95	RH			1	44.28
C4R-96	RH			1	33.00
C4R-97	RH			1	165.40
C4R-98	SA			1	143.91
C4R-99	RH			1	37.83
C4R-100	RH			1	154.40
C4R-101	RH			1	81.69
C4R-102	RH			1	68.27
C4R-103	RH			1	69.56
C4R-104	RH			1	60.03
C4R-105	RH			1	59.51
C4R-106	RH			1	21.71
C4R-107	RH			1	11.44
C4R-108	RH			1	31.05
C4R-109	RH			1	11.96
C4R-110	RH			1	5.16
C4R-111	RH			1	10.12
C4R-112	RH			1	7.41
C4R-113	RH			1	47.78
C4R-114	RH			1	4.45
C4R-115	RH			1	14.14
C4R-116	RH			1	46.22
C4R-117	SA			1	227.30
C4R-118	RH			1	57.78
C4R-119	RH			1	44.77
C4R-120	RH			1	85.07

母	岩	石	材	個数	重量
C4R-121	RH			1	97.48
C4R-122	RH			1	30.93
C4R-123	RH			1	69.93
C4R-124	RH			1	175.38
C4R-125	RH			1	175.15
C4R-126	RH			1	163.84
C4R-127	RH			1	213.30
C4R-128	RH			1	44.59
C4R-129	RH			1	30.18
C4R-130	RH			1	65.63
C4R-131	RH			1	72.66
C4R-132	RH			1	30.06
C4R-133	RH			1	64.40
C4R-134	RH			1	57.70
C4R-135	RH			1	60.74
C4R-136	RH			1	97.71
C4R-137	RH			1	71.70
C4R-138	RH			1	33.39
C4R-139	RH			1	30.28
C4R-140	RH			1	58.13
C4R-141	RH			1	74.46
C4R-142	RH			1	70.54
C4R-143	RH			1	29.36
C4R-144	RH			1	197.20
C4R-145	RH			1	130.82
C4R-146	RH			1	21.18
C4R-147	RH			1	93.66
C4R-148	RH			1	53.51
C4R-149	RH			1	40.64
C4R-150	RH			1	163.08
C4R-151	RH			1	45.42
C4R-152	RH			1	18.64
C4R-153	RH			1	16.25
C4R-154	RH			1	27.96
C4R-155	RH			3	68.64
C4R-156	RH			1	15.13
C4R-157	RH			1	18.27
C4R-158	RH			1	18.92
C4R-159	RH			1	8.19
C4R-160	RH			1	20.04
C4R-161	RH			1	10.51
C4R-162	RH			1	9.90
C4R-163	RH			1	9.07
C4R-164	RH			1	31.85
C4R-165	RH			1	6.37
C4R-166	RH			1	10.35
C4R-167	RH			1	18.47
C4R-168	RH			1	13.03
C4R-169	RH			1	21.72
C4R-170	RH			1	25.10
C4R-171	RH			1	19.58
C4R-172	RH			1	25.88
C4R-173	RH			1	11.60
C4R-174	RH			1	5.41
C4R-175	RH			1	6.04
C4R-176	RH			1	2.87
C4R-177	RH			1	5.90
C4R-178	RH			1	0.92
C4R-179	RH			1	109.30
C4R-180	RH			1	19.45

母岩	石材	個数	重量
C4R-181	RH	1	12.49
C4R-182	RH	1	55.82
C4R-183	RH	1	8.88
C4R-184	RH	1	5.98
C4R-185	SH	1	67.92
C4R-186	SH	1	23.79
C4R-187	CH	1	110.83
C4R-188	CH	1	71.84
C4R-189	CH	1	111.91
C4R-190	CH	1	95.62
C4R-191	CH	1	103.17
C4R-192	CH	1	77.88
C4R-193	CH	1	35.58
C4R-194	CH	1	40.02
C4R-195	CH	1	31.04
C4R-196	CH	1	79.22
C4R-197	CH	1	24.20
C4R-198	CH	1	32.52
C4R-199	CH	1	52.78
C4R-200	CH	1	36.79
C4R-201	CH	1	49.22
C4R-202	CH	1	101.46
C4R-203	CH	1	50.85
C4R-204	CH	1	73.07
C4R-205	CH	1	48.39
C4R-206	CH	1	48.94
C4R-207	CH	1	43.60
C4R-208	CH	1	24.57
C4R-209	CH	1	1.88
C4R-210	CH	1	131.89
C4R-211	CH	1	118.95
C4R-212	CH	1	116.93
C4R-213	CH	2	52.06
C4R-214	CH	2	95.14
C4R-215	CH	2	26.81
C4R-216	CH	1	78.16
C4R-217	CH	1	87.42
C4R-218	CH	1	46.81
C4R-219	CH	1	70.54
C4R-220	CH	1	16.32
C4R-221	CH	1	138.00
C4R-222	CH	1	58.43
C4R-223	CH	1	51.84
C4R-224	CH	1	42.74
C4R-225	CH	1	20.75
C4R-226	CH	1	60.03
C4R-227	CH	1	6.79
C4R-228	CH	1	38.50
C4R-229	CH	1	40.16
C4R-230	CH	1	53.33
C4R-231	CH	1	49.94
C4R-232	CH	1	49.11
C4R-233	CH	1	35.48
C4R-234	CH	1	28.17
C4R-235	CH	1	20.17
C4R-236	CH	1	59.04
C4R-237	CH	1	24.34
C4R-238	CH	1	1.67
C4R-239	CH	1	3.99
C4R-240	CH	1	5.58

母岩	石材	個数	重量
C4R-241	CH	1	5.39
C4R-242	CH	1	22.65
C4R-243	CH	1	10.34
C4R-244	CH	1	18.15
C4R-245	CH	1	9.03
C4R-246	CH	1	53.99
C4R-247	CH	1	6.41
C4R-248	CH	1	7.69
C4R-249	CH	1	67.15
C4R-250	CH	1	13.39
C4R-251	TU	1	152.99
C4R-252	TU	1	424.40
C4R-253	TU	1	141.03
C4R-254	TU	1	88.65
C4R-255	TU	1	136.71
C4R-256	TU	1	302.25
C4R-257	TU	1	144.40
C4R-258	TU	1	121.97
C4R-259	TU	1	29.13
C4R-260	TU	1	28.34
C4R-261	TU	1	36.18
C4R-262	TU	1	77.35
C4R-263	TU	1	79.40
C4R-264	TU	1	106.41
C4R-265	TU	1	112.03
C4R-266	TU	1	91.23
C4R-267	TU	1	61.71
C4R-268	TU	1	36.91
C4R-269	TU	1	57.47
C4R-270	TU	1	65.37
C4R-271	TU	1	39.68
C4R-272	TU	1	11.16
C4R-273	TU	1	110.89
C4R-274	TU	1	83.16
C4R-275	TU	1	83.95
C4R-276	TU	1	28.10
C4R-277	TU	1	60.31
C4R-278	TU	1	46.25
C4R-279	TU	1	702.00
C4R-280	TU	1	120.25
C4R-281	TU	1	155.29
C4R-282	TU	1	48.77
C4R-283	TU	1	57.07
C4R-284	SA	1	217.72
C4R-285	TU	1	49.42
C4R-286	TU	1	57.09
C4R-287	TU	1	52.73
C4R-288	TU	1	48.09
C4R-289	TU	1	59.38
C4R-290	TU	1	20.98
C4R-291	TU	1	82.26
C4R-292	TU	1	29.87
C4R-293	TU	1	4.57
C4R-294	TU	1	2.89
C4R-295	HO	1	0.09
C4R-296	TU	2	124.44
C4R-297	TU	3	80.79
C4R-298	TU	2	128.47
C4R-299	TU	1	140.83
C4R-300	TU	1	91.98

母岩	石材	個数	重量
C4R-301	TU	1	78.15
C4R-302	TU	1	40.38
C4R-303	TU	1	24.81
C4R-304	TU	1	129.30
C4R-305	TU	1	95.98
C4R-306	TU	1	162.14
C4R-307	TU	1	156.85
C4R-308	TU	1	260.50
C4R-309	TU	1	180.11
C4R-310	TU	1	17.95
C4R-311	TU	1	42.43
C4R-312	TU	1	18.80
C4R-313	TU	1	110.89
C4R-314	TU	1	62.32
C4R-315	TU	1	10.97
C4R-316	TU	1	45.21
C4R-317	TU	1	33.01
C4R-318	TU	1	0.24
C4R-319	TU	1	54.92
C4R-320	SA	1	36.10
C4R-321	SA	1	22.47
C4R-322	SA	1	46.83
C4R-323	SA	1	77.49
C4R-324	SA	1	35.91
C4R-325	SA	1	38.66
C4R-326	SA	1	205.91
C4R-327	SA	1	35.96
C4R-328	SA	1	73.59
C4R-329	SA	1	61.29
C4R-330	SA	1	49.58
C4R-331	SA	1	82.57
C4R-332	SA	1	112.53
C4R-333	SA	1	80.44
C4R-334	SA	1	43.40
C4R-335	SA	1	24.86
C4R-336	SA	1	26.57
C4R-337	SA	1	29.00
C4R-338	SA	1	44.25
C4R-339	SA	1	73.64
C4R-340	SA	1	96.40
C4R-341	SA	1	85.81
C4R-342	SA	1	57.45
C4R-343	SA	1	149.49
C4R-344	SA	1	17.56
C4R-345	SA	1	86.05
C4R-346	SA	1	86.20
C4R-347	SA	1	92.52
C4R-348	SA	1	84.13
C4R-349	SA	1	50.04
C4R-350	SA	1	50.06
C4R-351	SA	1	91.06
C4R-352	SA	1	67.75
C4R-353	SA	1	59.08
C4R-354	SA	1	31.45
C4R-355	SA	1	3.63
C4R-356	SA	1	48.78
C4R-357	SA	1	72.28
C4R-358	SA	1	45.57
C4R-359	SA	1	32.71
C4R-360	SA	1	34.32

母	岩	石	材	個数	重量
C4R-361	SA			1	40.21
C4R-362	SA			1	74.38
C4R-363	SA			1	80.44
C4R-364	SA			1	47.19
C4R-365	SA			1	100.32
C4R-366	SA			1	16.49
C4R-367	SA			1	42.19
C4R-368	SA			1	24.05
C4R-369	SA			1	18.94
C4R-370	SA			1	46.59
C4R-371	SA			1	47.86
C4R-372	SA			1	159.44
C4R-373	SA			1	26.57
C4R-374	SA			1	30.53
C4R-375	SA			1	70.86
C4R-376	SA			1	65.83
C4R-377	SA			1	61.20
C4R-378	SA			1	44.41
C4R-379	SA			1	38.32
C4R-380	SA			1	53.42
C4R-381	SA			1	20.64
C4R-382	SA			1	52.32
C4R-383	SA			1	17.95
C4R-384	SA			1	81.82
C4R-385	SA			1	63.70
C4R-386	SA			1	47.45
C4R-387	SA			1	78.69
C4R-388	SA			1	36.77
C4R-389	SA			1	56.28
C4R-390	SA			1	30.53
C4R-391	SA			1	68.70
C4R-392	SA			1	36.35
C4R-393	SA			1	33.18
C4R-394	SA			1	49.98
C4R-395	SA			1	36.69
C4R-396	SA			1	51.82
C4R-397	SA			1	61.19
C4R-398	SA			1	47.25
C4R-399	SA			1	83.17
C4R-400	SA			1	42.03
C4R-401	SA			1	33.86
C4R-402	SA			1	32.58
C4R-403	SA			1	37.05
C4R-404	SA			1	47.89
C4R-405	SA			1	47.73
C4R-406	SA			1	106.93
C4R-407	SA			1	56.03
C4R-408	SA			1	41.84
C4R-409	SA			1	29.15
C4R-410	SA			1	38.74
C4R-411	SA			1	73.30
C4R-412	SA			1	120.67
C4R-413	SA			1	93.65
C4R-414	SA			1	60.24
C4R-415	SA			1	51.00
C4R-416	SA			1	82.81
C4R-417	SA			1	39.59
C4R-418	SA			1	52.94
C4R-419	SA			1	24.10
C4R-420	SA			1	35.22

母	岩	石	材	個数	重量
C4R-421	SA			1	25.50
C4R-422	SA			1	35.18
C4R-423	SA			4	111.33
C4R-424	SA			4	588.25
C4R-425	SA			2	90.55
C4R-426	SA			5	281.99
C4R-427	SA			1	244.10
C4R-428	SA			1	82.23
C4R-429	SA			2	188.39
C4R-430	SA			2	95.22
C4R-431	SA			2	126.70
C4R-432	SA			1	335.97
C4R-433	SA			1	86.80
C4R-434	CH			1	6.18
C4R-435	SA			1	136.69
C4R-436	SA			1	29.46
C4R-437	SA			1	71.90
C4R-438	SA			1	21.19
C4R-439	SA			1	48.08
C4R-440	SA			1	24.76
C4R-441	SA			1	37.43
C4R-442	SA			1	68.79
C4R-443	SA			1	11.94
C4R-444	SA			1	22.46
C4R-445	SA			1	16.56
C4R-446	SA			1	68.60
C4R-447	SA			1	24.24
C4R-448	SA			1	7.39
C4R-449	SA			1	7.37
C4R-450	SA			1	9.22
C4R-451	SA			1	14.76
C4R-452	SA			1	6.31
C4R-453	SA			1	20.98
C4R-454	SA			1	168.21
C4R-455	SA			1	65.95
C4R-456	SA			1	14.15
C4R-457	SA			1	28.78
C4R-458	SA			1	78.18
C4R-459	SA			1	19.51
C4R-460	SA			1	23.85
C4R-461	SA			1	92.87
C4R-462	SA			1	22.84
C4R-463	SA			1	61.85
C4R-464	SA			1	18.19
C4R-465	SA			1	39.93
C4R-466	SA			1	12.25
C4R-467	SA			1	66.37
C4R-468	SA			1	41.38
C4R-469	SA			1	27.21
C4R-470	SA			1	24.94
C4R-471	SA			1	4.83
C4R-472	SA			2	221.05
C4R-473	SA			2	73.02
C4R-474	SA			3	81.86
C4R-475	SA			2	84.00
C4R-476	SA			2	111.48
C4R-477	SA			2	273.78
C4R-478	SA			2	96.73
C4R-479	SA			2	328.25
C4R-480	SA			3	461.60

母	岩	石	材	個数	重量
C4R-481	SA			2	215.19
C4R-482	SA			2	36.65
C4R-483	SA			3	54.38
C4R-484	SA			3	185.68
C4R-485	SA			6	182.94
C4R-486	SA			2	137.37
C4R-487	SA			7	901.70
C4R-488	SA			3	54.83
C4R-489	SA			3	111.56
C4R-490	SA			3	69.28
C4R-491	SA			2	113.61
C4R-492	SA			2	25.28
C4R-493	SA			2	35.27
C4R-494	SA			2	71.85
C4R-495	SA			2	34.90
C4R-496	SA			2	93.10
C4R-497	SA			3	75.37
C4R-498	SA			2	129.16
C4R-499	SA			2	99.37
C4R-500	SA			1	22.24
C4R-501	SA			1	174.23
C4R-502	SA			1	98.09
C4R-503	SA			1	393.78
C4R-504	SA			1	46.49
C4R-505	SA			1	588.05
C4R-506	SA			1	402.64
C4R-507	SA			1	48.57
C4R-508	SA			1	29.62
C4R-509	SA			1	79.21
C4R-510	SA			1	61.18
C4R-511	SA			1	211.90
C4R-512	SA			1	522.25
C4R-513	SA			1	21.08
C4R-514	SA			1	34.60
C4R-515	SA			1	50.13
C4R-516	SA			1	35.80
C4R-517	SA			1	34.08
C4R-518	SA			1	62.08
C4R-519	SA			1	172.40
C4R-520	SA			1	33.77
C4R-521	SA			1	30.88
C4R-522	SA			1	27.12
C4R-523	SA			1	40.58
C4R-524	SA			1	31.59
C4R-525	SA			1	63.35
C4R-526	SA			1	33.02
C4R-527	SA			1	7.88
C4R-528	SA			1	17.03
C4R-529	SA			1	13.36
C4R-530	SA			1	23.42
C4R-531	SA			1	29.55
C4R-532	SA			1	24.83
C4R-533	SA			1	4.24
C4R-534	SA			1	27.00
C4R-535	SA			1	30.00
C4R-536	SA			1	15.20
C4R-537	SA			1	25.65
C4R-538	SA			1	102.80
C4R-539	SA			1	3.39
C4R-540	SA			1	13.67

第3節 第2文化層

母 岩	石 材	個数	重量
C4R-541	SA	1	25.63
C4R-542	SA	1	128.76
C4R-543	SA	1	128.83
C4R-544	SA	1	31.97
C4R-545	SA	1	28.03
C4R-546	SA	1	15.13
C4R-547	SA	1	10.38
C4R-548	SA	1	47.46
C4R-549	SA	1	51.18
C4R-550	SA	1	38.14
C4R-551	SA	1	9.54
C4R-552	SA	1	19.49
C4R-553	SA	1	8.84
C4R-554	SA	1	188.94
C4R-555	SA	1	165.64
C4R-556	SA	1	52.58
C4R-557	SA	1	35.67
C4R-558	SA	1	29.41
C4R-559	SA	1	55.84
C4R-560	SA	1	23.51
C4R-561	SA	1	51.10
C4R-562	SA	1	8.57
C4R-563	SA	1	21.09
C4R-564	SA	1	58.88
C4R-565	SA	1	64.96
C4R-566	SA	1	54.48
C4R-567	SA	1	20.91
C4R-568	SA	1	22.02
C4R-569	SA	1	20.60
C4R-570	SA	1	26.17
C4R-571	SA	1	43.77
C4R-572	SA	1	82.12
C4R-573	SA	1	23.21
C4R-574	SA	1	26.63
C4R-575	SA	1	20.54
C4R-576	SA	1	18.84
C4R-577	SA	1	27.88
C4R-578	SA	1	63.32
C4R-579	SA	1	175.05
C4R-580	SA	1	17.18
C4R-581	SA	1	11.88
C4R-582	SA	1	40.95
C4R-583	SA	1	30.77
C4R-584	SA	1	48.02
C4R-585	SA	1	37.38
C4R-586	SA	1	86.91
C4R-587	SA	1	21.54
C4R-588	SA	1	19.68
C4R-589	SA	1	12.48
C4R-590	SA	1	32.12

母 岩	石 材	個数	重量
C4R-591	SA	2	34.88
C4R-592	SA	1	82.44
C4R-593	SA	1	14.38
C4R-594	SA	1	42.81
C4R-595	SA	1	43.72
C4R-596	SA	1	29.31
C4R-597	SA	1	85.10
C4R-598	SA	1	82.99
C4R-599	SA	1	12.94
C4R-600	SA	1	22.57
C4R-601	SA	1	50.78
C4R-602	SA	1	4.85
C4R-603	SA	1	12.76
C4R-604	SA	1	1.32
C4R-605	SA	1	1.39
C4R-606	SA	1	2.51
C4R-607	SA	1	16.86
C4R-608	SA	1	41.50
C4R-609	SA	1	93.71
C4R-610	SA	1	81.87
C4R-611	SA	1	86.48
C4R-612	SA	1	210.35
C4R-613	SA	1	52.18
C4R-614	SA	1	25.13
C4R-615	SA	1	25.40
C4R-616	SA	1	24.93
C4R-617	SA	1	49.58
C4R-618	SA	1	79.55
C4R-619	SA	1	76.46
C4R-620	SA	1	99.38
C4R-621	SA	1	30.65
C4R-622	SA	1	34.57
C4R-623	SA	1	134.90
C4R-624	SA	1	35.50
C4R-625	SA	1	137.09
C4R-626	SA	1	36.48
C4R-627	SA	1	45.92
C4R-628	SA	1	50.96
C4R-629	SA	1	31.63
C4R-630	SA	1	200.08
C4R-631	SA	1	38.70
C4R-632	SA	1	71.94
C4R-633	HO	1	137.47
C4R-634	HO	2	181.99
C4R-635	HO	2	185.14
C4R-636	HO	2	81.08
C4R-637	HO	2	119.51
C4R-638	HO	2	82.37
C4R-639	HO	1	181.42
C4R-640	HO	1	131.88

母 岩	石 材	個数	重量
C4R-641	HO	1	32.00
C4R-642	HO	1	209.21
C4R-643	HO	1	24.15
C4R-644	HO	1	81.04
C4R-645	HO	1	159.61
C4R-646	HO	1	71.48
C4R-647	HO	1	86.41
C4R-648	HO	1	40.55
C4R-649	HO	1	86.82
C4R-650	HO	1	23.41
C4R-651	HO	1	27.93
C4R-652	HO	1	82.59
C4R-653	HO	1	193.64
C4R-654	HO	1	17.57
C4R-655	HO	1	58.73
C4R-656	HO	1	47.17
C4R-657	HO	1	7.10
C4R-658	HO	1	46.35
C4R-659	HO	1	105.28
C4R-660	HO	1	749.28
C4R-661	HO	1	68.63
C4R-662	HO	1	3.90
C4R-663	HO	1	57.09
C4R-664	HO	1	52.04
C4R-665	HO	1	40.82
C4R-666	HO	1	38.08
C4R-667	HO	1	36.35
C4R-668	HO	1	27.03
C4R-669	HO	1	7.99
C4R-670	HO	1	54.80
C4R-671	HO	1	30.36
C4R-672	HO	1	36.56
C4R-762	SA	1	5.17

石 材	個数	重量
安山岩(AN)	7	351.84
濃紋珪(PH)	215	11,785.92
頁岩(SH)	2	91.71
チャート(CH)	68	3,195.84
凝灰岩(TU)	71	6,308.46
砂岩(SA)	377	22,818.38
ホムシツル石(PS)	46	3,862.20
合 計	786	48,214.15

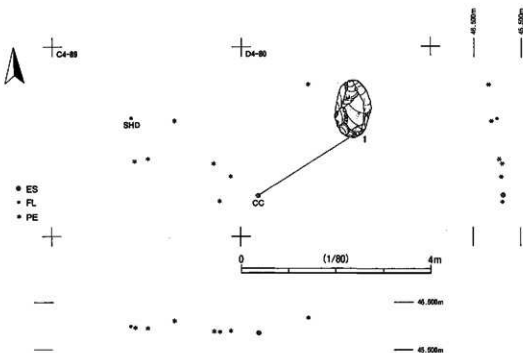
7 C4-Bブロック (第84~86図, 第36~38表, カラー図版7)

1) ブロックの概要

C4-Bブロックは、調査範囲西側のC4-89, D4-80グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地の南側縁辺部で、傾斜変換点(台地の縁辺)までの距離は5mである。

ブロックの規模と形状は、長軸4m、短軸2mの範囲に9点の石器・礫が分布する。出土層位は、調査時の所見によれば、Ⅲ層で、30cmほどの高低差をもって包含されている(第84・85図)。

ブロックは、搔器1点、剥片1点の合計2点と礫7点で構成される。石器石材は、頁岩D1点、瑪瑙・玉髓1点である。礫石材は、軟質の安山岩1点(1母岩:73.87g)、流紋岩1点(1母岩:214.61g)、チャート1点(1母岩:18.67g)、砂岩3点(3母岩:84.80g)、ホルンフェルス1点(1母岩:24.74g)で、識別率は100%である。



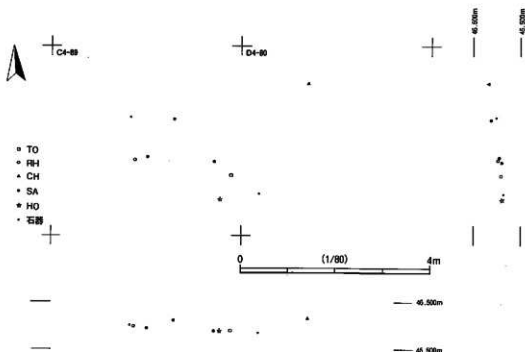
第84図 C4-Bブロック出土遺物分布(1) - 器種・石材別分布 -

第36表 C4-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
C4-288(SHD)																	1								1
C4-290(CC)					1																				1
合計					1												1								2

第37表 C4-Bブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計	
頁岩D(SHD)																	1								1
瑪瑙・玉髓(CC)					1																				1
合計					1												1								2



第85図 C4-Bブロック出土遺物分布(2) - 礫石材別分布 -

2) 母岩の特徴と内容

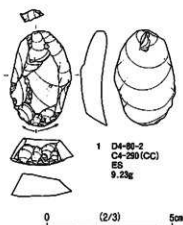
本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は、頁岩D1母岩(C4-289)、瑪瑙・玉髄1母岩(C4-290)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100% (2/2点)である。

・C4-289：自然面は平滑で黄褐色(2.5Y5/3)、内部は灰オリーブ色(5Y5/3)の硬質緻密な頁岩である。剥片1点(14.36g)の単独資料である。

・C4-290：灰黄色(2.5Y6/2)の地に黄灰色(2.5Y5/1)で、部分的に灰白色(2.5Y8/2)が混じる瑪瑙・玉髄である。搔器1点(9.23g)の単独資料である。

3) 出土遺物(第86図)

1は瑪瑙・玉髄による搔器である。縦長剥片の末端に急角度の調整加工を行っており、刃こぼれも見られる。



第86図 C4-Bブロック出土遺物

第38表 C4-Bブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
C4R-673	TO	1	73.87
C4R-674	RH	1	214.61
C4R-675	GH	1	18.67
C4R-676	SA	1	34.66
C4R-677	SA	1	29.70

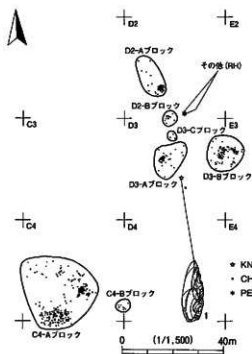
母岩	石材	個数	重量
C4R-678	SA	1	20.44
C4R-679	HO	1	24.74

石材	個数	重量
灰山岩(TO)	1	73.87
洗砂岩(RH)	1	214.61
チャート(CH)	1	18.67
砂岩(SA)	3	84.80
ホルンフェルス(HO)	1	24.74
合計	7	416.89

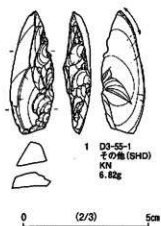
8 ブロック外 (第87・88図, カラー図版7)

石器群の内訳は, ナイフ形石器1点, 碎片2点, 礫2点の合計5点である。

1は浅黄色 (25Y7/3) の硬質緻密な頁岩による一側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い, 右側縁の先端部から2/3にかけてほぼ垂直, 残り1/3は鋭角な調整加工を行っている。また, 裏面の右側縁上部に刃こぼれが見られる。打面が右側縁の下部1/3に残っている。D3-55グリッドから出土している。



第87図 第2文化層ブロック外出土遺物分布



第88図 第2文化層ブロック外出土遺物

9 礫群 (第39～41表)

本文化層では, 7か所のブロックと1か所の単独地点から礫の集中分布が確認されており, それらに対して通例の名称である礫群を呼称した。礫群を構成する礫の属性分類に当たっては, 石材・母岩・重量・礫分類・礫遺存率・母岩復元率について分類を行った。礫分類は, A: 完形被焼成礫, B: 破損被焼成礫 (破損面非焼成), C: 破損被焼成礫 (破損面被焼成), D: 完形非焼成礫, E: 破損非焼成礫に区分し, 礫遺存率及び母岩復元率は, a: 完形, b: 1/2以上, c: 1/2未満, d: 破片とした。なお, 被焼成と非焼成の区別は, 表面が赤化している, 煤けたように黒くなっている, あるいはひび割れが生じているなど, 被熱によると考えられる痕跡が肉眼で観察されるか否かによった。

礫の総点数は1,137点, 総重量は57,325.89gである。最大重量は749.28g, 最低重量は0.09g, 平均重量は50.42gである。母岩分類のできなかった資料を除いた石材の母岩数と点数は, ブロックにより差があるが, 全体としては, 砂岩が485母岩 (52%)・606点 (53%) とほぼ半数を占め, 以下, 流紋岩が212母岩

(23%)・268点 (24%)、凝灰岩が82母岩 (9%)・89点 (8%)、チャートが73母岩 (8%)・79点 (7%)、ホルンフェルスが64母岩 (7%)・82点 (7%)で砂岩と合わせて、母岩数及び点数ともに99%を占める。礫分類はC：破損被焼成礫 (破損面被焼成)、礫遺存率はc：1/2未満、母岩復元率はc：1/2未満がほぼ半数である。

第39表 ブロック別礫分類

礫分類 ブロック名	A		B		C		D		E		合 計	
	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比
D2-A	12	9.5%	19	15.1%	83	65.9%	3	2.4%	9	7.1%	128	100.0%
D2-B			6	35.3%	11	64.7%					17	100.0%
D3-A			17	20.2%	64	76.2%	1	1.2%	2	2.4%	84	100.0%
D3-B	3	2.7%	11	9.7%	93	82.3%	3	2.7%	3	2.7%	113	100.0%
D3-C					2	100.0%					2	100.0%
C4-A	273	34.7%	59	7.5%	413	52.5%	29	3.7%	12	1.5%	788	100.0%
C4-B					6	85.7%	1	14.3%			7	100.0%
ブロック外					2	100.0%					2	100.0%
合 計	288	25.3%	112	9.9%	674	59.3%	37	3.3%	26	2.3%	1137	100.0%

礫分類

A：完形被焼成礫

D：完形非焼成礫

B：破損被焼成礫 (破損面非焼成)

E：破損非焼成礫

C：破損被焼成礫 (破損面被焼成)

第40表 ブロック別礫遺存率

礫遺存率 ブロック名	a		b		c		d		合 計	
	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比
D2-A	15	11.9%	13	10.3%	84	66.7%	14	11.1%	128	100.0%
D2-B					16	94.1%	1	5.9%	17	100.0%
D3-A	1	1.2%			78	90.5%	7	8.3%	84	100.0%
D3-B	6	5.3%	5	4.4%	91	80.5%	11	9.7%	113	100.0%
D3-C					2	100.0%			2	100.0%
C4-A	302	38.4%	103	13.1%	362	46.1%	19	2.4%	788	100.0%
C4-B	1	14.3%	2	28.6%	4	57.1%			7	100.0%
ブロック外					2	100.0%			2	100.0%
合 計	325	28.6%	123	10.8%	637	56.0%	52	4.6%	1137	100.0%

礫遺存率

a：完形

b：1/2以上

c：1/2未満

d：破片

第41表 ブロック別母岩復元率

母岩復元率 ブロック名	a		b		c		d		合 計	
	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比
D2-A	19	21.1%	10	11.1%	50	55.6%	11	12.2%	90	100.0%
D2-B			10	100.0%	10	90.9%	1	9.1%	11	100.0%
D3-A	1	2.0%	3	6.1%	39	79.6%	6	12.2%	49	100.0%
D3-B	7	7.4%	4	4.2%	74	77.9%	10	10.5%	95	100.0%
D3-C					2	100.0%			2	100.0%
C4-A	317	47.1%	99	14.7%	243	36.1%	14	2.1%	673	100.0%
C4-B	1	14.3%	2	28.6%	4	57.1%			7	100.0%
合 計	345	37.2%	118	12.7%	422	45.5%	42	4.5%	927	100.0%

母岩復元率

a：完形

b：1/2以上

c：1/2未満

d：破片

第4節 時期不明

ここでは、上層遺構等に混在して帰属文化層を決定できなかったグリッド単独出土の遺物、検出層位・出土層位が不明なため帰属文化層を決定できなかった土坑・炭化物集中地点について記述する。

1 ブロック外（第89図、カラー図版7）

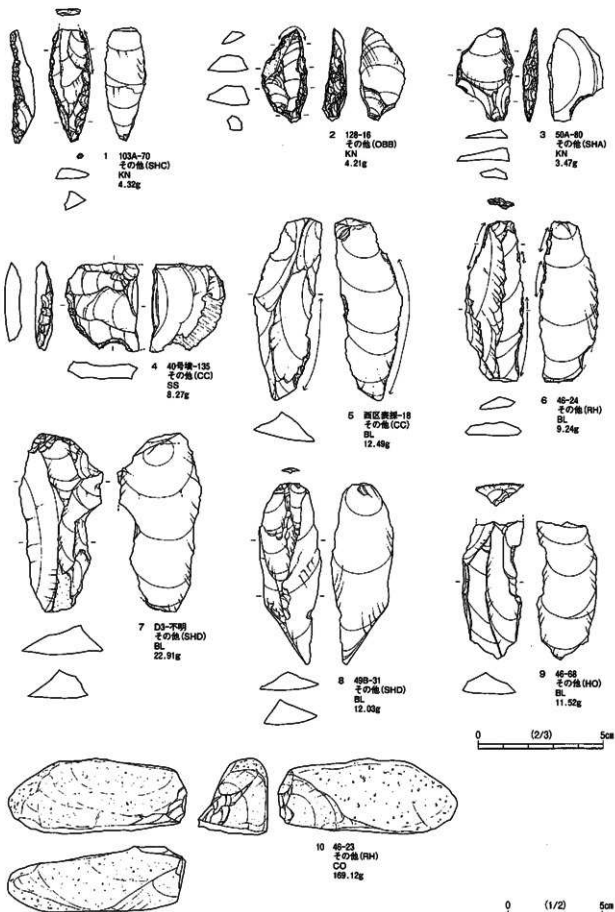
石器群の内訳は、ナイフ形石器5点、削器1点、加工痕ある剥片7点、使用痕ある剥片2点、石刃6点、剥片18点、石核6点、礫1点の合計46点（976.73g）である。

1は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺南産頁岩による二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片あるいは石刃の打面側を先端部として、両側縁の下半部は急角度の調整加工、左側縁の上半部は鋭角な細かい調整加工を行っている。先端部が欠損していることから、断定はできないが、右側縁の上半部の細かい剥離痕は刃こぼれと考え、二側縁加工と判断した。103A住居（D4-49グリッド）から出土している。2は自然面は平滑で、自然面・内部・新鮮な面は黒色でφ1mmほどの白色の夾雑物を含む黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片の打面側を基部として、右側縁はほぼ垂直、左側縁の下半部は細かい調整加工を行っている。先端部に刃こぼれが見られる。128住居（C4-78グリッド）から出土している。3は灰褐色（7.5YR4/2）の東北産頁岩による二側縁加工のナイフ形石器である。剥片を横位に用い、右側縁はほぼ垂直な調整加工、左側縁の下半部は裏面側に細かい調整加工、同中間部は表側に細かい調整加工を行っている。50A住居（4E-63グリッド）から出土している。

4は内部及び新鮮な面は暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰黄色（2.5Y6/2）、節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の瑪瑙・玉髄による削器である。剥片を横位に用い、左側縁から末端にかけて細かい調整加工を行っている。末端側の加工は挟入状で、挟入削器の可能性もある。右側が欠損しているため、全体の形状は不明である。あるいは、左側縁側が末端の可能性もある。40号墳（M-02：D4-34グリッド）から出土している。

5は内部及び新鮮な面は暗赤灰色（10R4/1）・にぶい黄褐色（10YR4/3）の瑪瑙・玉髄による石刃である。両面の右側縁側の下半部に細かい調整加工あるいは刃こぼれが見られる。西区表採である。6は灰色（7.5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の流紋岩による石刃である。正面の左側縁上半部と右側縁下半部、裏面の左側縁上半部に刃こぼれが見られる。46住居（E4-54グリッド）から出土している。7は自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR6/4）、内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）、節理は褐色（10YR4/4）の硬質緻密な頁岩による石刃である。D3グリッドから出土している。8は自然面は平滑で、自然面及び内部は暗灰色（N3/0）・灰色（7.5Y5/1）、節理は褐色（7.5YR4/4）の硬質緻密な頁岩による石刃である。49B住居（E4-53グリッド）から出土している。7・8は器体中央の右側に背面側からの剥離痕が見られることから、稜付き石刃の可能性もある。9は内部は黄灰色（2.5Y5/1）、節理は褐色（7.5YR4/4）のホルンフェルスによる石刃である。46住居（E4-54グリッド）から出土している。

10は自然面は比較的平滑で灰白色（7.5Y7/1）の地に明黄褐色（10YR6/6）、にぶい黄褐色（10YR5/4）が部分的に混じり、内部は灰白色（7.5Y7/1）の流紋岩による石核である。表面のパティナに若干差があり、正面の右側と裏面の左側に残る最も新鮮な面を剥離作業に伴う剥離面と考えた。打面と作業面を入れ替えながら小型で不定型な剥片を剥離している。46住居（E4-54グリッド）から出土している。



第89図 時期不明出土遺物

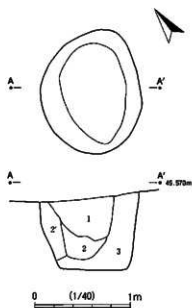
2 土坑 (第90図)

楕円形の土坑2基 (P-05・06) を検出した。旧石器時代の本調査中に確認されたもので、本来の確認面が不明なため、時期不明として扱った。

P-05は台地の北西側縁辺部のD2-72グリッドに位置し、長軸125cm、短軸108cm、深さ80cmで、検出面は不明である。遺物等は発見されなかった。セクションでは、柱状の痕跡が見られるが、周囲に同様のピットは検出されなかった。

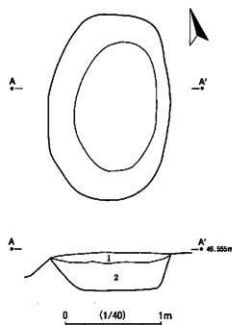
P-06は台地のほぼ中央部のD4-30・31グリッドに位置し、長軸200cm、短軸130cm、深さ40cmで、検出面はⅣ層であるが、本来の掘り込み面は不明である。遺物等は発見されなかった。調査時の所見によれば、風倒木痕の可能性も指摘されている。

P-05



- 1 赤褐色土 ローム殻を若干含む、粘性は高く、しまりが悪い。
- 2 黒褐色土 1層に近いが、やや太めのローム殻を多く含む。
- 2' 黒褐色土 2層に7cmほどのロームブロックを別置含む。
- 3 明褐色土 ローム殻を多く含む、粘性が高い。

P-06

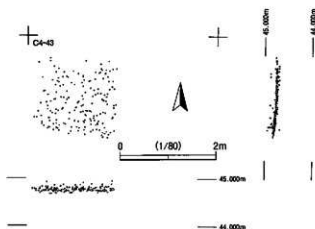


- 1 水付きロームにハードロームブロックを含む。
- 2 水付きロームで、粘性が高い。

第90図 土坑

3 炭化物集中地点 (第91図)

本遺跡では1か所で炭化物が集中して発見された。人為的か自然的要因か未だに確定していないという成因の問題や標本抽出における偏向の問題などが考えられるが、その炭化物の集中分布に対して、炭化物集中地点と呼称し、記載した。なお、出土層位が不明なため、時期不明として扱った。C4-43グリッドに位置し、①分布状況は、直径2m、深さ30cm、②分布密度は、比較的密度の高いまとまりを示す。

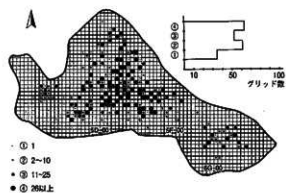


第91図 時期不明炭化物集中地点

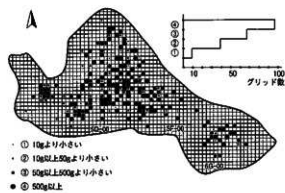
4 上層遺構等出土の礫（第4～7・92図，第42表）

第1章でもふれたように，上層遺構の床面等がハードルームまで掘り込まれており，下層の石器群と重複する箇所もあり，縄文時代の遺物も希薄であることから，上層遺構から出土した礫の一部あるいはほとんどが下層に帰属する可能性も考えられる。そのため，上層遺構，確認調査などによるグリッドから出土した礫の上層及び文化層別の分布状況・礫組成について，主要な石材毎に記載した。なお，床面から出土した比較的大型の礫については，各遺構に帰属する可能性が高いと考え除外した。

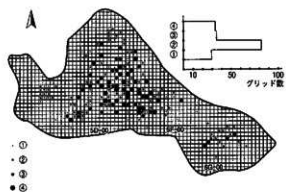
礫の総点数は6,723点，総重量は199,546gである。また，主要な石材毎の内訳は，砂岩2,867点・43% (91,293g・46%)，流紋岩1,264点・19% (38,803g・19%)，凝灰岩806点・12% (27,476g・14%)，チャート1,238点・18% (21,975g・11%)，その他548点・8% (19,999g・10%)である。



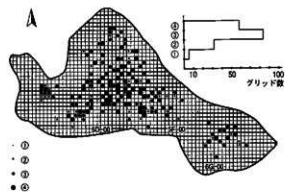
総計 個数 (1/4,000)



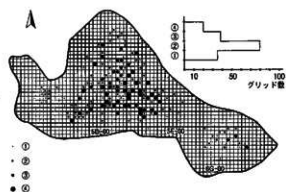
総計 重量 (1/4,000)



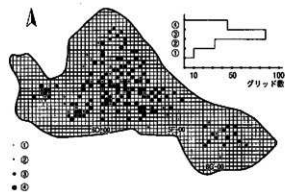
SA 個数 (1/4,000)



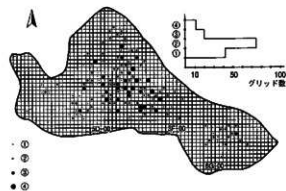
SA 重量 (1/4,000)



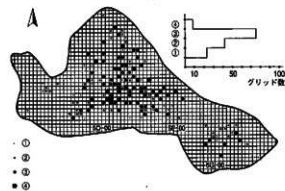
RH・TU 個数 (1/4,000)



RH・TU 重量 (1/4,000)



CH 個数 (1/4,000)



CH 重量 (1/4,000)

第42表 主要な石材による上層・文化層別縦組成

	砂岩	流紋岩	凝灰岩	チャート	合計
第1文化層	63 (92)	13 (27)	32 (16)	20 (23)	128
第2文化層	606 (501)	270 (220)	89 (132)	79 (190)	1,044
上層	2,867 (2,972)	1,264 (1,300)	906 (778)	1,238 (1,124)	6,175
合計	3,536	1,547	927	1,337	7,347

()内は期待値

	砂岩	流紋岩	凝灰岩	チャート	合計
第1文化層	63 (92)	45 (43)	20 (23)	128	128
第2文化層	606 (501)	359 (352)	79 (190)	1,044	1,044
上層	2,867 (2,972)	2,070 (2,078)	1,238 (1,124)	6,175	6,175
合計	3,536	2,474	1,337	7,347	7,347

()内は期待値

※千原台地区: 主要な石材による主要な遺跡及び主要なブロックの縦組成

	砂岩	流紋岩	凝灰岩	チャート	合計
ナキノ台遺跡 第4文化層	1,015	380	278	353	2,026
押沼第1遺跡 第3文化層 N5-Aブロック	27	4	0	53	84
押沼第2遺跡 第4文化層	948	447	197	342	1,934
押沼大六天遺跡 第4文化層 D4-Bブロック	159	25	0	45	229
草刈遺跡C区 第6文化層 C23-Eブロック	170	15	0	87	252
草刈遺跡C区 第6文化層 C23-Hブロック	193	8	0	42	243
草刈遺跡D区 第6文化層 C58-Aブロック	170	31	1	171	373
草刈遺跡P区 第6文化層 6E-Aブロック	282	21	0	56	359
草刈遺跡H区 第6文化層 L9-Aブロック	2,268	533	77	817	3,695
草刈遺跡G区 第7文化層 O12-Bブロック	590	82	0	158	830
草刈遺跡M区 第7文化層 F8-Aブロック	138	228	0	213	577
ナキノ台遺跡 熊糸文系一部	249	132	83	84	548
ナキノ台遺跡 糸直文系一部	142	94	15	71	322
ナキノ台遺跡 早期～中期	537	271	70	185	1,063
ナキノ台遺跡 上層	928	497	168	340	1,933

	砂岩	流紋岩	凝灰岩	チャート	合計
ナキノ台遺跡 第4文化層	1,015	658	353	2,026	2,026
押沼第1遺跡 第3文化層 N5-Aブロック	27	4	53	84	84
押沼第2遺跡 第4文化層	948	644	342	1,934	1,934
押沼大六天遺跡 第4文化層 D4-Bブロック	159	25	45	229	229
草刈遺跡C区 第6文化層 C23-Eブロック	170	15	67	252	252
草刈遺跡C区 第6文化層 C23-Hブロック	193	8	42	243	243
草刈遺跡D区 第6文化層 C58-Aブロック	170	32	171	373	373
草刈遺跡P区 第6文化層 6E-Aブロック	282	21	56	359	359
草刈遺跡H区 第6文化層 L9-Aブロック	2,268	610	817	3,695	3,695
草刈遺跡G区 第7文化層 O12-Bブロック	590	82	158	830	830
草刈遺跡M区 第7文化層 F8-Aブロック	138	226	213	577	577
ナキノ台遺跡 熊糸文系一部	249	215	84	548	548
ナキノ台遺跡 糸直文系一部	142	109	71	322	322
ナキノ台遺跡 早期～中期	537	341	185	1,063	1,063
ナキノ台遺跡 上層	928	665	340	1,933	1,933

※千原台地区: 主要な遺跡の文化層別ブロック総面積当たりの縦組成及び主要なブロック面積当たりの縦組成

鶴牧遺跡第1文化層 137点/1,420㎡

鶴牧遺跡上層 6,723点/3,248㎡

押沼第1遺跡第3文化層N5-Aブロック 87点/11㎡

押沼大六天遺跡第4文化層D4-Bブロック 242点/15㎡

草刈遺跡C区第6文化層C23-Hブロック 287点/58㎡

草刈遺跡P区第6文化層6E-Aブロック445点/238㎡

草刈遺跡G区第7文化層O12-Bブロック924点/532㎡

ナキノ台遺跡 熊糸文系一部 643点/928㎡

ナキノ台遺跡 早期～中期 1,189点/4,160㎡

鶴牧遺跡第2文化層 1,135点/833㎡

ナキノ台遺跡第4文化層 2,146点/655㎡

押沼第2遺跡第4文化層 2,328点/1,515㎡

草刈遺跡C区第6文化層C23-Eブロック 339点/38㎡

草刈遺跡D区第6文化層C58-Aブロック 435点/74㎡

草刈遺跡H区第6文化層L9-Aブロック 4,148点/218㎡

草刈遺跡M区第7文化層F8-Aブロック 646点/93㎡

ナキノ台遺跡 糸直文系一部 368点/720㎡

ナキノ台遺跡上層 2,200点/5,808㎡

第3章 ま と め

縄文遺跡では、12か所のブロックから約2,100点の石器が出土した。これらは、立川ローム層第2黒色帯から立川ローム層のハードローム層上部にかけての各層準から出土しており、石器群の内容とその出土層位から帰属時期不明の1枚を含み3枚の文化層に区分した。第1文化層は5か所、第2文化層は7か所のブロックが検出されている。

なお、上層遺構の床面等がハードロームまで掘り込まれており、下層の石器群と重複する箇所もあり、縄文時代の遺物も希薄であることから、上層遺構から出土した礫の一部あるいはほとんどが下層に帰属する可能性もある。

第1文化層

第1文化層は、立川ローム層第2黒色帯（Ⅶ層～Ⅸ層）を中心に包含される石器群で、ナイフ形石器、楔形石器、削器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石刃、局部磨製石斧、敲石、剥片、砕片、石核、礫が出土している。E3-A、C4-C、E4-A・B、G5-Aブロックの5か所が該当する。E3-Aブロック、E4-A・Bブロックにはブロック間に接合関係がある。本文化層は出土層位に幅があることなどから、細分される可能性もある。

第2文化層

第2文化層は、立川ローム層のハードローム層（Ⅳ層下部～Ⅴ層）を中心に包含される石器群で、ナイフ形石器、搔器、加工痕ある剥片、石刃、敲石、台石、剥片、砕片、石核、礫が出土している。D2-A・B、D3-A～C、C4-A・Bブロックの7か所が該当する。武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。最も多くのブロック及び石器が発見された文化層である。

時期不明

この他、上層遺構やグリッドから石器45点、礫1点が出土しているが、出土層位が不明なため、帰属文化層を決定することができなかった。

また、D2-72グリッド、D4-30・31グリッドで土坑が2基検出されている。旧石器時代の本調査中に確認されたもので、本来の確認面が不明なため、時期不明として扱った。

他に、C4-43グリッドで炭化物集中地点が1か所検出されているが、出土層位が不明なため、時期不明として扱った。

ブロック別石器垂直分布グラフについて（第93・94図）

ブロック別に石材による遺物の出土レベルを10cm刻みに区切り、出土点数をグラフ化した。

石器石材について

本遺跡では、既報告の草刈遺跡、押沼大六天遺跡、ナキノ台遺跡、押沼第1遺跡、押沼第2遺跡、川焼台遺跡と同様に、東北産頁岩・北関東・東関東方面と考えられている頁岩、県南嶺岡産と考えられている頁岩、上総丘陵砂礫層ほかと考えられているチャート・砂岩・凝灰岩・瑪瑙・玉髄、信州産・栃木県高原

山産などと考えられる黒曜石、産地の特定できない安山岩などが用いられている。頁岩類については、田村 隆氏を中心に精力的な産地探索が継続されており、その実態も判明しつつあるようである。なお、本報告では、珪化度の高いものも頁岩に区分し、「珪質頁岩」を用いていない。

また、土色計及び標準土色帖のマンセル表色系による色調の表示は、遺跡内で出土した石器の母岩をまとめる上などで有効であった。

最後に、当財団の整理課を中心に、一部の資料に限られるが、理化学的な分析による黒曜石の産地同定の推定が、流山市市野谷入台遺跡を始めとして行われるようになっており、様々な成果が得られている。当初、千原台ニュータウン関係の下層の遺跡についても分析可能な資料の全点分析を考えていたが、作業工程等の関係上、果たすことが出来なかった。幸い、整理課では全点分析による報告書も刊行予定である。千原台ニュータウン関係の資料の理化学的な分析による全点分析は、今後の課題としたい。

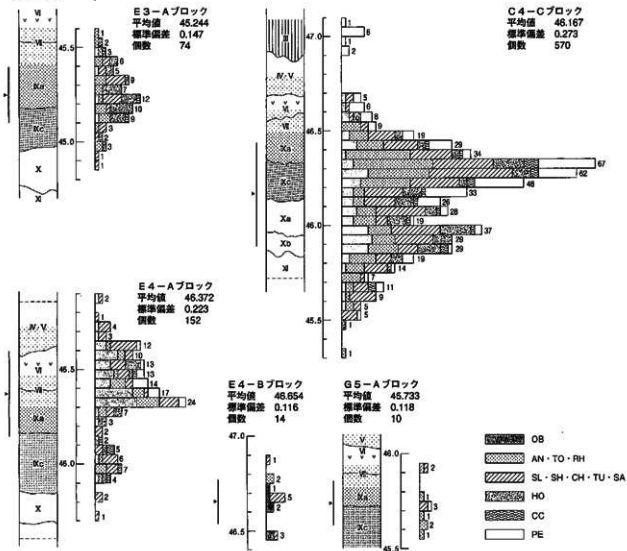
遺物データ管理システムについて

雑牧遺跡のデータ管理については、株式会社バスコの遺物データ管理システムPADRAS-T3Diにより、グリッド・遺物番号・器種・石材・母岩番号・ブロック・重量・X座標・Y座標・標高の10項目についてExcel形式で保存されており、今後の活用に着目している。

参考文献

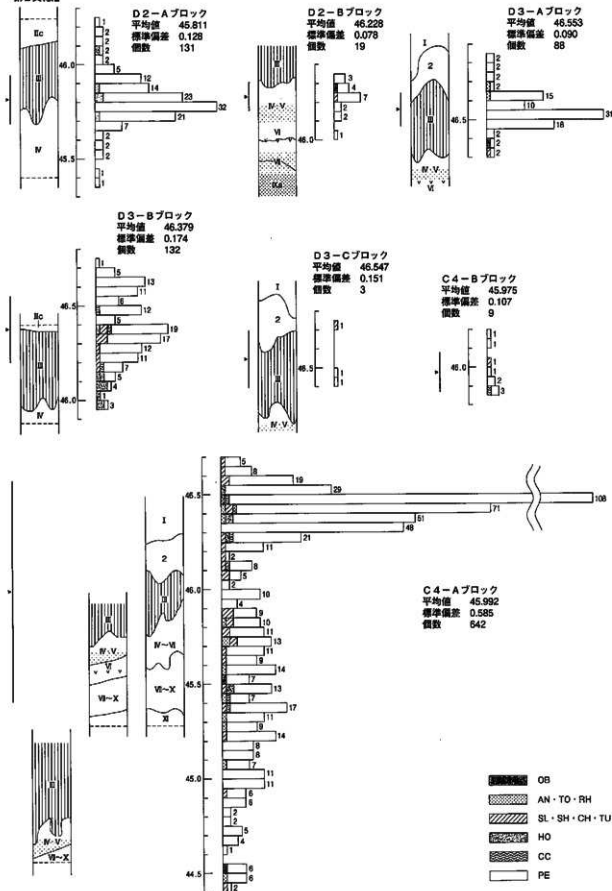
- (財) 千葉県文化財センター 1987 『千葉県文化財センター研究紀要』11号
(財) 千葉県文化財センター 2001 『千葉県文化財センター研究紀要』22号
加納 実ほか 2003 「房総の石器石材2 - 白滝層の珪質頁岩 -」『千葉県史料研究財団だより』第14号
田村 隆ほか 2003 「下野-北総回廊外縁部の石器石材(第1報) -特に珪質頁岩の分布と産状について-」『千葉県史研究』第11号
田村 隆ほか 2004 「下野-北総回廊外縁部の石器石材(第2報)」『千葉県史研究』第12号
(財) 千葉県文化財センター 2004 『千原台ニュータウンX -市原市草刈遺跡(東部地区旧石器時代)-』
(財) 千葉県文化財センター 2005 『千原台ニュータウンⅢ -市原市草刈遺跡(西部地区旧石器時代)-』
(財) 千葉県教育振興財団 2006 『千原台ニュータウンⅣ -市原市押沼大六天遺跡(下層)-』
(財) 千葉県教育振興財団 2007 『千原台ニュータウンⅤ -市原市ナキノ台遺跡(下層)-』
(財) 千葉県教育振興財団 2008 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書3 -流山市市野谷入台遺跡-』
(財) 千葉県教育振興財団 2008 『千原台ニュータウンⅧ -市原市押沼第1遺跡(下層)-』
(財) 千葉県教育振興財団 2010 『千原台ニュータウンⅨ -市原市押沼第2遺跡(下層)・川焼台遺跡(下層)-』

第1文化層



第93図 ブロック別石器垂直分布グラフ(1)

第2文化層



第94図 ブロック別石器垂直分布グラフ(2)

第4章 補 遺

第1節 草刈遺跡・草刈六之台遺跡・ナキノ台遺跡

千原台地区の下層の調査は昭和53年度から始まり、平成9年度に終了し、平成21年度に下層の整理が終了して、報告書が刊行されるまでに32年に及んでいる。そのため、諸般の事情により記載されなかった資料等があり、ここでは、それらの報告を行う（第95図）。

1 草刈遺跡C区（第96～98図、カラー図版10）

1) C13-Bブロック：焼土遺構・炭化物集中地点

C13-Bブロックに重複あるいは隣接して、焼土遺構が2か所、炭化物集中地点が3か所発見されており、これらは調査範囲東側のC13-14・15・24・25・34グリッドに位置する。なお、東部地区の報告書で「(前略)石核1点は被熱により変色しており、隣接地に火処のあったことが想定される。」と記載されており、また、昭和57年度の千葉県文化財センター年報には「(前略)立川ローム層下位から武蔵野ローム層に石器群・炉跡を検出し、南関東最古の石器文化の好資料をえた。」と記載されている。

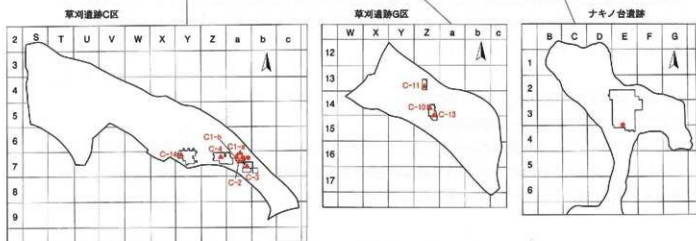
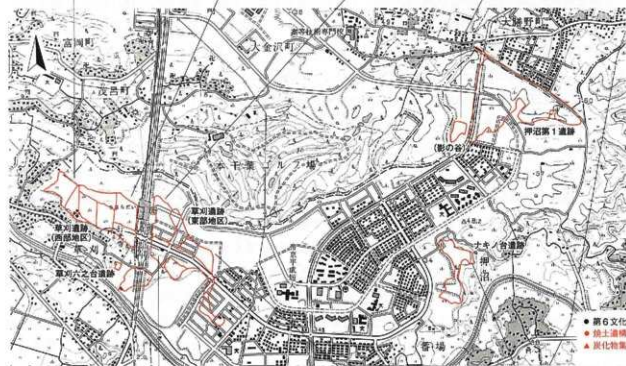
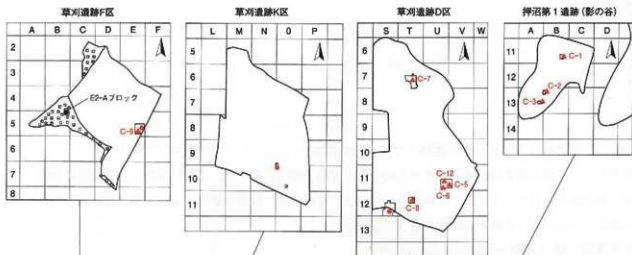
この遺構の調査に関連して、残留磁気測定のための資料を採取しており、詳細は、第3節を参照していただきたいが、「焼土遺構とその周囲の部分では、消磁後の磁化方位は磁化強度を含めて差がほとんどない。(中略)それは一般的なローム層の磁化方位といってもよいものである。ただし焼土形成による磁化方位である可能性が全く否定されるものではない。」ということ、残念ながら、理化学的方法による今回の検証では、遺構(炉跡など)として認識できるような局所的な熱の影響を受けている箇所の特定は出来なかった。しかし、残留磁気測定はサンプル箇所の違いが結果に敏感に反映されるので、この結果に関わらず、2か所の焼土遺構については、野火などの自然的な要因によるものというより、焚き火の痕跡あるいは炉跡といった人為的な要因により形成されたものと考えてゆきたい。

また、3か所の炭化物集中地点(C-1 a・1 b・2)については、北側の炭化物集中地点(C-1 a・1 b)は、密度の高いまとまりの分布域(C-1 a)と焼土遺構を中心に比較的散漫に広がる分布域(C-1 b)に分かれ、若干レベル差がある。前者は南側のC13-Bブロックの遺物の出土レベルとほぼ同一であり、後者は同様に遺物の出土レベル及び南側の炭化物集中地点(C-2)とほぼ同一のレベルである。これらのレベル差や平面分布の違いをどのように解釈すべきかは今後の課題であるが、基本的には遺物・焼土遺構・炭化物集中地点は、ほぼ同時に存在していたと考えても良いと思われる。なお、C-1 a・1 bを決定するに当たっては、標高30.67m及び30.80mの上下で平面的に分布するそれぞれの範囲を基本として、概ね高い方をC-1 a、低い方をC-1 bとした。

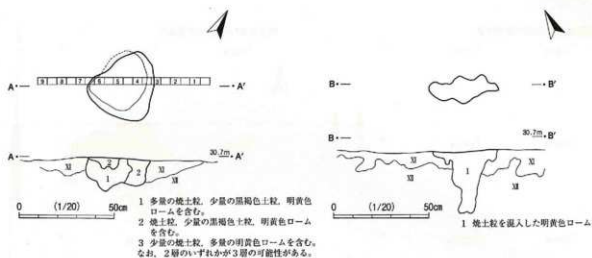
2 草刈遺跡D区（第99図、カラー図版11）

1) C77-Dブロック：ローム層の堆積状況

C77-Dブロックは、草刈遺跡の中でも古い石器群として考えられており、その産出層率は重要である。しかし、ローム層の堆積状況については一部基本層序と異なり、変質化していることから、改めて、その堆積状況及び土層について、調査時の記録に基づき報告する。

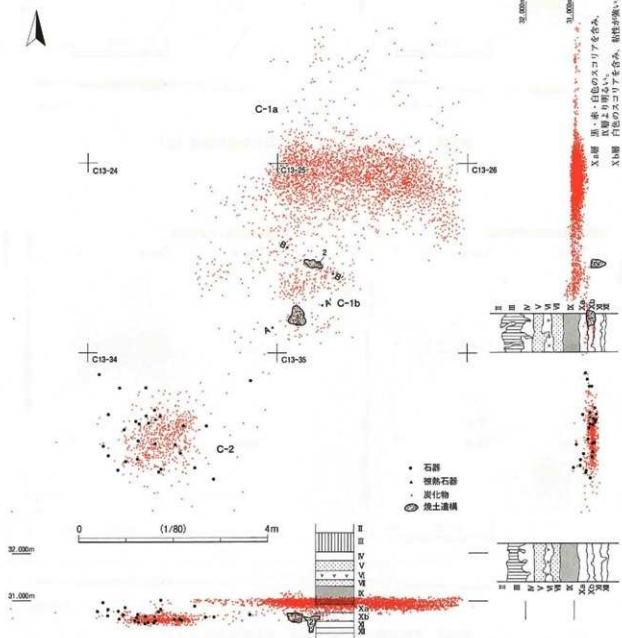


第95図 草刈遺跡・ナキノ台遺跡・押沼第1遺跡の関連遺構 (1/6,000)



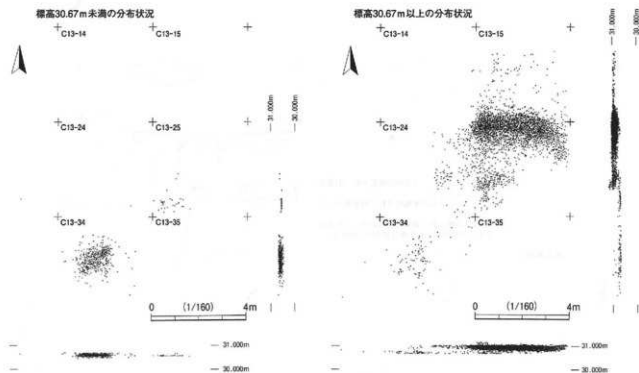
焼土遺構 1

焼土遺構 2

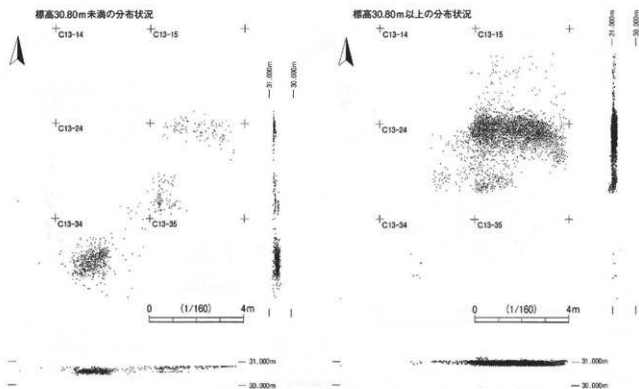


第96図 草刈遺跡C区の焼土遺構・炭化物集中地点(1)

第1節 草刈遺跡・草刈六之台遺跡・ナキノ台遺跡



第97図 草刈遺跡C区の焼土遺構・炭化物集中地点（2）



第98図 草刈遺跡C区の焼土遺構・炭化物集中地点（3）

本ブロックは、東部地区の報告書で「調査範囲南端のC77-56・65-68・75-78・85-87グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地中央の平坦面で、南北の傾斜変換点までの距離は、いずれも200mほどである。(中略)出土層位は、Ⅹ層下部からⅩ層下部にかけてで、80cm程の高低差をもって包含されている。」と記載されているが、その立地については、ブロックの東側には北から延びる幅40mほどの浅い谷が入り込んでおり、谷頭と考えることも可能である。また、そのローム層の堆積状況についても、調査時の所見でもⅩ層～Ⅹ層以下のローム層がチョコ帯などと記録されており、カラー図版11でも変質化(いわゆる水漬き(漬け)ローム)していることが分かる。通常、台地中央の平坦面では、湿地・窪地の水溜まり等でもない限り、なかなか土壌の変質化は起こりにくいと考えられるが、谷頭に近いとすれば、より地下水等の影響などを考慮することが可能であろう。石器群の産出層準については、石器群の内容等を勘案して決定したものと思われるが、調査時の図面等を検討する限りでは、矛盾する点もあり、変質化した層も含めて、層準の認定についてはいたずらに結論を急ぐべきではないと思われる。なお、今回も分析することが出来なかったが、本ブロックでのローム層の堆積状況について検討するため、5cm間隔で土層サンプルが採集されている。

2) C56-Aブロック

本ブロックの礫について説明が足りない点があったので、追加報告する。「礫は、長軸2cm～3cmの小円礫が多量に含まれており、被熱の痕跡はあるものの完形礫が多」く、母岩分類できたものは、安山岩2点(2母岩:43.0g)、流紋岩20点(20母岩:444.0g)、蛇紋岩2点(2母岩:4.0g)、頁岩19点(19母岩:250.0g)、チャート157点(157母岩:1,667.0g)、凝灰岩1点(1母岩:7.0g)、砂岩148点(148母岩:2,275.0g)、礫岩1点(1母岩:9.0g)、ホルンフェルス14点(14母岩:225.0g)、メノウ12点(12母岩:75.0g)、不明3点(3母岩:60.0g)の計379点(379母岩:5,059g)で、母岩の不明なものは、流紋岩11点(207.0g)、頁岩7点(75.0g)、チャート14点(223.0g)、砂岩22点(390.0g)、ホルンフェルス2点(15.0g)の計56点(910.0g)で、総重量は5,969.0gである。なお、礫の母岩分類の認定については、完形ないしほぼ完形に近いものに限定した。

3 草刈遺跡F区(第100～102図, 図版7, カラー図版9)

草刈遺跡F区については、平成9・10年度も調査されており、図面等が見つかったので、今回の報告で訂正・追加する。発掘調査の実施内容・担当者は以下のとおりである。

平成9年度 組織 所長 藤崎芳樹, 担当者 土屋潤一郎, 内容 下層調査対象面積 2,290㎡

平成10年度 組織 所長 石田廣美, 担当者 小原邦夫, 内容 下層調査対象面積 1,250㎡

平成9年度は2,290㎡を調査対象として、4%を基本に調査を行い、その結果に基づいて70㎡の本調査を行なった。平成10年度は1,250㎡を調査対象として、4%を基本に調査を行い、終了した。

1) E2-Aブロック

E2-Aブロックは、平成9年度に調査されており、調査範囲西側のD2-98, E2-08-09グリッドに位置する。ブロックの立地は、台地西側縁辺部で、傾斜変換点(台地の縁辺)に位置する。

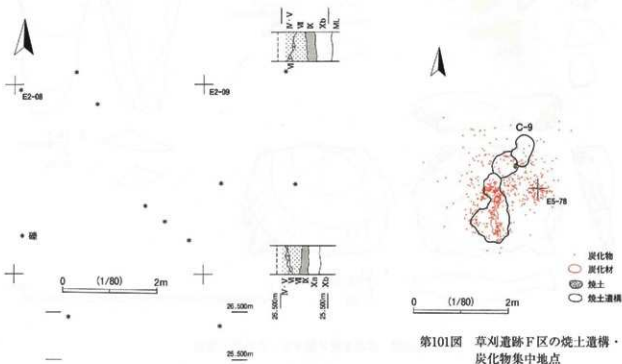
ブロックの形状と規模は、長軸4m、短軸2mの範囲に7点の礫が散漫に分布している。なお、D2-98グリッドの1点を除き、6点については見つかっていないため、器種は調査時の所見による。出土層位は、調査時の所見によればV層が主体で、10cmほどの高低差をもって包含されている。また、E2-08グリッド

の5点の出土レベルは不明である。

ブロックは、礫のみで構成される。礫石材は頁岩あるいは流紋岩である。出土層位と石器群の内容から西部地区第6文化層に帰属すると考えられる。

2) 焼土遺構・炭化物集中地点

この遺構については、西部地区の報告書で「E5-67グリッドの(中略)、調査時の所見では炭化物が同一レベルでごく限られた狭い範囲に集中するとされている」と記載されており、具体的な分布状況は未掲載であったが、周辺の炭化物の分布状況が記録されていることから、この炭化物集中地点をC-9と呼称して、併せて報告を行う。また、E5-78グリッドの位置に誤りがあった。南へ1.5mほどずれており、これに伴いこの遺構は、E5-67・77グリッドに位置することになり、今回の報告で訂正する。



第100図 草刈道跡F区 E2-Aブロック出土遺物分布

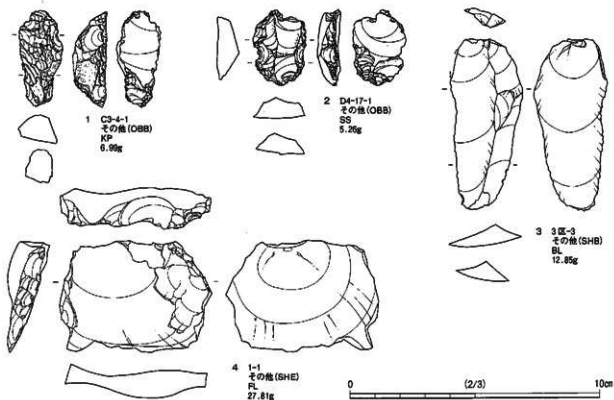
第101図 草刈道跡F区の焼土遺構・炭化物集中地点

3) ブロック外出土遺物

ここでは下層の報告書刊行後、上層の整理作業中に見つかったグリッド一括を含む上層遺構等の出土遺物について追加・記述する。

1は自然面は若干凹凸があるが、表面は比較的平滑で、内部は薄墨を流したような透明な黒曜石による角錐状石器である。信州和田峠周辺産と考えられる。素材の打面部を先端部として、右側縁下半部を除いてほぼ両側縁に急角度の調整加工を行っており、裏面にも基部側からの加工が見られる。西部地区第6文化層に帰属すると考えられる。C3グリッドから出土している。なお、草刈道跡では、角錐状石器は今回の資料以外には、東部地区においてD区のC76-Aブロック、G区のC26-A1ブロックとC26-A3ブロックの3箇所で見発見されているのみである。2は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石による割器である。信州和田峠周辺産と考えられる。素材の打面部を先端部として、両側縁と末端に

急角度な調整加工を行っている。D4-17グリッドから出土している。3は新鮮な面及び内部にはぶい黄色(25Y6/3)、内部は黄褐色(25Y5/4)・明赤褐色(5YR5/6)の北関東産頁岩による石刃である。3区から出土している。4は内部は灰オリーブ色(5Y6/2)、新鮮な面は灰色(5Y4/1)・暗灰色(N3/0)の頁岩による剥片である。末端を除いて、ほぼ全周に表面側からの剥離面が見られ、その形状から、石刃石核の打面再生剥片の可能性が高い。F001住居(7D(G4)-07・08・17・18グリッド)から出土している。



第102図 草刈遺跡F区ブロック外出土遺物

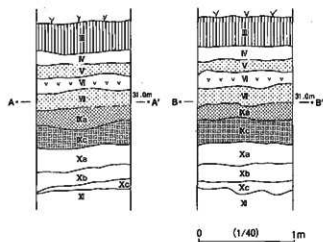
4 草刈遺跡K区(第103・104図, 図版7)

1) N9-84グリッド

N9-84グリッドから遺物が発見されている。調査時の所見によれば、「この確認グリッドからはX層の下部(ほとんどXI層)からフレークが出土している。」「石器はXc-XI層(非常に古い!)とされている。出土したグリッドを中心に南北4m×東西3.5mで拡張したが、他に遺物は出土しなかったようである。なお、遺物については見つかっていないため、詳細は不明である。

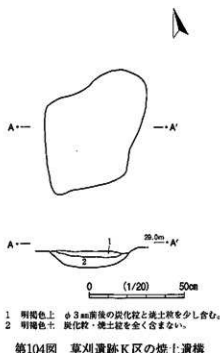
2) 焼土遺構

N9-00グリッドのVI層下部で焼土遺構を1基検出した。南北から延びる浅い谷に挟まれたやせ尾根上に位置する。少量の焼土粒・炭化粒を含む1層を中心として、長軸70cm・短軸60cm・深さ5cm~10cmの不整楕円形を呈す。その性格については、近くに関連する遺物などが検出されていないこと、焼土粒・炭化粒の確認に問題がなかったのかなど不確定な要素もあり、積極的に遺構として認識するには問題があるが、自然的要因によるものと決定することも出来ない。



- Ⅱ 黄褐色軟質ローム ソフトロームである。
Ⅲ 黄褐色軟質ローム ソフトロームとハードロームの境を含む。
Ⅳ 黄褐色硬質ローム 全体的に赤っぽく見える。橙色のスコリアを含む。
Ⅴ 黄褐色硬質ローム ほぼ白色のスコリアを少量含む。第1黒色帯である。
Ⅵ 明黄色硬質ローム 全体的に白っぽく、ブロック状にATを含み、橙色のスコリアを少量含む。
Ⅶ 黄褐色硬質ローム ごく少量のATを含み白っぽい部分もあるが、全体的には少し黒っぽい。
Ⅷa 褐色硬質ローム 橙色のスコリアを少量含む。第2黒色帯上部である。
Ⅷb 褐色硬質ローム Ⅷaより黒く、硬質である。橙色のスコリアを含むが、Ⅷ-VI層に比べ、少なくなっている。第2黒色帯下部である。
Ⅷc 暗褐色硬質ローム Ⅷ-VI中で最も黒く、Xa層と同様。橙色のスコリアを含む。硬質である。第2黒色帯下部である。
Ⅹa 黄褐色ローム ほとんど橙色のスコリアを含まない。
Ⅹb 暗褐色ローム 若干赤っぽく、橙色のスコリアは全く含まない。
Ⅹc 黄褐色軟質ローム 若干赤っぽく、粘性がある。
Ⅺ 灰褐色軟質ローム 青っぽく、粘性があり、軟質である。武蔵野ロームと混ざれる。

第103図 草刈遺跡K区 N9-84グリッド



第104図 草刈遺跡K区の焼上遺構

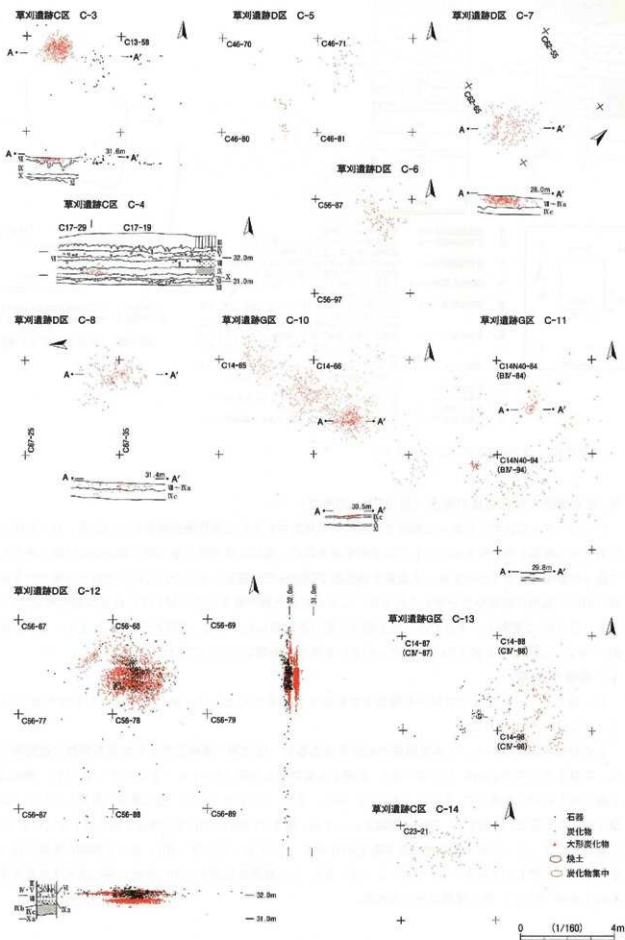
5 草刈遺跡の炭化物集中地点 (第105図, 図版7)

C・D・F・G区で立川ローム層第2黒色帯下半部を中心として炭化物が集中して12か所、D・G区で立川ローム層第1黒色帯を中心として2か所発見された。他にC区で出土層位が不明なため時期不明として扱った集中地点が1か所ある。人為的か自然的要因か未だに確定していないという成因の問題や標本抽出における偏向の問題などが考えられるが、これらの炭化物の集中分布に対して、炭化物集中地点(C-1a~C-14)と呼称し、それぞれ、出土層位に基づき記載した。なお、C区のC-1a・1b・2, F区のC-9については第1節の1)及び3の2)を併せて参照していただきたい。

1) VII層~IXa層

C・D・F・G区では立川ローム層第2黒色帯下半部を中心として、炭化物が集中して12か所(C-1a~C-11)発見された。

その分布状況について、①ある程度の高低差はあるが、ほぼ同一層帯と考えられる石器群との関係では、重複するものが2か所(C-2・7)、近接するものが5か所(C-1a・1b・3・4・11)、20m以上離れるものが5か所(C-5・6・8~10)ある。また、C-1b・9は、焼土遺構が重複している。②個々の分布状況は、長軸2m~10m、短軸2m~7m、深さは0.3m~0.6mで、概ねVII層~IXa層に収まる。③分布密度は、A:全体的に散漫に広がるもの6か所(C-1b・5~8・10)、B:全体的に密度の高いまとまりを示すもの4か所(C-1a・2・3・9)、C:散漫な広がりの中に密度の高いまとまりを示すもの1か所(C-11)の3種類に分けられる。



第105図 草刈遺跡の炭化物集中地点

2) IV層～V層

D・G区では立川ローム層第1黒色帯を中心として、炭化物が集中して2か所（C-12・13）発見された。

D区のC-12は、その分布状況について、①石器群との関係では、東部地区第6文化層のC56-Aブロックとほぼ重複し、②個々の分布状況は、長軸5m、短軸4m、深さは0.9mで、概ねIV層～V層に収まり、③分布密度は、散漫な広がりの中に密度の高いまとまりを示す。

G区のC-13は、その分布状況について、①石器群との関係では、東部地区第7文化層のC14-Cブロックとほぼ重複し、②個々の分布状況は、長軸5m、短軸4mで、概ねIV層～V層に収まり、③分布密度は、全体的に散漫に広がる。なお、調査時の所見によれば、「礫群検出面においてもかなりの炭化物片がみられたが、礫の検出を最優先させたため、礫群構成礫が無いことを確認したレベルでの炭化物片の調査となってしまった。そのため、礫群検出レベルよりも少し下層における炭化物片の検出状況である。あまり、密度は濃くないが、調査区域内ではまとまりがあり、東側以外は概ねこの範囲を限定することが出来るものと思う。炭化物片の大きさは普通で特に大きいものはみられない。」とされている。帰属時期を決定できる石器はなく、礫が主体のブロックのため、第6文化層（IV層～V層）の可能性はある。

3) 時期不明

C区のC-14は出土層位が不明なため、時期不明として扱った。①分布状況は、直径4mで、②分布密度は、全体的に散漫に広がる。

また、この他にE区のC34-40グリッドを中心に炭化物集中地点が発見されているようであるが、図面・写真等が見当たらないため、詳細は不明である。

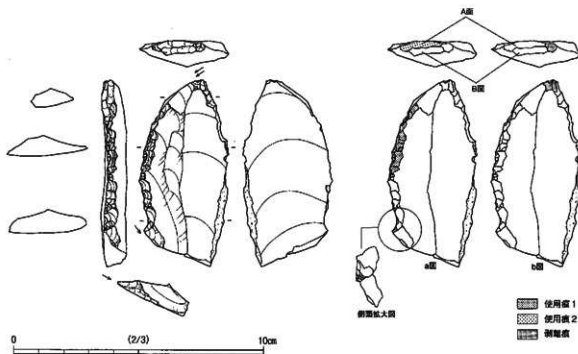
6 草刈六之台遺跡（第106図）

1) 彫器

この遺物については、報告書で「暗褐色を呈する珪質頁岩製の彫器である。左側縁と先端部にナイフ形石器に似た調整加工を施し、右から左へ向けて表裏に直交する櫛状剥離を2条入れている。また、下半部の折れ面にも1条の櫛状剥離がみられる。細石核に伴うものであろうか。」と記載されている。上層遺構出土の遺物であるが、その後、荒屋型彫器の可能性も指摘されていることから、見直してみたところ、新たな発見があったので、改めて、報告することにする。

①先端部（右側縁）に新しい欠損（ガジリ）が見られる。2か所の内、下部は報告書刊行後の欠損であるが、上部は周辺の剥離痕とのパティナの違いから、報告書では調整加工として表現されているが、発掘時の欠損と考えた方が良いと思われる。

②左側縁に使用痕（磨耗・光沢等）が見られること、それに付随して2条の櫛状剥離に多少の時間差があることが判明した。2条の櫛状剥離の内、裏側（A面）とその下部に続くナイフ形石器に似た調整加工には、稜線に磨耗・光沢が見られる（a図）。一方、表側（B面）には明瞭な使用痕は見られないことから、この櫛状剥離については刃部再生の可能性はある。但し、先端部に見られる潰痕状（あるいは階段状）の剥離痕と表面上部に見られる薄い剥離痕がB面を切っており、これらの剥離痕は、使用に伴って生じたと考えられることから、再生後も使用されたものと思われる（b図）。また、B面の右側には薄い剥離痕が残っていたことから、左側縁についても、最低でもこの部位まで調整加工が行なわれていたことが分かる。なお、この面についても若干、使用痕が見られる（a図）。



第106図 草刈六之台遺跡の影器

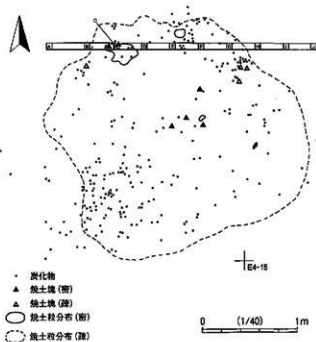
7 ナキノ台遺跡 (第107・108図, カラー図版9・11)

昭和57年度の旧石器時代(下層)の本調査範囲及び面積について、誤りがあった。報告書の第2章第1節で「(前略) その結果に基づいて7,314㎡の本調査を行った。」と記載されているが、焼土遺構を検出したE4-04・05グリッド周辺以外のE3グリッド及びG3グリッドを中心とする本調査範囲は、上層の本調査範囲であったので、これらを除き、今回の報告で2,682㎡に訂正する。

1) 焼土遺構

ナキノ台遺跡では、焼土遺構が発見されており、その後に依頼した残留磁気測定の結果が判明したので、ここで報告を行う。この遺構については、報告書で「E4-04・05グリッドのⅨ層中で、焼土遺構を1基検出した。台地のほぼ中央部で、傾斜変換点までの距離は30mである。遺構の検出面はⅨ層上面で、焼土粒を多量に含む1層を中心として、直径3m・深さ20cmの範囲に焼土粒や炭化物などが分布している。その性格については、明確なプランが確認されなかったこと、近くに関連する遺物などが検出されていないこと、炭化物の分布状況の確認に問題がなかったのかなど遺構として認識するには不確定な要素もあるが、限られた狭い範囲に集中していることから、野火などによって形成されたというよりも、焚き火の痕跡といった人為的な要因を考えても良いと思われる。なお、会田信行氏(当時、成田園芸高校教諭)に残留磁気測定を依頼したが、分析データの所在が判明せず、詳細は不明である。」と記載されているが、その後に、依頼した残留磁気測定の結果が判明した。詳細は、第4節(2)を参照していただきたいが、「焼土遺構と遺構外と分けたが、磁化方位と磁化強度でその差は少なく、遺構外でも熱の影響を受けていると考えられる。」ということで、理化学的な方法による今回の検証では、熱の影響を受けている箇所として、焼土遺構とそれ以外の箇所(遺構外)が特定がされた。遺構(炉跡など)として認識できるような局所的

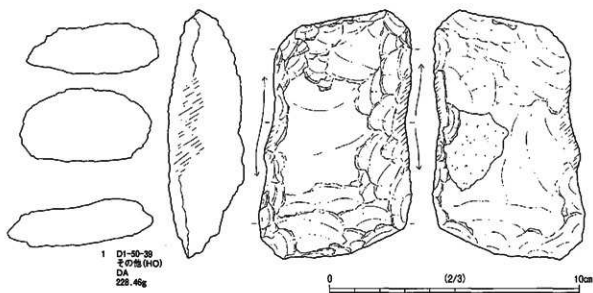
な箇所の特定は出来なかったことから、焼土遺構を、焚き火の痕跡あるいは炉跡といった人為的な要因により形成されたものと積極的に考えることは出来ないが、この程度の範囲であれば、複数の焚き火跡などがあっても当然で、野火などの自然的な要因によるものと単純に決めつけることも出来ない。併せて樹種の同定を行うなど、今後の検討が必要であろう。なお、ナキノ台遺跡では、ローム層内遺存焼土（下層の焼土遺構）との比較検討のため、縄文時代早期の炉穴焼土のサンプルが採取され、残留磁気測定が行われている。その詳細は、第4節（1）に記載されている。



第107図 ナキノ台遺跡の焼土遺構

2) 打製石斧

この遺物については、報告書で「本文化層ではC1-A、G4-Aブロックで12点の石斧が出土しているが、他に比較的軟質のホルンフェルスによる疑似分銅型の石斧1点がD1-50グリッドのⅩ層から出土しており、遺物には黄褐色土の付着も見られるが、出土状況の写真（ハードローム中に包含されている遺物の周辺は黒褐色土）、使用石材、形態等から上層の遺物の可能性もあると判断し、今回の掲載は見送った。」と記載されているが、下層の可能性も否定しきれないことから、調査時の所見も考慮して、改めて、今回掲載することにする。



第108図 ナキノ台遺跡の打製石斧

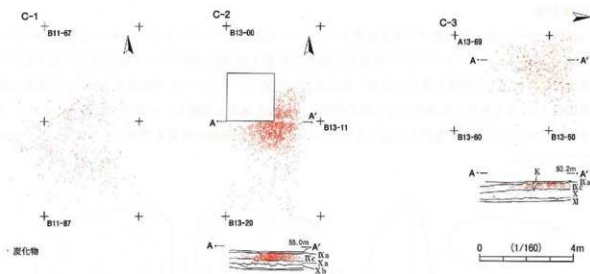
第2節 押沼第1遺跡

旧押沼影之谷遺跡では炭化物が集中して3か所発見されており、報告書で「また、調査時には、押沼影之谷遺跡の（中略）また、B11-66・67・76・77グリッド、A13・49・59グリッド、B13-00・10グリッドの黒色帯下半部（Ⅸ層上部～下部）を中心として炭化物が集中して発見されている。」と記載されているが、図面・写真等が見つかったので、ここで報告を行う。

1 炭化物集中地点（第109図、図版7）

本遺跡では立川ローム層第2黒色帯下半部（Ⅸ層上部～下部）を中心として炭化物が集中して3か所発見された。人為的か自然的要因か未だに確定していないという成因の問題や標本抽出における偏向の問題などが考えられるが、これらの炭化物の集中分布に対して、炭化物集中地点（C-1～C-3）と呼称し、記載した。

その分布状況について、①全体の分布状況は、特に偏りはない。②個々の分布状況は、長軸5m～8m、短軸4m～6m、深さは0.4m～0.8mで、概ねⅨc層に収まる。③分布密度は、A：全体的に散漫に広がるもの2か所（C-1・3）、B：散漫な広がりの中に密度の高いまとまりを示すもの1か所（C-2）の2種類に分けられる。



第109図 押沼第1遺跡の炭化物集中地点

引用文献

- (財)千葉県文化財センター 1982 『千葉県文化財センター年報』No.8 - 昭和57年度 -
- (財)千葉県文化財センター 1994 『千原台ニュータウンⅥ - 草刈六之台遺跡 -』
- (財)千葉県文化財センター 2004 『千原台ニュータウンⅩ - 市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代） -』
- (財)千葉県文化財センター 2005 『千原台ニュータウンⅫ - 市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代） -』
- (財)千葉県教育振興財団 2007 『千原台ニュータウンⅬ - 市原市ナキノ台遺跡（下層） -』
- (財)千葉県教育振興財団 2008 『千原台ニュータウンⅭⅩ - 市原市押沼第1遺跡（下層） -』

第3節 草刈遺跡C区Ⅺ層から出土した焼土遺構の残留磁気

会 田 信 行

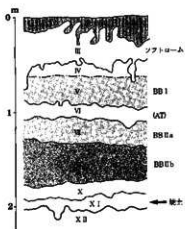
はじめに

草刈遺跡C区では、立川ローム層最下部のⅪ層より焼土遺構が出土した(第110図)。焼土遺構は約30cm(南北)×25cm(東西)の範囲で確認され、焼土ブロック+黒褐色土粒+明黄色ロームからなり、その中に炭化物を含んでいる。その遺構のsp.A-A'に沿ったセクション面から、10cm間隔で定方位試料を9試料採取した(第111図)。このうち3試料が焼土遺構からのものである。

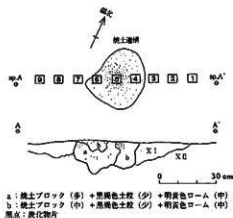
定方位試料の採取は次のように行った。すなわちセクション面において一辺約5cmの立方体状になるようにナイフで整形し、そのまわりを石膏で固める。その際上面が水平になるようにし、固結後上面に磁北を記入する。その後試料をセクションから取り出し、底面を石膏で固める。

残留磁気測定は無定位磁力計を用いる場合には、底面も水平になるように整形する。測定値の信頼性を確かめるために、今回スピナー磁力計による測定も行った。採取した試料を実験室において上面の石膏を外し、新たにポリカーボネイト製のケース(一辺2.5cmの立方体)を垂直に押し込むことで移し替え、これを測定用とした。単位体積当たりの磁化強度が得られ、また各種の消磁実験が行える。

残留磁気測定は北海道大学理学部地質学鉱物学教室(現地球惑星物質科学教室)の無定位磁力計(自家製)およびスピナー磁力計(シヨーンステット社SSM-1A型)を用いた。



第110図 草刈C区の基本土層



第111図 焼土遺構の試料採取位置

※編者註：第110図の基本土層と第111図の土層注記等について、第4章第1節と若干異なる点があるが、本節では修正せずに掲載した。第110図については、東部地区の本報告で基本土層として掲載されている図とほぼ同じであるが、C13-Bブロックで投影に使用された土層はⅩ層が2層に細分されている。調査時の所見でⅩ層・Ⅺ層と記載されていたものを、本報告で「地層の名称は変更」したため、本節ではⅪ層以下が武蔵野ローム層と考えられる。また、第96図の焼土遺構1・2と第111図の土層注記については若干の表現の変更を行ったことによる相違である。

測定結果

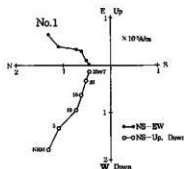
測定結果を第43表に示す。焼土遺構を含む全試料と焼土遺構に分けて示した。偏角・伏角は平均値であり、平均値からどの程度ばらついているかを示すのが α_{95} である。磁化強度は最小～最大で示した。なお偏角補正はしていない。

約600℃以上に加熱された焼土は、冷却の過程で地球磁場方向に磁化し保存される。獲得した磁化強度は焼土形成前に比べて10～100倍大きくなると推定される。消磁前(NRM)の偏角、伏角、磁化強度を見ると、焼土遺構とその周囲のロームで偏角、伏角にそれぞれ数度の差が見られるものの、磁化強度はほぼ一致する。

焼土形成時に獲得した磁化は焼土が乱されない限り保存されるが、その後の地球磁場の影響を受けて変化しているのが一般的である。部分消磁を行うことで、地球磁場の影響を取り除くことができる。今回交流消磁を行った。

はじめに試料番号1の試料について、5、10、15、20、25mTまでの段階交流消磁テストを行った。その結果を第112図(ザイダーベルト図)に示す。残留磁化強度を南北・東西・上下方向の3成分に分け、南北-東西と南北-上下で表したものである。10mTから25mTにかけて磁化強度がほぼ直線的に小さくなるのがわかる。この図から10mTで消磁すれば、初生磁化が得られると判断される。すべての試料を10mTで消磁した後の磁化方位(平均)は焼土遺構で偏角21.09° E、伏角+66.95°となる。

焼土遺構とその周囲の部分では、消磁後の磁化方位は磁化強度を含めて差がほとんどない。このことは焼土遺構を含めて、試料採取した範囲全体が同一の磁化を獲得していることを示す。磁化方位のばらつきが小さく、また磁化強度が焼土の判断基準に比べて小さいことから、仮に焼土形成時の磁化方位が記録されたとしても、その後の何らかの影響で記録が読みとれなくなったと解釈される。それは一般的なローム層の磁化方位特性といってもよいものである。ただし焼土形成による磁化方位である可能性が全く否定されるものではない。



第112図 ザイダーベルト図

第43表 測定結果

試料 番号	NRM				5mT消磁後				10mT消磁後			
	偏角	伏角	α_{95}	磁化強度	偏角	伏角	α_{95}	磁化強度	偏角	伏角	α_{95}	磁化強度
1~9	11.51E	61.96	5.5	1.83~3.06	11.48E	61.55	4.1	1.72~2.38	21.56E	64.11	5.1	1.14~1.72
4~6	7.73E	66.95	6.5	2.34~2.68	10.95E	64.64	6.7	1.72~2.24	21.09E	66.95	9.7	1.14~1.66

偏角・伏角:平均値

α_{95} :95%信頼角(Fisher 1953)

磁化強度: $\times 10^{-2} A/m$

文献

Fisher, R.A. (1953) Dispersion on a sphere. Proc.R.Soc.(London)A, 217, p.295-305

第4節 ナキノ台遺跡炉穴焼土およびⅩ層中で検出された焼土遺構の残留磁気

会 田 信 行

はじめに

E3グリッドから縄文時代早期の炉穴焼土が、E4-04・05グリッドのⅩ層中から焼土遺構がそれぞれ検出され(第113図)、焼土の残留磁気を測定した。

採取した炉穴焼土は炉穴番号031, 034, 036, 039, 041, 046, 047, 048, 049, 050, 051の11カ所である。各炉穴焼土から2～9個、合計48個の定方位試料を採取した。Ⅹ層中の焼土遺構からは10個採取した。

定方位試料の採取は次のように行った。すなわちセクション面において一辺約5cmの立方体状になるようにナイフで整形し、そのまわりを石膏で固める。その際上面が水平になるようにし、固結後上面に磁北を記入する。その後試料をセクションから取り出し、底面を石膏で固める。採取した試料は実験室において上面の石膏を外し、新たにポリカーボネイト製のケース(一辺2.5cmの立方体)を垂直に押し込むことで移し替え、これを測定用とした。

残留磁気測定は北海道大学理学部地質学鉱物学教室(現地球惑星物質科学教室)のスピナー磁気計(シヨーンステット社SSM-1A型)を用いた。

測定結果

(1) 炉穴焼土

第113図に示した11箇所の炉穴から定方位試料を採取した。試料の状態は焼土粒混じりのものから焼土塊までさまざまである。1焼土から2個以上採取した。

炉穴№050(試料番号40)の試料について、段階交流消磁テストを行った(第114図)。5mTごとに20mTまで行ったところ、磁化強度が減少するだけで、磁化方位はほとんど変化しなかった。このことから炉穴形成後、現在までの地球磁場の影響(粘性残留磁化)は受けていないとみなしてよい。

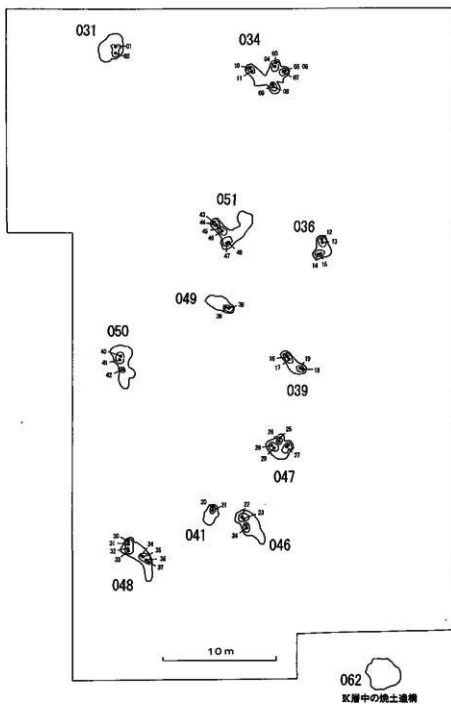
炉穴焼土試料の残留磁化測定結果を第44表に示す。焼土の状態がいろいろあることを反映して、磁化強度は $0.8\sim 120.2\times 10^3\text{A/m}$ と幅が大きい。焼土形成後に動かされていないならば、炉穴ごとに焼土の磁化方位は集中するのが普通である。今回の場合集中しない事例が目立つ。全試料の磁化方位を第115図に示した。偏角が南を示す試料は少ないが、全体に磁化方位は集中せず、まとまりが見られない。炉穴焼土は形成後に全体的に大きく動かされているとみてよい。

この中で丸く示した部分(8試料)がやや集中していることがわかる。この部分の平均の偏角 23.9°E 、伏角 $+59.9^\circ$ 、 $\alpha_{95}=6.0^\circ$ である。 α_{95} は測定点(方位)のバラツキを定量的に示したもので、測定点の95%が含まれる角度である。フィッシャー(Fisher1953)が最初に示したもので、誤差と考えるとよい。この方位は炉穴焼土の形成時のものである可能性が高いと考えられる。

(2) Ⅹ層中の焼土遺構

E4-04・05グリッドのⅩ層中から焼土遺構が検出された(第116・117図)。東西方向に30cm間隔で10試料を採取した(試料番号A～J)。このうちA, B, H, I, Jの5試料は焼土遺構外であり、焼土遺構試料のうちCは焼土塊である。

磁化強度は、焼土塊(試料番号C)が $26.9\times 10^3\text{A/m}$ で最も大きく、焼土塊を除く焼土遺構が $4.3\sim 9.1\times 10^3\text{A/m}$ 、焼土遺構外が $2.6\sim 8.6\times 10^3\text{A/m}$ である。



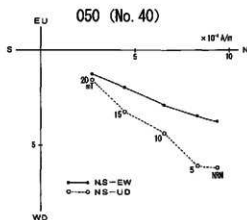
第113図 炉穴焼土およびⅩ層中の焼土遺構位置図

第44表 炉穴焼土の残留磁気測定結果

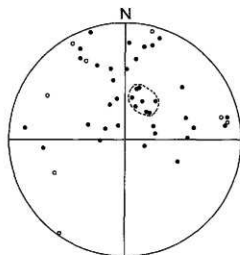
炉穴	試料番号	偏角	伏角	磁化強度
31	1	-26.78	12.99	3.055
	2	-29.82	-5.75	4.930
34	3	65.00	67.95	2.276
	4	2.54	17.42	1.949
	5	14.01	-4.77	1.791
	6	-61.16	22.77	6.484
	7	12.78	53.04	2.486
	8	7.55	60.11	4.678
	9	76.74	-12.70	4.541
	10	77.46	7.57	5.815
	11	37.37	65.38	5.004
	36	12	-83.69	13.38
13		-12.00	37.95	19.311
14		-19.28	2.85	7.090
15		18.65	8.56	34.513
16		-95.78	28.59	3.614
39	17	18.53	65.57	5.952
	18	48.13	32.90	1.127
	19	70.91	42.57	1.401
	20	38.42	54.66	1.201
41	21	-26.81	-24.62	1.475
	22	23.62	60.07	120.200
46	23	79.63	-8.28	94.010
	24	245.04	-32.11	4.930

炉穴	試料番号	偏角	伏角	磁化強度
47	25	80.97	38.21	4.077
	26	-25.15	63.33	3.129
	27	0.68	39.12	5.594
	28	89.44	44.12	3.139
	29	12.06	20.24	1.020
48	30	-29.72	20.77	3.477
	31	-11.52	59.55	1.612
	32	-11.80	46.88	1.928
	33	8.04	30.57	5.194
	34	77.81	68.17	2.634
	35	107.88	74.70	4.383
	36	-68.89	60.91	3.603
49	37	15.76	51.87	1.412
	38	-63.66	74.21	1.770
	39	-92.79	71.93	7.880
	40	-21.85	31.67	12.430
50	41	43.09	64.10	2.655
	42	-26.87	78.75	2.307
	43	112.39	48.28	2.318
51	44	16.20	17.47	8.133
	45	81.85	11.38	9.682
	46	44.77	0.78	7.385
	47	215.13	-1.08	0.801
	48	-27.45	78.36	4.319

(磁化強度: $\times 0.001 \text{ A/m}$)



第114図 炉穴焼土のザイデーベルト図
(炉穴No050, 試料番号40)



●: 伏角が正 (下向き), ○: 伏角が負 (上向き)

第115図 シュミットネットに投影された自然残留磁化方位結果

第4節 ナキノ台遺跡炉坑土および区層中で検出された焼土遺構の残留磁気

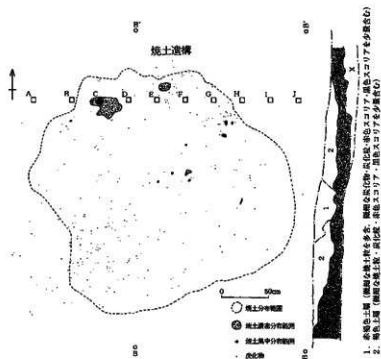
焼土塊試料の段階交流消磁テストを行った。その結果を第118図(ザイダーベルト図)に示す。テストは5mTから30mTまで行った。磁化方位は10mTまで少し変化し、その後30mTまではほぼ一定であった。このことから粘性残留磁化の影響は少ないと考えられる。

自然残留磁化方位をシュミットネットに投影した(第119図)。伏角が負の試料が3試料ある(B, E, F)。その3試料を除くと、磁化方位は2箇所にとまる。1箇所はA, D, G, Iの4試料で、その平均磁化方位は偏角 3.3° W, 伏角 $+55.7^{\circ}$, $\alpha_{95}=11.1^{\circ}$ である。もう1箇所はC, H, Jの3試料で、その平均磁化方位は偏角 10.1° W, 伏角 $+13.0^{\circ}$, $\alpha_{95}=22.9^{\circ}$ である。

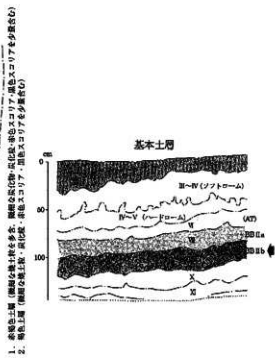
焼土遺構と遺構外と分けたが、磁化方位と磁化強度でその差は少なく、遺構外でも熱の影響を受けていると考えられる。焼土遺構の磁化方位としては4試料の磁化方位を採用するのが適当である。その他の試料は何らかの原因で原位置を示していないと思われる。

文献

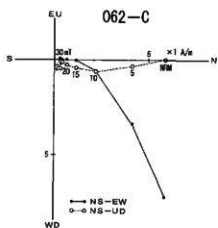
Fisher, R.A. (1953) Dispersion on a sphere. Proc.R.Soc.(London)A, 217, p.295-305



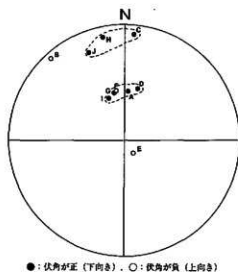
第116図 区層中の焼土遺構の試料採取位置



第117図 焼土遺構の採取層準



第118図 焼土遺構試料のザイデーベルト図
(試料番号：C)



第119図 シュミットネットに投影された自然残留磁化方位結果

写 真 图 版

草刈遺跡

村田川

鶴牧遺跡

鶴牧遺跡周辺航空写真(縮尺1:10,000 昭和45年撮影)



図版2 土層断面，第1文化層遺物出土状況 1



鶴牧遺跡 土層断面



鶴牧遺跡 土層断面



鶴牧遺跡 土層断面



第1文化層 E3-Aブロック 南から



第1文化層 E3-Aブロック 西から



第1文化層 E4-Aブロック 東から



第1文化層 E4-Aブロック 南から



第1文化層 C4-Cブロック 東から



第1文化層 C4-Cブロック 東から



第1文化層 C4-Cブロック 東から



第1文化層 C4-Cブロック 南から



第1文化層 C4-Cブロック 西から



第1文化層 C4-Cブロック 西から



第1文化層 C4-Cブロック 北から



第1文化層 C4-Cブロック 西から



第1・2文化層 C4-C・Aブロック 南から



第2文化層 C4-Aブロック 南から



第2文化層 C4-Aブロック 東北東から



第2文化層 C4-Aブロック 南から



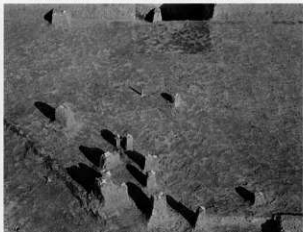
第2文化層 C4-Aブロック 南から



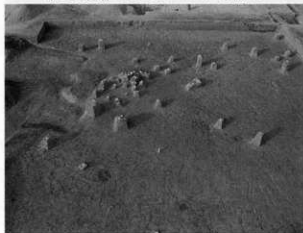
第2文化層 D2-Aブロック 北東から



第2文化層 D2-Bブロック 西から



第2文化層 D2-Bブロック 西から



第2文化層 D3-Aブロック 南から



第2文化層 D3-Bブロック 西から



草刈遺跡F区 E 2-Aブロック 南から



草刈遺跡K区 焼土遺構
N 9-00



草刈遺跡C区 C-3



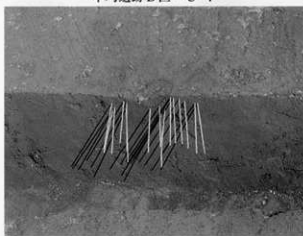
草刈遺跡D区 C-7



草刈遺跡G区 C-10-1



草刈遺跡G区 C-10-2



草刈遺跡G区 C-11



草刈遺跡G区 C-13



押沼第1遺跡 C-1 南から



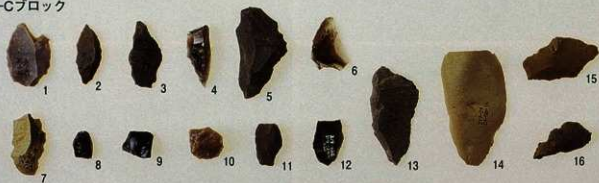
押沼第1遺跡 C-2 北西から

1. 第1文化層出土遺物1

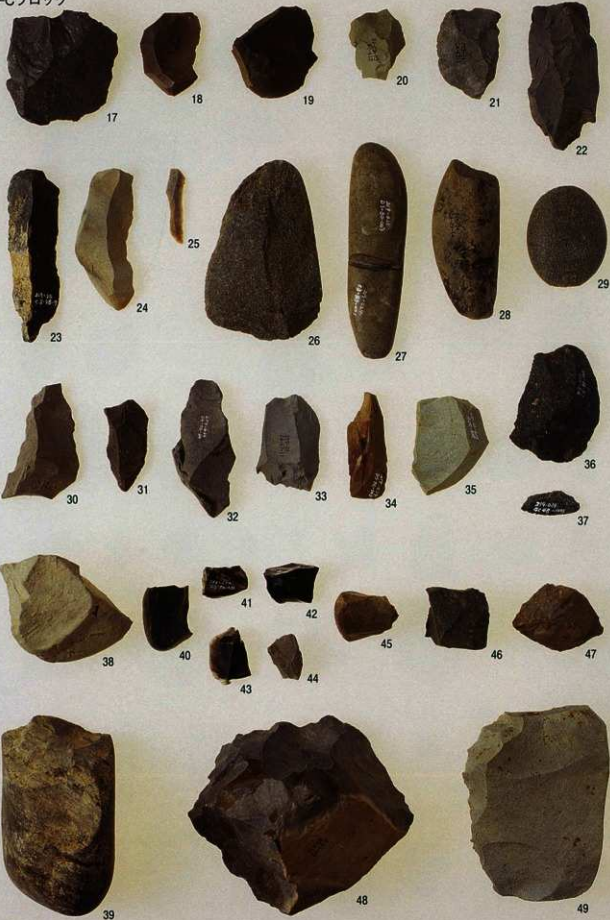
E3-Aブロック



C4-Cブロック



C4-Cブロック



3. 第1文化層出土遺物3

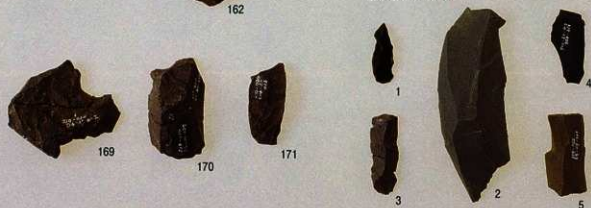
C4-Cブロック



C4-Cブロック



E4-Bブロック



5. 第1文化層出土遺物5

E4-Aブロック



G5-Aブロック



第1文化層ブロック外



D2-Aブロック



D2-Bブロック



D3-Aブロック



D3-Cブロック



D3-Bブロック

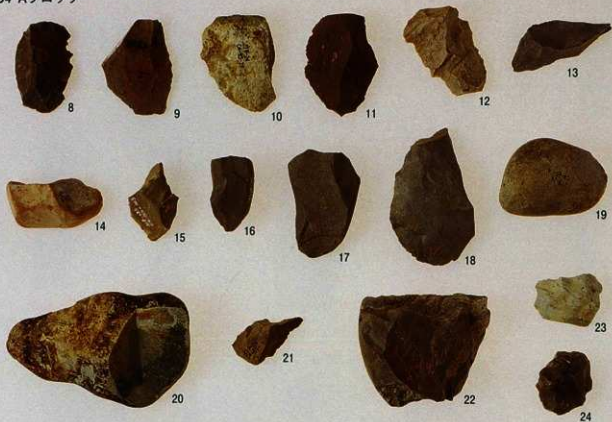


C4-Aブロック

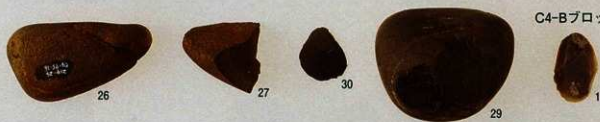


7. 第2文化層出土遺物2, 時期不明出土遺物

C4-Aブロック



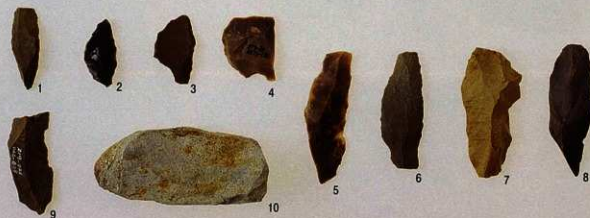
C4-Bブロック



第2文化層ブロック外



時期不明



E3-Aブロック



20 E3-25A



23 E3-4A



27 E3-20A



30 E3-34A



33 E3-33A



38 E3-19A

C4-Cブロック



65 C4-38A



68 C4-89A



71 C4-107A



74 C4-140A



77 C4-166A



80 C4-221A



83 C4-150A



86 C4-4B



90 C4-151A



94 C4-192A



97 C4-191A



100 C4-163A



103 C4-3A



106 C4-129A



109 C4-139A



112 C4-174A



115 C4-165A



118 C4-190A



122 C4-25A



128 C4-39A



133 C4-106A



140 C4-106C

9. 接合資料2, 草刈遺跡F区出土遺物, ナキノ台遺跡出土遺物

C4-Cブロック



143 C4-189A



150 C4-30A



167 C4-30B

E4-Aブロック



28 E4-20A



31 E4-22A



34 E4-21A



38 E4-76A



49 E4-1A

G5-Aブロック



4 G5-1A



41 E4-76B



44 E4-2A

D3-Bブロック C4-Aブロック



6 D3-12A



25 C4-238A



28 C4-275A



31 C4-276A



34 C4-256A

ナキノ台遺跡

草刈遺跡F区ブロック外



第102図 1



第102図 2



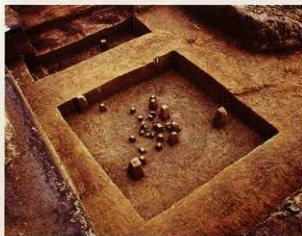
第102図 3



第102図 4



第108図 1



C区C13-Bブロック 北西から



C区C13-Bブロック 土層分布



C区C13-Bブロック 焼土遺構1 南から



C区C13-Bブロック 焼土遺構1 南から



C区C13-Bブロック 焼土遺構1 南から



C区C13-Bブロック 焼土遺構1 南東から



C区C13-Bブロック 焼土遺構2 西から



C区C13-Bブロック 焼土遺構2 南西から

11. 草刈遺跡D区の土層断面・C77-Dブロック、ナキノ台遺跡遺物出土状況



D区C77-88・98グリッド 土層断面 南東から



D区C77-79・89グリッド 土層断面 南西から



D区C77-Dブロック 南西から



D区C77-Dブロック 西から



D区C77-Dブロック



D区C77-Dブロック 南西から



ナキノ台遺跡 D1-40グリッド 石斧



ナキノ台遺跡 第1文化層 C1-Aブロック 石斧



報告書抄録

ふりがな	ちはらだいにゆーたうん							
書名	千原台ニュータウン							
調査名	市原市鶴牧遺跡（下層）							
巻次	24							
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第644集							
編著者名	田島 新							
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL 043 (424) 4848							
発行年月日	西暦2010年3月25日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
鶴牧遺跡	千葉県市原市 ちはら台南 2丁目32番地ほか	12219	024	35度 31分 14秒	140度 11分 02秒	1985.04.01 ～ 1986.03.31	20,000㎡	千原台地区 土地区画整 理事業に伴 う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鶴牧遺跡	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点12か所 土坑2基 炭化物集中地点1か所	石斧・ナイフ形石器・ 掻器・削器・楔形石 器・石刃・石核				
要約	遺跡は、ちはら台ニュータウン造成地域の唐織、村田川の河口から7kmほど上流の右岸台地上に位置する。立川ローム層第2黒色帯～立川ローム層のハードローム層で3枚の文化層を確認した。第1文化層は、立川ローム層第2黒色帯（Ⅲ層～Ⅴ層）を中心に包含される石器群で、ナイフ形石器、楔形石器、削器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石刃、局部磨製石斧、敲石、剥片、砕片、石核、礫が出土している。第2文化層は、立川ローム層のハードローム層（Ⅳ層下部～Ⅴ層）を中心に包含される石器群で、ナイフ形石器、掻器、加工痕ある剥片、石刃、敲石、台石、剥片、砕片、石核、礫が出土している。武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。他に、縄橋時期不明の上層遺構等から出土した遺物・土坑・炭化物集中地点が見つかっている。							

千葉県教育振興財団調査報告第644集

千原台ニュータウン XXIV

…市京市鶴牧遺跡（下層）…

平成22年3月25日発行

編 集	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
発 行	独立行政法人 都市再生機構千葉地域支社 千葉県美浜区中瀬1-31
	財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市岩瀬809番地の2
印 刷	株式会社 正文社 千葉県中央区都町1-10-6